

第 2 回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査 ～サラリーマンシニアを中心として～

21世紀の超高齢社会における団塊世代の生活と生きがいと
それに係る情報提供システムの開発に関する研究

平成9年9月

財団法人 シニアプラン開発機構

第2回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査 ～サラリーマンシニアを中心として～

21世紀の超高齢社会における団塊世代の生活と生きがいと
それに係る情報提供システムの開発に関する研究

平成9年9月

財団法人 シニアプラン開発機構

ごあいさつ

我が国は、産業構造の変化に伴い、いわゆるサラリーマンが就業人口の約8割を占めるようになりました。また、我が国の急速な高齢化は、世界でも類を見ない速さで進行しており、社会の様々な分野に影響をもたらしています。こうした長寿社会において、シニア、とりわけサラリーマンシニアが、いかに生きがいのある充実したシニアライフを送るかは、個々人の問題のみならず、社会全体で考えていくべき重要な課題であります。

こうした観点から、当財団では、概ね50歳以上のサラリーマン及びサラリーマンOBを「シニア」と位置付け、シニアの豊かで実りある生活の実現に資するため、各種の調査研究・企画開発事業等を行っております。

その一環として、平成3年10月に「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を実施し、精神的に豊かな生活を送るために重要とされる「生きがい」について研究するとともに、その後も生きがい創造に資する方策等について種々の事業を行ってきました。

しかし、当初の調査実施から5年が経過しており、サラリーマンシニアの生活と生きがいも一定の変化をみているのではないかと考えられるため、このたび、「第2次生きがいに関する研究会」を発足させ、5年前の調査を再実施し、ここにその結果をご報告できるはこびとなりました。今回の調査では、特に、前回調査との比較を中心に、サラリーマンシニアの意識の変化等を探っております。この調査結果は、今後の超高齢社会に生起する諸問題の研究資料として意義あるものと考えており、各方面でご活用いただければ幸いです。

本調査研究の過程で、貴重なご助言とご支援をいただいた「第2次生きがいに関する研究会」（別掲）の東清和座長をはじめとする各委員に、厚く御礼申し上げます。

また、お忙しい中、今回の調査に快くご協力くださった全国の厚生年金基金及びその加入員・受給者の皆様方に、心から感謝申し上げます次第です。

平成9年9月

財団法人 シニアプラン開発機構
理事長 吉原 健二

「第2次生きがいに関する研究会」メンバー（敬称略）

座長：	東 清和	早稲田大学教育学部教授
副座長：	西村 純一	東京家政大学文学部教授
	河村 幹夫	三菱商事株式会社顧問、多摩大学教授
	木下 英司	早稲田大学人間総合研究センター特別研究員
	佐藤 眞一	明治学院大学文学部助教授
	佐藤 百合子	産能短期大学能率科助教授
	塩見 戎三	産経新聞社客員論説委員、新潟薬科大学客員教授
	清家 篤	慶應義塾大学商学部教授
	角田 隆	前厚生年金基金連合会企画事業部長
	寺澤 壮躬	プリマハム厚生年金基金常務理事
	中村 安之	東日本紙器厚生年金基金常務理事
	濱口 晴彦	早稲田大学人間科学部教授
	藤原 房子	商品科学研究所所長
	藤原 まり子	博報堂生活総合研究所客員研究員

顧問： 斎藤 茂太 斎藤病院名誉院長、医学博士

事務局：財団法人 シニアプラン開発機構

研究開発部長	赤澤 公省
主任研究員	臼井 昌見
	田中 茂樹

目次

ごあいさつ

目次

調査実施概要	1
1. 実施概要	3
1・1 調査の背景と目的	3
1・2 調査の枠組みと内容	4
1・3 調査設計	8
1・4 回収結果	8
1・5 本報告書を読むにあたって	9
2. 分析標本の基本属性	13
考察と提言	21
I. 考察	23
II. 提言	39
調査結果の要約	43
調査結果の詳細	57
第1章 人生観	59
1・1 帰属意識	59
(1) 重視している立場	59
(2) 帰属意識の類型化	60
(3) 基本属性と帰属意識	62
1・2 会社とのかかわり	63
1・3 性格	65
1・4 生活充足感	68

第2章 余暇活動と社会活動	71
2・1 自由時間	71
(1) 自由時間の有無	71
(2) 自由時間の過ごし方	72
2・2 生涯学習・社会活動	75
(1) 生涯学習	75
(2) 社会活動	77
第3章 サラリーマンをとりまくネットワーク	80
3・1 夫婦関係	80
3・2 友人関係・地域関係	86
(1) 友人関係	86
(2) 地域関係	89
第4章 サラリーマンの生きがい	91
4・1 生きがいの意味	91
4・2 生きがい構成要素取得の場	93
4・3 生きがいの有無	98
4・4 生きがいの内容	106
4・5 生きがいの規定因（生きがい獲得の要因）	109
(1) 生きがいの規定因となる項目の選定	109
(2) 今回調査全体の生きがい規定因	111
(3) 団塊の世代における生きがい規定因	113
(4) 前回調査の生きがい規定因との比較	116
第5章 定年	119
5・1 定年及び引退過程	119
(1) 定年後のコース	119
(2) 定年後の就業状況	123
5・2 定年後の生活イメージ	127
(1) 定年のイメージ	127
(2) 定年後の望ましい生活とその現実	131
5・3 定年後の生活設計と生活問題	133
(1) 定年後の生活設計	133
(2) 定年後の不安とサラリーマンOBが経験した生活問題	136

第6章 定年退職に向けての条件整備	144
6・1 個人的対応	144
6・2 企業の対応	147
6・3 社会的対応	149
6・4 その他の対応	151
第7章 世代による差の検討	156
7・1 生きがい	158
(1) 生きがい構成要素取得の場	158
(2) 生きがいの有無	160
(3) 生きがいの内容	160
7・2 夫婦関係	162
7・3 会社とのかかわり	164
(1) 帰属意識	164
(2) 会社とのかかわりについての考え方	165
7・4 定年後のイメージ	167
(1) 定年退職のイメージ	167
(2) 定年後の不安	168
(付) 調査票及び単純集計結果	169

調査実施概要

調査実施概要

1. 実施概要

1・1 調査の背景と目的

現在わが国においては、長寿化や少子化の進行により、急速な高齢化が進んでおり、21世紀には国民の4人に1人が高齢者である超高齢社会となることが予測されている。また、バブル経済の崩壊や日本型雇用環境の変化などの社会経済状況の変化、豊かな時代に生まれ育った世代が社会の主流になりつつあるといった社会の世代構成の変化もみられる。勤労者の意識においても、仕事と仕事以外の生活とのバランスのとれた暮らし方を重視するようになってきている。

当財団では、平成3年7月に「生きがいに関する研究会」を発足させ、サラリーマンシニアの生活と生きがいに関する研究を重ねてきた。しかしながら、21世紀の超高齢社会にシニア期に入る予備軍に応用するためには、上記のような状況等を踏まえ、さらなる研究・分析を追加する必要がある。そこで、平成8年10月に「第2次生きがいに関する研究会」を発足させ、今後もサラリーマンシニアがそのシニアライフを安心して暮らすことができるようにすることを目指し、21世紀の超高齢社会に向けたサラリーマンシニアの生活と生きがいのあり方についての研究をすすめているところである。

本調査は、この研究の一環として実施したものである。平成3年に実施した「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」（以下、「前回調査」と省略する。）から5年が経過したことから、当該調査を再実施し、サラリーマンシニアの生活、意識、生きがい等の現在の状況、時代及び世代による変化を把握するとともに、21世紀の超高齢社会に向けたサラリーマンシニア支援策の検討に資することを目的としている。

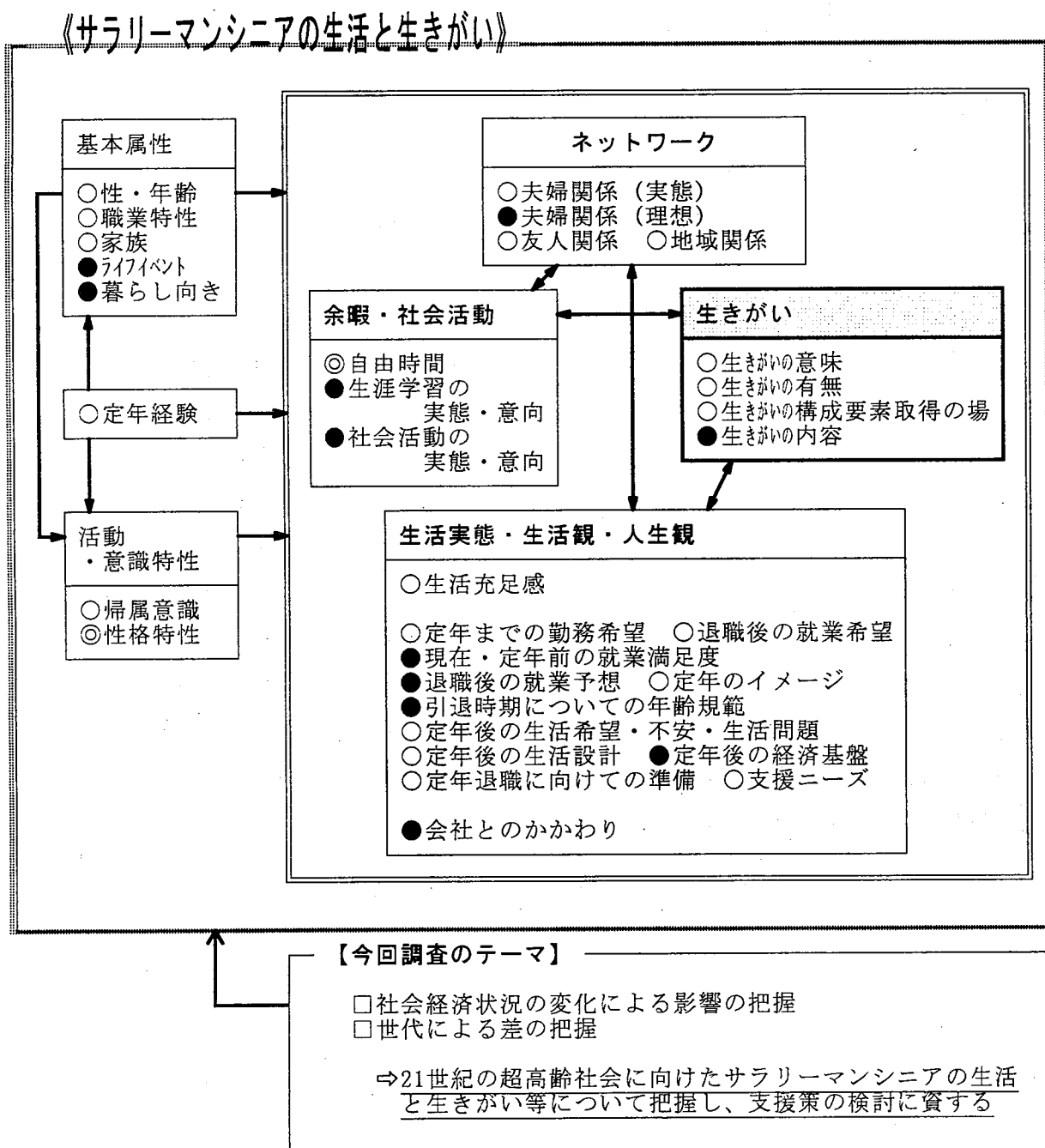
1・2 調査の枠組みと内容

(1) 調査の枠組み

本調査の枠組みは、以下の図のとおりである。

前回調査との比較分析に重点を置くため、基本的には前回調査の枠組みを踏襲し、大きく、
①社会経済状況の変化による影響の把握、②世代による差の把握、の2つの視点を有している。

調査の枠組み



凡例

○前回調査との共通項目 ◎前回調査との類似項目 ●新規設定項目

(2) 調査の内容

本調査では前回調査と同様、サラリーマン本人に対する【本人調査】及びサラリーマンの配偶者に対する【配偶者調査】を実施している。各調査の調査項目は以下のとおりである。なお、前回調査は、定年退職年齢期を中心に、サラリーマンの生活と生きがいの実態を調査したものであるが、今後も5年ごとの継続調査を実施することができるようにするため、一部調査項目の追加・変更等を行っている。

凡 例

- 前回調査との共通項目
- ◎ 前回調査との類似項目
- 新規設定項目

① 本人調査

領 域	問番号	調査項目
1. ネットワーク	問9 問10 問8 問8付1 問8付2 問1 問2	【夫婦関係】 ◎夫婦関係の現状（頼りにしている／理解している等） ●夫婦関係で大切なこと（頼りにできること／理解しあうこと等） 【友人関係】 ○友人・仲間の有無 ◎友人・仲間に知り合った関係 ◎定年後に知り合った友人・仲間の関係 【地域関係】 ○近所づきあいの程度 ●地域における活動への参加状況
2. 余暇・社会活動	問4 問4付 問13 問14 問15 問15付 問16 問17 問18	【自由時間】 ◎自由時間の有無 ◎自由時間の過ごし方 【生涯学習・社会活動】 ●生涯学習への参加状況 ●生涯学習の今後の参加意向 ●今後学習したい内容 ●今後学習したい内容 ●講座への参加意向 ●社会活動への参加状況 ●参加している社会活動の内容

領 域	問番号	調査項目
3. 生きがい	問5 問11 問11付 問12	◎生きがいの構成要素取得の場（活力やはりあい／心の安らぎ等） ○生きがいの意味 ○生きがいの有無 ●生きがいの内容
4. 生活実態 ・生活観 ・人生観	問3 問21 問22(1) 問22(2) 問22(3) 問22(4) 問25(1) 問25(2) 問25(4) 問22(5) 問25(3) 問26 問23 問19 問24(1) 問25(6) 問24(2) 問24(3) 問25(7) 問24(4) 問25(9) 問24(5) 問24(6) 問24(7) 問25(5) 問25(8) 問27(1) 問27(1)付 問27(2) 問27(3) 問27(4) 問20	【生活充足感、大切に考えていること】 ○生活充足感（健康／時間的ゆとり／経済的ゆとり／精神的ゆとり等） 【就業状況】 ◎現在の就業形態 ○現在の職種 ○現在の勤務先の企業規模 ○現在の1週間の勤務日数 ○現在の1日の勤務時間 ○退職前の職種（OB） ○退職前の勤務先の企業規模（OB） ○退職後の就業の有無・形態（OB） ●現在の就業状況についての満足度（仕事内容、地位の高さ、人間関係・雰囲気、就業形態、総合満足度等） ●定年前の就業状況についての満足度（OB）（仕事内容、地位の高さ、人間関係・雰囲気、就業形態、総合満足度等） ●会社とのかかわりについての考え方 （仕事の中でこそ自己実現が図れる／自分の会社に尽くしたい 等） 【定年】 ○定年経験の有無、定年・退職年齢 ○定年のイメージ ○定年後の生活設計の有無（現役） ○定年後の生活設計の有無（OB） ●定年後の経済基盤として重視するもの（現役） ◎定年後の不安（現役） ◎定年後の不安（OB） ◎希望する定年後の生活（現役） ◎希望していた定年後の生活（OB） ○定年までの勤務希望（現役） ○退職後の就業希望（現役） ●退職後の就業予想（現役） ●希望していた定年後の就業（OB） ◎定年後の生活問題（OB） ○定年退職へ向けて必要な個人的対応 ○定年退職へ向けて準備している（していた）こと ○定年退職へ向けて必要な企業の対応 ○定年退職へ向けて必要な社会的対応 ○定年に関する意見・提案 ●職業生活からの引退時期についての年齢規範

領 域	問番号	調査項目
5. 活動 ・意識特性	問6 問7	○重視している立場（家庭人／職業人／地域人等） ◎性格（人との関係を大切にする／自分の世界を大切にする等）
6. 基本属性	F 1 F 2 F 3 F 4 F 5 F 6 F 7 F 8 F 13(1) F 9 F 10 F 11 F 12 F 13(2) F 14 F 15	○性別、年齢 ○居住地 ○居住年数 ○最終学歴 ○未既婚 ○世帯構成 ●世帯人数 ○住居形態 ○住居以外の不動産の有無 ○現在の健康状態 ●過去5年間に経験したライフイベント（配偶者・親の死、転職、子どもの結婚、孫の誕生、自分自身・家族の入院 等） ○年収 ●預貯金額 ●債券・株式等の所有の有無 ●現在の暮らし向き ●5年前と比べての暮らし向き

② 配偶者調査

領 域	問番号	調査項目
1. ネットワーク	問3 問4 問1 問2	【夫婦関係】 ◎夫婦関係の現状（頼りにしている／理解している等） ●夫婦関係で大切なこと（頼りにしていること／理解しあうこと等） 【地域関係】 ○近所づきあいの程度 ●地域における活動への参加状況
2. 生きがい	問5 問6 問6付 問7	◎生きがい構成要素取得の場（活力やはりあい／心の安らぎ等） ○生きがいの意味 ○生きがいの有無 ●生きがいの内容
3. 生活実態 ・生活観 ・人生観	問9 問10 問8	【定年】 ◎配偶者の定年後の不安（現役） ◎配偶者の定年後の生活問題（OB） ●本人の職業生活からの引退時期についての年齢規範
4. 基本属性	問11 問12	○性別、年齢 ○現在の就業形態

1・3 調査設計

(1) 調査対象者と標本数

全国の厚生年金基金の加入員と受給者及びその配偶者。対象者の年齢を以下の4層に分け、各層1,000人強、計4,141人を対象とした。

- 1) 35～44歳 サラリーマンシニア前期 (昭和27～36年生まれ)
- 2) 45～54歳 定年準備期 (昭和17～26年生まれ)
- 3) 55～64歳 定年期 (昭和7～16年生まれ)
- 4) 65～74歳 年金生活期 (大正11～昭和6年生まれ、大正生まれ世代)

なお、性別構成は、前回調査の構成比に準じ、各年齢層とも男性4、女性1の比率とした。

(2) 標本抽出

厚生年金基金の加入員及び受給者から層化無作為抽出した。

層は以下の3層である。

- ①厚生年金基金＝企業の業態や設立形態など、基金の構成を反映させて210基金を選定した。
- ②年齢＝基金ごとに、前記対象者の年齢区分4層。各層から同数を抽出。
- ③性別＝基金・年齢層ごとに男女の2層。男性4、女性1の比率で抽出。

(3) 調査実施方法

郵送配付・郵送回収法（無記名）。

(4) 調査実施時期

平成8年11月6日から12月9日。

(5) 調査委託先

株式会社CRC総合研究所 総合研究センタ 生活文化研究室

1・4 回収結果

【本人調査】有効回収数 2,909件、有効回収率70.2%。

【配偶者調査】有効回収数 2,430件、配付数4,141に対する有効回収率58.7%。

※ 【配偶者調査】の有効回収数の内訳は、【本人調査】とも回収されたもの2,426件、【配偶者調査】のみ回収されたもの4件である。【本人調査】回答票中の有配偶者数2,477件に対して、97.9%が夫婦とも回収された。

1・5 本報告書を読むにあたって

(1) 本報告書における用語について

「サラリーマン」「現役」「OB」

本調査においては、男女の企業在職者及びその経験者を「サラリーマン」と呼ぶ。

そのうち、現在企業に勤務中の現役の人を「サラリーマン現役」と呼び、定年等の退職経験者を「サラリーマンOB」と呼ぶ。なお、「サラリーマンOB」は、退職後の再就職の有無を問わない。

(2) 本報告書における数値の取り扱い及び図表について

本報告書では、数値を以下のように扱っている。

- ① アンケートへの回答は、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（2つ以上を選択する回答）とがある。複数回答の場合は、その質問項目に関して最初に提示する全体結果を示す図表に「（複数回答）」と表記してある。
- ② 調査結果の数値は、原則としてパーセンテージ（％）で表記した。％値の母数は、原則としてその質問項目の該当標本数（回答すべき人の数）であり、図では「n」、表では「標本数」として表示してある。
- ③ ％値は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。従って、単数回答の合計が必ずしも100％ではない場合（99.9％または100.1％など）がある。同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計等では、内訳の％値を単純加算した数値とは0.1％異なる場合がある。
- ④ 分析対象項目が初めて出現する図表では、回答選択肢のすべて及び「無回答」を表示してある。その後に示す同じ項目の図表では、煩雑さを避けるために、選択肢の言葉や文章を省略型にしたり、「その他」「無回答」等の表示を省略する場合がある。

(3) 標本誤差について

調査結果の数値（比率）を読む際に、比率の差が統計的に有意であるかどうかを考慮する目安として、以下の早見表を参照されたい。

① 1つの回答比率（％）の誤差範囲

1つの回答比率における誤差の範囲は、以下の早見表に示すとおりである。

1つの回答比率における誤差範囲

比率 \ n	50	100	200	300	400	500	700
10% or 90%	± 8.5%	± 6.0%	± 4.2%	± 3.5%	± 3.0%	± 2.7%	± 2.3%
20% or 80%	± 11.3%	± 8.0%	± 5.7%	± 4.6%	± 4.0%	± 3.6%	± 3.0%
30% or 70%	± 13.0%	± 9.2%	± 6.5%	± 5.3%	± 4.6%	± 4.1%	± 3.5%
40% or 60%	± 13.9%	± 9.8%	± 7.0%	± 5.7%	± 4.9%	± 4.4%	± 3.7%
50%	± 14.1%	± 10.0%	± 7.1%	± 5.8%	± 5.0%	± 4.5%	± 3.8%

比率 \ n	1000	1250	1500	1750	2000	2400	2900
10% or 90%	± 1.9%	± 1.7%	± 1.5%	± 1.4%	± 1.3%	± 1.2%	± 1.1%
20% or 80%	± 2.5%	± 2.3%	± 2.0%	± 1.9%	± 1.8%	± 1.6%	± 1.5%
30% or 70%	± 2.9%	± 2.6%	± 2.3%	± 2.2%	± 2.0%	± 1.9%	± 1.7%
40% or 60%	± 3.1%	± 2.8%	± 2.4%	± 2.3%	± 2.2%	± 2.0%	± 1.8%
50%	± 3.2%	± 2.8%	± 2.5%	± 2.4%	± 2.2%	± 2.0%	± 1.9%

② 2つの回答比率（％）の差

(7) 1つの標本の場合

1つの標本において2つの回答比率の間に差があるかどうかをみる場合、例えば、ある質問の全体の結果で、ある質問に対する回答「A」の比率 p 、回答「B」の比率 q とで差があるといえるかどうかをみる場合に用いる。

使い方：（注意）％で表示されているものを、 $100\% = 1$ として比率になおして用いる。

- 1) 比率 p 、 q から、 $p + q$ 、及び $|p - q|$ を計算する。
- 2) 標本数 n と $p + q$ により、表から誤差範囲を読み取る。
- 3) $|p - q|$ がその誤差範囲内であれば有意差（統計的に意味のある差）があるとはいえず、誤差範囲を越えていれば、有意差があるといえる。

2つの比率の差の検定表（1つの標本の場合，片側検定）

$\begin{matrix} n \\ p+q \end{matrix}$	50	100	200	300	400	500	700	1000	1250	1500	1750	2000	2400	2900
0.10	074	052	037	030	026	024	020	017	015	014	013	012	011	010
0.20	104	074	052	043	037	033	028	024	021	019	018	017	015	014
0.30	127	090	063	052	045	041	034	029	026	024	022	021	019	017
0.40	147	104	074	060	052	047	040	033	030	027	025	024	022	020
0.50	164	116	082	067	059	052	044	037	033	030	028	026	024	022
0.60	180	127	090	074	063	057	049	041	036	033	031	029	026	024
0.70	194	137	098	080	069	062	052	044	039	036	033	031	029	026
0.80	207	147	104	085	074	066	056	047	042	038	036	033	030	028
0.90	220	156	110	090	078	070	059	050	044	041	038	035	032	029
1.00	232	164	116	095	082	074	062	052	047	043	040	037	034	031
	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.

(4) 2つの標本の場合

異なる2つの標本における回答比率に差があるかどうかをみる場合、例えば、ある質問に対する回答「A」のサラリーマン現役の比率 p とサラリーマンOBの比率 q との間に差があるといえるかどうかをみる場合に用いる。

使い方：

- 1) 2つの標本 n_1 と n_2 から、調和平均表により調和平均（H）を求める。
- 2) 比率 p と q との加重平均 P を算出する。ただし、サラリーマン現役とOBとの比較や男女別の比較などの場合には、全体の比率を近似的に P として用いてもかまわない。
- 3) 検定表により、 H と P から誤差範囲を読み取る。
- 4) $|p - q|$ がその誤差範囲内であれば有意差があるとはいえず、誤差範囲を越えていれば、有意差があるといえる。

調和平均表

$\begin{matrix} n_1 \\ n_2 \end{matrix}$	50	100	200	300	400	500	700	1000	1250	1500	1750	2000	2400	2900
50	50													
100	67	100												
200	80	133	200											
300	86	150	240	300										
400	89	160	267	343	400									
500	91	167	286	375	444	500								
700	93	175	311	420	509	583	700							
1000	95	182	334	462	572	667	824	1000						
1250	96	185	345	484	606	714	898	1111	1250					
1500	97	188	353	500	632	750	855	1200	1363	1500				
1750	97	189	359	512	651	778	1000	1273	1459	1616	1750			
2000	98	190	364	522	667	800	1037	1333	1538	1714	1867	2000		
2400	98	192	369	533	686	828	1084	1412	1644	1846	2024	2182	2400	
2900	98	193	374	544	703	853	1128	1487	1747	1977	2183	2367	2626	2900

2つの比率の差の検定表（2つの標本の場合，片側検定）

P \ H	50	100	200	300	400	500	700	1000	1250	1500
0.10 or 0.90	0.098	0.070	0.050	0.041	0.035	0.032	0.027	0.022	0.020	0.018
0.20 or 0.80	0.131	0.093	0.066	0.054	0.047	0.042	0.036	0.029	0.026	0.024
0.30 or 0.70	0.150	0.106	0.076	0.062	0.054	0.048	0.041	0.034	0.030	0.027
0.40 or 0.60	0.161	0.114	0.081	0.066	0.057	0.051	0.043	0.036	0.033	0.030
0.50	0.164	0.116	0.082	0.067	0.059	0.052	0.044	0.037	0.033	0.030
	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.

P \ H	1750	2000	2400	2900
0.10 or 0.90	0.017	0.016	0.015	0.013
0.20 or 0.80	0.023	0.021	0.019	0.018
0.30 or 0.70	0.026	0.024	0.022	0.020
0.40 or 0.60	0.028	0.026	0.024	0.022
0.50	0.028	0.026	0.024	0.022
	0.	0.	0.	0.

2. 分析標本の基本属性

分析標本（有効回答者）の基本属性を示す。【本人調査】及び【配偶者調査】をともに記すが、特に記載のない場合は【本人調査】の基本属性である。

(1) 性・年齢・定年経験・学歴

① 性・年齢

【本人調査】

(%)

	標本数	性別小計		35～ 44歳	45～ 54歳	55～ 64歳	65～ 74歳	年齢 無回答	性別 無回答
今回調査	2,909	男性	78.9	15.8	17.7	22.1	20.8	2.5	2.3
		女性	18.8	4.4	4.7	5.3	4.0	0.4	
前回調査	3,051	男性	80.0	17.7	18.9	23.3	18.7	1.4	1.1
		女性	18.9	5.0	4.7	5.0	4.0	0.2	

【配偶者調査】

(%)

	標本数	性別小計		34歳 以下	35～ 44歳	45～ 54歳	55～ 64歳	65～ 74歳	75歳 以上	年齢 無回答	性別 無回答
今回調査	2,430	男性	9.9	0.2	1.8	3.0	2.3	2.1	0.3	0.2	1.8
		女性	88.3	4.5	17.9	24.4	29.4	10.9	0.2	0.9	
前回調査	2,573	男性	10.5	-	2.3	2.9	3.0	1.7	-	0.5	0.2
		女性	89.3	-	22.4	23.9	27.5	10.1	-	5.3	

② 定年経験の有無

(%)

		標本数	定年前 (現役)	OB 小計	定年を経 過した	定年前に 退職した	無回答
今回調査	全 体	2,909	63.0	35.9	29.6	6.3	1.1
	男性	2,296	61.2	37.8	32.0	5.9	0.9
	女性	547	68.7	29.4	21.0	8.4	1.8
	35～44歳	598	99.8	-	-	-	0.2
	45～54歳	662	99.2	0.6	-	0.6	0.2
	55～64歳	804	51.7	47.1	36.6	10.6	1.1
	65～74歳	735	12.0	85.4	73.9	11.6	2.6
前回調査		3,051	58.3	35.2	28.7	6.5	6.5

③ 学歴

(%)

		標本数	小学校・ 高等小・ 新制中学	旧制中・ 旧制高女 ・旧実業 ・新制高	旧制高専 ・高等師 範・新制 短大	大 学・ 大学院	専門学校 ・専修学 校・その他	無回答
今 回 調 査	全 体	2,909	11.9	41.0	5.8	32.7	5.1	3.5
	現 役 O B	1,832 1,044	8.8 17.2	38.9 44.8	4.3 8.7	38.5 22.9	5.7 3.7	3.8 2.6
前回調査		3,051	14.7	43.8	7.3	27.6	4.6	2.0

(2) 職業

(注) ④⑤⑥は、現役については現在の職業、OBについては定年退職前の職業を示す。
なお、OBの現職の状況については第5章でとりあげるので、ここでは省く。

④ 職種

(%)

		標本数	専門・ 技術職	管理職	事務職	販売職	技能職・ 技術 補助・ 作業	サービ ス職	その他	無回答
今 回	現 役	1,789	4.0	43.8	36.2	1.7	9.2	1.3	2.5	1.3
	OB (退職前)	1,044	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2	5.6
前 回	現 役	1,778	5.0	48.5	31.6	2.1	8.9	1.0	1.7	1.2
	OB (退職前)	1,075	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8	5.9

⑤ 企業規模

(%)

		標本数	～29人	30～ 99人	100～ 299人	300～ 999人	1000人 以上	無回答
今 回	現 役	1,789	11.2	10.8	11.3	11.2	54.9	0.7
	OB (退職前)	1,044	5.3	7.3	8.7	10.5	63.3	4.9
前 回	現 役	1,778	11.7	8.4	12.8	14.0	52.9	0.2
	OB (退職前)	1,075	5.6	7.5	9.6	12.1	61.9	3.3

⑥ 職業特性（職種、学歴及び後出の居住地を組み合わせたもの）

(%)

		標本数	ホワイトカラー 小計 *1	高学歴 小計 *2			その他 ・不明	ホワイトカラー 以外・ 不明
				大都市 *3	その他 ・不明			
今回調査	全 体	2,909	79.0	35.5	18.5	16.9	43.5	21.0
	現 役 OB（退職前）	1,832	82.0	39.8	20.1	19.7	42.2	18.0
		1,044	76.1	29.0	16.4	12.6	47.1	23.9
前回調査	全 体	3,051	76.4	31.8	17.0	14.7	44.6	23.6
	現 役 OB（退職前）	1,778	85.0	38.1	20.0	18.1	46.9	15.0
		1,075	76.1	27.2	15.3	11.9	48.9	23.9

（注１）ホワイトカラーは、上記④職種のうち「専門技術職」「管理職」「事務職」の合計。

（注２）高学歴は、③学歴のうち「旧制高専・高師・新制短大」「大学・大学院」の合計。

（注３）大都市は、⑩都市規模の「都区部・政令指定都市」のほかに、東京都・神奈川県・埼玉県在住者全員を加えたもの。

⑦ 配偶者の職業【配偶者調査】

(%)

		標本数	正規の社員 ・従業員	派遣・パート ・嘱託・パ ーなど	自営業・家族 従業員・自由 従業員	内職	シルバー 人材セン ター	無職	その他	無回答
今回調査	全 体	2,430	15.9	22.3	4.1	3.1	0.5	36.6	9.8	7.7
	サリマン本人が現役 OB	1,516 891	21.2 6.5	28.1 12.8	3.7 4.7	3.2 2.9	0.2 1.0	31.9 44.6	7.2 14.1	4.5 13.4
	配偶者が 男性	241	61.8	5.4	9.1	-	2.1	14.5	4.6	2.5
	配偶者が 女性	2,145	9.8	24.4	3.5	3.5	0.2	39.6	10.6	8.3
前回調査		2,573	13.9	21.4	5.1	4.3	0.1	52.6	*	2.6

（注）*印は、今回調査で新たに設定した選択肢。

(3) 居住地

⑧ 居住地域

(%)

	標本数	北海道 ・東北	関 東	中 部	関 西	中 国 ・四国	九 州 ・沖縄	無回答
今回調査	2,909	6.7	41.5	15.3	18.9	7.6	6.1	4.0
前回調査	3,051	8.9	37.1	14.3	19.3	10.4	7.7	2.4

⑨ 居住地の都市規模

(%)

	標本数	都区部・ 政令指定 都市	その他の 市	町・村	無回答
今回調査	2,909	27.6	57.1	9.4	5.8
前回調査	3,051	28.4	58.3	9.8	3.5

⑩ 居住年数

(%)

	標本数	5年 未 満	5～10 年未満	10～20 年未満	20～30 年未満	30年 以 上	無回答
今回調査	2,909	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3
前回調査	3,051	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1

(4) 家族・世帯・住宅

⑪ 未婚

(%)

		標本数	未 婚	有配偶	離 別	死 別	無回答
今回調査	全体	2,909	8.8	85.1	1.9	3.6	0.6
	男性 女性	2,296 547	2.6 34.7	94.9 47.3	0.9 6.0	1.6 11.3	0.0 0.5
前回調査		3,051	5.9	89.7	1.3	2.2	0.9

⑫ 世帯構成

(%)

		標本数	ひとり暮らし	自分たち夫婦のみ	自分たち夫婦と未婚の子	自分たち夫婦とも夫婦	自分たち夫婦と親	その他	無回答
今回調査	全 体	2,909	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5
	男性	2,296	2.7	26.8	44.3	5.2	15.6	2.8	2.7
	女性	547	22.9	14.4	19.0	4.8	16.8	19.0	3.1
	35～44歳	598	7.5	7.2	49.0	0.5	27.4	7.9	0.5
	45～54歳	662	6.6	9.1	55.1	0.9	22.2	5.9	0.2
	55～64歳	804	5.3	28.5	41.9	5.3	13.2	5.5	0.2
	65～74歳	735	7.9	49.8	18.0	12.7	5.4	5.4	0.8
前回調査		3,051	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1

⑬ 世帯人数

(%)

標本数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無回答
2,909	6.6	27.7	21.9	21.5	10.6	8.2	3.5

⑭ 住居形態

(%)

	標本数	持ち家 (一戸 建て)	持ち家 (分譲 マンション 等)	社宅・ 会社の 寮	公社・ 公団・ 公営の 賃貸住 宅	民間の 借家・ マンション ・アパート	その他	無回答
今回調査	2,909	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
前回調査	3,051	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

⑮ 住居以外の不動産の有無

(%)

	標本数	持って いる	持って いない	無回答
今回調査	2,909	33.7	64.4	1.9
前回調査	3,051	27.4	70.5	2.2

(5) 健康状態・年収・その他

⑯ 現在の健康状態

(%)

		標本数	非常に健康	まあ健康	注意点は あるが、 生活に支 障はない	注意点が あり、生 活に制限 がある	病気がち ・療養中	無回答
今回調査	全体	2,909	14.1	50.0	28.9	2.4	1.3	3.2
	現役 OB	1,832	13.4	52.5	27.8	1.8	1.0	3.5
		1,044	15.2	46.5	30.4	3.5	1.8	2.6
前回調査		3,051	12.7	49.6	31.1	2.9	1.8	1.8

⑰ 世帯の年収

(%)

	標本数	200 万円未満	200 ～ 300 万円未満	300 ～ 400 万円未満	400 ～ 500 万円未満	500 ～ 600 万円未満	600 ～ 800 万円未満	800 ～ 1000 万円未満	1000 ～ 1500 万円未満	1500 万円以上	無回答
全 体	2,909	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4
現 役 OB小計 有職 無職	1,832	0.7	2.2	3.6	6.2	9.6	24.0	20.3	24.1	5.0	4.4
	1,044	2.7	9.7	19.6	15.4	11.1	15.3	8.7	10.5	2.8	4.1
	500	2.4	6.0	12.4	14.8	11.6	19.8	12.4	13.2	4.4	3.0
	478	1.9	12.3	26.6	16.9	11.1	11.3	5.0	8.4	1.5	5.0

⑱ 世帯の預貯金額

(%)

標本数	〽 100 万円未満	100 〽 300 万円未満	300 〽 500 万円未満	500 〽 700 万円未満	700 〽 1000 万円未満	1000 〽 1500 万円未満	1500 〽 2000 万円未満	2000 〽 3000 万円未満	3000 〽 5000 万円未満	5000 万円以上	無回答
2,909	6.2	14.1	13.0	8.7	11.7	13.8	7.3	8.7	7.0	5.1	4.5

⑲ 債券・株式等の所有の有無

(%)

標本数	持っている	持っていない	無回答
2,909	53.8	43.9	2.3

⑳ 現在の暮らし向きの余裕

(%)

	標本数	十分余裕がある	まあまあある	あまりはない	まったくない	無回答
全 体	2,909	4.2	43.4	43.3	8.0	1.1
現 役 O B	1,832 1,044	3.0 6.0	41.2 47.4	46.0 38.8	9.1 6.1	0.7 1.6

㉑ 5年前と比べての暮らし向きの変化

(%)

	標本数	と楽にもなった	少し楽になった	変わらない	苦しくなった	とても苦しかった	無回答
全 体	2,909	2.3	16.2	53.4	24.1	3.1	0.9
現 役 O B	1,832 1,044	2.2 2.7	18.8 12.0	50.6 57.8	24.1 24.3	3.7 2.1	0.7 1.1

㊹ 過去5年間に経験したライフイベント（複数回答）

(%)

	標本数	子どもや孫誕生	子どもの・成就人職	子どもや孫の別と居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族入院	配偶者の死
全 体	2,909	27.3	19.3	7.5	19.2	16.8	12.1	18.4	1.5
現 役 O B	1,832 1,044	18.9 42.1	22.9 13.3	6.1 9.9	12.7 30.7	14.5 21.1	9.8 16.4	22.4 11.8	0.7 2.6

	標本数	その他の家族死	昇進・昇格	出向・転職・退職	災害・経済的困窮・資産の減少による	自宅の建て替え・購入	いずれもない	無回答
全 体	2,909	17.2	20.8	18.7	2.4	15.4	10.5	4.3
現 役 O B	1,832 1,044	18.6 14.9	30.4 4.5	12.5 29.7	2.3 2.6	18.4 10.4	9.8 11.4	4.3 4.0

考察と提言

I. 考 察

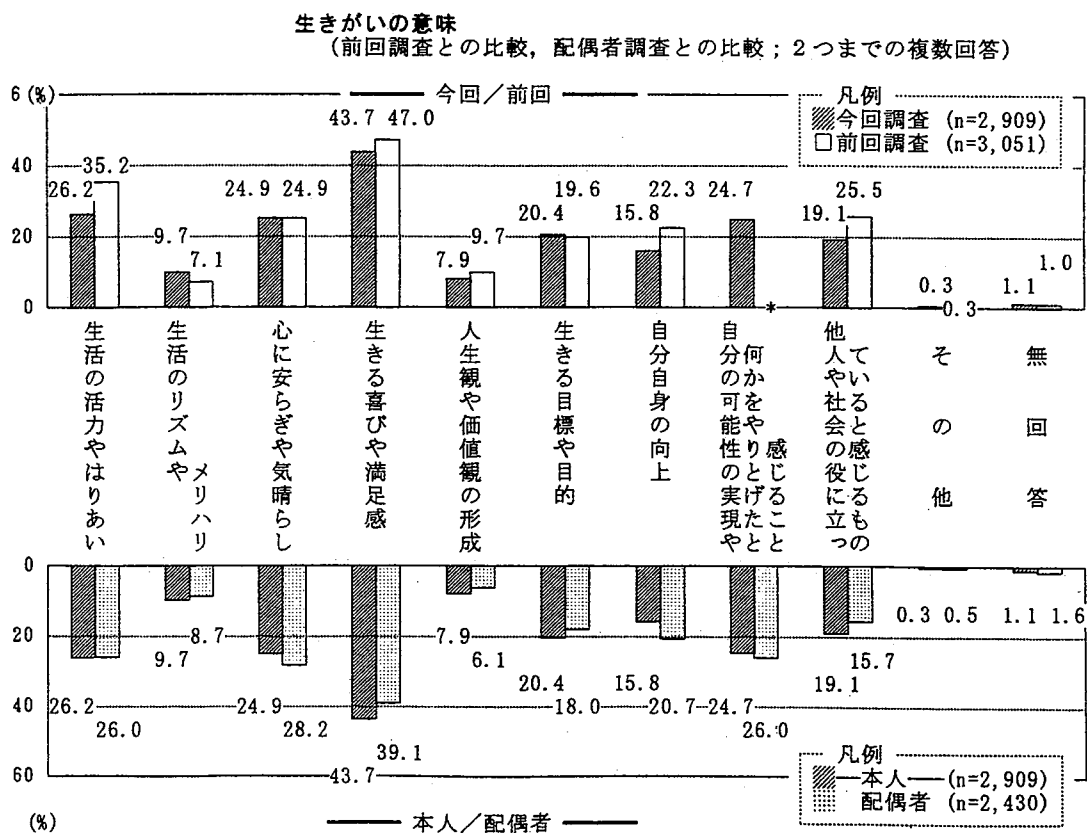
サラリーマンの生活と生きがいは どのように変わったのか

1. 生きがいに関する考察

(1) サラリーマンにとって、「生きがいの意味」とは

【「生きる喜びや満足感」を生きがいの意味とする人が最も多い】

調査の結果、生きがいとは「生きる喜びや満足感」であると回答しているサラリーマンが40%以上と最も多く、サラリーマン本人・配偶者、サラリーマン現役・OB、性別、年齢階級等の違いによらず、どの属性においても「生きる喜びや満足感」を生きがいの意味とする人が最も多い。また、前回調査と今回調査の回答状況は、概ね似通った傾向である。



生きがいの意味
(現役・OB別、性別、年齢階級別；2つまでの複数回答)
(%)

	標本数	生活に活力や はりあい	生活のリズムや メリハリ	心の安らぎや 気晴らし	生きる喜びや 満足感	人生観や価値 観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自己実現や達成感	他人や社会の役に 立つと感じる
全 体	2,909	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1
サラリーマン現役	1,832	27.2	8.4	23.6	44.2	8.1	23.1	15.0	25.5	17.4
サラリーマンOB	1,044	24.8	11.7	27.0	43.1	7.4	15.9	17.0	23.8	21.6
男 性	2,296	25.8	9.6	23.8	44.1	8.8	20.3	15.1	25.5	19.7
女 性	547	27.6	10.2	27.6	42.2	4.2	20.3	18.8	22.1	16.6
35～44歳	598	23.9	6.0	24.1	45.5	8.9	26.4	17.6	26.9	13.4
45～54歳	662	29.8	8.3	21.0	44.4	7.6	24.3	13.6	27.2	15.9
55～64歳	804	27.4	13.4	25.1	40.8	7.1	17.2	13.8	24.8	23.5
65～74歳	735	24.5	10.2	29.1	43.0	7.9	15.8	18.9	20.8	20.8

(注)「その他」及び無回答は表示省略。

(2)サラリーマンは「どのような場」から生きがいを取得し、

「どのような事」に対して生きがいを感じているのか

【「仕事・会社」の場から生きがいを取得している人が減少】

サラリーマンが生きがいを取得している場は、「家庭」と「仕事・会社」の2種類の場に集中しており、この傾向は、前回調査・今回調査とも共通である。

しかし、前回調査と今回調査を比較した場合、「仕事・会社」の場から生きがいを得ている人が減少している点が特徴的である。特に、生きがいの意味のトップである『生きる喜びや満足感』を「仕事・会社」の場から得ている比率が10ポイント以上減っており、更に、この減少幅はOBよりも現役で大きい。

一方で、「家庭」の場や「個人的友人」の場から生きがいを得ている人が増加傾向であることから、方向性としては、サラリーマンの生きがい取得の場が、「仕事・会社」から「家庭」「個人的生活」等へシフトしているものと考えられる。

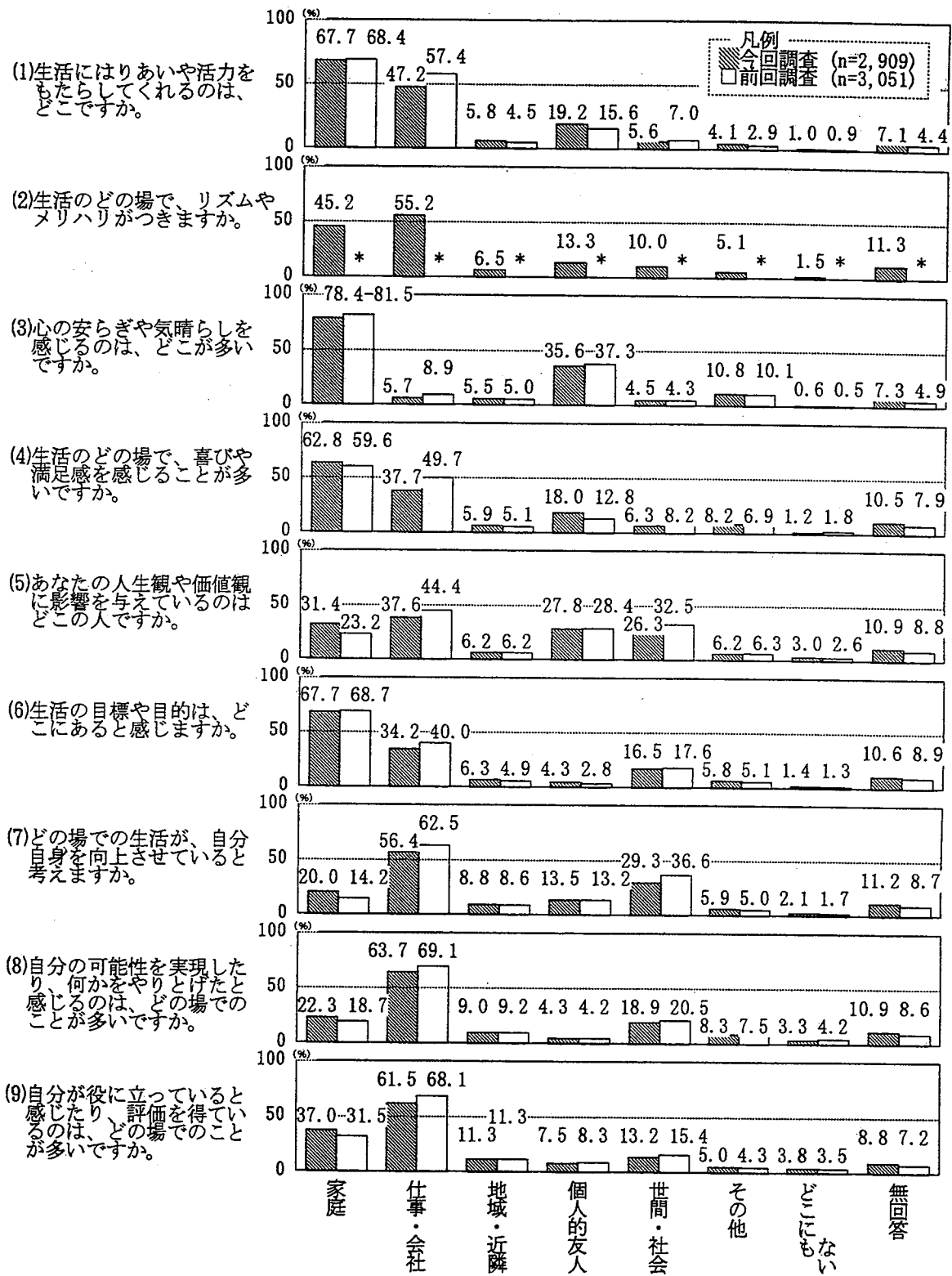
サラリーマンにとっての重要な生きがい取得の場であった「仕事・会社」が揺らぎつつあり、この傾向は若い世代で顕著であると考えられる。

【「外向きの生きがい取得」から「内向きの生きがい取得」へ】

もう1つ、前回調査と今回調査の比較の中で見逃してはならない傾向に、生きがいを「世間・社会」の場から得ている人の減少がある。また、前回調査・今回調査に共通の特徴として、「地域・近隣」の場から生きがいを得ている人が極端に少ないことがある。

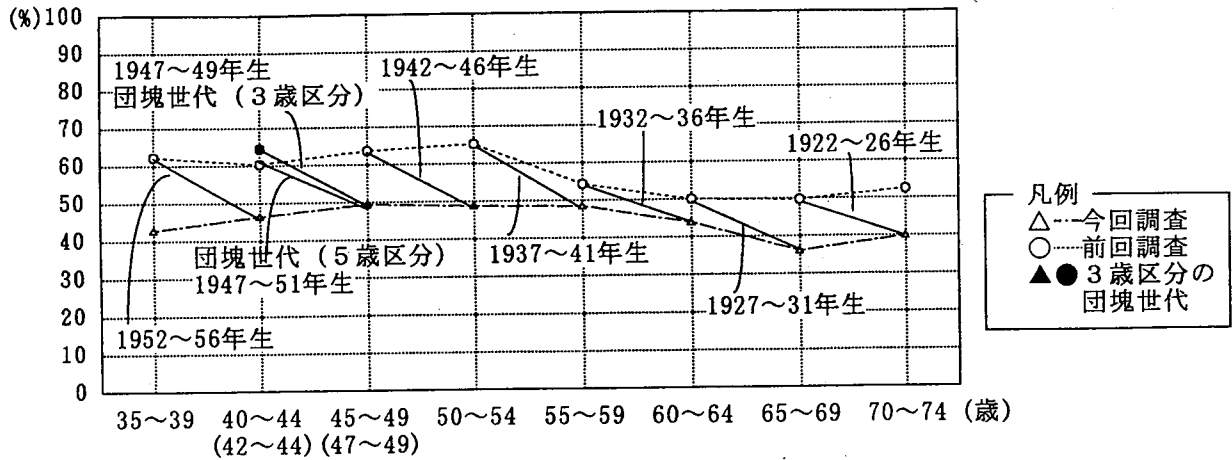
前述の「仕事・会社」の減少等と併せて考えると、全体的に生きがい取得の場が、外向きの場から内向きの場へと変化しつつあると考えられる。

生きがい構成要素の取得の場（前回調査との比較；2つまでの複数回答）



(注) * 印は、今回調査で新たに設定した項目。

生きがい構成要素取得の場
 [『生きる喜びや満足感』を「仕事・会社」から得ている比率]



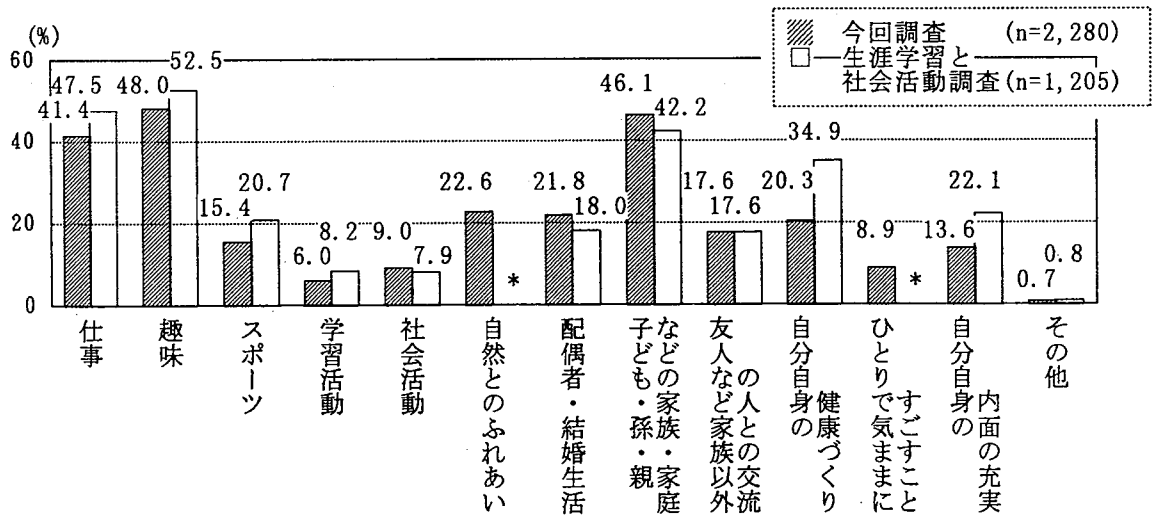
【生きがいの内容としての「仕事」の減少】

生きがいの内容は何であるのかを調査したところ、トップ3は「趣味」「子ども・孫・親などの家族・家庭」「仕事」であった。

前回調査の結果が無いため、「生涯学習と社会活動調査（平成6年）」の同様の調査結果と比較してみたところ、トップ3に関しては、「仕事」「趣味」が減少し、一方で、「子ども・孫・親などの家族・家庭」が増加している。

この結果も、生きがい取得の場の変化と同様の方向性であり、サラリーマンにとっての代表的な生きがいの内容であった「仕事」が揺らぎつつあるものと考えられる。

生きがいの内容（「生涯学習と社会活動調査」との比較；3つまでの複数回答）



(注) * 印は、今回調査のみで設定している選択肢。

(3)サラリーマンは、「生きがい」を持っているのだろうか

【サラリーマンの約8割が生きがいを持つ】

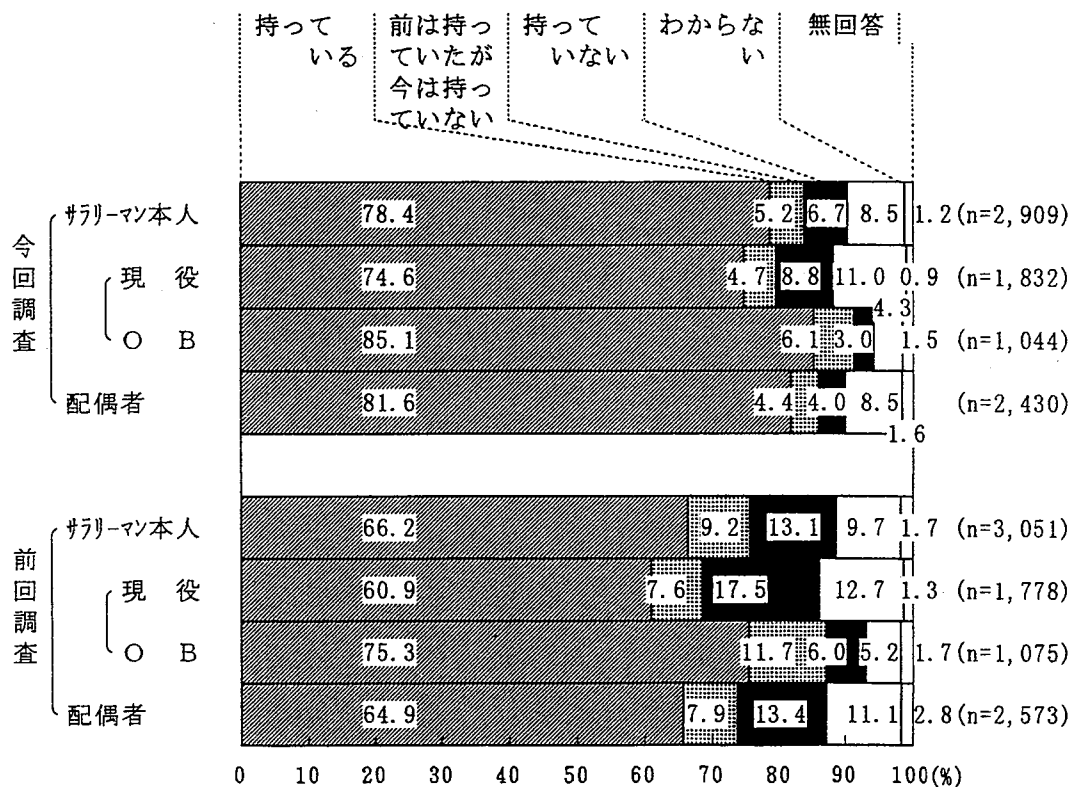
サラリーマンにとっての生きがいの意味・生きがいを取得する場・生きがいの内容について考察してきたが、生きがい取得の場や内容としての「仕事や会社」のウエイトが減少していることが確認できた。

それでは、現在のサラリーマンは、どの位の割合の人が生きがいを持っているのだろうか。

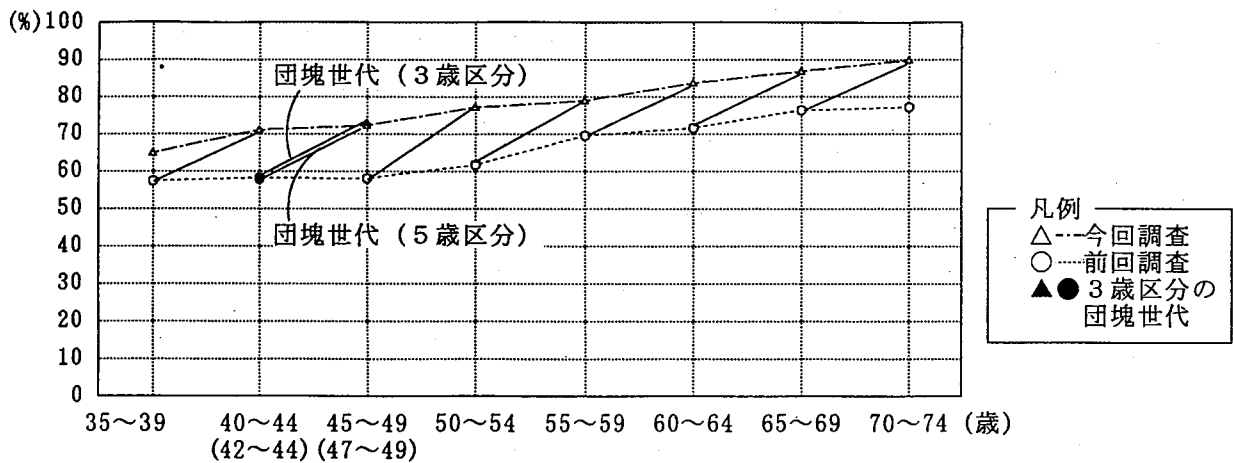
今回調査の結果では、「生きがいを持っている」と回答したサラリーマンは全体の78.4%であり、意外にもこの結果は、前回調査の66.2%に比べ12.2%の増加となっている。また、この生きがいの増加傾向は、年齢階級やサラリーマン現役・OB等の違いによらず、全ての属性に共通して確認できる。

それでは、生きがいを持っている人は、本当に増加したのであろうか。

生きがいの有無（現役・OB別、配偶者調査との比較、前回調査との比較）



生きがいの有無 [《持っている》の比率]



(4) 「生きがいを獲得する要因」とは

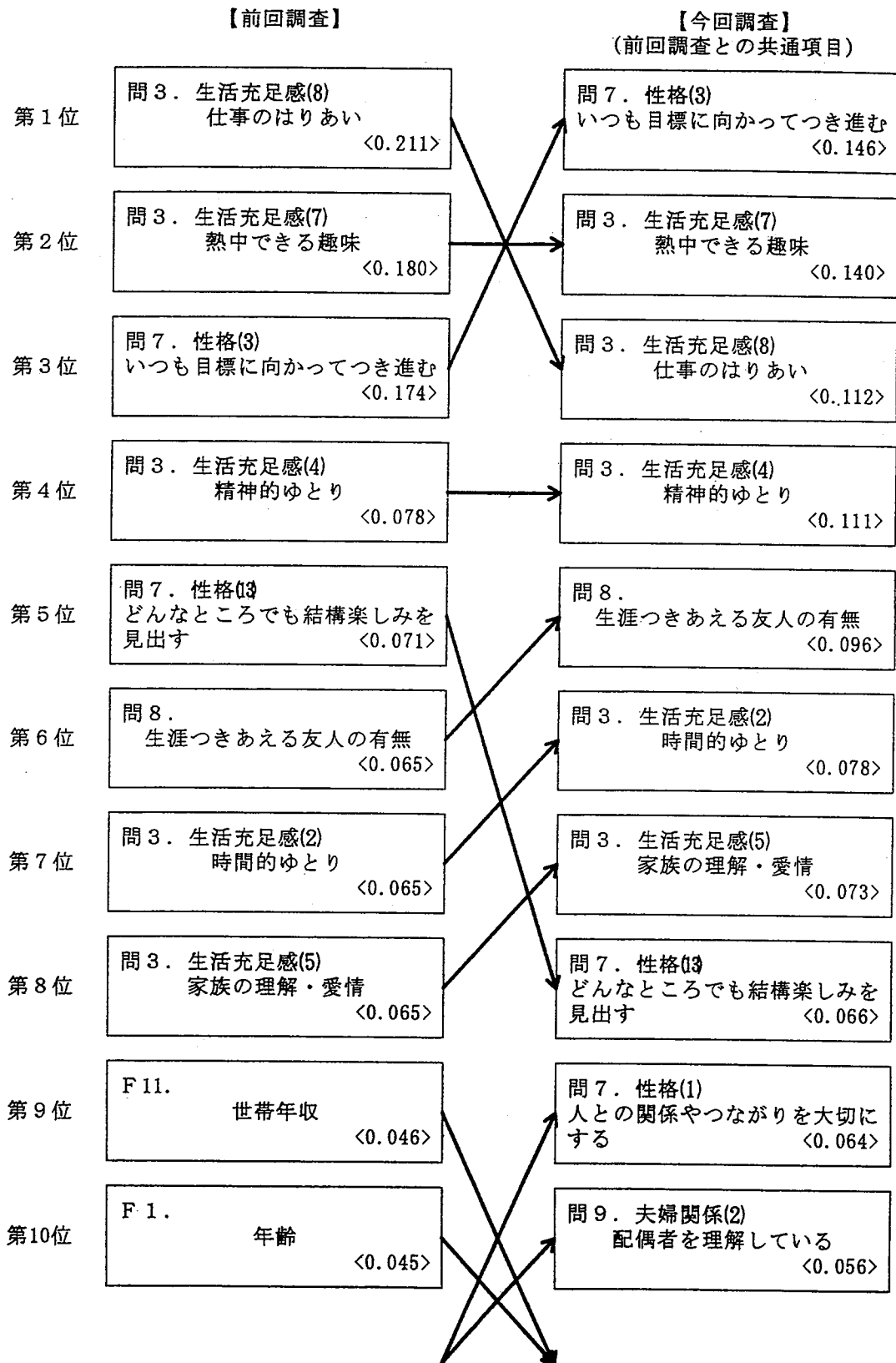
【多様化する生きがいの獲得要因】

今回の調査では、この5年間に生きがいを持っている人が本当に増加したのかどうかを解明する手掛かりを得るため、生きがいの獲得に対し、どのような要因がどの程度影響するのかについて、統計的な手法により分析してみた。

その結果、注目すべきは、各要因が働きかける影響力が均等化していることである。具体的には、前回調査での生きがい獲得要因第1位と第10位の影響力（偏相関係数）の差が0.166ポイントであったものが、今回調査では0.090ポイントに縮小していることである。また、前回調査では、上位3要因が非常に強く影響力を持っていたが、今回調査では、各要因の持つ影響力が均等化している。

このことから、今回調査では、前回調査に比べ、生きがい獲得に強く影響する明確な要因が無くなり、各要因の影響力が均等化するとともに、生きがいの獲得要因が多様化したものと考えられる。

前回調査の生きがい規定因（今回調査との比較，上位10項目）



（注）前回調査の問番号、項目、選択肢は今回調査で対応するものを記してある。

(5) 5年間の生きがいの変容

【生きる意味を問い直す時代】

以上のとおり、前回調査からの5年の経過により、サラリーマンにとって生きがい取得の場であった「仕事・会社」、生きがいの内容であった「仕事」が揺らぐとともに、生きがいの獲得要因が多様化していることがわかった。

残念ながら、本調査ではこのような変化の原因を直接的に解明するための調査項目はないが、様々な原因が推察される。

ここでは、特に、社会経済状況の変化の影響として以下のとおり推察する。

前回調査が実施された平成3年10月は、景気に陰りが見られるものの、未だバブル経済の余韻に浸っていた時期であり、サラリーマンは、企業・組織に帰属することで、精神的にも物質的にもある程度満たされていたと考えられる。

一方、今回調査の実施時期は平成8年11月であり、バブル経済の崩壊後、依然として景気の大きな回復は見込めず、日本的雇用システムも変化しつつある状況下にある。

生きがいの獲得要因が多様化したことは、こうした社会経済状況の変化により、サラリーマンの「仕事や会社」に集中していた意識が揺らぎ、多くのサラリーマンが、そうした変化に適応すべく、自分自身の生きる意味を問い直してきているためとも考えられる。

そうした意味では、今回の調査結果は、生きがいを持つ人が単純に増加したというよりは、自分自身で改めて生きる意味を問い直す人が増え、生きがいに対する解釈が変わるとともに認識が深まったことを示しているのではないだろうか。

2. 世代に関する考察

(1)戦後生まれ世代の特徴

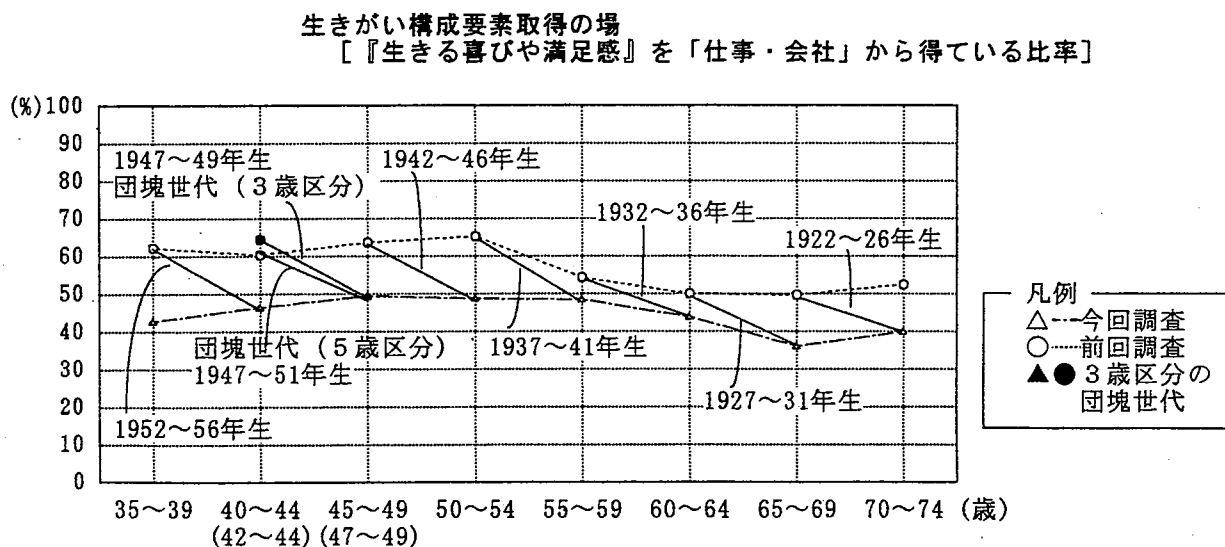
【「仕事・会社」から「家庭」等への意識の変化が強い】

戦後生まれ世代は、「生きがい」「夫婦関係」「帰属意識」「定年後のイメージ」等に関し、他の世代と異なる意識を持つのではないかと仮説を基に、前回調査と今回調査の比較から、各世代ごとの意識を分析した。

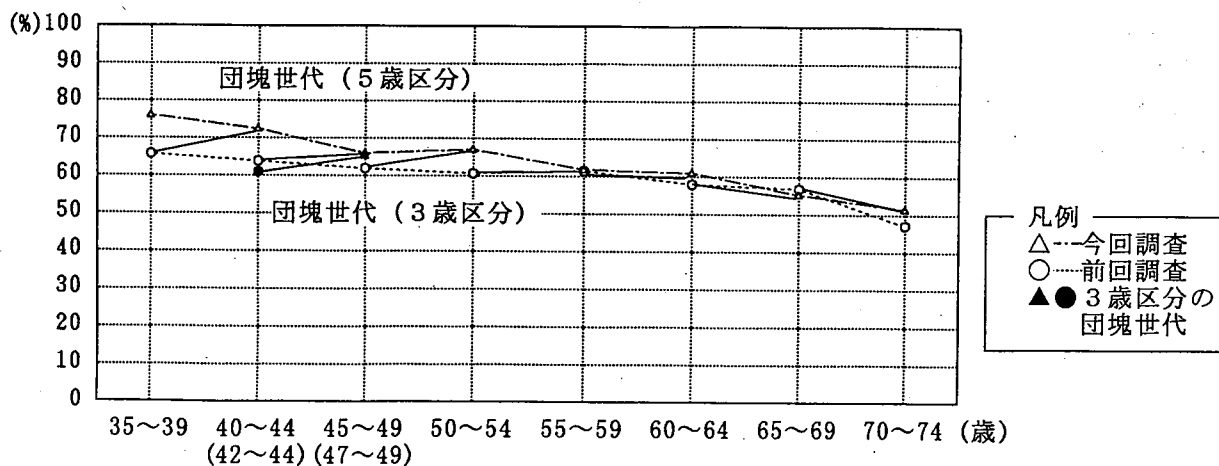
本来、厳密な意味からすれば、「加齢による意識の変化（ライフステージが持つ特質）」と「各世代が持つ固有の特質」とを区分して分析すべきではあるが、本調査は二時点間だけの時系列比較であること等から、両者を厳密に区分するには至らず、各世代が固有に持つ特質は明確には浮き彫りにならなかった。

しかしながら、ライフステージによる特質か世代の特質かは別として、戦前生まれ世代（特に昭和シングル生まれ世代）に比べ、戦後生まれ世代は、「仕事や会社」から「家庭」等への意識の動きが顕著であることが確認できる。

今後、こうした世代が新たにシニア期に入ってくることを考えると、従来までの仕事会社人間に対するシニアプランとは異なった施策が必要となってくるのではないだろうか。



生きがい構成要素取得の場
 [『生きる喜びや満足感』を「家庭」から得ている比率]



(2) 団塊の世代の仕事や会社とのかかわり

【団塊の世代は、「仕事や会社とのかかわり」にドライな世代？】

今回の調査結果だけからすると、団塊の世代は、仕事や会社とのかかわりについて、「仕事は生計を立てるための手段にすぎない」が多く、「仕事をするからには多少無理しても出世したい」が少ないという特徴を持っている。

また、団塊の世代以降の世代では、「出世より興味のある仕事に専念したい」「定年まで会社に勤められるかどうか不安だ」等が多く、「仕事の中でこそ自己実現が図れる」「仕事のために生活を犠牲にしてもやむを得ない」等が少ない傾向である。

全体として、若い世代ほど会社に対する帰属意識が低く、会社に尽くし出世を重視する人が少ない傾向にあるが、団塊の世代は、人口規模が大きく企業内競争が厳しいこと等から、特に会社や仕事に対して割り切った意識を持っており、今後の会社とのかかわりにおいても厳しい意識を持つのではないかと考えられる。

但し、これらの設問は前回調査に無いことから、こうした傾向が、ライフステージによる傾向であるのか、世代による傾向であるのか、厳密な意味での結論は見極められず、今後の継続調査が待たれるところである。

会社とのかかわりについての考え方〔《あてはまる》の比率〕
(年齢階級別)
(%)

	標本数	自己実現が図れる 仕事の中で	仕事は生計を立てるため の手段にすぎない	通用する職業がある 会社でも十分	会社に評価されている 自分は正しく	自分の会社には 尽くしたい	脱サラがある・したい 脱サラしたい	上司や同僚と つき合いたくない
全 体	2,909	56.3	63.5	46.4	58.8	76.2	23.2	43.6
35～39歳	262	47.7	61.8	44.7	64.5	67.9	38.5	37.0
40～44歳	336	44.6	66.1	42.0	53.0	70.2	35.7	35.4
45～49歳	348	48.6	70.7	42.0	56.6	75.0	31.0	35.9
うち47～49歳	241	48.1	70.5	42.7	57.3	77.6	29.9	37.8
50～54歳	314	53.8	67.8	44.6	56.4	77.1	24.2	36.9
55～59歳	405	60.2	63.5	44.4	55.1	79.3	21.0	45.9
60～64歳	399	58.9	62.9	50.6	57.9	79.7	19.0	50.4
65～69歳	521	64.7	60.3	52.6	65.6	81.4	12.1	52.0
70～74歳	214	70.6	52.3	48.1	63.1	76.6	9.8	50.0

	標本数	仕事を犠牲に し得ない	仕事は世に出る ためだけに	出世ある より仕事に 興味がない	定年まで 働けるか 不安だ	会社の社員 は定年退職 後どうする	定年後は 会社で働く つもりはない	無回答
全	2,909	48.3	32.5	61.8	28.1	34.8	56.3	2.5
35～39歳	262	31.7	33.2	70.2	46.6	25.6	71.8	1.1
40～44歳	336	42.3	25.3	73.8	34.8	31.0	64.0	0.6
45～49歳	348	40.5	25.6	70.4	41.1	25.9	62.4	1.1
うち47～49歳	241	44.8	22.4	71.8	41.5	27.8	60.2	0.8
50～54歳	314	50.3	29.9	63.7	34.4	31.2	59.9	1.0
55～59歳	405	55.3	34.1	60.0	23.5	26.2	55.1	1.2
60～64歳	399	52.1	37.6	59.4	24.1	42.1	49.6	1.0
65～69歳	521	53.9	34.7	55.1	16.7	48.8	48.4	4.6
70～74歳	214	55.6	39.7	45.3	10.3	40.2	47.2	8.4

3. 低成長時代のサラリーマンの生活に関する考察

(1) サラリーマンが感じる将来への「不安」

【約9割のサラリーマンが、定年後の生活に不安を持つ】

今までの考察から、社会経済状況の変化等の影響により、サラリーマンの意識が「仕事・会社」から離れつつあり、一人一人がそうした変化に適応べく改めて生きがいを考え直す時代にあることが推察できた。

ある意味で重苦しい雰囲気のある時代である現在、サラリーマンは、自分の将来の生活に対してどのようなことを感じているのだろうか。

今回調査の中で定年後の生活に対する不安について確認したところ、サラリーマン現役の87.3%が何かしらの不安を持っており、特に「自分や配偶者の健康」(55.1%)「生計維持の困難」(41.6%)については第1位・第2位を占め、不安が強いことがわかる。

また、「健康」に関する不安は年齢にかかわらず全体的に強いものであるのに対し、「生計維持の困難」に関する不安は若年層ほど強い傾向がある。

この他にも、若年層(35～44歳)では「配偶者や親の介護」(26.6%)の不安、定年準備期(45～54歳)には「再就職の問題」(30.0%)についての不安、定年期(55～64歳)には「今までの人的交流や情報量が減る」(32.0%)不安が強い傾向が確認できる。

【生活設計ができている人・生きがいを持っている人ほど、

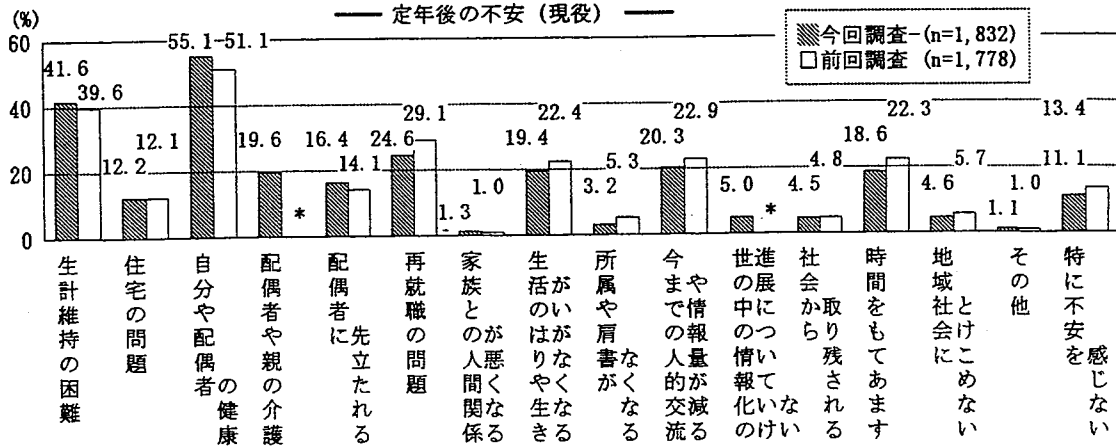
不安が少ない】

また、「定年後の生活設計の状況」・「生きがいの有無」と「不安」との関係を確認してみると、生活設計ができている人・生きがいを持っている人ほど、総じて不安が少ない傾向がある。

特に、個別の不安要素の中でも、「生計維持の困難」「再就職の問題」等に関しては、生活設計ができている人・生きがいをもっている人に不安が少ないことがわかる。

定年後の不安 現役の現状

(前回調査との比較；複数回答)



現役が感じる定年後の不安

(性別、年齢階級別、生活設計の有無別、生きがいの有無別；複数回答)

(%)

		標本数	不安がある	自分や配偶者の健康	生計維持の困難	再就職の問題	今までの情報量が減る	配偶者や親の介護	生活がいやになる	時間をもてあます	配偶者に先立たれる	住宅の問題	世の中の情報化の進み	特に不安を感じない
現役全体		1,832	87.3	55.1	41.6	24.6	20.3	19.6	19.4	18.6	16.4	12.2	5.0	11.1
性別	男性	1,406	87.6	56.5	42.0	28.0	20.7	19.9	18.2	19.8	18.1	10.5	4.3	10.8
	女性	376	87.0	51.6	40.7	13.3	19.7	20.2	23.4	13.8	10.6	17.6	6.9	12.0
年齢階級	35～44歳	597	89.3	56.8	55.1	23.1	13.4	26.6	16.8	14.2	14.9	15.7	4.5	10.1
	45～54歳	657	87.2	56.2	42.0	30.0	18.6	18.6	19.0	17.7	17.7	10.8	4.0	12.3
	55～64歳	416	88.0	52.4	27.9	24.3	32.0	15.4	23.6	24.5	16.3	11.5	5.5	9.9
	65～74歳	88	69.3	51.1	15.9	3.4	27.3	6.8	19.3	21.6	26.1	3.4	6.8	17.0
生活設計	できている	46	65.2	52.2	15.2	6.5	13.0	17.4	13.0	8.7	10.9	6.5	2.2	34.8
	ある程度できている	228	81.6	54.4	18.0	8.8	21.1	21.1	10.5	10.1	15.8	7.0	2.6	17.5
	考えてはいる	298	89.3	58.1	39.9	28.5	23.8	21.8	15.8	17.8	20.1	11.1	6.0	9.4
	あまり考えていない	916	92.5	59.1	47.8	30.5	20.7	19.9	23.0	22.2	16.7	14.2	5.5	7.5
生きがい	現在持っている	1,366	85.6	56.1	36.8	23.8	20.9	19.2	17.7	17.4	16.6	10.2	4.6	12.6
	持っていない	248	94.4	53.6	57.3	27.4	16.5	19.0	28.2	22.6	15.7	21.4	6.9	4.0

(注1) 不安内容は全体で5%以上のものを回答率の多い順に表示した。無回答は表示省略。

(注2) 生きがいを持っていない人は、「前は持っていたが今は持っていない」と「持っていない」を合わせた数値。

(2)将来に向けた「生活設計」ができているのだろうか

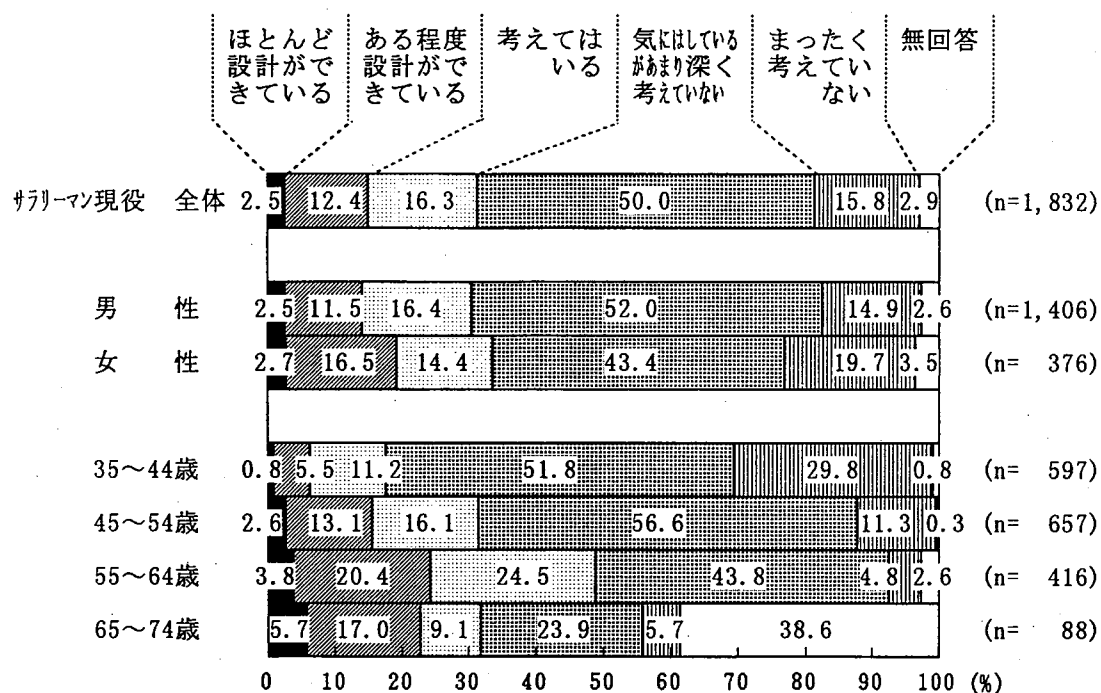
【生活設計ができているサラリーマン現役は15%程度】

それでは、サラリーマン現役が、定年後の希望する生活の実現に向けて、どの程度生活設計を行っているのだろうか。

これについては、「ほとんど設計ができている人」は2.5%であり、「ある程度設計ができている人」を含めても15%程度である。若年層ほど生活設計ができている人が少ないのは当然であろうが、全体として「気にはしているがあまり深く考えていない人」が圧倒的に多い。

このことから、ほとんどの人が定年後の生活に対して不安を持ち、気にはなっているものの、将来に向けた具体的な生活設計に取り組んでいるサラリーマンは極めて少ないことが現実であるといえる。

現役の定年後の生活設計の有無（性別、年齢階級別）



(3)定年退職に向けての具体的な条件整備

【望まれる企業の対応・社会の対応】

サラリーマンの「健康」や「経済」に関する不安からもわかるとおり、個人としての定年退職に向けた具体的な準備としては、やはり「健康の維持・増進を心がけること」「貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくること」の必要性が強く認識されている。

では、企業や社会に対しては、どのような対応が望まれているのだろうか。

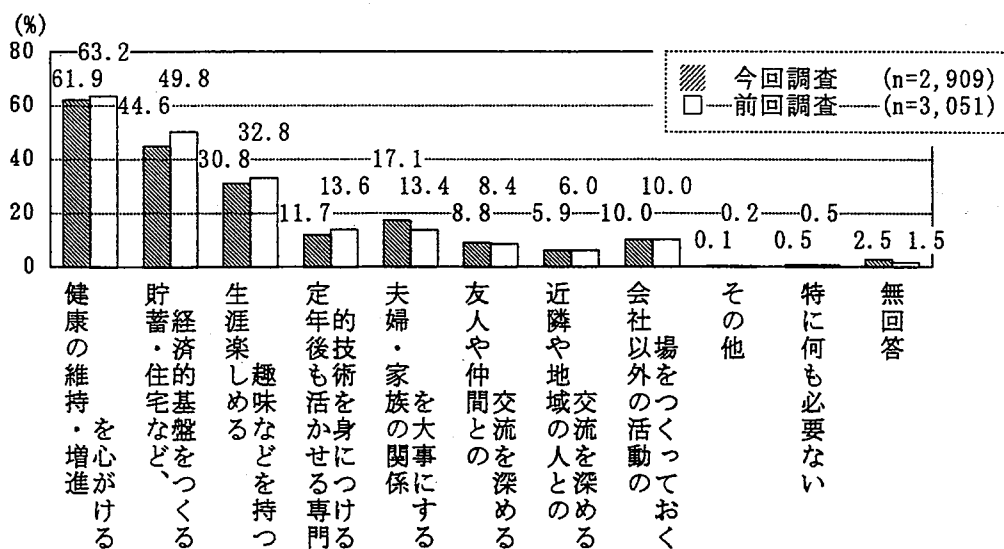
先ず、企業の対応であるが、「企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤整備に力を入れること」「定年後の再雇用など、再就職の場を用意すること」「退職準備教育や退職相談を充実させること」がトップ3であり、特に経済面・雇用面に関する条件整備への期待が高いことがうかがえる。

次に、社会の対応については、「できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくること」「定年退職者の能力を活かす場を増やすこと」「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供すること」がトップ3であり、雇用面や生涯学習・社会活動に関する条件整備への期待が高くなっている。

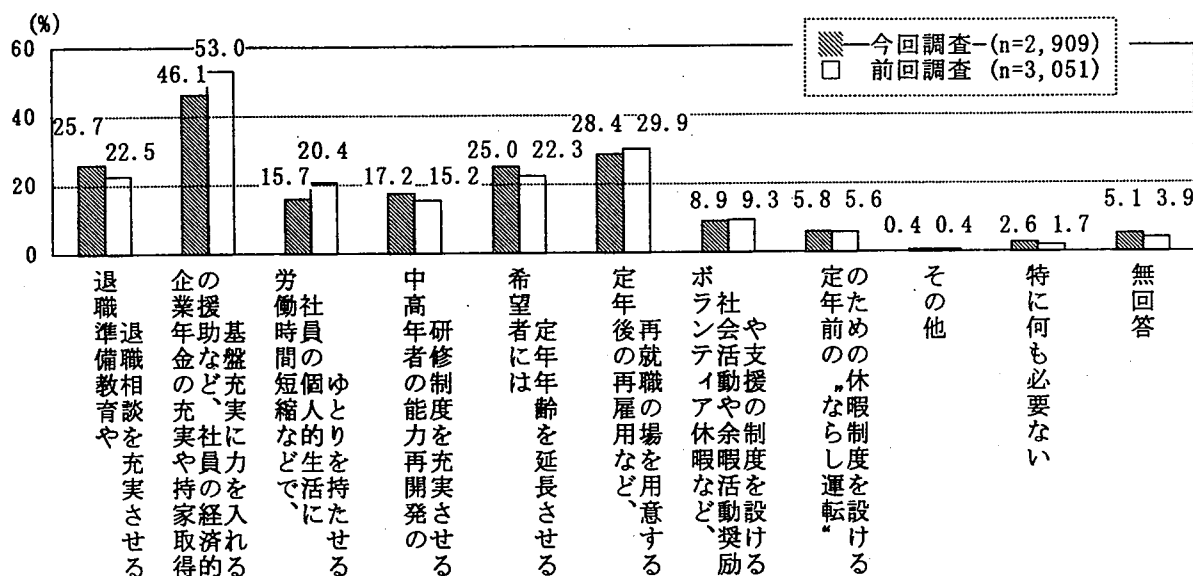
しかし、現環境下、サラリーマンの望む企業や社会の条件整備と現実の状況とのギャップは大きいものであると考えられる。

もちろん、少子化の進展に伴い、雇用面については、中長期的には若年層を中心とした労働力人口が減少し、中高年層の活用が図られることも考えられるが、少なくとも当面の間は、これまでのような経済成長は見込めず、依然として厳しい環境が続くと思われることから、企業や社会による経済面・雇用面等の条件整備は、大きな課題として残るものであろう。

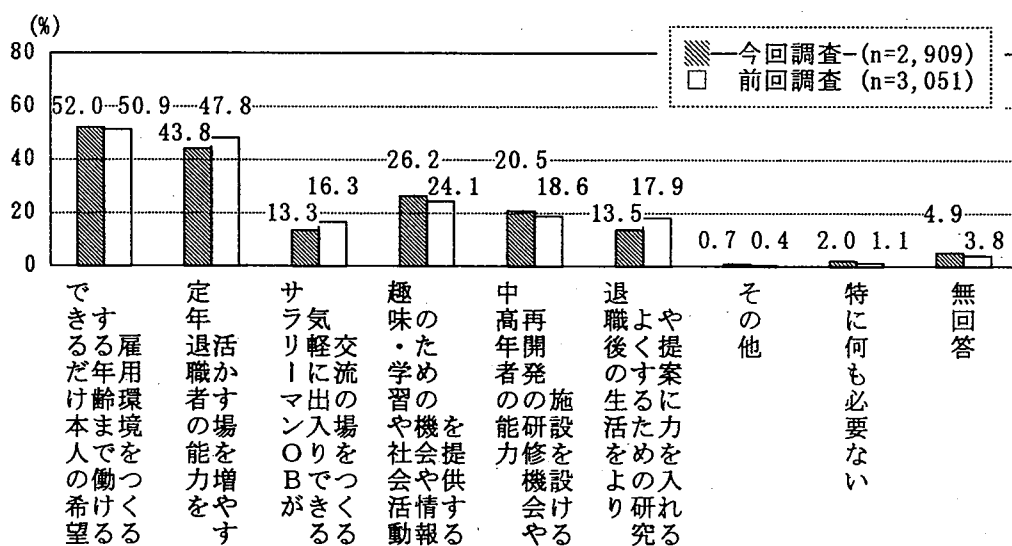
定年退職に向けて必要な個人的対応
(前回調査との比較；2つまでの複数回答)



定年退職に向けての企業の対応（前回調査との比較；2つまでの複数回答）



定年退職に向けての社会的対応（前回調査との比較；2つまでの複数回答）



Ⅱ．提　言

1．不安の時代の生活設計

【早期からの生活設計の必要性】

サラリーマン現役の約9割が、定年後の生活に対し何かしらの不安を持っており、特に若い世代ほど不安が強い傾向がある。

また、今までの年金受給者は、比較的豊かな年金を貰う人々であったが、今後は、厚生年金の部分年金化等により、高齢者の生活は確実に厳しくなっていくものである。

このような状況の中、生活設計がしっかりできている人の場合、比較的不安が少ないという傾向を踏まえれば、将来の老後生活に対し、ある程度若い段階から生活設計をスタートすることが重要であると考えられる。

現在、諸団体等で実施されている退職準備教育やライフプランセミナーの多くは、主として50歳代を対象とした、定年前の画一的な退職準備教育の色彩が強いものであるが、今後は、比較的早い時期から生活設計を行うことの必要性を示唆し、将来のライフプランについて個々人の認識を深めさせていくことが望まれる。

尚、当財団においても、50歳代の厚生年金基金加入員を対象とした年金ライフプラン合同セミナーを実施しているが、今後は、従来以上に若い段階からの生活設計の必要性を踏まえ、40歳代を対象とした対応を検討する予定である。

2．老後の所得保障システムへの不安

【重要性を増す企業年金・個人年金の役割】

社会的問題として「健康」と「経済」の問題は非常に重要であり、サラリーマンの不安においても、この2つは特に目立つ。

中でも、「経済」に関する不安は、近年の低経済成長下、老後の所得保障が本当のところどうなっていくのかに対する不安なのではないだろうか。

特に、上述のとおり、厚生年金の部分年金化等により高齢者の生活は確実に厳しくなっていくものであり、公的年金を補完する柱としての企業年金・個人

調査結果の要約

第1章 人生観

1. 帰属意識

『家庭人の立場』を重視する人が圧倒的に多く、『地域人の立場』を重視する人が減少

『家庭人の立場』を《重視している》は、91.6%と圧倒的に多くなっている。これに対して『地域人の立場』を《重視していない》が57.4%と過半数を占めている。『地域人の立場』『グループ員の立場』『社会の一員としての立場』を《重視している》人の比率は、加齢とともに増加している。

2. 会社とのかかわり

現役は会社に帰属する方向と離れる方向に両極化

現役・OBともに『自分の会社には尽くしたい』が最も多いが、第2位以下で違いがみられ、現役では『仕事は生計を立てる手段にすぎない』『出世よりも興味のある仕事に専念したい』の順、OBでは『仕事の中でこそ自己実現が図れる』『会社は自分を正当に評価している』の順である。また、『会社は定年退職の社員へのめんどろみもよい』『上司や同僚とは仕事を離れてもつき合いたい』で、現役を大きく上回っている。会社に帰属する傾向が強いのは現役よりもOBにおいてみられ、現役では会社とのかかわりに一定の距離をおいてみていることが示唆される。

3. 性格

『人との関係やつながりを大切にする』が9割以上を占める

自らの性格に《あてはまる》ものでは、『人との関係やつながりを大切にする』が最も多く、次いで、『いろいろな人の話や意見をよく聞く』『自分の世界や個性を大切にする』『上下の立場や関係を尊重する』『無理をせずにマイペースで進む』などが、80%前後で上位。《あてはまらない》が多いのは、『指導者的立場に立とうとする』や『新しいグループの中に、わりと気軽に入れる』である。前回調査より「新しいグループに気軽に入れる」が多くなっている。

4. 生活充足感

8割以上が『家族の理解・愛情』に満たされている

《充足》が最も多いのは『家族の理解・愛情』であり、次いで『健康』『友人・仲間』と続いている。これに対して《不充足》が多い項目は、『近隣との交流』『社会の役に立つこと』である。『自然とのふれあい』『時間的ゆとり』『熱中できる趣味』については、《不充足》が20%強と多い。OBの有職者は、『仕事のはりあい』で現役よりも充足感が高い。

第2章 余暇活動と社会活動

1. 自由時間

自由時間の過ごし方には、男女差が見られる

男性は女性に比して、「仕事に関する勉強や残務整理」「テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など」「ひとりで趣味・スポーツ・学習など」「家族との団らんや家庭サービス」が多く、女性では、「個人的な友人・仲間とのつきあい」「庭いじりや家事など家庭内のこと」が多い。特に、「テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など」では10ポイント強の、「個人的な友人・仲間とのつきあい」では30ポイント程度の差がみられ、前者が男性の、後者が女性の特徴といえる。

2. 生涯学習・社会活動

直近1年間に何らかの学習を行った人が、約8割にものぼる

「本・テレビ・ラジオ・テープなどを利用して個人で」と「勤務先の研修等で」学習している人が多い。社会活動経験者は若干増加しており、特にOBの中で「自営業・自由業」の人の参加率が極めて高くなっている。内容別では、「地域の生活環境保全」が最も多く、次いで「趣味・スポーツ・学習グループの世話役」「児童や青少年の健全育成」などが続いている。性別でみると男性の方が女性よりも参加率は高い。

第3章 サラリーマンをとりまくネットワーク

1. 夫婦関係

夫婦関係は良好である

配偶者との関係において、本人、配偶者の回答とも『愛している』『理解している』『頼りにしている』『趣味や行動を尊重する』が上位にあがっている。一方、『共通の趣味がある』は、本人、配偶者とも3割程度となっており、趣味に関しては共有するというよりも、それぞれ独自の人を尊重している夫婦が多い。また、『共通の趣味を持つ』『家事を分担し合う』『価値観・考え方の共有』『助け合う』の点で、よりよい夫婦関係を求めるサラリーマンが多い。

2. 友人関係

定年後に広がる友人関係

生涯を通じてつきあえる友人や仲間がいる人は84.8%で、前回調査とほとんど差はみられない。その友人や仲間と知り合うのは、「職場や仕事を通じて」が最も多く、次いで、「幼なじみ・学生時代の友人」「趣味・パソコン通信・スポーツや学習を通じて」と続いている。OBでは、「趣味や学習」「社会活動」「近隣・地域」「宗教・政治活動」等で新しい友人や仲間を得ている人が4～5割みられ、「職場や仕事」関係も約3割みられる。サラリーマンOBが、定年後に様々な場から新たな友人を得ていることがわかる。

3. 地域関係

比較的希薄な地域との関係

近所づきあいにおいて、現役では「顔が合えば挨拶する」「たまには立ち話をする」程度のつきあいが8割近くを占め、前回調査と同様である。OB・配偶者は「たまには立ち話をする」が多い。一方、約7割のサラリーマンが「町内会・自治会などの活動」「お祭り・運動会などの地域の行事」等何らかの地域活動に参加している。配偶者の地域活動への参加率はサラリーマン本人よりも約1割多く、約8割が何らかの活動に参加している。

第4章 サラリーマンの生きがい

1. 生きがいの意味

生きがいの意味は多様化

サラリーマン本人がとらえる生きがいの意味として最も多かったのは「生きる喜びや満足感」の43.7%で、その他「生活の活力やはりあい」「心の安らぎや気晴らし」「可能性の実現や達成感」「生きる目標や目的」がそれぞれ2～3割で続いている。「生活のリズムやメリハリ」「人生観や価値観の形成」とはともに1割未満にとどまっている。

2. 生きがいを構成する要素の取得の場

生きがいを「仕事・会社」から得ている人が減少

サラリーマン本人は、『生活の活力やはりあい』『心のやすらぎや気晴らし』『生きる喜びや満足感』『生活の目標や目的』では「家庭」であり、それぞれ6～8割程度の回答がみられる。『生活のリズムやメリハリ』『人生観や価値観の形成』『自分自身の向上』『自己実現や達成感』『他人や社会の役に立つと感じる』では「仕事・会社」となっており、4～6割程度が回答している。サラリーマンの生きがい取得の場は、「家庭」と「仕事・会社」の2種類の場に集中しているが、前回調査と比較すると、全ての生きがい構成要素について「仕事・会社」の場の比率が減少している。特に『生活のはりあいや活力』『生きる喜びや満足感』を「仕事・会社」から得ているとする回答は、前回調査より減少している。また、減少幅はOBよりも現役でさらに大きい傾向がみられる。

3. 生きがいの有無

〔生きがいの有無と喪失〕

サラリーマンの5人に4人は生きがいを「持っている」

生きがいを「持っている」のは78.4%であり、サラリーマンの5人に4人は生きがいを「持っている」ことになる。「前は持っていたが今は持っていない」のが5.2%、「持っていない」のが6.7%であり、持っているかどうか「わからない」との回答も8.5%である。生きがいを「持っている」人は増加しており、サラリーマン現役が74.6%、OBが85.1%とOBの方がさらに多くなっている。また、配偶者でも結果はほぼ同じで、81.6%が生きがいを「持っている」と回答している。前回調査との比較では、その増加の傾向は現役、OBともにみられる。

〔属性による違い〕

自営業・自由業のOBに生きがいを持つ人が多い

OBの中では、自営業・自由業の人に生きがいを持つ人が多く、生きがいを持つ人は年齢とともに増える傾向にある。65～74歳のサラリーマンでは87.6%もの人が生きがいを「持っている」と回答しており、35～44歳を20ポイント近く上

回っている。

〔健康・経済状況と生きがい〕

健康状態と暮らし向きが生きがいを左右している

健康状態の良いサラリーマンほど、生きがいを持つ人は多い。その中でも「非常に健康」な人は9割近くが生きがいを持つのに対し、「まあ健康」な人では約8割、「日常生活に支障はないが注意点がある」人では約7割にとどまっている。年収による差はあまり大きくないが、年収が多い人は、少ない人に比べて生きがいを持つ人がやや多い。また、経済状況に関しては、世帯年収よりも、本人が意識している暮らし向きの変化による差が大きく、暮らし向きが苦しくなったと感じている人ほど、生きがいを持つ人が少ない。

〔家族関係と生きがい〕

家族が増えると生きがいを持つ人が増える

既婚者は未婚者に比べて生きがいを持つ人が多く、既婚者の約8割が生きがいを持つのに対し、未婚者では約7割にとどまる。また家族構成別には、子ども夫婦と同居している人に生きがいを持つ人が多く、ひとり暮らしの人にはやや少ない傾向がみられる。また、日頃の夫婦関係と生きがいとの関係を見ると、『共通の趣味がある』人や『家事を分担している』人、『価値観・考え方が似ている』人には生きがいを持つ人がやや多くなっている。

〔生きがいの意味と生きがいの有無〕

自己実現や達成感を求める人に生きがいを持つ人が多い

前述の生きがいの意味に基づくと、生きがいを「自己実現や達成感」ととらえている人に、生きがいを持つ比率がやや高く、逆に「生きる目標や目的」ととらえている人ではやや低くなっている。

〔帰属意識・性格と生きがい〕

積極的な性格の人に、生きがいを持つ人が多い

帰属意識別にみると、家庭や仕事に加えて、地域人やグループ員の立場など多様な立場を重視するという人に、また、「いつも目標に向かってつき進む」「他人にない優れたところがある」「いろいろなことに興味をもちチャレンジする」といった積極性を示す性格を持つ人に、生きがいを持つ人が多くなっている。

〔友人関係・社会活動〕

生きがいの有無は友人関係・生涯学習・社会活動と強い相関関係がある

生きがいを持つ人は、生涯つきあえる友人がいる人では81.6%、いない人では60.4%と20ポイント以上の差がみられる。また何らかの生涯学習を行っている人は8～9割が生きがいを持つのに対し、行っていない人では65.3%にとどまる。さらに社会活動を行っている人は90.6%が生きがいを持つが、行ったことはない人では72.1%とその差は20ポイント近くになる。

〔仕事に関する意識と生きがい〕

生きがいの有無は就労満足度との間に極めて強い相関関係がある

現役サラリーマンの場合は、現在の就労満足度が高いほど生きがいを持つ人が多く、とても満足している人と、とても不満であるという人との間には30ポイント以上の開きがみられる。また、OBの場合には定年や退職の直前の仕事や職場についての満足度との関連もみられ、満足度が高い人ほど生きがいを持つ人が多い。仕事や会社に対する考え方でみると、生きがいを持つ人は、『どの会社でも十分通用する職業能力がある』『上司や同僚とは仕事を離れても付き合いいたい』と考えるサラリーマンに比較的多く、逆に『定年まで会社に勤められるか不安だ(だった)』と考える人には比較的少ない。

4. 生きがいの内容

生きがいの内容の1番は「趣味」である

サラリーマン全体では「趣味」をあげる人が最も多く、次いで「子ども・孫・親等の家族・家庭」である。「仕事」はこれらに次いで第3位となっている。この他では「自然とのふれあい」「配偶者・結婚生活」「自分自身の健康づくり」「友人等家族以外の人との交流」をそれぞれ約2割があげている。配偶者では、「子ども・孫・親などの家族・家庭」が1位にあがっており、「趣味」が続いている。サラリーマン本人と比較すると、無職者の多い配偶者は、「家族・家庭」や「配偶者・結婚生活」をあげる人が多くなっている。また、「友人など家族以外の人との交流」も比較的高く、サラリーマン本人よりも生きがいの内容が多岐にわたっている。

5. 生きがいを規定する要因

規定する要因は均等化傾向、「仕事のはりあい」は減少

生きがいを持っている人は「いつも目標に向かってつき進む」「人との関係を大切にする」の項目にあてはまる。また、「熱中できる趣味」「精神的ゆとり」「仕事のはりあい」に欠けている人は生きがいを持っていない。この他、社会活動を行っていることが生きがいを持っていることに、生涯つきあえる友人がいないことが生きがいを持っていないことに、それぞれ関連がある。団塊の世代の特徴としては、「家族の理解・愛情」「熱中できる趣味」の2つが突出して強く働いており、「精神的ゆとり」や「時間的ゆとり」はあまり強い影響はないといえる。前回調査で強く働いていた「仕事のはりあい」が減少しており、生きがいを規定する要因が均等化している傾向がみられる。

第5章 定年

1. 定年及び引退過程

〔定年までの勤務希望〕

現役は「定年まで勤めたい」が圧倒的に多い

サラリーマン現役では、現在の勤務先に「定年まで勤めたい」と考える人が80.0%、「定年前に退職したい」と考える人が14.4%である。性別にみると、「定年まで勤めたい」人の割合は男性（83.4%）に比べて女性（68.6%）で少ない。女性では「定年前に退職したい」人が24.5%みられる。退職を経験したOBでは、定年により退職した人が82.4%、定年前に退職した人が17.6%であり、現役の希望と大きな違いはない。

〔退職後の就業希望〕

現役の約7割が定年後に就業を希望している

現役では、「退職とともに職業生活から引退したい」が24.7%で最も多く、「退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤めたい」「退職後は別の企業に再就職したい」が各20%弱で続いている。「退職後は自分で事業や商売を始めたい」「退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい」という人もそれぞれ約10%みられる。

〔OBの就業率〕

OBの就業率は低下傾向にある

定年等の退職を経験したOB全体の現在の就業率は47.9%である。60代前半より後半、70代前半となるにつれて、それぞれ10ポイント以上低下する。前回調査と比較すると、いずれの年代においても就業率が下がっており、70代前半では10ポイント近く低下している。

〔OBの就業状況〕

OB有職者の地位は、「派遣・嘱託・パートタイマー」が4割、「正規の社員・従業員」が3割

有職OBの従業上の地位は、「派遣・嘱託・パートタイマーなど」が約4割で最も多く、これに「正規の社員・従業員」（約3割）を合わせ、7割が雇用者である。「自営業・自由業・家族従業員」は12.2%で、「シルバー人材センター」が5.4%、「内職」が1.6%となっている。職種は、「管理職」が約3割で最も多く、「事務職」（約2割）、「技能職・技術補助・生産工程従事・作業者」（約1割）がこれに続く。前回調査に比べ、「管理職」が減少している。OBの約6割を占める「常勤フルタイム」勤務者が前回調査より減少している。

〔就業満足度〕

OBは「仕事内容」には満足しているが、「賃金」には不満が多い

現在の就業状況に対する《満足》の割合は、『仕事の内容』『就業形態』で65%

前後、『職場の人間関係・雰囲気』『職場での地位の高さ』で50%前後を占めるが、『賃金』『福利厚生』では《不満》が25～30%みられる。項目別にみると、特に常勤の《満足》での『職場での地位の高さ』は他の就業状況に比べて極めて多い。

2. 定年後の生活

〔定年退職のイメージ〕

「定年」は現役でマイナスイメージ、OBはプラスイメージを持っている。

「定年退職」という言葉のイメージに関して、現役では、「経済的に苦しくなる」「所属する組織や肩書がなくなる」「生活の目標や気持ちの張りがなくなる」「決まり切った行動パターンから解放される」で、それぞれOBを上回る。一方、OBでは、「わずらわしい人間関係から解放される」「精神的に楽になる」「自由な時間が増え、自分を取り戻す」で、それぞれ現役を上回っている。現役ではマイナスイメージへの回答が、OBではプラスイメージへの回答が、多くなっている。

〔職業生活からの引退時期についての年齢規範〕

引退にふさわしい時期の平均は63.2歳

職業生活から引退する年齢に関して、「引退にふさわしい年齢がある」と考えている人は48.2%で、ふさわしい年齢は平均63.2歳と回答されている。一方、「健康な限りは何歳までも働きたい」が33.2%、「引退にふさわしい年齢はない」が14.4%みられる。「引退にふさわしい年齢がある」と考える人は、女性に比べて男性の方が多くなっている。

〔定年後の望ましい生活〕

「健康に恵まれた生活」を希望する人が圧倒的に多い

現役が希望する定年後の生活は、「健康に恵まれた生活」が約8割と圧倒的に多い。次いで、「経済的にゆとりのある生活」「夫婦関係や家族関係を大切に生活」が4割前後で続き、「精神的にゆとりのある生活」（約3割）の順である。前回調査と比較すると、「好きな趣味にうち込む生活」「それまでの知識や経験を活かす生活」「経済的にゆとりのある生活」が減少し、「精神的にゆとりのある生活」が増加している。

3. 定年後の生活設計と生活問題

〔定年後の生活設計〕

現役の3人に2人は定年後の生活設計を考えていない

現役では、3人に2人は《考えていない》と回答している。男女別にみると、ともに「気にはしているがあまり深く考えていない」が最も多いが、設計ができている人は男性より女性に多いが、「まったく考えていない」という人も男性より女性に多くなっている。年齢階級別では、45～54歳では《考えていない》人が約7割あるが、55歳以上になってようやく「考えてはいる」「設計ができ

ている」が増加し、《考えていない》を上回る。

〔定年後の経済基盤として重視するもの〕

公的年金・企業年金を重視

現役が定年後の経済基盤として重視するものとしては、「公的年金」(77.8%)、「企業年金」(53.4%)といった年金が上位にあがっている。次いで、「退職金」(38.6%)、「就労による収入」(31.3%)、「生命保険の保険金や個人年金」(25.7%)、「預貯金の取りくずし」(17.5%)の順となっている。「公的年金」「企業年金」が上位を占めている点は男女・年代で共通である。

〔定年後の不安〕

約9割が不安を持ち、「健康」「生活維持の困難」の比率が高い

定年後に何らかの不安を感じている現役は87.3%で、前回調査(85.7%)に比べて大きな変化はみられない。不安の内容は、本人・配偶者ともに「自分や配偶者の健康」が最も多く、「生計維持の困難」が続く。本人では3位以下に「再就職の問題」「今までの人的交流や情報量が減る」となるが、配偶者では「配偶者や親の介護」「配偶者に先立たれる」が続いている。また、生きがいを持っていない人は持っている人に比べ、「生計維持の困難」「住宅の問題」「生活のはりや生きがいがなくなる」ことに不安を感じており、「自分や配偶者の健康」「今までの人的交流や情報量が減る」ことへの不安は生きがいを持っている人の方が若干多い。

〔OBが経験した生活問題〕

健康・経済面での問題が多い

定年・退職後に何らかの問題があったという人は65.4%である。その内容は、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」(32.7%)、「経済的に苦しくなった」(23.7%)、「今までの人的交流や情報量が減って困った」(14.2%)が上位にあがっている。また、生きがいを持っていない人は何らかの生活問題に直面しており、定年後の生活問題は生きがいの有無との関連がみられる。

第6章 定年退職に向けての条件整備

1. 個人的対応

健康の維持増進・経済的基盤づくり

現役では、「健康の維持・増進を心がける」（61.9%）、「貯蓄・住宅など経済的基盤をつくる」（44.6%）など、現役の生活不安、OBの生活問題に対応している健康面、経済面の準備への回答が多くなっている。以下「生涯楽しめる趣味などを持つ」「夫婦・家族の関係を大事にする」などが続いている。現役には「会社以外の活動の場をつくっておく」「夫婦・家族の関係を大事にする」が多く、OBでは「生涯楽しめる趣味などを持つ」が多い。男性では「定年後も活かせる専門的技術を身につける」「夫婦・家族の関係を大事にする」が多く、女性には「生涯楽しめる趣味などを持つ」「友人や仲間との交流を深める」が多くみられる。

2. 企業の対応

企業に求められる「経済的基盤整備の支援」「就職の場の提供」

「企業年金の充実や持家取得の援助」など、社員の経済的基盤充実に力を入れる」が46.1%で最も多くなっている。以下、「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」（28.4%）、「退職準備教育や退職相談を充実させる」（25.7%）、「希望者には定年年齢を延長させる」（25.0%）などが続く。現役とOBとでは大きな違いがみられ、現役では「労働時間の短縮」「ボランティア休暇等」など、仕事以外の活動をするゆとりを得ることへのニーズが高く、OBでは「再雇用・再就職」「定年延長」が多く、現行の定年年齢以降の雇用・就業に対するニーズが高くなっている。

3. 社会的対応

「希望する年齢まで働ける雇用環境」「退職者の能力を活かす場の提供」が求められている

社会へ求めることは、前回同様、「できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」が52.0%で最も多く、次いで、「定年退職者の能力を活かす場を増やす」（43.8%）、「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する」（26.2%）などが続いている。

第7章 世代による差の検討

1. 生きがい

団塊の世代の特徴はあまりみられない

生きがい構成要素のうち『生きる喜びや満足感』『人生観や価値観の形成』について、「仕事・会社」から得ている者の減少や「家庭」から得ている者の増加の傾向をみると、団塊の世代とその前後の世代との特徴的な差はみられない。また、生きがいを「持っている」サラリーマンの増加は、いずれの年齢階級でも同様に増加していることから、世代による差は特にみられない。生きがいを持つサラリーマンの増加は、社会経済状況の変化に伴う、全ての世代・年齢階級に共通する変化であると思われる。

2. 夫婦関係

ライフステージや生活の変化に応じた特徴があり、世代による差はみられない

日頃『よく一緒に出かける』というサラリーマンの比率は、全体的には前回調査に比べてやや高くなっている。また年齢階級別には、前回調査同様45～49歳を底として、若年層ほど高くなる傾向がみられることから、これはライフステージによるものと思われ、戦後生まれ世代に行動をともにする夫婦が多いとする世代による差はみられない。夫婦間で『家事を分担している』サラリーマンについてみると、前回調査同様、定年退職者の増える60歳以上で比較的高いという傾向がみられるが、このことは、戦後生まれ世代が、戦前世代に比べて家庭内での協力意識が強いといった世代による差よりも、定年退職に伴って家庭にいる時間が増えるといった生活の変化による影響の方が大きいものと思われる。

3. 会社とのかかわり

団塊世代とそれ以後の世代で会社に対する帰属意識は低い

今回調査で新たに設問した会社とのかかわりについての考え方には、年齢階級による傾向の違いがみられる。高年齢層に比較的高いものとしては『仕事の中でこそ自己実現』『自分の会社には尽くしたい』『仕事のために生活を犠牲にしてもやむを得ない』があり、逆に若年層に比較的高いものとしては『脱サラを考えたことがある・脱サラしたい』『定年まで会社に勤められるかどうか不安だ』『定年後は会社の世話になりたくない』がある。また、団塊世代にあたる47～49歳では、他の年齢階級に比べて『仕事は生計を立てる手段にすぎない』が高く、『仕事をするからには多少無理をしても出世したい』が低くなっている。さらに『出世より興味ある仕事に専念したい』は団塊世代、ポスト団塊世代にあたる年齢階級で比較的高くなっている。全体的に、若い世代ほど会社に対する帰属意識が低く、仕事による自己実現や出世を重視する人が少ない傾向があり、また団塊世代で特にこうした傾向が強いことが推察される。

4. 定年後のイメージ

世代による差はみられない

肯定的なイメージとして最も回答比率の高かった「自由な時間が増え、自分を取り戻す」でみると、前回調査同様、いずれの年齢階級でも4～5割となっており、世代による差は特にみられない。また、否定的なイメージとして最も高かった「経済的に苦しくなる」に回答した比率でみたところ、前回調査同様45～49歳のサラリーマンに最も多いという結果がみられる。45～49歳は今回調査では団塊世代にあたるが、前回調査でも同じ年齢階級で比率が高いという結果となっており、これは世代による影響とはいえない。年齢、つまりライフステージによる影響であるものと思われる。定年後の生活に対して「生計維持の困難」という不安を持つサラリーマンの比率は、若年層ほど高くなっており、前回調査と共通している。こうした不安を持つサラリーマンが、団塊世代で特に多いといった傾向はみられない。

調査結果の詳細

第1章 人生観

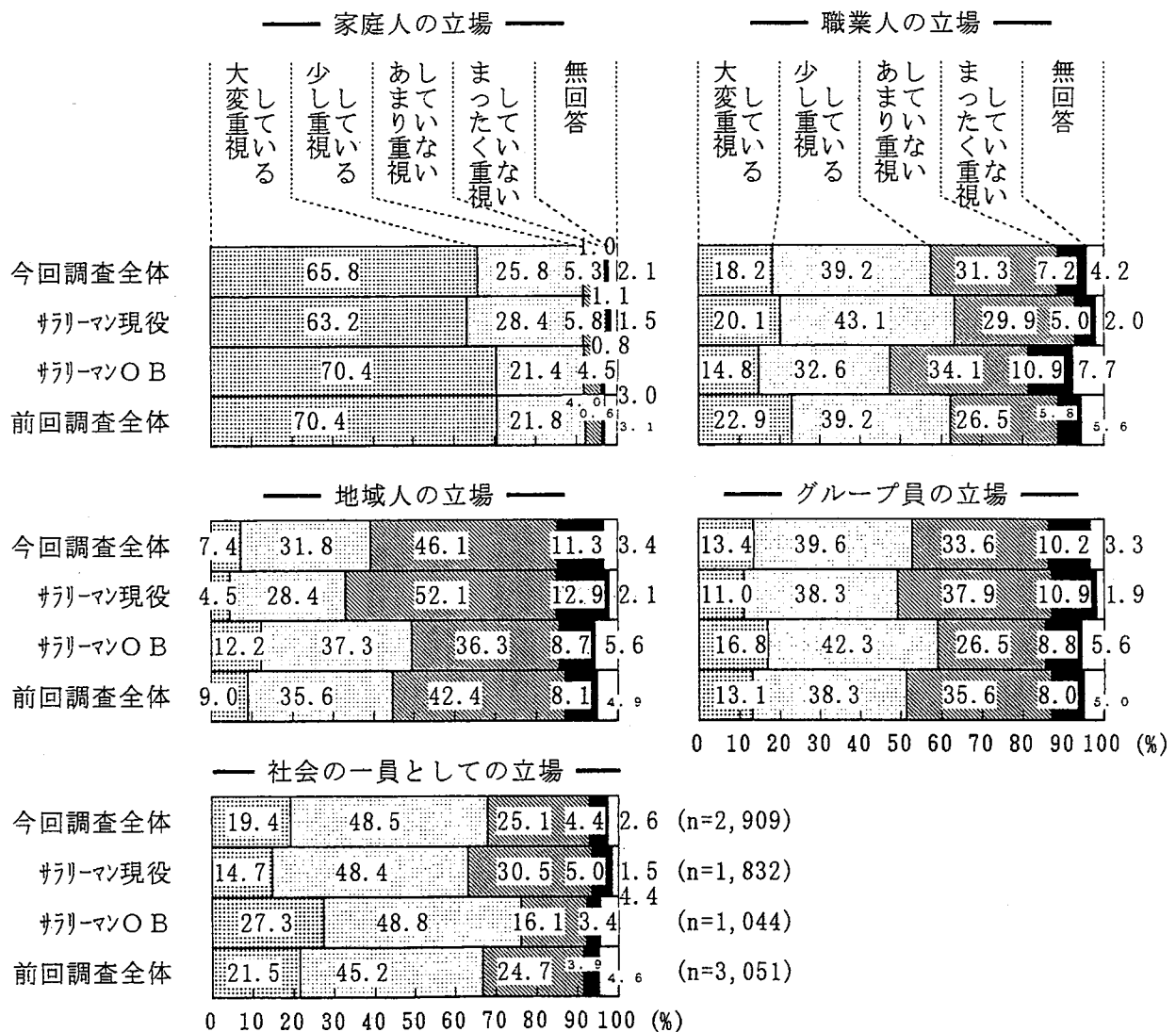
1・1 帰属意識

(1) 重視している立場

『家庭人の立場』『職業人の立場』『地域人の立場』『グループ員の立場』及び『社会の一員としての立場』の5つの立場について、それぞれの程度重視しているかをたずねた。

『家庭人の立場』は、「大変重視している」が65.8%であり、「少し重視している」を加えた《重視している》は91.6%と多い。『職業人の立場』『グループ員の立場』『社会の一員としての立場』は91.6%と多い。

図表1-1-1 各立場の重視の程度（現役・OB別、前回調査との比較）



としての立場』は「大変重視している」が13～20%程度で、いずれの立場も《重視している》は過半数を占める。

これに対して『地域人としての立場』では、《重視している》が39.2%と少なく、「まったく重視していない」と「あまり重視していない」を合わせた《重視していない》が過半数を占める。

前回調査と比較すると、『地域人としての立場』を《重視している》人の比率は、今回調査の方がさらに約5ポイント少なくなっている。

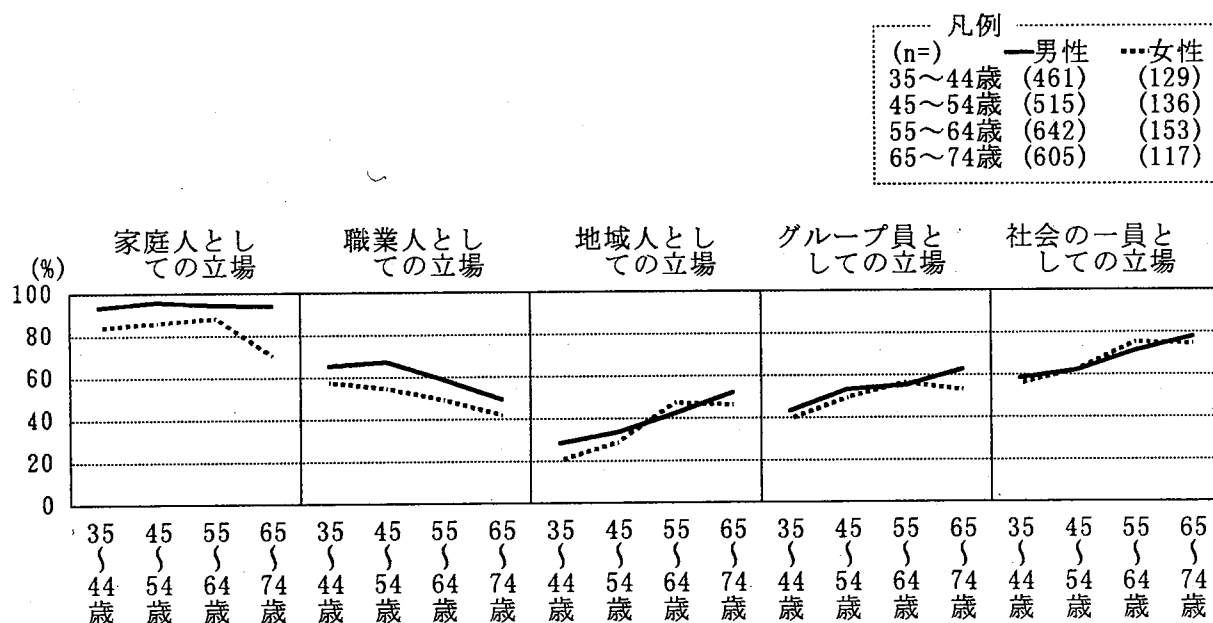
サラリーマン現役とサラリーマンOBとを比較すると、『家庭人の立場』については、「大変重視している」で、OBの方が現役をやや上回っているが、《重視している》では差がみられない。他の4つの立場については、現役とOBとの間には顕著な差がみられ、『職業人の立場』を重視する人は現役の方に多く、『地域人の立場』『グループ員の立場』『社会の一員の立場』を《重視している》は、OBの方が10ポイント以上多い。(図表1-1-1)

性別・年齢階級別にみると、『家庭人としての立場』については、男性は年齢に関係なく《重視している》人は多いが、女性では65～74歳で減少する。『職業人としての立場』は、男女ともに年齢が上がるにつれて重視する人が減少している。

これに対して、『地域人としての立場』『グループ員としての立場』『社会の一員としての立場』は、年齢とともに重視する人が増加している。

これら性別・年齢階級別の傾向は、前回調査とほぼ同様となっている。(図表1-1-2)

図表1-1-2 重視している立場〔《重視している》の比率〕(性別, 年齢階級別)



(2) 帰属意識の類型化

5つの立場の重視度を個々にみたところ、いずれの立場についても前回調査とほぼ同様の傾向が強く示された。そこで前回調査と同様に、重視する立場を類型化して分析を加えていくこととする。

前回調査では因子分析を行い、『地域人としての立場』『グループ員としての立場』『社会

の一員としての立場』には、共通して含まれる大きな因子があることが示された。すなわち、これら3項目は、いわば“ひとかたまり”とみることが可能であり、前回調査では、『家庭人としての立場』『職業人としての立場』『その他の立場』の3面を中心に類型化を行った。

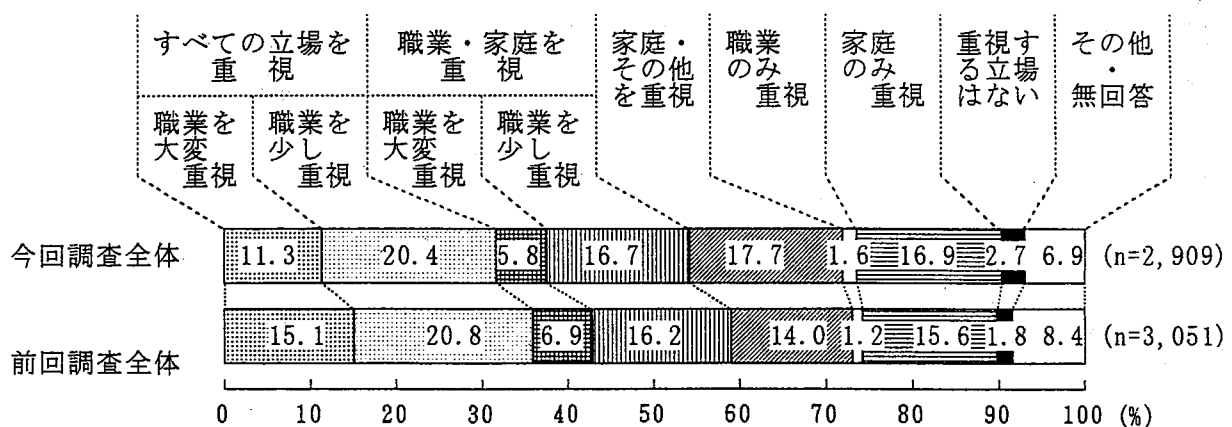
なお、前回調査と同様に今回調査もサラリーマン対象の調査であることから、以下、『職業人としての立場』『家庭人としての立場』『その他の立場』の順に記載する。前回調査における類型は次のとおりである。

1. すべての立場を重視 小計
 2. " 職業を大変重視
 3. " 職業を少し重視
 4. 職業・家庭を重視 小計
 5. " 職業を大変重視
 6. " 職業を少し重視
 7. 家庭・その他を重視
 8. 職業のみ重視
 9. 家庭のみ重視
 10. 重視する立場はない
 11. その他・無回答
- (注) 以下では、「～(人)の立場」を省略し、単に「家庭」「職業」「その他」と略記する。

以上のように類型化した人を、以下、『帰属意識』と呼ぶことにする。

今回調査と前回調査の帰属意識を比較すると、『すべての立場を重視』のうち「職業を大変重視」で、今回調査の方が前回調査よりもやや少なくなっているものの、全体としては大きな違いはみられない。(図表1-1-3)

図表1-1-3 帰属意識(前回調査との比較)



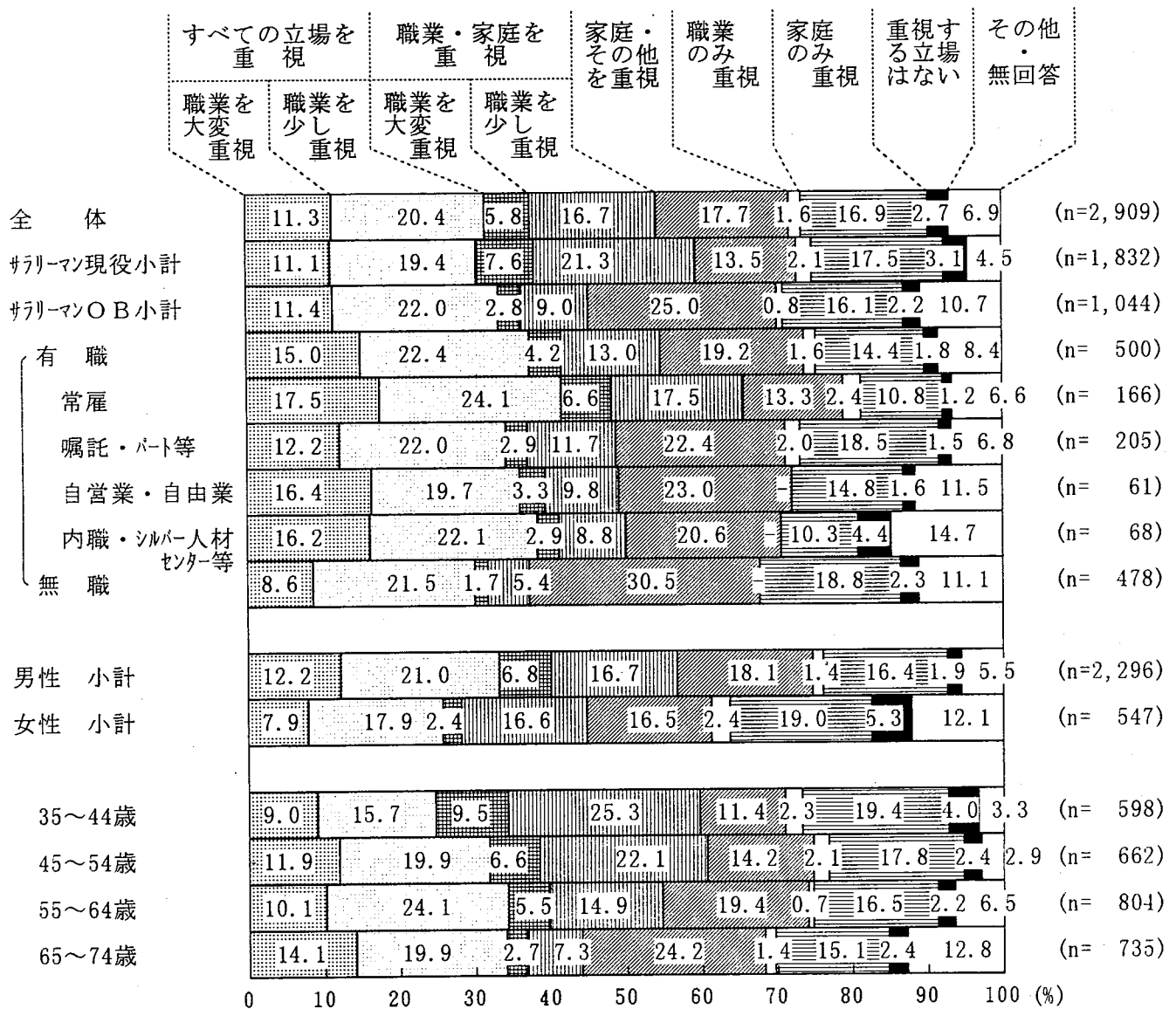
(3) 基本属性と帰属意識

帰属意識をサラリーマン現役とOBとで比較すると、現役の方に多いのが《職業・家庭を重視》する人、反対にOBの方に多いのが「家庭・その他を重視」する人である。《すべての立場を重視》には現役とOBとの差はあまりないが、OBの現在有職では、サラリーマン現役より多い。「職業のみ重視」は、現役の中で2.1%とかなり少ない。

性別にみると、《すべての立場を重視》する人が、男性の方が女性よりも7.4ポイント多くなっている。

年齢階級別にみると、年齢が高くなるほど《すべての立場を重視》する人と「家庭・その他を重視」する人が増加している。これに対して、《職業・家庭を重視》する人と「家庭のみ重視」する人は、年齢が高くなるにしたがって減少している。（図表1-1-4）

図表1-1-4 帰属意識（現役・OB別、OBの就業状況別、性別、年齢階級別）



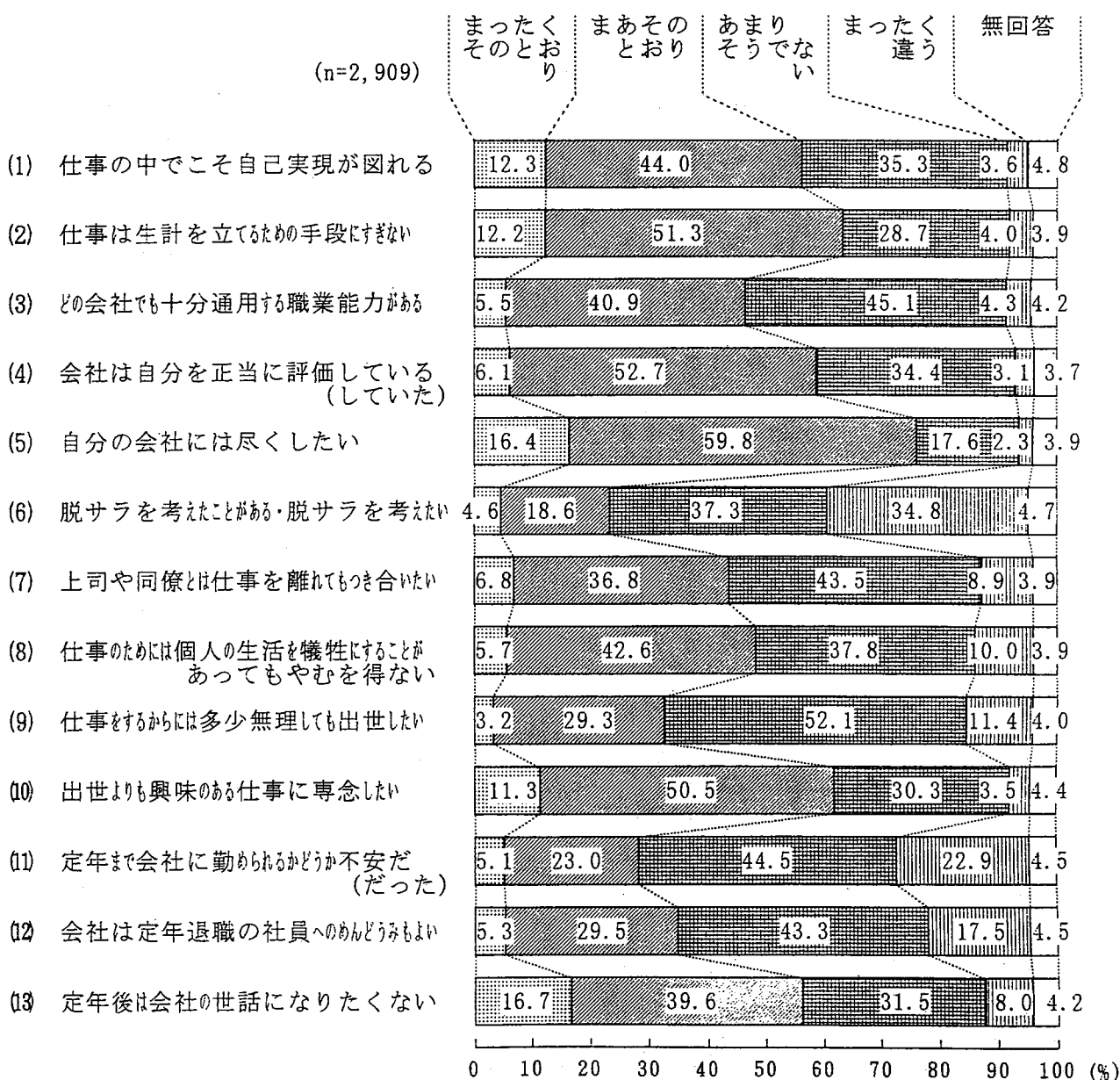
1・2 会社とのかかわり

仕事や会社とのかかわりについてたずねた。

「まったくそのとおり」の回答をみると、『自分の会社には尽くしたい』が16.4%みられるものの、『定年後は会社の世話になりたくない』でも16.7%みられ、会社へ帰属する方向と会社から離れる方向の両方で多くなっている。また「まったく違う」でも、『脱サラを考えたことがある・脱サラを考えたい』で34.8%、『定年まで会社に努められるかどうか不安だ(だった)』で22.9%と、会社へのかかわりには両極の方向性がみられる。

「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」を合わせた《そのとおり》でみると、『自分の会社には尽くしたい』(76.2%)が最も多く、次いで『仕事は生計を立てる手段にすぎない』(63.5%)、『出世よりも興味のある仕事に専念したい』(61.8%)が第2位と第3位であるなど、ここでも会社へ帰属する方向と離れる方向の両面がみられる。(図表1-2-1)

図表1-2-1 会社とのかかわりについての考え方



現役・OB別にみると、『そのとおり』の回答は、現役・OBともに『自分の会社には尽くしたい』が最も多いが、OBの方が現役よりも約7ポイント上回る。OBでは、『仕事の中でこそ自己実現が図れる』（64.3%）、『会社は自分を正に評価している』（62.3%）が第2位と第3位にあがっており、どちらの項目も現役より5～10ポイント程度多い。また、『会社は定年退職の社員へのめんどろみもよい』『上司や同僚とは仕事を離れてもつき合いたい』でも、OBの方が現役よりも15～20ポイント上回っている。

これに対して、『定年まで会社に努められるかどうか不安だ（だった）』『脱サラを考えたことがある・脱サラを考えたい』『定年後は会社の世話になりたくない』では、現役の方がOBよりも10ポイント以上多くなっている。

会社に帰属する傾向が強いのは現役よりもOBにおいてみられ、現役では会社とのかかわりに一定の距離をおいてみていることが示唆される。（図表1-2-2）

図表1-2-2 会社とのかかわりについての考え方〔《そのとおり》の比率〕
（現役・OB別、OBの就業状況別）

(%)

	標本数	仕事自己実現が図れる	仕事はためすぎない	通ずる会社で職業が力	会社は評価して正	自分の会社には	脱サラを考えた	上司や同僚とは
全 体	2,909	56.3	63.5	46.4	58.8	76.2	23.2	43.6
サラリーマン現役 小計	1,832	52.0	65.2	43.3	57.0	73.9	28.1	38.6
サラリーマンOB 小計	1,044	64.3	61.1	52.4	62.3	80.8	14.8	52.6
有 職	500	66.4	61.2	55.8	63.8	80.8	18.0	53.6
常 雇	166	64.5	62.7	52.4	69.3	81.3	18.7	50.0
嘱託・パート等	205	65.9	57.1	53.2	59.5	82.4	14.1	56.6
自営業・自由業	61	73.8	70.5	65.6	62.3	80.3	34.4	57.4
内職・シルバー人材センター	68	66.2	61.8	63.2	64.7	75.0	13.2	50.0
無 職	478	62.1	62.1	50.6	61.5	82.6	11.9	52.3

	標本数	仕事を犠牲にしない	仕事は多すぎない	出世ある仕事にしたい	定年勤められなくなる	会社の社員どうも	定年後は会社でなく
全 体	2,909	48.3	32.5	61.8	28.1	34.8	56.3
サラリーマン現役 小計	1,832	45.8	31.0	65.1	34.3	28.1	60.9
サラリーマンOB 小計	1,044	52.9	35.2	56.6	17.8	46.3	49.1
有 職	500	48.2	33.4	58.2	19.0	48.0	47.8
常 雇	166	50.0	38.0	59.6	17.5	54.2	51.2
嘱託・パート等	205	44.9	30.2	59.0	20.0	41.5	44.9
自営業・自由業	61	55.7	34.4	57.4	24.6	47.5	49.2
内職・シルバー人材センター	68	47.1	30.9	52.9	14.7	52.9	47.1
無 職	478	57.9	37.2	57.1	18.0	45.8	52.1

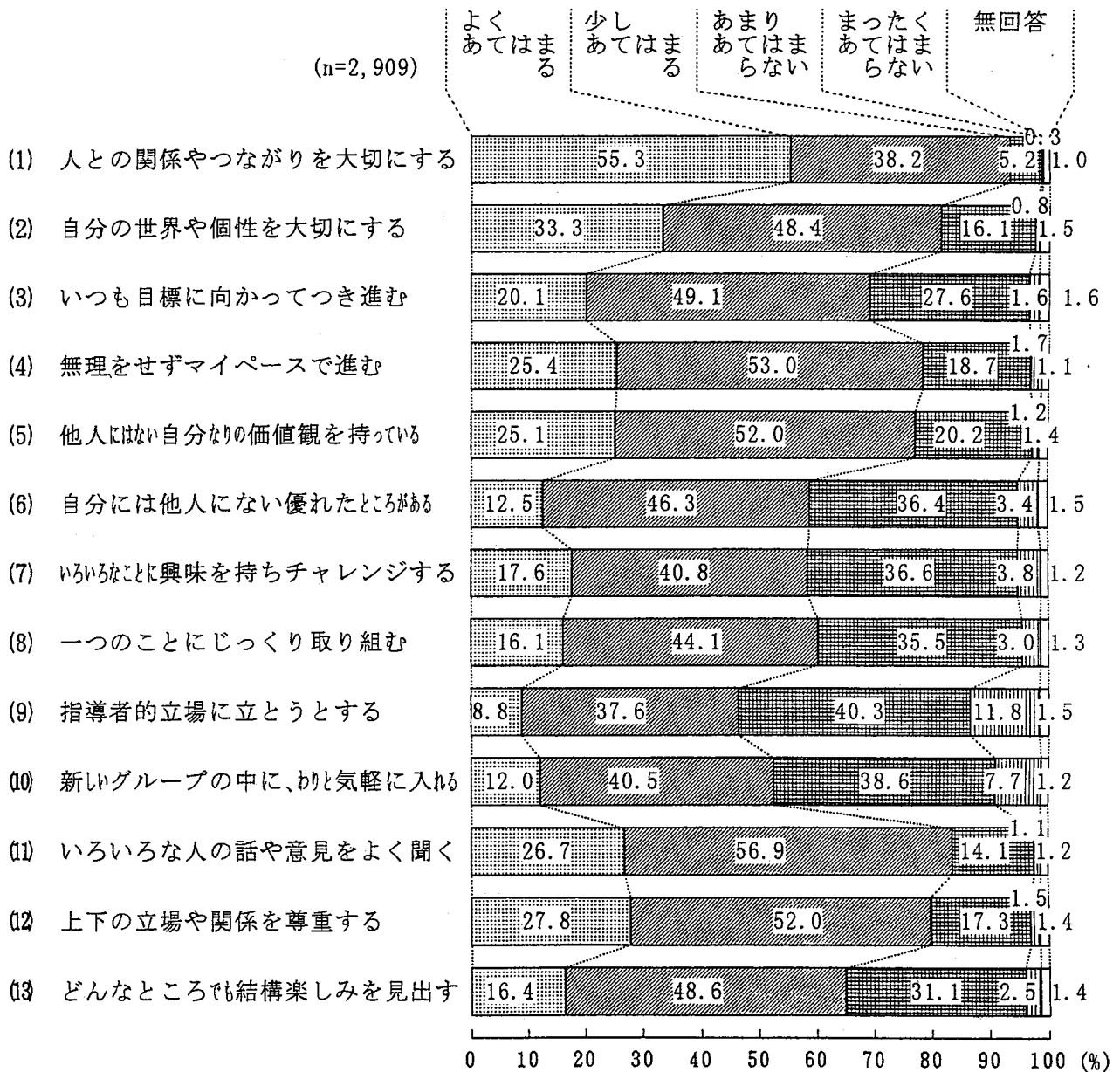
（注）無回答は表示省略。

1・3 性格

性格をあらわす13項目を提示し、どの程度あてはまるかをたずねた。「よくあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた《あてはまる》でみると、『人との関係やつながりを大切にす
る』(93.4%)が最も多い。次いで、『いろいろな人の話や意見をよく聞く』(83.6%)、
『自分の世界や個性を大切にす』(81.7%)、『上下の立場や関係を尊重する』(79.8%)、
『無理をせずにマイペースで進む』(78.4%)などが、80%前後で上位にあがっている。

「まったくあてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合わせた《あてはまらない》が
多いのは、『指導者的立場に立とうとする』(52.1%)や『新しいグループの中に、わりと気
軽に入れる』(46.3%)である。(図表1-3-1)

図表1-3-1 自分の性格



前回調査と比較すると、「新しいグループに気軽に入れる」では、今回調査の方が前回調査よりも約7ポイント多くなっているが、この他には大きな違いはみられない。（図表1-3-2）

図表1-3-2 自分の性格〔《あてはまる》の比率〕（前回調査との比較）

(%)

	標本数	人との関係に大切にする	自分の世界や個性を大切にする	いつも目標に向かって進む	無理をせずマイペースで進む	自分なりの価値観を持っている	自分には優れたところがある	いろいろなことにチャレンジする	一つのことに取り組み	指導者の立場に立つ	新しいグループに入れる	いろいろな人の話をよく聞く
今回調査	2,909	93.4	81.7	69.2	78.4	77.1	58.8	58.4	60.2	46.4	52.5	83.6
前回調査	3,051	91.2	77.3	66.8	79.7	*	*	54.8	60.8	42.9	45.7	82.8

	標本数	上下の立場や関係に大切にする	どこでも楽しみを見出す
今回調査	2,909	79.8	65.0
前回調査	3,051	80.1	63.0

（注）*印は今回調査で新たに設定した項目。

サラリーマン現役とOBとを比較すると、現役の方に多いのが『指導者の立場に立とうとする』であり、OBの方に多いのが『無理をせずマイペースで進む』『一つのことに取り組み』である。

性別にみると、『指導者の立場に立とうとする』で男性が女性を17ポイント上回っている。また、『自分には優れたところがある』や『いつも目標に向かって進む』でも男性が女性を10ポイント前後上回っている。

年齢階級別にみると、『いつも目標に向かって進む』『無理をせずマイペースで進む』『自分なりの価値観を持っている』では、年齢があがるにしたがってあてはまる人が増える傾向がみられる。反対に、『指導者の立場に立とうとする』では、年齢が若い層ほど多い傾向がみられる。（図表1-3-3）

図表 1-3-3 自分の性格 [《あてはまる》の比率] (現役・OB別, 性別, 年齢階級別)

(%)

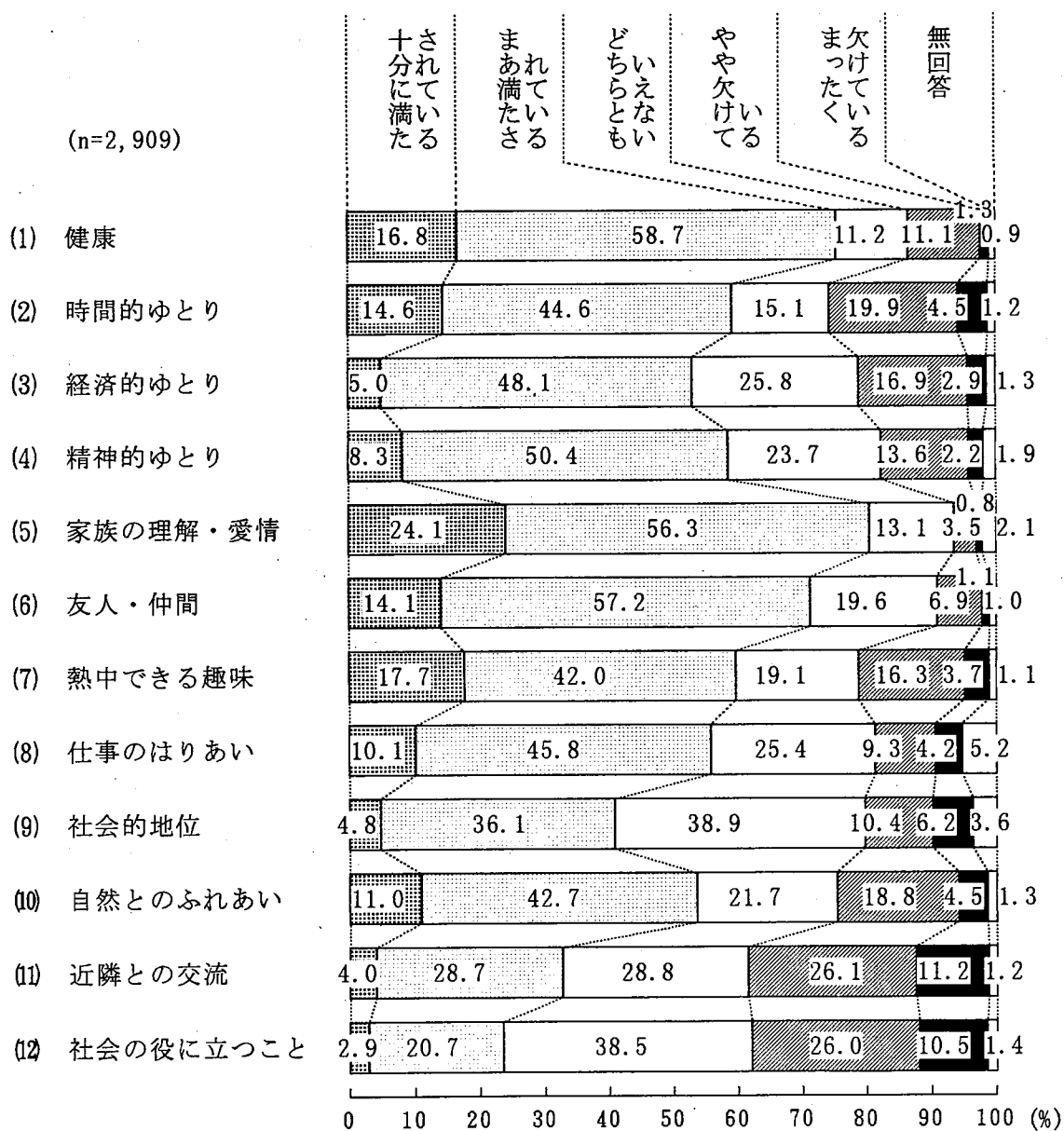
	標 本 数	人 と の 関 係 を 大 切 に す る	自 分 を 大 切 に す る	い つ も 目 標 に 進 む	無 理 を せ ず で 進 む	自 分 な り の 価 値 を 観 る	自 分 に は 優 れ が あ る	い ろ い ろ な こ と に す る	一 じ つ の こ り 取 り 組 む	指 導 者 的 立 場 と す る	新 し い 気 風 に 入 る	い ろ い ろ な こ と を よ く 聞 く
全 体	2,909	93.4	81.7	69.2	78.4	77.1	58.8	58.4	60.2	46.4	52.5	83.6
サラリーマン現役	1,832	93.1	80.4	67.8	75.5	76.4	57.0	57.6	58.2	48.7	50.9	82.8
サラリーマンOB	1,044	94.2	84.0	71.6	83.4	78.3	61.6	59.5	63.3	42.1	54.8	85.1
男性 小計	2,296	93.3	82.5	70.9	78.2	77.7	61.5	58.9	59.9	49.9	52.4	83.7
女性 小計	547	95.1	79.3	62.5	79.5	77.0	49.5	57.0	61.6	32.9	53.7	85.0
35～44歳	598	92.1	81.1	66.6	76.9	74.7	56.4	58.4	57.4	47.3	48.8	81.9
45～54歳	662	93.8	80.1	66.3	73.7	77.6	58.5	58.0	59.1	49.8	49.2	82.3
55～64歳	804	94.5	83.3	69.5	78.7	76.5	57.5	58.5	59.1	47.0	55.3	84.7
65～74歳	735	93.7	82.2	73.1	83.8	80.0	63.5	58.8	65.2	41.9	55.4	85.0

	標 本 数	上 下 の を 大 切 に す る	ど こ で も 楽 し み を 見 出 す
全 体	2,909	79.8	65.0
サラリーマン現役	1,832	79.5	64.8
サラリーマンOB	1,044	80.3	65.1
男性 小計	2,269	79.6	64.1
女性 小計	547	80.8	70.2
35～44歳	598	80.4	65.1
45～54歳	662	77.6	62.7
55～64歳	804	82.1	65.7
65～74歳	735	79.7	66.9

1・4 生活充足感

生活のさまざまな側面のうち、健康、時間的ゆとり、経済的ゆとり、精神的ゆとり、家族の理解・愛情、友人・仲間、熱中できる趣味、仕事のはりあい、社会的地位、自然とのふれあい、近隣との交流、社会の役に立つことの12項目について、それぞれの程度充足されているかをたずねた。以下、各項目について、「十分に満たされている」と「まあ満たされている」を合わせた《充足》と、「まったく欠けている」と「やや欠けている」を合わせた《不充足》とでみる。

図表 1-4-1 生活充足感



《充足》が最も多いのは『家族の理解・愛情』（80.4%）であり、次いで『健康』（75.5%）、『友人・仲間』（71.4%）と続いている。《充足》が過半数を占める項目が多くなっている。《不充足》が多い項目は、『近隣との交流』（37.3%）、『社会の役に立つこと』（36.5%）である。この他、『自然とのふれあい』『時間的ゆとり』『熱中できる趣味』についても、《不充足》が20%強と多い。（図表1-4-1）

また、前回調査と今回調査との比較をみると、いずれの項目についても《充足》している比率に違いはみられない。（図表1-4-2）

図表1-4-2 生活充足感〔《充足されているもの》の比率〕（前回調査との比較）

(%)

	標 本 数	健 康	時 間 的 ゆ と り	経 済 的 ゆ と り	精 神 的 ゆ と り	家 族 理 解 ・ 愛 情	友 人 ・ 仲 間	熱 中 で き る 趣 味	仕 事 の は り あ い	社 会 的 地 位	自 然 と の ふ れ あ い	近 隣 と の 交 流	社 会 の 立 つ こ と
今回調査	2,909	75.5	59.2	53.1	58.6	80.4	71.4	59.7	55.9	40.8	53.7	32.7	23.6
前回調査	3,051	75.1	56.6	51.2	57.1	84.3	70.0	56.7	58.2	42.2	50.4	34.7	25.2

現役・OB別にみると、『仕事のほりあい』と『社会的地位』の2項目以外は、すべてOBの方が《充足》が多くなっている。これら2項目の充足度は、就業状況に強く関係しており、OBの有職者では、現役と同程度以上に充足している。特に『仕事のほりあい』では、OBであっても有職者の場合は、現役よりも《充足》の比率が10ポイント強上回っている。

生活充足感は男女によって違いがみられる。『時間的ゆとり』『家族の理解・愛情』『社会的地位』『社会の役に立つこと』では、男性の方が女性よりも充足感が高く、反対に『経済的ゆとり』『友人・仲間』『近隣との交流』では女性の方が男性よりも高い。

年齢階級別にみると、『家族の理解・愛情』『仕事のほりあい』『社会的地位』を除く9項目では、概ね年齢と共に充足度が高くなる傾向がみられる。『仕事のほりあい』と『社会的地位』は、45～64歳の方が、35～44歳や65～74歳よりも充足度が高くなっている。これは、先にも述べたように就業状況や就業上の地位との関係と考えられる。（図表1-4-3）

図表1-4-3 生活充足感〔《充足されているもの》の比率〕

（現役・OB別 OBの就業状況別、性別、年齢階級別）

(%)

	標本数	健康	時間的ゆとり	経済的ゆとり	精神的ゆとり	家族理解・愛情	友人・仲間	熱中できる趣味	仕事のほりあい	社会的地位	自然とふれあい	近隣との交流	社会の役に立つこと
全 体	2,909	75.5	59.2	53.1	58.6	80.4	71.4	59.7	55.9	40.8	53.7	32.7	23.6
サラリーマン現役	1,832	73.6	47.8	47.2	50.3	79.5	68.2	55.6	58.9	44.6	46.0	25.8	18.9
サラリーマンOB	1,044	78.7	79.2	63.4	72.8	81.9	76.6	66.6	50.8	34.6	66.9	44.0	31.5
有職	500	79.8	68.2	66.4	70.4	81.0	76.6	61.2	72.4	44.6	61.2	40.0	34.2
常雇	166	80.1	57.8	69.9	68.1	83.1	72.3	57.2	72.9	53.6	62.0	33.1	28.3
嘱託等	205	77.6	69.8	61.5	69.3	81.5	76.6	63.4	72.7	35.6	57.6	40.5	32.2
自営等	61	83.6	75.4	73.8	75.4	82.0	85.2	63.9	80.3	45.9	57.4	45.9	52.5
内職等	68	82.4	82.4	66.2	75.0	73.5	79.4	61.8	63.2	48.5	73.5	50.0	38.2
無職	478	78.7	90.8	61.1	76.4	83.5	76.2	71.5	28.2	23.8	73.4	46.0	28.5
男性 計	2,296	75.9	61.8	52.4	59.4	83.0	69.8	60.4	56.3	43.4	54.4	31.1	24.7
女性 計	547	75.0	49.4	57.6	56.9	72.2	78.8	57.4	55.6	31.1	51.2	38.4	18.3
35～44歳	598	71.1	35.6	36.3	41.0	81.6	64.7	48.7	52.7	39.5	35.3	19.9	15.6
45～54歳	662	74.3	49.7	47.4	51.2	78.5	68.4	56.6	60.4	45.8	48.2	25.2	17.1
55～64歳	804	78.9	66.2	57.8	64.1	81.2	72.6	63.3	60.1	41.8	60.2	33.6	24.8
65～74歳	735	78.0	79.9	67.8	75.4	81.8	78.4	68.0	50.5	37.7	66.3	47.6	33.9

第2章 余暇活動と社会活動

2・1 自由時間

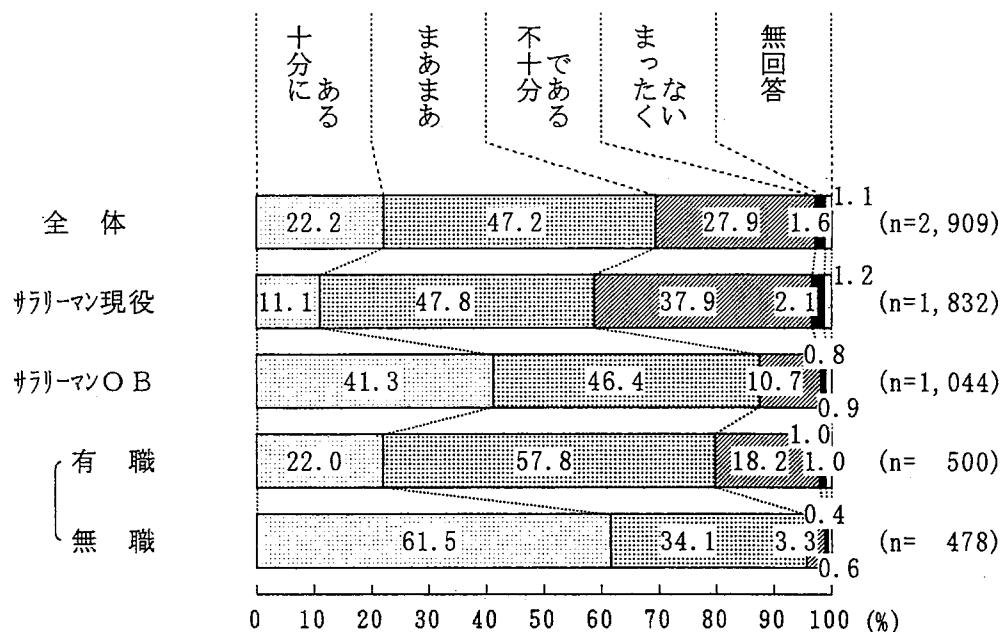
(1) 自由時間の有無

日頃の自由時間がどの程度あるかをたずねた。「まあまあ」(47.2%)が最も多く、「不十分である」(27.9%)、「十分にある」(22.2%)と続き、「まったくない」は1.6%と少ない。「十分にある」と「まあまあ」を合わせると、自由時間がある人は、69.4%となっている。

現役とOBとを比較すると、OBでは「十分にある」が41.3%と多く、現役(11.1%)よりも約30ポイントも上回っている。

無職の場合は、有職に比べて自由時間が多いのは当然であるが、有職のOBでも現役に比べると、自由時間が「十分にある」人は約10ポイント多い。現役とOBとの時間的ゆとりの差は顕著である。(図表2-1-1)

図表2-1-1 自由時間の有無(現役・OB別, OBの就業の有無別)



図表 2-1-3 自由時間の過ごし方

(性別、現役・OB別、OBの就業状況別、自由時間別；3つまでの複数回答)

(%)

	標本数	仕事仲間とのつきあい	仕事勉強や残務整理	テレビ・ゴルフ・酒など	考えごとやめい想	スポーツ・趣味・学習等	仲間と趣味・学習等	パソコン・通信やネット	仲間とのつきあい 個人的な友人・あい
全 体	2,831	9.9	11.2	32.1	3.0	29.6	29.3	2.5	26.6
男 性	2,246	10.4	12.6	34.4	3.0	31.4	29.2	3.1	20.8
女 性	522	7.7	5.6	22.4	3.6	23.6	29.5	0.4	50.0
サラリーマン現役	1,772	11.3	12.7	40.5	2.8	27.6	27.0	2.8	23.4
サラリーマンOB	1,027	7.6	8.6	18.3	3.4	33.1	33.2	2.2	32.3
有職	490	11.4	15.1	24.7	3.5	29.4	26.7	3.3	25.7
常雇	162	14.2	15.4	29.0	6.2	27.2	32.7	2.5	17.9
嘱託等	203	11.3	10.3	25.6	2.5	32.0	25.6	3.4	31.5
自営等	59	11.9	35.6	20.3	1.7	33.9	15.3	5.1	23.7
内職等	66	4.5	10.6	15.2	1.5	22.7	25.8	3.0	28.8
無職	473	4.0	2.3	12.3	3.2	37.4	38.3	1.5	37.0
十分にある	646	7.3	5.1	22.8	3.3	35.3	35.9	2.5	34.4
まあまあ	1,374	11.4	9.6	33.0	2.8	28.2	31.9	2.0	25.8
不十分である	811	9.4	18.7	38.0	3.2	27.5	19.6	3.5	21.8

	標本数	行楽・ドライブなど	庭など家庭内のこと いじりや家事	家族や家庭サービス との関係	近隣の地域でのつき あいや人の用事	ボランティアなどの 社会活動	宗教活動・政治活動	その他	特に何もしない
全 体	2,909	29.2	38.3	33.1	7.0	4.5	1.6	2.9	0.6
男 性	2,246	29.7	37.0	35.1	7.1	4.4	1.6	2.7	0.4
女 性	522	27.4	44.6	26.1	6.5	4.2	1.1	3.6	1.3
サラリーマン現役	1,772	27.4	34.2	38.4	4.6	3.2	1.6	2.3	0.5
サラリーマンOB	1,027	32.6	44.9	24.3	11.0	6.5	1.7	3.9	0.8
有職	490	33.9	43.3	24.3	10.8	4.7	1.4	4.1	1.0
常雇	162	36.4	42.0	27.8	6.8	1.9	1.9	3.1	-
嘱託等	203	30.5	42.9	21.2	13.8	4.4	0.5	4.4	2.5
自営等	59	32.2	44.1	18.6	11.9	10.2	3.4	-	-
内職等	66	39.4	47.0	30.3	10.6	7.6	1.5	9.1	-
無職	473	32.3	48.0	24.7	11.8	7.6	1.9	3.8	0.6
十分にある	646	32.5	40.6	25.7	9.6	5.3	1.9	3.1	0.5
まあまあ	1,374	29.3	40.5	31.9	7.9	4.7	1.5	2.7	0.5
不十分である	811	26.5	32.6	40.9	3.3	1.7	3.1	0.9	0.9

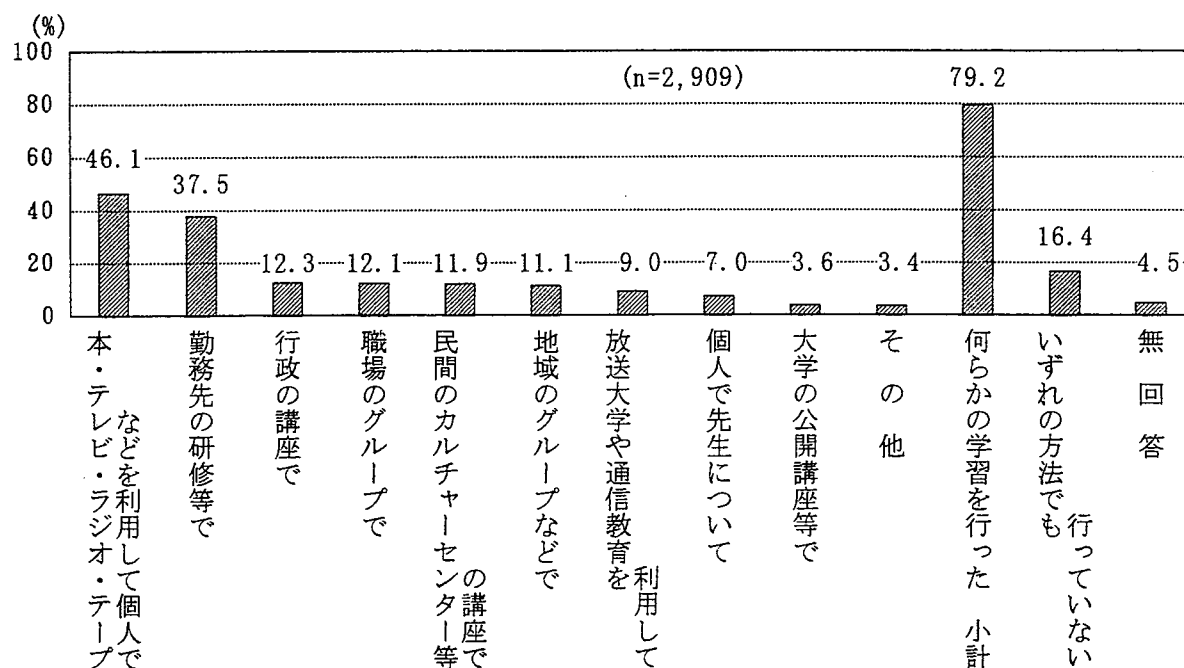
(注) 無回答は表示省略。

2・2 生涯学習・社会活動

(1) 生涯学習

この1年間に行ったことがある学習の方法を複数回答でたずねたところ、《何らかの学習を行ったことがある》ものは79.2%にもものぼる。特に、「本・テレビ・ラジオ・テープなどを利用して個人で」（46.1%）と「勤務先の研修等で」（37.5%）が多い。（図表2-2-1）

図表2-2-1 生涯学習への参加状況（複数回答）

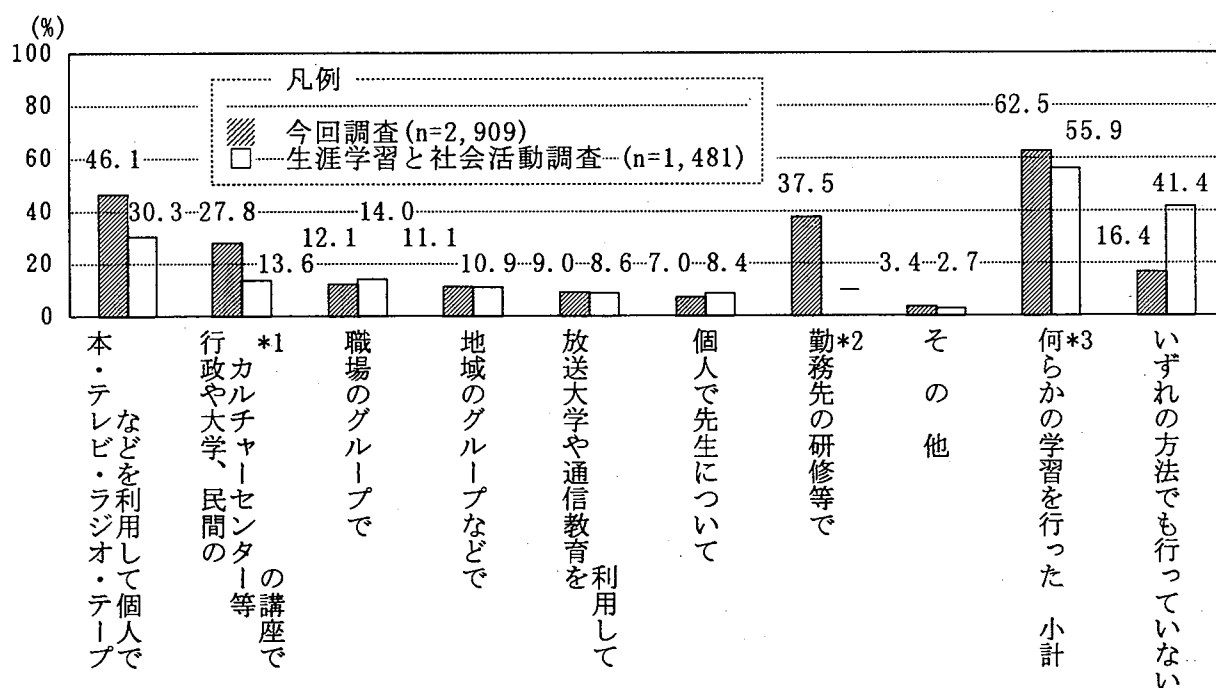


（注）選択肢は回答の多い順に並べかえてある。

平成6年に行った「『サラリーマンシニアの生涯学習と社会活動』に関する調査」（以下、「生涯学習と社会活動調査」と省略する）と比較すると、「本・テレビ・ラジオ・テープなどを利用して個人で」では15.8ポイント、「行政や大学、民間のカルチャーセンター等の講座で」では9.6ポイント、今回調査の方が「生涯学習と社会活動調査」よりも増えている。

今回調査で新たに設定した「勤務先の研修等で」だけの回答を除いたうえで、生涯学習の実施率を比較すると、今回調査では62.5%であり、「生涯学習と社会活動調査」の55.9%を6.6ポイント上回り、学習参加率が高くなってきている。（図表2-2-2）

図表2-2-2 生涯学習への参加状況（前回調査との比較；複数回答）

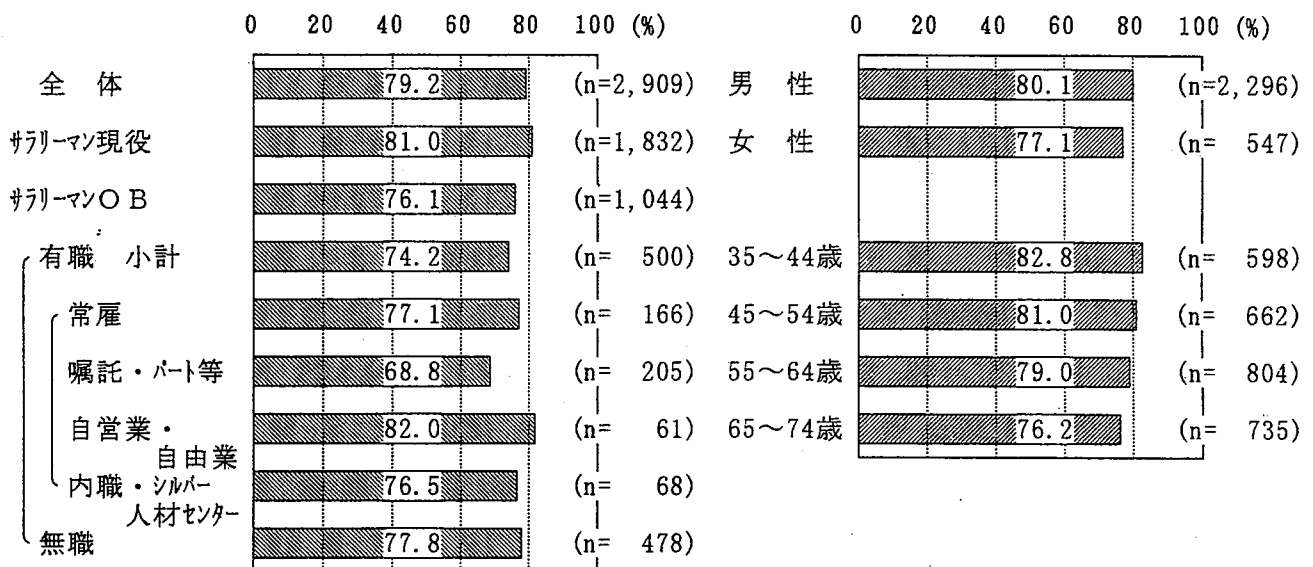


- (注1) *1の項目は、前回調査と比較するために、「行政の講座で」と「大学の公開講座等で」と「民間のカルチャーセンター等の講座で」とを合計した比率。
- (注2) *2の項目は今回調査で新たに設定した選択肢。
- (注3) *3の小計のうち今回調査は、*2の項目だけに回答した人は除いて算出。
- (注4) 選択肢は回答の多い順に並べかえてある。
- (注5) 「生涯学習と社会活動調査」では、標本の年齢層（45～69歳）と男女の比率（男：女＝3：1）が今回調査とは異なるため、今回調査と比較する際には、注意が必要である（以下、同様）。

現役とOBの生涯学習参加率をみると、現役の方がOBよりも参加率が高い。これは、「勤務先の研修等で」学習したサラリーマン現役が多くいるためと考えられる。

男女による違いは大きくないが、年齢階級別には若い層の方が高齢層よりも参加率が高いことが示されている。（図表2-2-3）

図表2-2-3 生涯学習への参加状況〔《何らかの学習を行った》比率〕
（現役・OB別、OBの就業状況別、性別、年齢階級別）

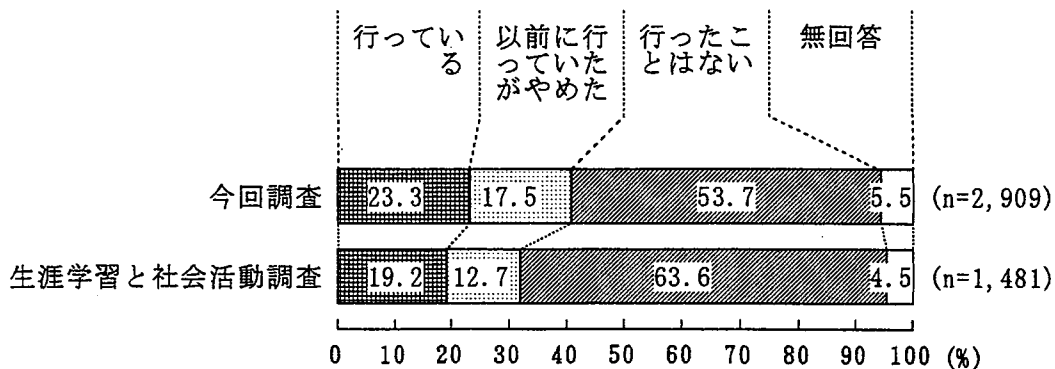


(2) 社会活動

社会に何らかのはたらきかけをする活動（以下、「社会活動」とする）への参加状況をたずねた。

「行っている」が23.3%、「以前に行っていたがやめた」が17.5%であり、これらを合わせた社会活動経験者は40.8%である。「生涯学習と社会活動調査」と比較すると、現在「行っている」人は4.1ポイント、社会活動経験者は8.9ポイント増加している。（図表2-2-4）

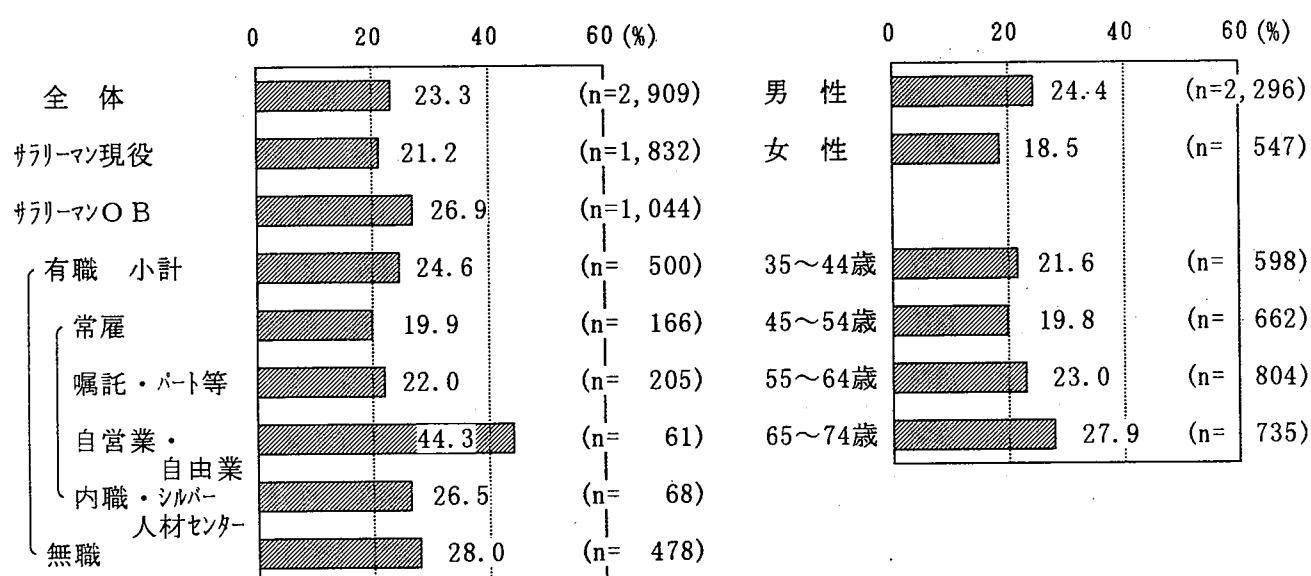
図表2-2-4 社会活動参加状況（前回調査との比較）



社会活動への参加状況を現役とOBとでみると、現役に比べてOBの方が参加率がやや高くなっている。さらにOBの中でも、自営業・自由業の人で参加率が44.3%と極めて高くなっている。

性別にみると男性の方が女性よりも参加率は高く、年齢階級別には45～54歳でやや低く、65～74歳で高い。(図表2-2-5)

図表2-2-5 社会活動参加状況〔《行っている》比率〕
(現役・OB別, OBの就業状況別, 性別, 年齢階級別)



参加している社会活動の内容をみると、「地域の生活環境保全」（44.2%）が最も多く、次いで「趣味・スポーツ・学習グループの世話役」（39.1%）、「児童や青少年の健全育成」（26.3%）などが続いている。「生涯学習と社会活動調査」と比較すると、「児童や青少年の健全育成」は今回調査の方がやや多くなっているが、「地域社会の活性化」は「生涯学習と社会活動調査」の方が多くなっている。（図表２－２－６）

図表２－２－６ 参加している社会活動の内容（前回調査との比較；複数回答）

(%)

	標本数	地域の生活環境保全	地域社会の活性化	趣味・スポーツ・学習グループの世話役	児童や青少年の健全育成	消費者活動	障害者や高齢者への福祉活動	地球環境の保護	国際交流・外国人の援助等 外国人の援助等 国際協力や	その他
今回調査	1,186	44.2	19.6	39.1	26.3	3.7	15.2	4.6	6.2	3.6
生涯学習と社会活動調査	473	46.1	30.4	40.0	18.8	2.7	12.1	6.3	6.1	3.8

（注）無回答は表示省略。

社会活動の内容を現役・ＯＢ別にみると、「児童や青少年の健全育成」は現役の方がＯＢよりも多く、「地域の生活環境保全」と「地域社会の活性化」はＯＢの方が現役よりも参加が多い。

（図表２－２－７）

図表２－２－７ 参加している社会活動の内容（現役・ＯＢ別，複数回答）

(%)

	標本数	地域の生活環境保全	地域社会の活性化	趣味・スポーツ・学習グループの世話役	児童や青少年の健全育成	消費者活動	障害者や高齢者への福祉活動	地球環境の保護	国際交流・外国人の援助等 外国人の援助等 国際協力や	その他
全 体	1,186	44.2	19.6	39.1	26.3	3.7	15.2	4.6	6.2	3.6
サリマン現役	723	38.5	17.0	38.5	33.6	2.9	13.1	3.6	6.4	3.9
サリマンＯＢ	449	53.2	23.6	40.1	14.7	5.1	18.0	6.2	5.6	3.1

（注）無回答は表示省略。

第3章 サラリーマンをとりまく ネットワーク

3・1 夫婦関係

配偶者との関係について10の項目をあげ、それぞれについて実際の日頃の関係と、回答者自身にとってどの程度大切かという2つの視点から、4段階で回答してもらった。また、配偶者に対しても同様の設問をした。

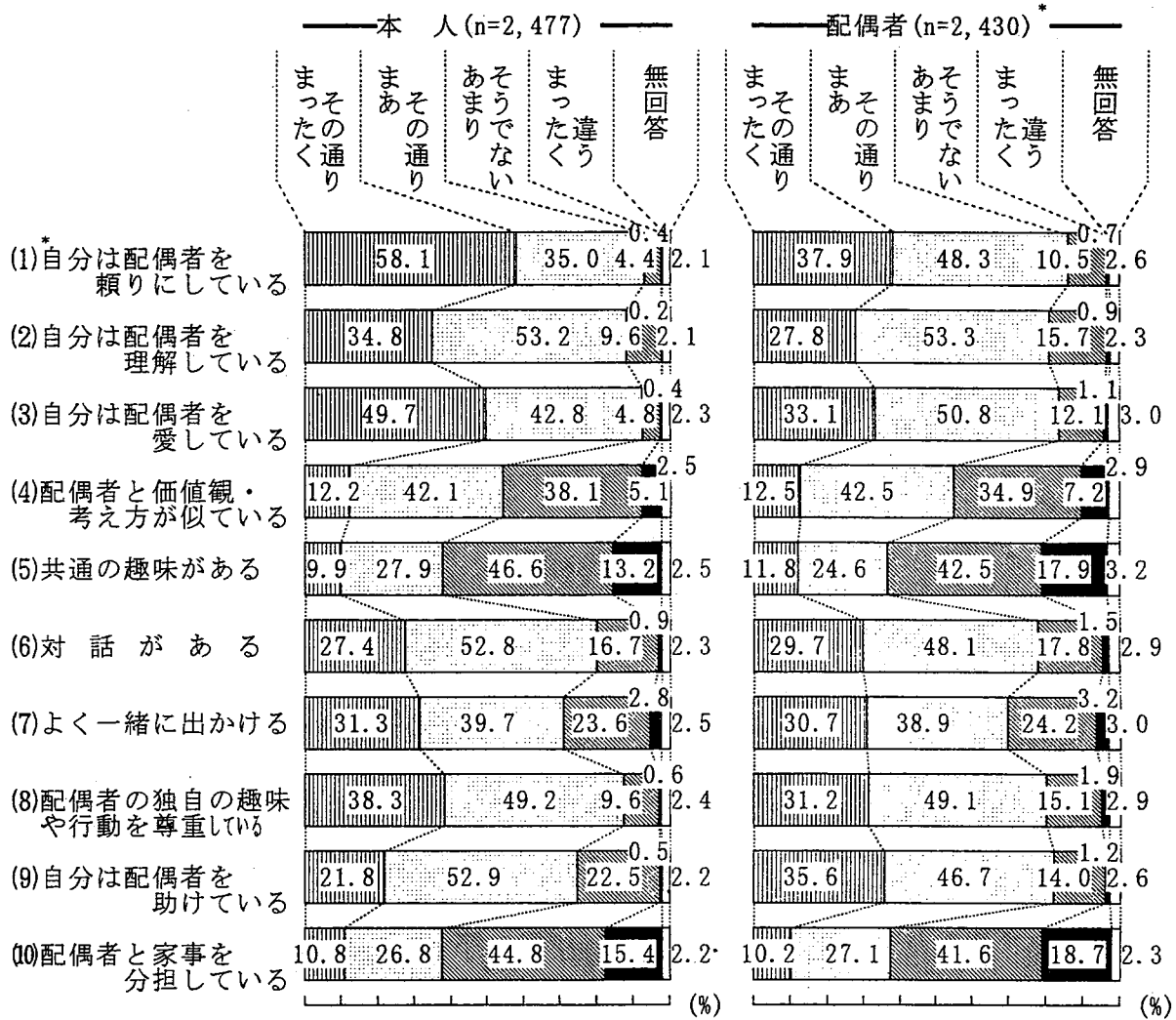
〔配偶者との関係の現状〕

まず、実際の日頃の配偶者との関係についての回答結果をみたものが図表3-1-1のとおりである。

「まったくその通り」と「まあその通り」を加えた《あてはまる》ものからみると、本人の回答では『愛している』『理解している』『頼りにしている』『趣味や行動を尊重する』が上位にあがっており、配偶者の回答においても同様である。一方、『共通の趣味がある』は、本人、配偶者とも3割程度となっており、趣味に関しては共有するというよりも、それぞれ独自の人を尊重している夫婦の方が多い。また『家事を分担している』も、本人、配偶者とも4割程度にとどまっている。（図表3-1-1）

サラリーマン本人とその配偶者の間でギャップがみられるのは、『助けている（助けられている）』という点であり、サラリーマンの配偶者が『助けられている』と感じているほど、本人は『配偶者を助けている』とは感じていない。（図表3-1-2）

図表 3-1-1 夫婦関係（配偶者との比較）



(注) 配偶者調査の質問項目は次の通り。(以下同じ。)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| (1) 配偶者は私を頼りにしてくれている | (6) 対話がある |
| (2) 配偶者は私を理解している | (7) よく一緒に出かける |
| (3) 配偶者は私を愛している | (8) 配偶者は私の趣味や行動を尊重する |
| (4) 配偶者と価値観・考え方が似ている | (9) 配偶者は私を助けてくれる |
| (5) 共通の趣味がある | (10) 配偶者と家事を分担している |

図表 3-1-2 夫婦関係〔《あてはまる》の比率〕（配偶者との比較）

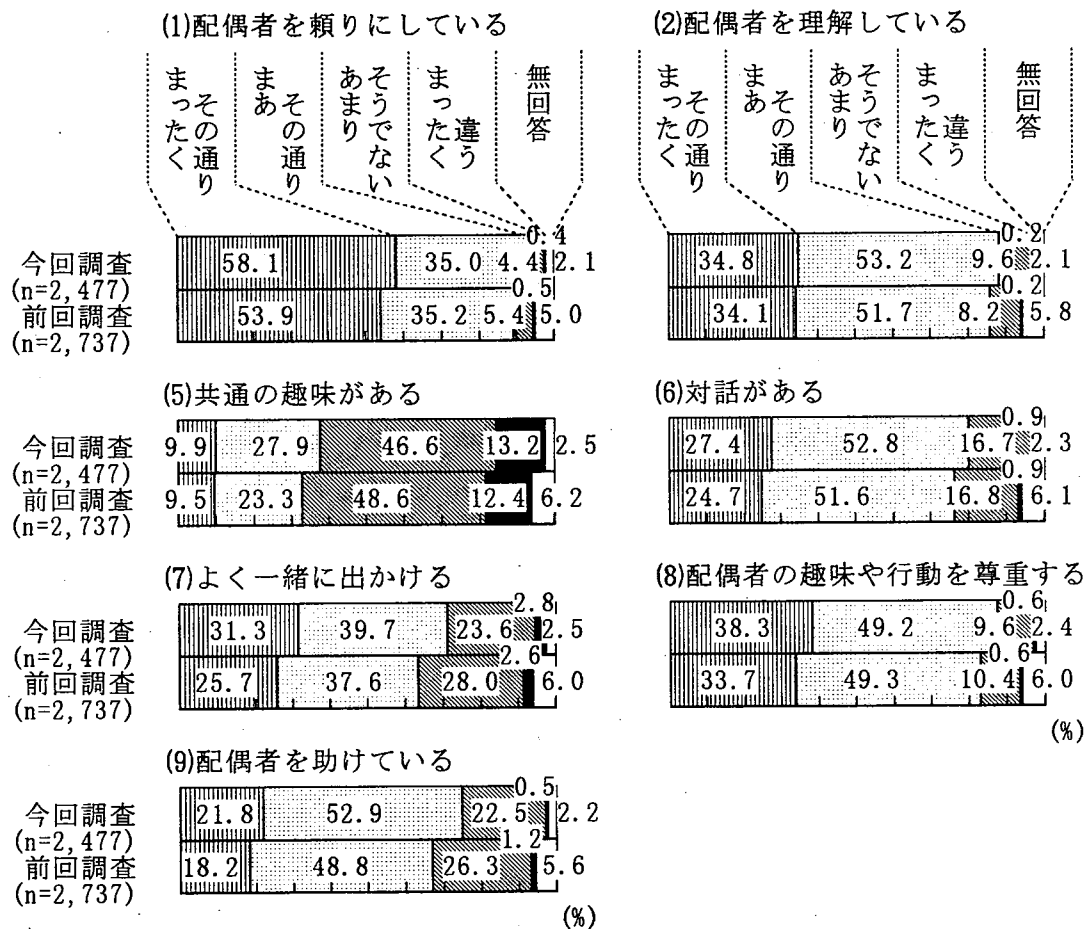
項 目 *	サラリーマン (n=2477)	配偶者 (n=2430)
(1) 自分は配偶者を頼りにしている（私を頼りにしてくれている）	93.0	86.1
(2) 自分は配偶者を理解している（配偶者は私を理解している）	88.1	81.0
(3) 自分は配偶者を愛している（配偶者は私を愛している）	92.5	83.9
(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている	54.3	55.0
(5) 共通の趣味がある	37.8	36.4
(6) 対話がある	80.2	77.8
(7) よく一緒にでかける	71.1	69.6
(8) 配偶者の独自の趣味や行動を尊重している（私の趣味等を尊重する）	87.5	80.2
(9) 自分は配偶者を助けている（私を助けてくれる）	74.8	82.3
(10) 配偶者と家事を分担し合うこと	37.6	37.3

(注) () 内は配偶者調査の用語（一部略）。

サラリーマン本人の回答を前回調査と比較すると、『理解している』『頼りにしている』『趣味や行動を尊重する』が上位にあがっている点は同様であるが、『共通の趣味がある』『一緒に出かける』『配偶者を助けている』については、『あてはまる』が5ポイント以上増加している。趣味や行動をともにするサラリーマン夫婦がやや増えていることがわかる。

(図表 3-1-3)

図表 3-1-3 夫婦関係 (前回調査との比較)



(注) (3) 自分は配偶者を愛している、(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている、
 (9) 配偶者と家事分担しているは、今回調査で新たに設定した項目。

現状の配偶者との関係についてのサラリーマン本人の回答（《あてはまる》）を、属性別にみたものが図表３－１－４である。

現役とＯＢとではほとんど差がみられず、『価値観・考え方が似ている』が現役に若干多く、『理解している』『趣味や行動を尊重する』がＯＢに若干多い程度である。

性別にみると、『頼りにしている』『理解している』『愛している』『一緒に出かける』『趣味や行動を尊重する』の５項目で、女性の方が男性を５ポイント以上下回っている。

また年齢階級別にみると、『理解している』については年齢とともに増加する傾向がみられるが、その他の項目については特に差がみられない。（図表３－１－４）

図表３－１－４ 夫婦関係〔《あてはまる》の比率〕（現役・ＯＢ別、性別、年齢階級別）
(%)

	標本数	配偶者を頼りにしている	配偶者を理解している	配偶者を愛している	配偶者と考え方が似ている・価値観・	共通の趣味がある	対話がある	よく一緒に出かける	配偶者の趣味や行動を尊重する	配偶者を助けている	配偶者と家事を分担している
全 体	2,477	93.0	88.1	92.5	54.3	37.8	80.2	71.1	87.5	74.8	37.6
現 役	1,549	92.8	86.2	92.4	55.6	37.8	80.1	71.9	85.7	72.7	32.6
Ｏ Ｂ	906	93.6	91.1	92.7	52.2	37.4	80.2	69.8	90.5	78.4	45.9
男 性	2,178	93.7	88.8	93.5	54.3	37.5	80.6	72.0	88.6	74.0	37.5
女 性	259	88.0	83.0	84.6	56.4	42.5	78.8	66.0	79.2	81.1	39.4
35～44歳	488	94.7	85.7	94.9	59.0	43.2	83.8	79.7	86.3	74.2	33.0
45～54歳	576	91.5	85.8	93.2	54.3	32.1	77.1	65.6	83.7	69.1	29.9
55～64歳	697	92.0	88.4	89.8	51.8	39.7	79.2	70.2	89.5	76.3	38.6
65～74歳	626	94.2	92.7	93.5	54.3	37.7	81.6	70.8	90.6	79.2	46.6

（注）無回答は表示省略。

〔配偶者との関係で大切なこと〕

日頃の夫婦関係の設問と同様の10項目について、実際の関係にかかわらず、それぞれ回答者自身にとって大切だと思う程度を４段階で回答してもらった。

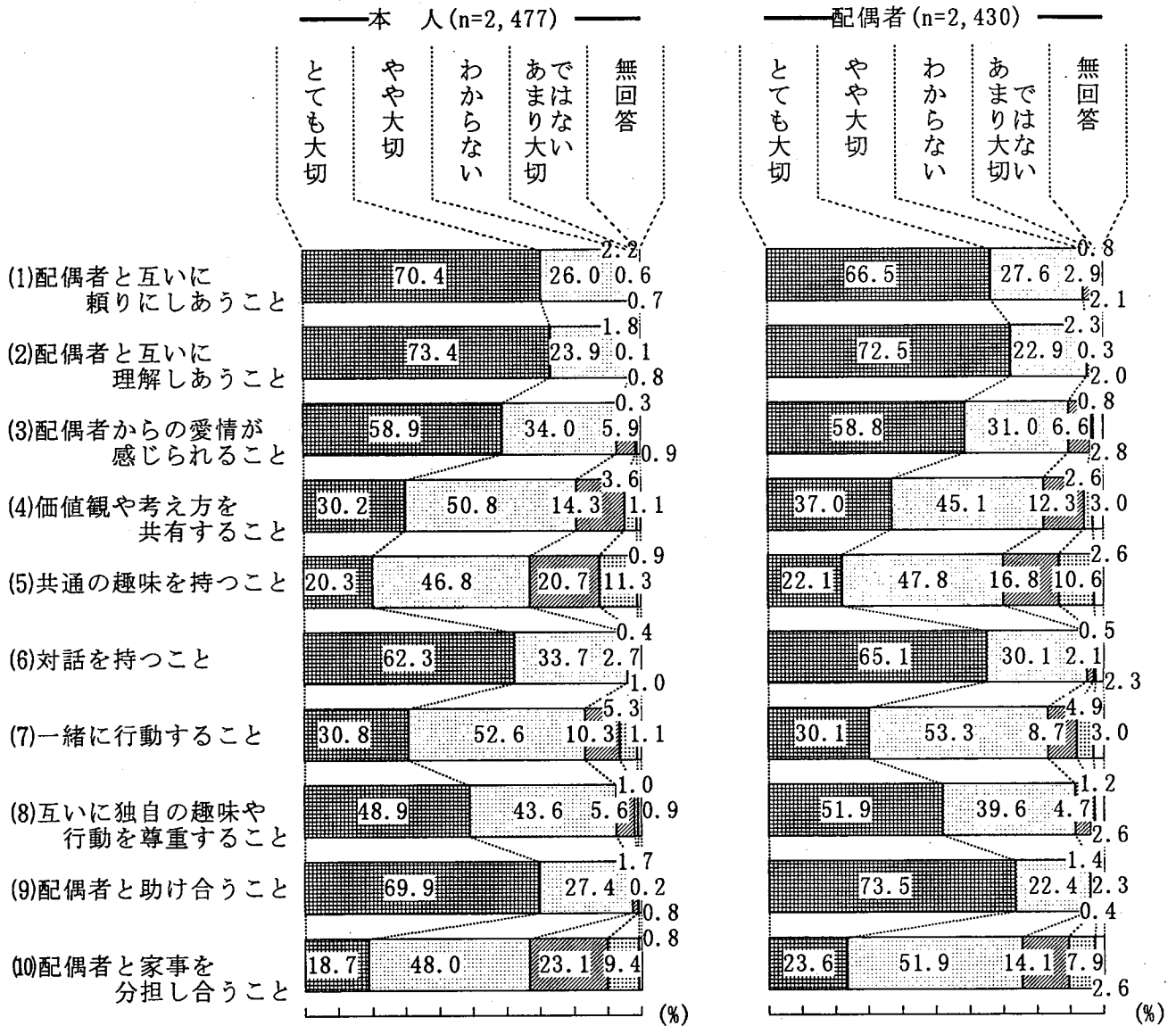
「とても大切」と「やや大切」を加え、《大切》と回答した割合でみると、本人、配偶者とも全般に《大切》と考える人が多いが、特に『理解しあう』『助けあう』『頼りにしあう』『対話を持つ』が、大切だと思う夫婦関係の上位にあがっている。一方、『共通の趣味を持つ』は本人・配偶者ともに約７割にとどまっている。また、『家事を分担し合う』は本人と配偶者との間にギャップがみられ、配偶者の75.5%に対し、本人は66.6%と約９ポイントの差がみられる。（図表３－１－５）

実際の日頃の夫婦関係と、大切だと思う夫婦関係とを比較すると、いずれの項目でも実際に日頃《あてはまる》夫婦関係は、《大切》だと思う夫婦関係を下回っており、現状以上のよりよい夫婦関係を求めるサラリーマンが多い。中でも特にギャップの大きい項目としては、『共

通の趣味を持つ』『家事を分担し合う』『価値観・考え方の共有』『助け合う』があり、『大切』と考える人が、日頃『あてはまる』とする人を20～30ポイント上回っている。

(図表3-1-6)

図表3-1-5 夫婦関係で大切なこと(配偶者との比較)



図表3-1-6 夫婦関係 [《あてはまる》の比率と《大切》の比率]

(%)

(n=2,477)	《あてはまる》	《大 切》
(1) 配偶者と互いに頼りにしあうこと	93.0	96.4
(2) 配偶者と互いに理解しあうこと	88.1	97.3
(3) 配偶者からの愛情が感じられること	92.5	93.0
(4) 価値観や考え方を共有すること	54.3	81.0
(5) 共通の趣味を持つこと	37.8	67.1
(6) 対話を持つこと	80.2	96.0
(7) 一緒に行動すること	71.1	83.3
(8) 互いに独自の趣味や行動を尊重すること	87.5	92.5
(9) 配偶者と助け合うこと	74.8	97.3
(10) 配偶者と家事を分担し合うこと	37.6	66.6

サラリーマン本人が《大切》と考える夫婦関係を、属性別にみたものが図表３－１－７である。

現役とＯＢとではほとんど違いがみられないが、『家事を分担し合う』についてだけは、ＯＢが現役を10ポイント以上上回っている。実態としての家事分担もＯＢが現役を上回っており、定年退職により、家庭の中での生活へのかかわり方が、実態と意識の両面で変化している様子がうかがえる。

性別にみると、『価値観や考え方の共有』『家事を分担し合う』は女性に、『一緒に行動する』は男性により多く、それぞれ5ポイント以上の差がみられる。

年齢による差はさほど大きくないが、『愛情が感じられる』は比較的若年層が重視しており、『一緒に行動する』『独自の趣味や行動を尊重する』『家事を分担し合う』は年齢とともにやや増加する傾向にある。（図表３－１－７）

図表３－１－７ 夫婦関係で大切なこと〔《大切》の比率〕

(現役・ＯＢ別，性別，年齢階級別)

(%)

	標 本 数	配 偶 者 頼 り 互 に い し に あ う	配 偶 者 と 理 互 解 い し に あ う	配 愛 偶 情 者 が か 感 ら じ の ら れ る	価 値 観 共 有 や 考 え る 方 を と	共 通 の 趣 味 を も つ	対 話 を 持 つ こ と	一 緒 に 行 動 す る	互 や い 行 に 動 を 自 尊 の 重 趣 す 味 る	配 偶 者 と 助 け 合 う	配 偶 者 と 分 担 し 合 う
全 体	2,477	96.4	97.3	93.0	81.0	67.1	96.0	83.3	92.5	97.3	66.6
現 役	1,549	95.9	97.2	93.4	81.1	66.4	96.3	82.4	91.6	96.9	61.6
Ｏ Ｂ	906	97.2	97.5	92.3	80.6	67.9	95.4	84.7	93.9	97.9	75.3
男 性	2,178	97.0	97.7	93.0	80.5	66.7	96.4	84.5	93.0	97.6	65.7
女 性	259	92.7	95.4	93.4	86.9	71.4	93.4	75.7	90.3	95.4	75.3
35～44歳	488	95.3	97.3	96.5	82.4	62.9	96.9	81.1	91.6	97.1	58.6
45～54歳	576	96.9	98.8	95.3	81.1	66.8	97.9	83.5	92.2	97.9	60.4
55～64歳	697	95.7	96.6	90.1	81.8	70.4	95.1	84.2	92.7	96.8	71.0
65～74歳	626	97.9	97.0	91.5	80.7	67.9	94.7	85.0	94.1	97.6	73.3

(注) 無回答は表示省略。

3・2 友人関係・地域関係

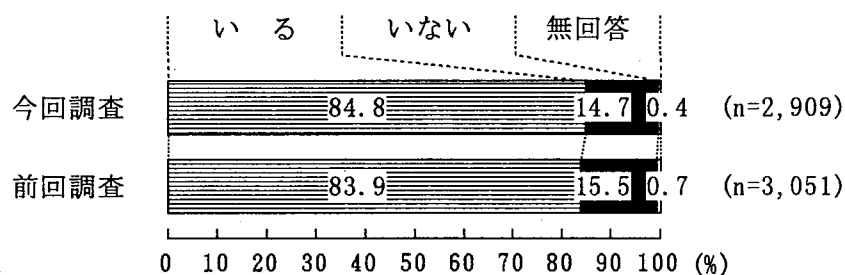
(1) 友人関係

〔友人・仲間の有無〕

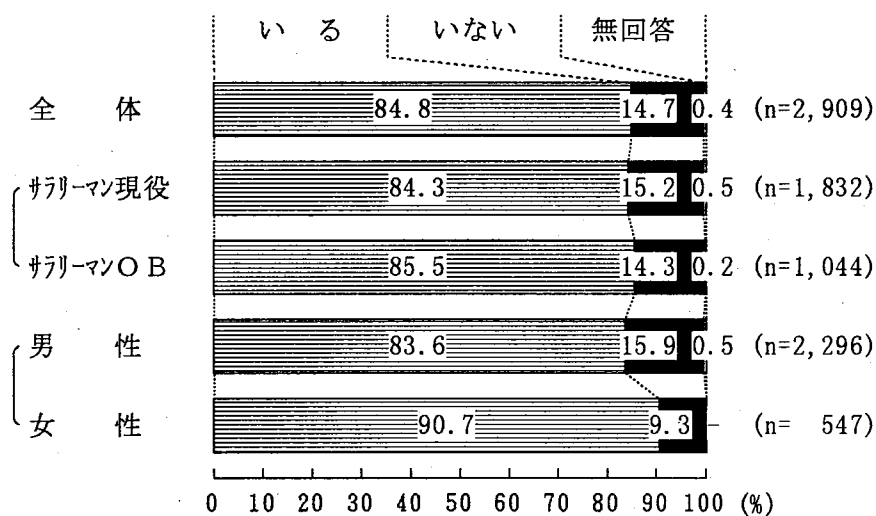
生涯を通じてつきあえる友人や仲間がいる人は84.8%で、前回調査とほとんど差はみられない。(図表3-2-1)

サラリーマン現役とOBとの差はみられないが、性別による差がみられ、生涯を通じてつきあえる友人や仲間のいる人は、男性よりも女性にやや多い。(図表3-2-2)

図表3-2-1 生涯を通じてつきあえる友人の有無（前回調査との比較）



図表3-2-2 生涯を通じてつきあえる友人の有無（現役・OB別、性別）



〔知り合った関係〕

生涯を通じてつきあえる友人や仲間がいるサラリーマンに、知り合った関係をたずねた結果が図表3-2-3である。

知り合った関係は、「職場や仕事を通じて知り合った」が最も多く77.1%にのぼっており、次いで、「幼なじみ・学生時代の友人」「趣味・パソコン通信・スポーツや学習を通じて知り合った」と続いている。

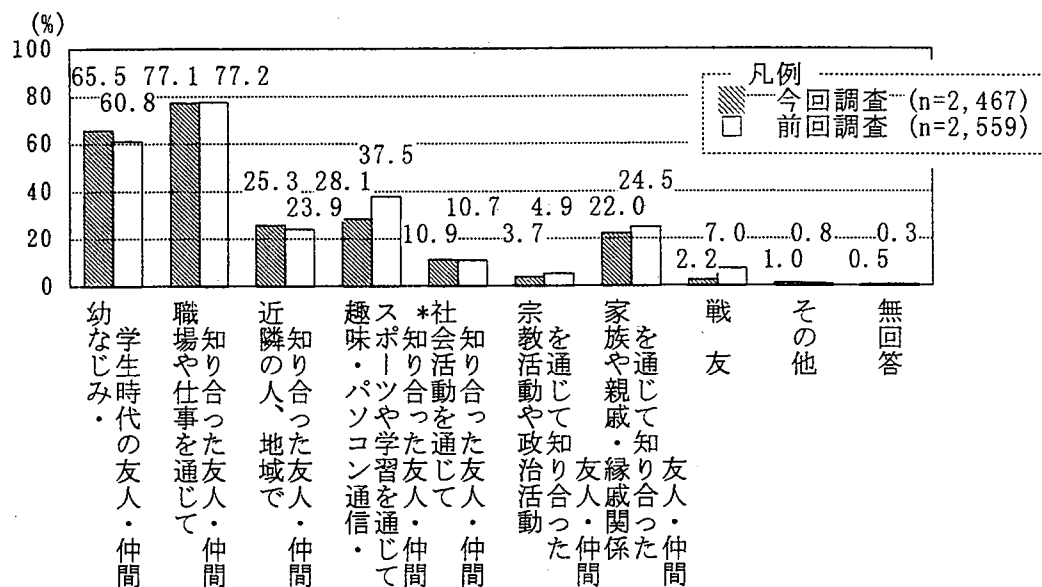
前回調査と比較すると、「幼なじみ・学生時代の友人・仲間」が若干増えている。逆に「趣味・パソコン通信・スポーツや学習を通じて知り合った仲間」については、やや減少しているが、今回調査では選択肢の表現に「パソコン通信」を加えており、この影響も考えられる。

(図表 3-2-3)

現役とOBとでは、「幼なじみ・学生時代の友人・仲間」が現役の方に多い。この他はいずれの項目でもOBの方が多く、OBの方がより多様な友人関係を持っているようである。

(図表 3-2-4)

図表 3-2-3 知り合った関係 (前回調査との比較; 複数回答)



(注) 前回調査の質問項目は次のとおり。
「趣味・スポーツや学習を通じて知り合った友人・仲間」

図表 3-2-4 知り合った関係 (現役・OB別; 複数回答)

(%)

	標本数	幼なじみ・学生時代の友人	職場や仕事を通じて知り合った	近隣の人、地域で知り合った	趣味等を 通じて知り合った	社会活動を通じて知り合った	宗教や政治活動を通じて知り合った	家族や親戚等を通じて知り合った	戦友	その他
全 体	2,467	65.5	77.1	25.3	28.1	10.9	3.7	22.0	2.2	1.0
サラリーマン現役	1,545	68.0	72.0	19.4	23.0	8.0	3.0	17.5	0.4	0.8
サラリーマンOB	893	60.9	86.2	34.6	36.2	15.6	4.6	29.3	4.9	1.3

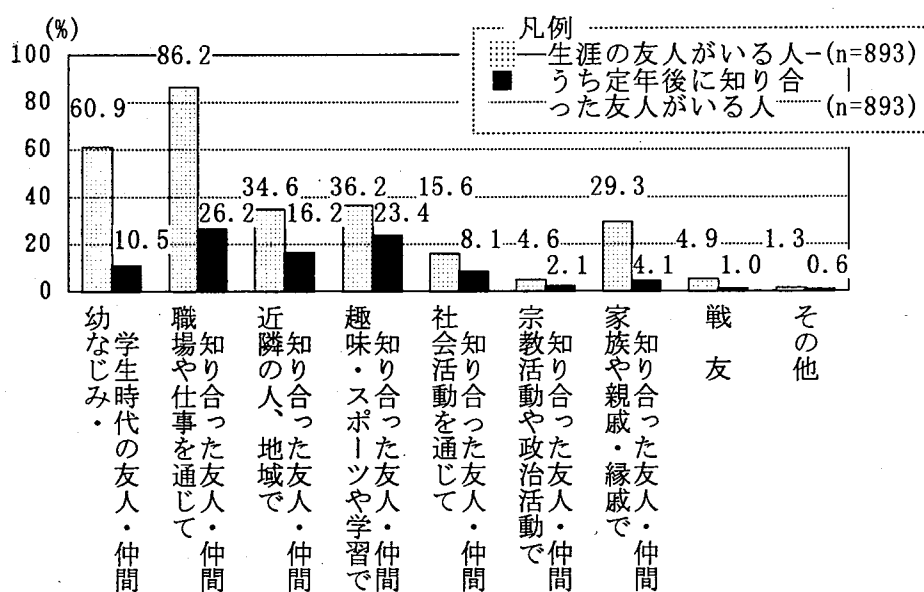
(注) 無回答は表示省略。

〔定年後の友人・仲間〕

サラリーマンOBに対しては、定年後につきあうようになった友人・仲間について、知り合った関係を回答してもらった。

これまで知り合った関係全体のうち、定年後に知り合った割合をみると、「趣味や学習」「社会活動」「近隣・地域」「宗教・政治活動」等で新しい友人や仲間を得ている人が4～5割みられ、「職場や仕事」関係も約3割みられる。サラリーマンOBが、定年後に様々な場から新たな友人を得ていることがわかる。（図表3-2-5）

図表3-2-5 サラリーマンOBが退職後に知り合った生涯の友人（複数回答）



定年後の割合 17.3 30.4 46.9 64.7 51.8 46.3 14.1 20.5 (%)

- （注1）定年後の割合 = 定年後に知り合った友人がいる人 ÷ 生涯の友人がいる人 × 100
（注2）生涯の友人がいる人で、うち定年後に知り合った友人の回答がまったくない人は35.5%（表示省略）。

(2) 地域関係

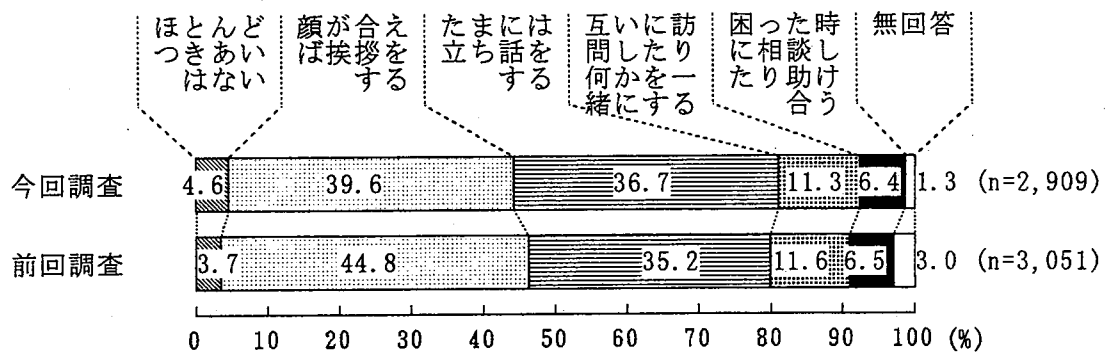
〔近所づきあい〕

地域関係について、まず近所づきあいの程度を5段階で回答してもらった。「顔が合えば挨拶する」(39.3%)、「たまには立ち話をする」(36.7%)程度のつきあいのサラリーマンが8割近くを占め、前回調査と同様である。(図表3-2-6)

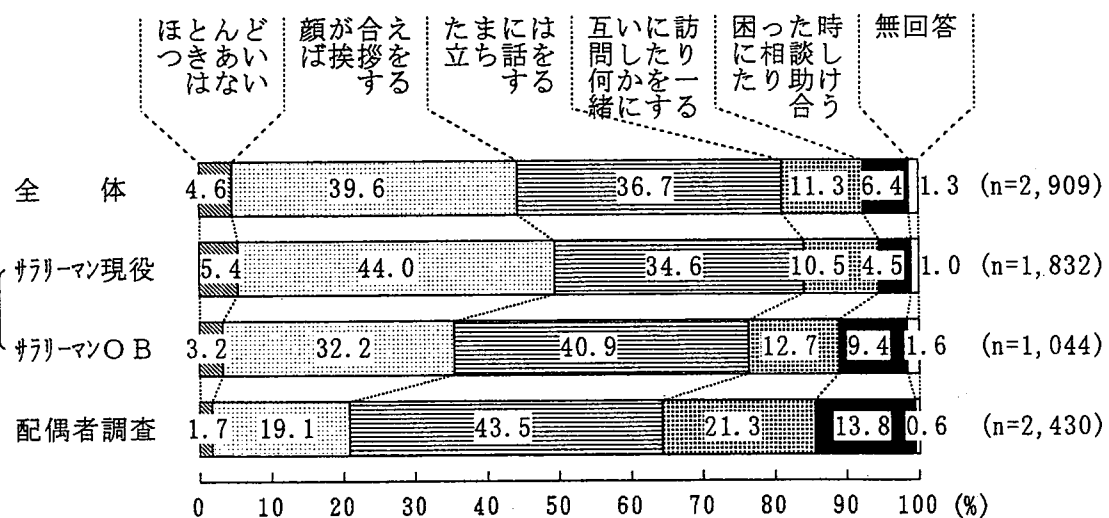
配偶者にも同様の質問をしたところ、配偶者の方が近隣との接触度が高くなっており、「たまには立ち話をする」が43.5%で最も多く、次いで「互いに訪問したり、何かを一緒にする」が21.3%みられる。

サラリーマンOBは、現役に比べると近隣との接触度が高い。現役に比べてOBでは、「顔が合えば挨拶をする」が少なく、「たまには立ち話をする」や「困った時に相談したり助け合う」が多くなっている。(図表3-2-7)

図表3-2-6 近所づきあい（前回調査との比較）



図表3-2-7 近所づきあい（現役・OB別、配偶者との比較）



[地域における活動への参加]

町内会・自治会、お祭りなどの地域での活動について、現在住んでいる地域で過去5年間に参加したことがある人をたずねた。サラリーマン本人と配偶者の双方に質問している。

サラリーマン本人は、「町内会・自治会などの活動」に46.9%、「お祭り・運動会などの地域の行事」に36.1%が参加している。「地域での活動には参加していない」とする人は30.6%であり、約7割のサラリーマンが何らかの地域活動に参加している。

現役とOBとを比較すると、OBは現役に比べて「町内会・自治会」「老人会」「地域のサークル活動など」への参加は多いが、「PTAや子ども会などの活動」や「お祭り・運動会などの地域の行事」への参加が少なく、全体としての地域活動への参加率にはほとんど差がみられない。

配偶者の地域活動への参加率はサラリーマン本人よりも約1割多く、約8割が何らかの活動に参加している。(図表3-2-8)

図表3-2-8 地域における活動への参加状況(現役・OB別、配偶者との比較;複数回答)

(%)

	標 本 数	町 内・ 会自 治会	老 人 会 の な 活 動	Pど Tも A会 の や な 活 子 ど 動	地 域 ク の ル サ 活 な 動	お動地 祭会域 りな ・ ど 行 運 の 事	そ の 他	地動し 域にて では い の 参 な 活 加 い	無 回 答
サラリーマン本人	2,909	46.9	6.0	11.8	14.4	36.1	6.5	30.6	2.3
現役	1,832	43.3	2.0	17.0	12.0	38.4	5.1	32.3	2.2
OB	1,044	53.0	12.8	2.6	18.5	32.3	8.8	27.7	2.1
配偶者調査	2,430	54.9	6.3	23.8	21.6	41.0	5.2	19.7	1.3

第4章 サラリーマンの生きがい

4・1 生きがいの意味

〔“生きがい”の意味〕

生きがいの意味をあらわす語句を9項目示し、生きがいを表すのに最も適当だと思うものから2つまでを選んでもらった。

サラリーマン本人のとらえ方として最も多かったのは「生きる喜びや満足感」の43.7%で、その他「生活の活力やはりあい」「心の安らぎや気晴らし」「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」「生きる目標や目的」がそれぞれ2～3割で続いている。「生活のリズムやメリハリ」「人生観や価値観の形成」とはともに1割未満にとどまっている。

この項目は前回調査でも質問しているが、今回調査では、前回調査の選択肢に「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」を加えている。これは、後述する『生きがい構成要素取得の場』の質問との対応に配慮し、『生きがいの意味（＝構成要素）』とそれぞれの『取得の場』をとらえることができるよう整理したものである。このように両調査は選択肢が同一ではないため厳密な比較はできないが、第1位は「生きる喜びや満足感」で共通している。

またこの項目は、配偶者に対しても質問している。配偶者の考え方も、サラリーマン本人と同様の傾向となっている。（図表4-1-1）

サラリーマン本人の属性による、生きがいの意味のとらえ方の違いをみたものが図表4-1-2である。

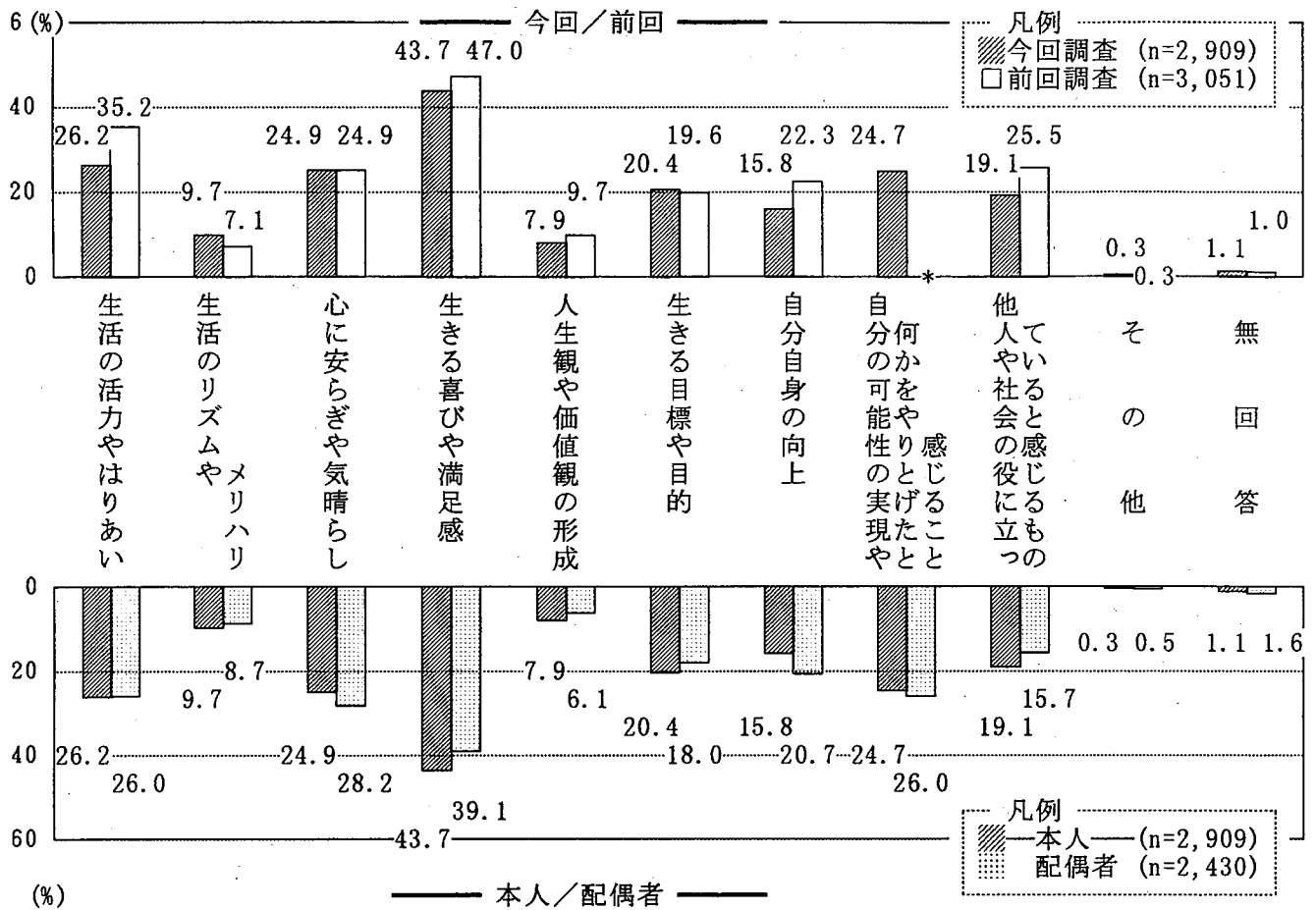
まずサラリーマン現役とOBとを比較すると、いずれも最も多いのは「生きる喜びや満足感」で共通しており、大きな差はみられない。中では「生活のリズムやメリハリ」「心のやすらぎや気晴らし」「他人や社会の役に立つと感じること」がOBに若干多く、「生きる目標や目的」が現役にやや多くなっている。

性別にもあまり差はみられないが、男性に若干多いものとしては「人生観や価値観の形成」「自己実現や達成感」が、女性に若干多いものとしては「心の安らぎや気晴らし」「自分自身の向上」があげられる。

年齢階級別にも顕著な差はみられないが、「生きる目標や目的」は若年層ほど多くなっている。（図表4-1-2）

図表 4-1-1 生きがいの意味

(前回調査との比較、配偶者調査との比較；2つまでの複数回答)



(注) *印は、今回調査で新たに設定した選択肢。

図表 4-1-2 生きがいの意味

(現役・OB別、性別、年齢階級別；2つまでの複数回答)

(%)

	標本数	生活に活力やほりあい	生活のリズムやメリハリ	心に安らぎや気晴らし	生きる喜びや満足感	人生観や価値観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自己実現や達成感	他人や社会の役に立つもの
全 体	2,909	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1
サリマン現役	1,832	27.2	8.4	23.6	44.2	8.1	23.1	15.0	25.5	17.4
サリマンOB	1,044	24.8	11.7	27.0	43.1	7.4	15.9	17.0	23.8	21.6
男 性	2,296	25.8	9.6	23.8	44.1	8.8	20.3	15.1	25.5	19.7
女 性	547	27.6	10.2	27.6	42.2	4.2	20.3	18.8	22.1	16.6
35～44歳	598	23.9	6.0	24.1	45.5	8.9	26.4	17.6	26.9	13.4
45～54歳	662	29.8	8.3	21.0	44.4	7.6	24.3	13.6	27.2	15.9
55～64歳	804	27.4	13.4	25.1	40.8	7.1	17.2	13.8	24.8	23.5
65～74歳	735	24.5	10.2	29.1	43.0	7.9	15.8	18.9	20.8	20.8

(注) 「その他」及び無回答は表示省略。

4・2 生きがい構成要素取得の場

先に『生きがいの意味』としてあげた生きがいを構成する各要素を、それぞれどこで取得しているか、「家庭」「仕事・会社」「地域・近隣」「個人的友人」「世間・会社」の5つの場からそれぞれ2つまでを回答してもらった。この項目は、サラリーマン本人と配偶者の双方に質問している。

まず、サラリーマン本人の回答をみる。それぞれの構成要素の取得の場として第1位にあげられたものをみていくと、『生活の活力やはりあい』『心のやすらぎや気晴らし』『生きる喜びや満足感』『生活の目標や目的』では「家庭」であり、それぞれ6～8割程度の回答がみられる。この他の『生活のリズムやメリハリ』『人生観や価値観の形成』『自分自身の向上』『自己実現や達成感』『他人や社会の役に立つと感じる』では「仕事・会社」となっており、4～6割程度が回答している。サラリーマンの生きがい取得の場は、「家庭」と「仕事・会社」の2種類の場に集中していることがわかる。

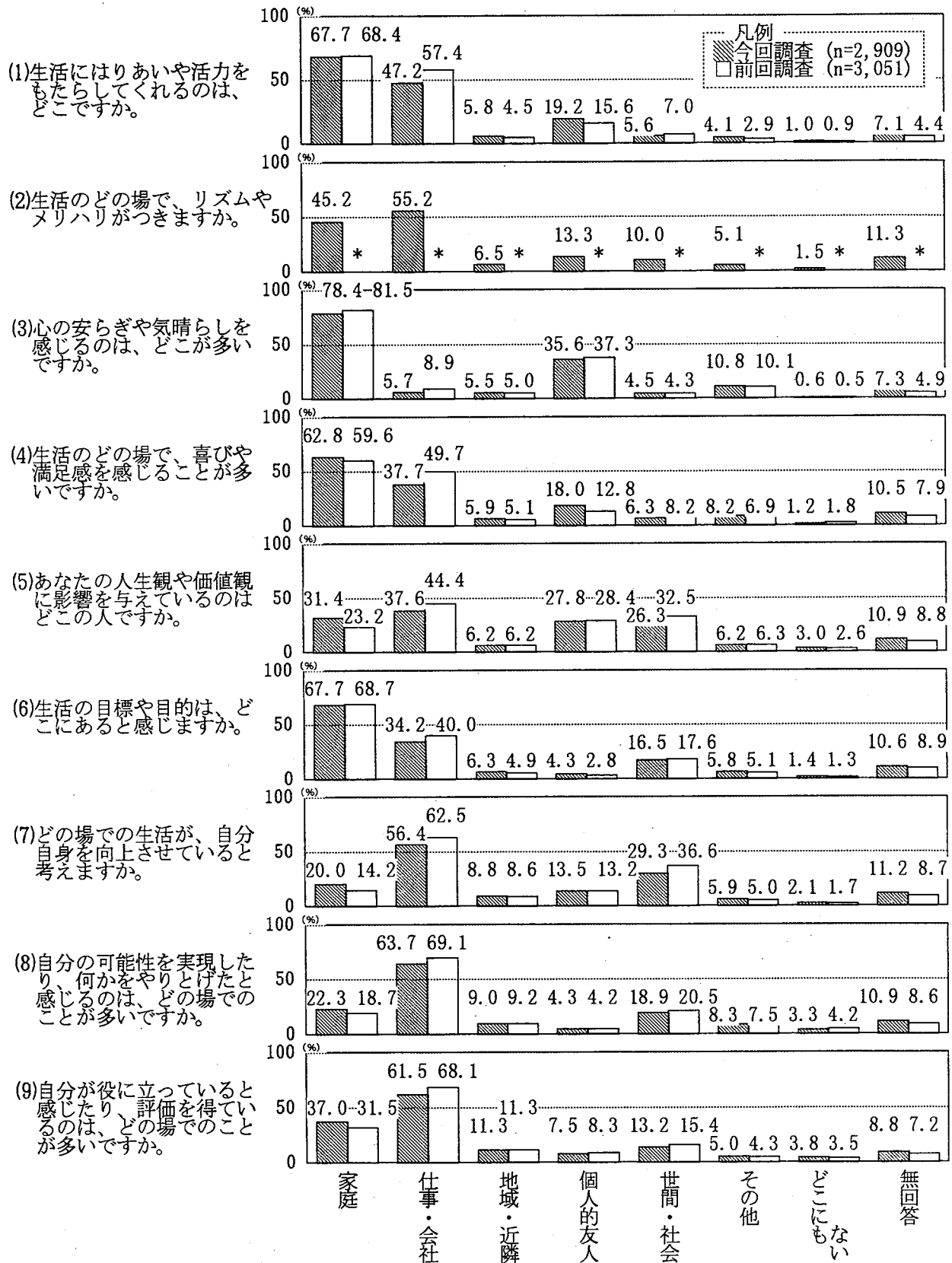
この他の場から取得しているとの回答が比較的多いものとしては、『心の安らぎや気晴らし』の「個人的友人」、『人生観や価値観の形成』の「個人的友人」「世間・社会」、『自分自身の向上』の「世間・社会」があり、それぞれ3～4割程度の回答がみられる。

前回調査と比較すると、今回調査では、全ての生きがい構成要素について「仕事・会社」の場から得ていると回答するサラリーマンが減少している点が特徴的である。特に『生活のはりあいや活力』『生きる喜びや満足感』を「仕事・会社」から得ているとする回答は、前回調査より10ポイント以上少なくなっている。この減少幅はOBよりも現役でさらに大きい傾向がみられる。また、「世間・社会」への回答についても、『心の安らぎや気晴らし』を除く全ての生きがい構成要素で減少傾向がみられ、特に『人生観や価値観の形成』『自分自身の向上』では5ポイント以上少なくなっている。

今回調査時点においても、「仕事・会社」の場は、多くのサラリーマンにとって「家庭」と並ぶ重要な生きがい構成要素取得の場であることには変わらないが、その影響力が弱まっていることがうかがえる結果である。

それでは、サラリーマンはこの「仕事・会社」に変わる生きがい獲得の場を得ているのだろうか。生きがい構成要素取得の場として前回調査よりも5ポイント以上回答が多くなっているものをみてみると、『人生観・価値観の形成』『自分自身の向上』『有用感や評価』での「家庭」、『生きる喜びや満足感』の「個人的友人」があげられる。方向性としては、「仕事・会社」から家庭や個人的生活へのシフトが認められるが、「仕事・会社」からの生きがい構成要素取得の減少を補うほどの大きな変化であるとはいいがたい。（図表4-2-1）

図表4-2-1 生きがい構成要素の取得の場（前回調査との比較；2つまでの複数回答）



(注) * 印は、今回調査で新たに設定した項目。

配偶者の回答をサラリーマン本人と比較したものが図表４－２－２である。

配偶者の場合は、いずれの構成要素についても「家庭」から得ているとする人が最も多い。無職者が４割近くを占めることが影響し、「仕事・会社」をあげる人が全体に少なくなっている。ただし、「仕事・会社」が少ない分だけ取得の場が少ないということではなく、配偶者はサラリーマン本人に比べ、「家庭」から取得しているという人が全体に多い上に、「地域・近隣」「個人的友人」から生きがい構成要素を得ているという人も多くなっている。サラリーマン本人に比べると、配偶者はより多様な場から生きがい構成要素を得ていると言えよう。

(図表４－２－２)

図表４－２－２ 生きがい構成要素取得の場（配偶者との比較；２つまでの複数回答）

(%)

	標 本 数	家 庭	仕・ 事会 社	地・ 域近 隣	個 人友 人的	世・ 間社 会	家 庭	仕・ 事会 社	地・ 域近 隣	個 人友 人的	世・ 間社 会
		生活のはりあいや活力					リズムやメリハリ				
本 人 配偶者	2,909	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0
	2,430	77.0	25.5	9.7	28.6	5.5	55.9	31.7	12.8	20.0	9.0
		心の安らぎや気晴らし					喜びや満足感				
本 人 配偶者	2,909	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3
	2,430	75.1	4.8	7.3	42.3	4.0	73.5	18.1	8.2	22.5	5.6
		人生観や価値観					生活の目標や目的				
本 人 配偶者	2,909	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5
	2,430	48.4	15.9	10.9	35.6	19.3	75.3	18.1	7.8	5.8	14.2
		自分自身の向上					自己実現や達成感				
本 人 配偶者	2,909	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9
	2,430	32.8	29.6	17.4	19.7	25.2	39.9	34.2	17.1	6.3	15.6
		有用感や評価									
本 人 配偶者	2,909	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2					
	2,430	62.2	31.3	17.4	9.0	9.0					

サラリーマン本人の回答を定年経験別、性別、年齢階級別にみたものが図表4-2-3である。

まず定年経験別にみると、現役に限らずOBでも『自己実現や達成感』『有用感や評価』の2要素で「仕事・会社」が第1位となっている。前回調査と同様、定年を過ぎても有職である限りは「仕事・会社」がこれらの要素を取得する重要な場となっている。ただし当然のことながら「仕事・会社」への回答はOBよりも現役に高く、またこの他に「家庭」も現役の方が高い人が多い。これは成長期の子どもの持つ人の目が「家庭」に向いていることの反映と思われる、前回調査でもみられた傾向である。逆に、「地域・近隣」や「世間・社会」は現役よりもOBでやや高いが、さほど大きな差とはいえない。このように、現役と比較すると、OBの生きがい構成要素取得の場が多様であるとは言いがたく、全体としては取得の場が少なくなっていることがうかがえる。

性別にみると、前回調査と同様に次のような男女差がみられた。「家庭」から『生活のほりあいや活力』『心の安らぎや気晴らし』『生きる喜びや満足感』『生活の目標や目的』を得ているとする回答は、男性の方が女性よりも10ポイント以上多い。逆に「個人的友人」は多くの要素で女性が男性を上回っているが、「地域・近隣」については特に差がみられない。こうしたサラリーマン女性の結果は、前述の、同じく女性が9割を占める配偶者調査の結果とは異なるものである。サラリーマン女性にとっての生きがい獲得の場は、サラリーマンの妻ほど「家庭」に集中していないが、「地域・近隣」のウエイトは高くない。同じ女性でもサラリーマン女性とサラリーマンの妻とではこのような違いがあり、サラリーマン本人と配偶者のとの間にみられた差は、単純に性差とみることはできないことがわかる。

年齢階級別にみると、「仕事・会社」は多くの構成要素で若年層ほど高くなっている。また「家庭」も、若年層ほど高くなっている人が多く、これは現役とOBの違いと同様にライフステージによる影響と思われる。一方、「地域・近隣」は全体に回答は少ないものの、年齢とともに高くなる傾向がみられ、『有用感や評価』『自己実現や達成感』『自分自身の向上』などを「地域・近隣」から得ているサラリーマンは、高年齢層ほどやや多い。しかし「仕事・会社」や「家庭」の減少幅ほど大きな変化ではなく、全体的にみると、年齢があがるにつれて生きがい構成要素の取得の場は少なくなっている。この生きがい構成要素はそれぞれ2つの場を回答してもらっているが、年齢とともに「家庭」と「仕事」というように2つの場をあげる人が減り、1つの場を回答する人が増えているということである。【4・3 生きがいの有無】で後述するように、生きがいを「持っている」というサラリーマンは年齢とともに増える傾向が顕著であるが、これは生きがい獲得の場の拡大を意味するのではないことがわかる。

(図表4-2-3)

図表 4-2-3 生きがい構成要素取得の場

(現役・OB別, 性別, 年齢階級別; 2つまでの複数回答)
(%)

	標 本 数	家 庭	仕・ 事会 社	地・ 域近 隣	個 人友 人的人	世・ 間社会	家 庭	仕・ 事会 社	地・ 域近 隣	個 人友 人的人	世・ 間社会
		生活のはりあいや活力					生活のリズムやメリハリ				
現 役	1,832	72.1	56.7	3.2	17.5	3.4	46.9	68.2	3.7	12.3	7.3
OB	1,044	60.6	31.0	10.3	22.1	9.1	42.6	33.4	11.1	14.8	14.6
男 性	2,296	71.8	48.4	6.1	15.7	5.9	47.4	56.0	6.9	12.0	10.1
女 性	547	53.4	42.8	4.9	34.2	3.5	38.0	53.6	4.8	18.6	9.3
35～44歳	598	77.1	55.9	1.3	19.1	3.2	50.2	73.4	3.0	10.9	7.4
45～54歳	662	73.9	58.0	3.9	16.9	2.9	49.2	68.9	3.9	12.5	5.4
55～64歳	804	67.8	48.9	5.2	19.4	4.5	45.4	54.2	6.5	14.2	9.5
65～74歳	735	55.9	29.3	12.0	21.9	10.9	39.6	3.0	11.6	15.5	17.0
		心の安らぎや気晴らし					生きる喜びや満足感				
現 役	1,832	81.8	6.2	5.0	37.4	3.7	66.5	45.9	3.7	17.8	4.7
OB	1,044	72.8	5.0	6.3	33.0	5.7	57.1	23.6	9.5	18.7	8.8
男 性	2,296	80.8	6.1	5.8	32.2	5.1	65.4	40.3	6.3	15.2	6.6
女 性	547	70.2	3.1	3.7	50.8	2.4	53.9	28.0	4.4	30.2	4.9
35～44歳	598	85.5	3.8	4.2	42.8	2.5	73.9	44.6	2.7	19.2	2.7
45～54歳	662	82.9	8.3	6.3	35.3	3.5	66.3	48.8	4.2	16.8	5.3
55～64歳	804	78.5	5.3	4.5	36.9	4.2	61.3	38.9	6.5	17.9	5.6
65～74歳	735	68.7	5.6	6.9	31.2	7.1	54.0	21.5	9.8	18.4	10.5
		人生観や価値観					生活の目標や目的				
現 役	1,832	33.8	47.9	4.3	27.1	24.4	71.6	44.1	4.7	3.8	12.9
OB	1,044	27.3	20.5	9.4	29.3	29.5	62.0	17.3	8.8	5.1	22.7
男 性	2,296	31.1	40.6	6.5	25.0	27.9	70.4	36.1	6.6	3.7	16.1
女 性	547	34.0	27.1	4.0	40.2	20.7	59.6	27.1	4.6	6.4	18.3
35～44歳	598	41.3	50.7	2.5	27.8	21.9	75.6	43.1	3.7	4.7	11.2
45～54歳	662	34.4	49.1	4.2	26.7	26.1	73.9	47.3	4.7	3.2	14.0
55～64歳	804	28.7	38.6	7.2	28.4	26.1	67.4	33.3	7.0	4.1	17.0
65～74歳	735	24.4	17.8	10.3	28.8	30.3	58.1	17.4	9.3	5.0	23.1
		自分自身の向上					自己実現や達成感				
現 役	1,832	20.9	69.7	6.6	13.3	26.5	21.0	78.1	6.2	3.5	16.9
OB	1,044	18.6	34.1	12.5	14.3	34.4	24.8	39.5	13.8	5.7	22.3
男 性	2,296	20.5	58.7	9.5	11.9	31.1	21.8	66.2	9.0	4.3	20.1
女 性	547	18.5	49.7	5.9	20.1	23.2	24.7	55.9	9.0	4.0	14.8
35～44歳	598	24.9	73.1	5.0	14.7	26.3	19.2	82.4	4.5	4.7	17.1
45～54歳	662	19.9	71.5	6.0	13.9	28.5	21.3	80.8	6.2	2.9	18.6
55～64歳	804	18.9	58.1	9.5	12.7	27.9	24.8	63.8	8.6	4.1	17.4
65～74歳	735	17.7	29.4	13.9	13.6	34.8	23.5	35.0	15.8	5.7	23.3
		有用感や評価									
現 役	1,832	39.6	74.2	7.9	6.3	10.4					
OB	1,044	32.9	39.9	17.0	9.6	17.4					
男 性	2,296	36.0	64.1	12.0	6.5	14.0					
女 性	547	43.0	53.4	8.0	11.2	9.5					
35～44歳	598	45.3	77.9	5.7	6.7	9.0					
45～54歳	662	41.7	76.6	8.9	5.3	8.9					
55～64歳	804	35.0	60.9	11.7	9.2	14.3					
65～74歳	735	29.9	36.6	17.7	8.2	19.0					

(注) 煩雑になるのを避けるため「全体」の表示を省略した。「全体」は図表Ⅳ-2-2参照。

4・3 生きがいの有無

前節までに、生きがいの意味（＝構成要素）とその取得の場についてみてきた。ここでは、これまでみてきたような“生きがい”をサラリーマンが持っているのかどうか、またどのようなサラリーマンが“生きがい”を持っているのかをみていく。

本調査では、前回調査と同様、先の生きがいの意味を問う質問に続け、「そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか」として生きがいの有無を設問している。単に「あなたは生きがいを持っていますか」とたずねたのではない点に注意が必要である。

〔生きがいの有無と喪失〕

現在、生きがいを「持っている」のは78.4%であり、サラリーマンの5人に4人は生きがいを「持っている」ことになる。「前は持っていたが今は持っていない」のが5.2%、「持っていない」のが6.7%であり、持っているかどうか「わからない」との回答も8.5%である。

生きがいを「持っている」人は、サラリーマン現役が74.6%、OBが85.1%とOBの方がさらに多くなっている。また、配偶者にも同じ質問をしているが、結果はほぼ同じで、81.6%が生きがいを「持っている」と回答している。

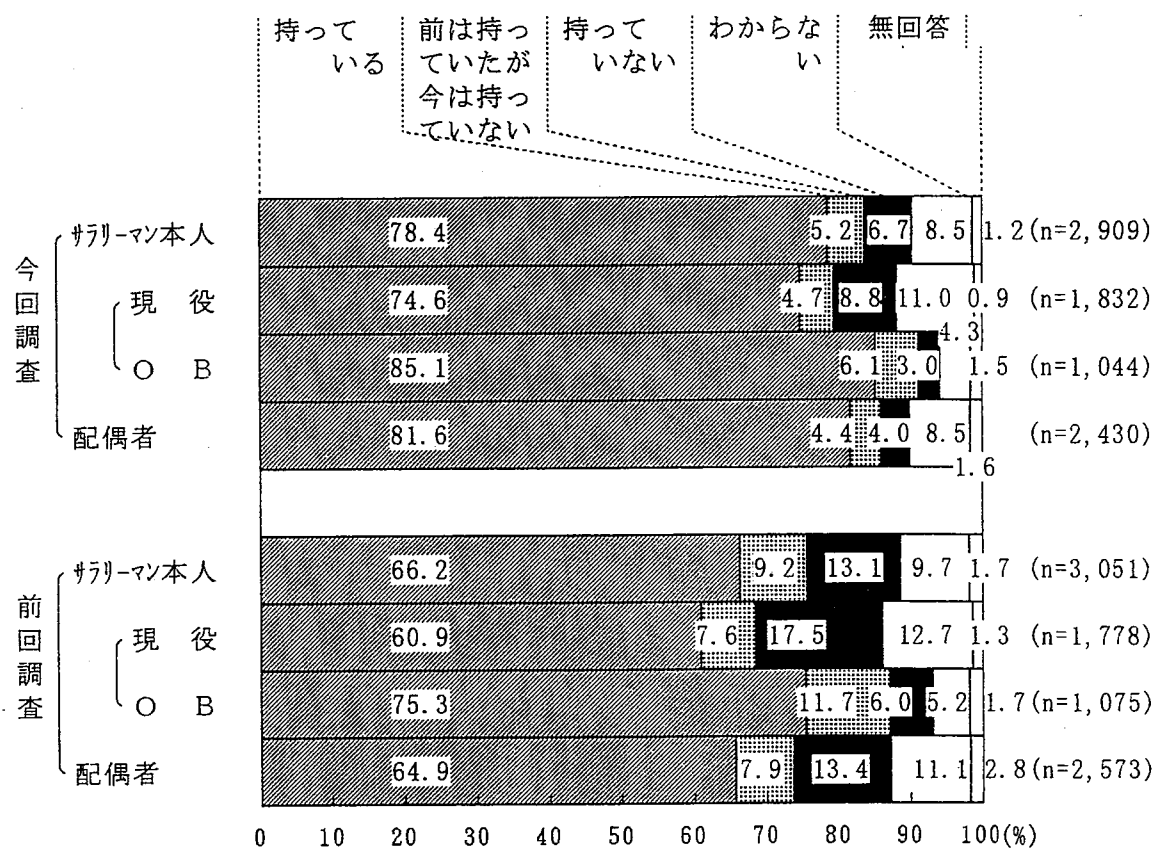
前回調査と比較すると、生きがいを「持っている」サラリーマンは増加し、「前は持っていたが今は持っていない」「持っていない」といったサラリーマンは減少している。前回調査で生きがいを「持っている」と回答したサラリーマンは66.2%であり、今回調査はこれを12.2ポイント上回っている。

前述のとおり、今回調査では生きがいの意味を問うた上で「そのような」生きがいの有無をたずねており、この生きがいの意味の選択肢として「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じることを加えたことの影響が考えられる。しかし、生きがいの意味としてこの選択肢を全く回答していない人でも、その77.7%が生きがいを「持っている」と回答しており、生きがいを持つサラリーマンの増加は、選択肢の追加によるものではないことがわかる。

こうした増加の傾向は現役、OBともにみられ、その差は現役13.7ポイント、OB 9.8ポイントと現役でさらに大きい。また、配偶者では16.7ポイントもの増加がみられる。

(図表4-3-1)

図表 4-3-1 生きがいの有無（現役・OB別，配偶者調査との比較，前回調査との比較）



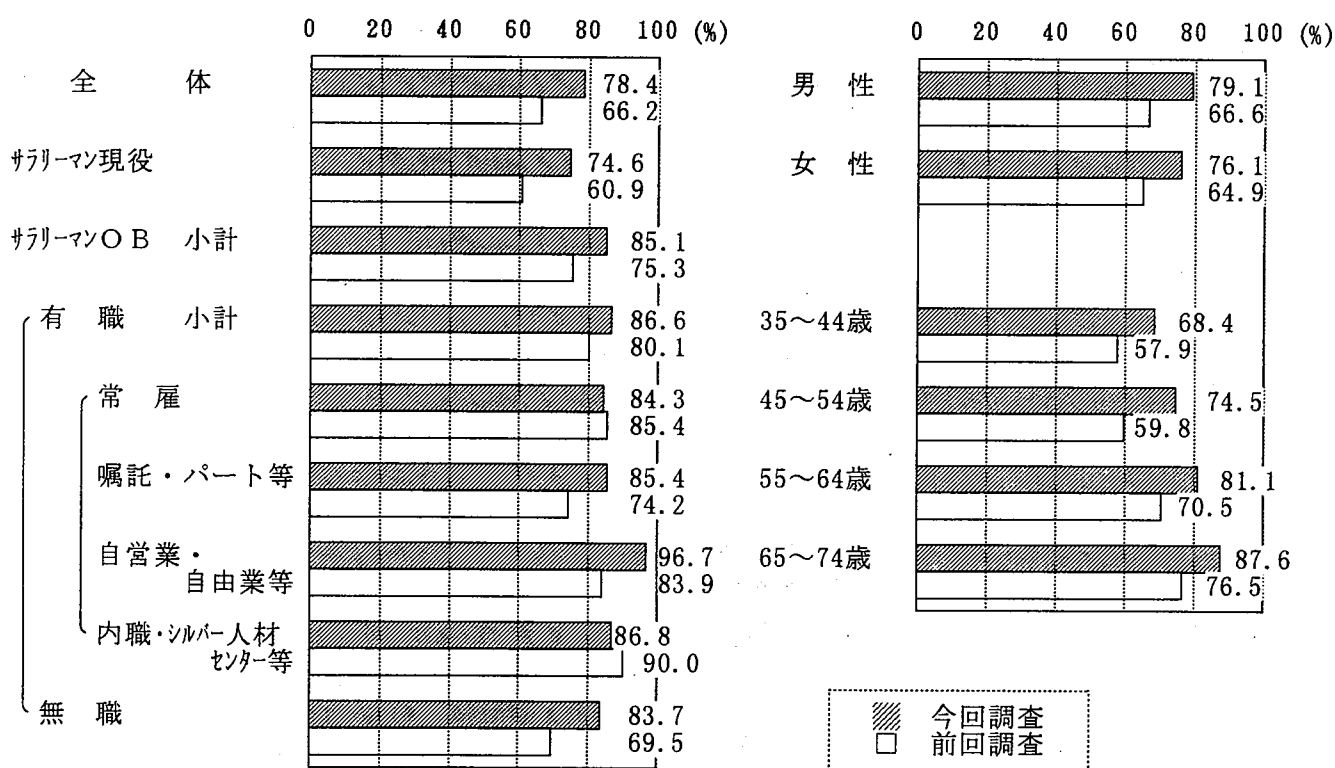
〔属性による違い〕

サラリーマンOBは、現役に比べて生きがいを持つ人が多いが、OBの中では、常雇や自営等、シルバー人材センター等で就労している人が、無職者や嘱託・パート等として就労している人よりも生きがいと「持っている」人が多くなっている。

男女差はさほどみられないが、年齢による差がみられ、生きがいを持つ人は年齢とともに増える傾向にある。65～74歳のサラリーマンでは87.6%もの人が生きがいを「持っている」と回答しており、35～44歳を20ポイント近く上回っている。

こうした属性ごとに前回調査からの変化をみると、生きがいを「持っている」とする回答率は、現役、OBとも、またOBの就業の有無や性別、年齢階級に関わらず、これらのどの属性においても増加していることがわかる。（図表4-3-2）

図表4-3-2 生きがいの有無「持っている」（前回調査との比較、現役・OB別、OBの就業状況別、性別、年齢階級別）



	今回調査	前回調査		今回調査	前回調査
全 体	(n=2,909)	(n=3,051)	男 性	(n=2,296)	(n=2,440)
サラリーマン現役	(n=1,832)	(n=1,778)	女 性	(n= 547)	(n= 578)
サラリーマンOB	(n=1,044)	(n=1,075)	35～44歳	(n= 598)	(n= 691)
有職小計	(n= 500)	(n= 587)	45～54歳	(n= 662)	(n= 722)
常 雇	(n= 166)	(n= 212)	55～64歳	(n= 804)	(n= 864)
嘱託・パート等	(n= 205)	(n= 283)	65～74歳	(n= 735)	(n= 702)
自営業・自由業等	(n= 61)	(n= 62)			
内職・シルバー人材センター等	(n= 68)	(n= 30)			
無職	(n= 478)	(n= 462)			

〔健康・経済状況と生きがい〕

健康状態の良いサラリーマンほど、生きがいを持つ人は多い。今回調査のサラリーマン本人は日常生活に支障のない健康状態の人が大半であるが、その中でも「非常に健康」な人は9割近くが生きがいを持つのに対し、「まあ健康」な人では約8割、「日常生活に支障はないが注意点がある」人では約7割にとどまっている。

年収（平成7年の世帯年収）による差はあまり大きくないが、1,500万円以上の年収がある人は、これ以下の人に比べて生きがいを持つ人がやや多い。また、経済状況に関しては、世帯年収よりも、サラリーマン本人が意識している暮らし向きの変化による差が大きく、暮らし向きが苦しくなったと感じている人ほど、生きがいを持つ人が少ない。

（図表4-3-3）

図表4-3-3 生きがいの有無（健康状態別、年収別、暮らし向きの評価別）
（％）

		標本数	持っている	前は持っていた	持っていない
全 体		2,909	78.4	5.2	6.7
健康状態	非常に健康	410	89.3	1.7	3.4
	まあ健康	1,455	79.0	4.6	6.5
	注意点あり日常生活に支障はない	841	73.2	7.3	8.0
	注意点あり日常生活に制限あり	71	69.0	8.5	11.3
	病気がち・療養中	38	71.1	10.5	7.9
年収	200万円未満	42	71.4	19.0	2.4
	200～300万円未満	144	80.6	11.8	2.1
	300～400万円未満	273	82.8	6.6	4.4
	400～500万円未満	277	78.0	5.8	8.7
	500～600万円未満	297	76.4	3.4	7.4
	600～800万円未満	605	75.0	5.1	9.8
	800～1,000万円未満	466	76.8	4.7	6.2
	1,000～1,500万円未満	555	80.7	3.6	5.8
	1,500万円以上	121	90.9	-	3.3
暮らし向きの評価	とても楽になった	68	89.7	2.9	5.9
	少し楽になった	470	83.6	3.4	4.7
	変わらない	1,554	79.7	4.2	6.7
	苦しくなった	700	73.1	7.4	8.0
	とても苦しくなった	91	63.7	13.2	7.7

（注）「わからない」及び無回答は表示省略。

〔家族関係と生きがい〕

配偶関係、家族構成といった家族の状況も、生きがいの有無に影響を与えている。

既婚者は未婚者に比べて生きがいを持つ人が多く、既婚者の約8割が生きがいを持つのに対し、未婚者では約7割にとどまる。また家族構成別には、子ども夫婦と同居している人に生きがいを持つ人が多く、ひとり暮らしの人にはやや少ない傾向がみられる。

また、日頃の夫婦関係と生きがいとの関係を見ると、大きな影響は見られないが、『共通の趣味がある』人や『家事を分担している』人、『価値観・考え方が似ている』人には生きがいを持つ人が全体よりもやや多くなっている。（図表4-3-4）

図表4-3-4 生きがいの有無（配偶関係別、家族構成別、日頃の夫婦関係別）
(%)

		標本数	持っている	前は持っていた	持っていない
全 体		2,909	78.4	5.2	6.7
配 偶 関 係	未婚	255	69.4	4.3	11.0
	既婚（配偶者あり）	2,477	79.3	5.0	6.1
	既婚（離別）	54	77.8	7.4	9.3
	既婚（死別）	105	81.0	9.5	4.8
家 族 構 成	ひとり暮らし	191	73.3	4.7	9.9
	自分たち夫婦だけ	701	82.5	4.9	5.1
	自分たち夫婦と未婚の子	1,136	77.2	5.1	7.1
	自分たち夫婦と子ども夫婦	148	87.8	6.8	2.7
	自分たち夫婦と親	461	75.3	5.2	7.8
日 頃 の 夫 婦 関 係	配偶者を頼りにしている	2,304	79.8	4.9	5.9
	配偶者を理解している	2,181	81.7	4.3	5.3
	配偶者を愛している	2,291	80.2	4.7	5.8
	価値観・考え方が似ている	1,345	84.3	2.9	4.3
	共通の趣味がある	936	86.0	3.2	3.0
	対話がある	1,986	81.2	4.6	5.4
	一緒に出かける	1,760	80.7	5.2	4.9
	独自の趣味や行動を尊重	2,167	80.8	4.8	5.6
	配偶者を助けている	1,852	82.5	4.1	4.7
	配偶者と家事を分担している	931	85.3	4.5	3.5

（注1）「わからない」及び無回答は表示省略。

（注2）日頃の夫婦関係は、「あてはまる」と回答した人。

〔生きがいの意味と生きがいの有無〕

前述のとおり、本調査では生きがいの意味を問うた上で、それぞれの回答者が適当だと考える生きがいの意味に基づき、その有無をたずねている。両者の関係をみると、生きがいを「自己実現や達成感」ととらえている人に、そのような生きがいを持つ比率がやや高く、逆に「生きる目標や目的」ととらえている人ではやや低くなっている。

〔帰属意識・性格と生きがい〕

類型化した帰属意識別にみると、生きがいを持つ人は、「すべての立場を重視」する人や「家庭・その他を重視」する人に多く、これらに比べて「職業・家庭を重視」する人や職業または家庭だけを重視する人では少なくなっている。つまり、家庭や仕事に加えて、地域人やグループ員の立場など多様な立場を重視するという人に、生きがいを持つ人が多くなっている。

図表 4-3-5 生きがいの有無（生きがいの意味別、帰属意識類型化別、性格別）
(%)

		標本数	持っている	前は持っていた	持っていない
全 体		2,909	78.4	5.2	6.7
生きがいの意味	生活の活力やはりあい	761	80.2	4.9	6.2
	生活のリズムやメリハリ	281	77.9	5.7	6.4
	心の安らぎや気晴らし	723	77.7	6.2	6.2
	生きる喜びや満足感	1,270	78.4	4.7	6.9
	人生観や価値観の形成	230	79.1	5.2	7.8
	生きる目標や目的	592	75.7	5.2	8.8
	自分自身の向上	459	80.6	6.3	6.1
	自己実現や達成感	719	83.3	5.7	4.6
	社会の役に立っていること	557	81.0	3.8	7.4
帰属意識類型化	すべての立場を重視	922	87.6	2.7	2.6
	（ 職業を大変重視	328	93.0	1.5	2.4
	（ 職業を少し重視	594	84.7	3.4	2.7
	職業・家庭を重視	656	73.3	4.6	9.9
	（ 職業を大変重視	169	81.7	3.0	7.1
	（ 職業を少し重視	487	70.4	5.1	10.9
	家庭・その他を重視	514	85.6	3.3	4.7
	職業のみ重視	46	60.9	10.9	6.5
	家庭のみ重視	491	68.2	9.2	10.2
	重視する立場はない	79	54.4	12.7	20.3
性格	人との関係やつながりを大切にする	2,718	80.1	4.6	6.1
	自分の世界や個性を大切にする	2,376	80.2	4.4	6.1
	いつも目標に向かってつき進む	2,013	86.2	3.1	4.1
	無理をせずマイペースで進む	2,281	79.8	4.5	6.2
	自分なりの価値観を持っている	2,243	82.1	4.5	5.0
	他人にない優れたところがある	1,710	85.1	3.3	4.2
	いろいろなことに興味をもっている	1,699	85.4	3.3	3.9
	一つのことにじっくり取り込む	1,751	82.6	4.5	4.6
	指導者の立場に立とうとする	1,350	84.7	3.9	5.1
	新しいグループの中に入り気軽に入る	1,526	85.7	3.7	4.2
	いろいろな人の話や意見をよく聞く	2,433	80.6	4.6	5.8
	上下の立場や関係を尊重する	2,322	79.8	4.4	6.5
	どんなところでも結構楽しみを見出す	1,891	85.1	3.2	4.2

（注）「わからない」及び無回答は表示省略。

また性格との関連もみられる。生きがいを持つ人は、「いつも目標に向かってつき進む」「他人にない優れたところがある」「いろいろなことに興味をもちチャレンジする」「指導者の立場に立とうとする」「新しいグループの中にわりと気軽に入れる」「どんなところでも結構楽しみを見いだす」といった積極性を示す性格を持つ人に、高くなっている。

(図表4-3-5)

〔友人関係・社会活動〕

友人関係や生涯学習、社会活動への参加状況との間にも、強い関係がみられる。

生きがいを持つ人は、生涯つきあえる友人がいる人では81.6%になるが、いない人では60.4%と20ポイント以上の差がみられる。

また何らかの方法で生涯学習を行っている人は8～9割が生きがいを持つのに対し、行っていない人では65.3%にとどまる。さらに社会活動を行っている人は90.6%が生きがいを持つが、行ったことはない人では72.1%とその差は20ポイント近くになる。(図表4-3-6)

図表4-3-6 生きがいの有無 (友人の有無別, 生涯学習実施有無別, 社会活動実施有無別)
(%)

		標本数	持っている	前は持っていた	持っていない
全 体		2,909	78.4	5.2	6.7
友人有無	い る	2,467	81.6	4.3	5.6
	い ない	429	60.4	10.3	13.3
生涯学習実施有無	本・テレビ・ラジオ・テープなどを利用して	1,341	85.2	3.3	4.4
	放送大学や通信教育を利用して	263	79.1	4.9	8.4
	個人で先生について	205	90.7	2.9	2.9
	職場のグループで	352	84.7	5.1	3.7
	地域のグループなどで	324	92.0	2.5	1.9
	行政の講座で	358	86.9	3.9	4.2
	大学の公開講座等で	105	88.6	4.8	2.9
	民間のカンファレンス等の講座で	345	82.9	5.2	4.6
	勤務先の研修等で	1,091	78.5	4.2	7.8
	その他	99	91.9	1.0	1.0
行っていない		476	65.3	7.6	13.0
社会活動実施有無	行っている	678	90.6	1.6	2.2
	以前行っていたがやめた	508	83.1	6.3	4.3
	行ったことはない	1,563	72.1	6.5	9.7

(注) 「わからない」及び無回答は表示省略。

〔仕事に関する意識と生きがい〕

現在仕事に就いているサラリーマンの場合は、現在の就労満足度との間に極めて強い関係がみられる。『全体として』の就業満足度についてみると、満足度が高いほど生きがいを持つ人が多く、とても満足している人と、とても不満であるという人との間には30ポイント以上の開きがみられる。

また、現在の就労満足度との関係ほど強いものではないが、OBの場合には定年や退職の直前の仕事や職場についての満足度との関連もみられ、満足度が高い人ほど生きがいを持つ人が多い。

仕事や会社とのかかわりについての考え方との関連をみると、生きがいを持つ人は、『どの会社でも十分通用する職業能力がある』『上司や同僚とは仕事を離れても付き合いたい』と考えるサラリーマンに比較的多く、逆に『定年まで会社に勤められるか不安だ(だった)』と考える人には比較的小さい。(図表4-3-7)

図表4-3-7 生きがいの有無 (現在の就業満足度別、OBの定年直前の就業満足度別、仕事・会社とのかかわり別)

(%)

		標本数	持っ て い る	前は持っ ていた	持っ て い ない
全 体		2,909	78.4	5.2	6.7
現在の 就業満足度 (全体として)	とても満足している	208	91.8	1.0	4.3
	やや満足している	1,111	79.9	3.4	6.6
	どちらともいえない	607	72.3	5.9	7.9
	やや不満である	258	65.9	6.2	14.3
	とても不満である	57	56.1	10.5	19.3
OBの 定年直前の 就業満足度 (全体として)	とても満足している	195	89.7	4.6	2.1
	やや満足している	524	87.6	5.2	2.3
	どちらともいえない	189	79.9	6.9	3.7
	やや・とても不満である	78	75.6	12.8	5.1
仕事・ 会社 との か か わ り	仕事の中で自己実現が図れる	1,637	81.9	5.1	5.3
	仕事は生計を立てるための手段	1,846	77.6	5.4	7.3
	どの会社でも通用する職業能力がある	1,351	85.0	4.1	3.8
	会社は自分を正當に評価している	1,710	81.5	4.2	5.6
	自分の会社には尽くしたい	2,216	81.5	4.5	5.5
	脱サラを考えたことがある・脱サラしたい	675	75.3	4.9	8.9
	上司・同僚とは仕事を離れてもつき合いたい	1,269	84.6	3.8	4.6
	仕事のためには生活を犠牲にする	1,404	81.1	4.8	6.0
	多少無理をしても出世したい	944	81.9	4.3	5.9
	出世よりも興味のある仕事に専念	1,798	78.5	5.1	6.7
	定年まで勤められるか不安だ(だった)	818	73.7	5.4	9.4
	定年退職後の社員のめんどろい	1,011	82.4	4.5	4.9
	定年後は世話になりたくない	1,639	78.9	4.4	7.0

(注) 「わからない」及び無回答は表示省略。

4・4 生きがいの内容

今回調査で新たに、生きがいの内容について質問した結果が図表4-4-1である。これは、現在生きがいを「持っている」と回答したサラリーマンに、どのようなことに生きがいを感じるかを3つまでの複数回答で回答してもらったものである。また、配偶者にも同じ質問をしている。

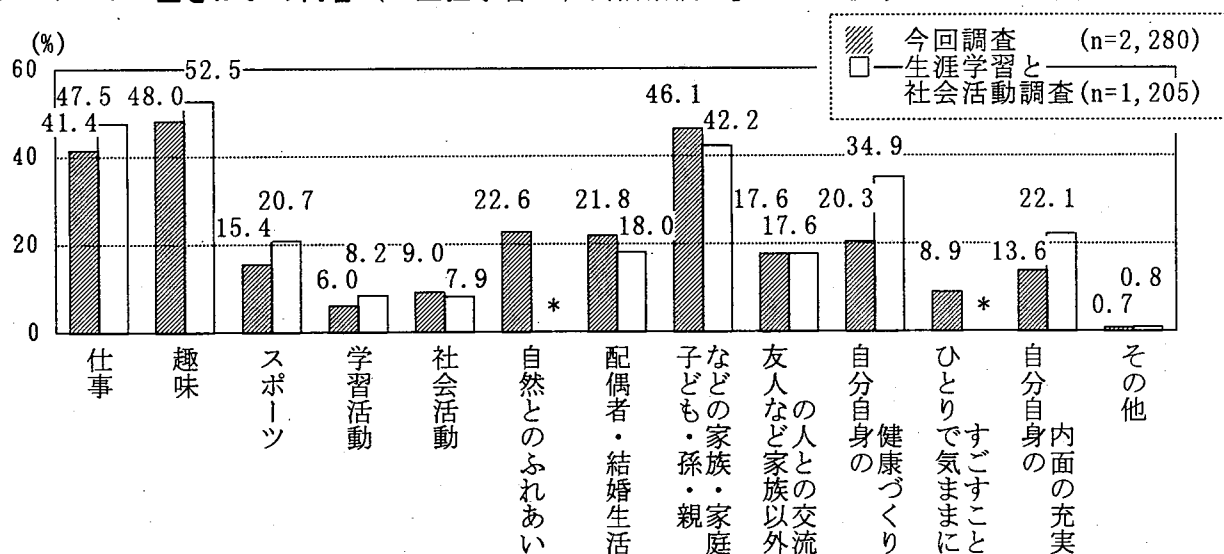
サラリーマン全体では「趣味」をあげる人が48.0%で最も多く、次いで「子ども・孫・親等の家族・家庭」が46.1%である。「仕事」はこれらに次いで第3位となっており、41.4%が回答している。この他では「自然とのふれあい」「配偶者・結婚生活」「自分自身の健康づくり」「友人等家族以外の人との交流」をそれぞれ約2割があげている。

「生涯学習と社会活動調査」に同様の設問があるので、これと比較してみると、今回調査で「趣味」「仕事」「スポーツ」「自分自身の健康づくり」「自分自身の内面の充実」に生きがいを感じる人がやや減少しており、「配偶者・結婚生活」「家族・家庭」に生きがいを感じる人がわずかに増えていることがわかる。（図表4-4-1）

このうち「仕事」を生きがいとする回答に着目すると、現役、有職OB、無職OBのいずれにおいてもやや減少している。さほど大きな差ではないが、既述の、「仕事・会社」から生きがい構成要素を取得するサラリーマンが減少しているという結果と同じ方向を示している。生きがいの取得の場や対象としての「仕事」がゆらぎつつあることがうかがえる。

（図表4-4-2）

図表4-4-1 生きがいの内容（「生涯学習と社会活動調査」との比較；3つまでの複数回答）



（注）＊印は、今回調査のみで設定している選択肢。

図表 4-4-2 生きがいの内容－「仕事」「家族・家庭」の回答比率
 (「生涯学習と社会活動調査」との比較、現役・OB別、
 OBの就業状況別；3つまでの複数回答) (%)

	仕 事					子ども・孫・親などの 家族・家庭				
	全体	現役	OB			全体	現役	OB		
				有職	無職				有職	無職
今回調査	41.4	49.4	29.7	53.8	4.5	46.1	49.3	41.4	39.3	44.7
生涯学習と 社会活動調査	47.5	55.5	37.5	60.3	8.0	42.2	44.0	39.4	39.3	39.2

配偶者の回答をみると、「子ども・孫・親などの家族・家庭」が55.3%で1位にあがっており、「趣味」が47.9%で続いている。サラリーマン本人と比較すると、無職者の多い配偶者は「仕事」が低く、「家族・家庭」や「配偶者・結婚生活」を生きがいの内容としてあげる人が多くなっている。また、「友人など家族以外の人との交流」も比較的高く、サラリーマン本人よりも生きがいの内容が多岐にわたっている。

サラリーマン本人の回答を属性別にみていくと、まず現役とOBとでは傾向が異なる。現役では「仕事」が49.4%と、「家族・家庭」の49.3%と同程度で上位にあがっており、「趣味」が43.7%で続く。一方OBでは当然のことながら「仕事」は29.7%と現役に比べて少なく、「趣味」が54.2%で最も多い。次いで「家族・家庭」が41.4%であり、第3位は「自分自身の健康づくり」の32.0%となっている。

またサラリーマンOBを就労状況別にみると、有職の場合には、内職・シルバー人材センターを除き、就労形態にかかわらず「仕事」がトップにあがっている。内職・シルバー人材センターのOBや無職のOBでは、「趣味」が最も多い。

性別にみると、男女とも最も多いのは「趣味」で共通している。男女で5ポイント以上の差がみられる項目としては、男性の方が多いものに「仕事」「スポーツ」「社会活動」「配偶者・結婚生活」、女性の方が多いものに「友人など家族以外の人との交流」があげられる。

年齢階級別には、「仕事」や「配偶者・結婚生活」「家族・家庭」を生きがいとしてあげる人は、比較的若年層に多く、「趣味」「社会活動」「自然とのふれあい」は比較的高年齢層に多い傾向がみられる。(図表 4-4-3)

図表４－４－３ 生きがいの内容（現役・ＯＢ別，ＯＢの就業状況別，性別，年齢階級別，配偶者との比較；３つまでの複数回答）
(%)

	標 本 数	仕 事	趣 味	ス ポ ー ツ	学 習 活 動	社 会 活 動	自 然 と の ふ れ あい	配 偶 者 ・ 結 婚 生 活	子 ど も ・ 孫 ・ 親 ・ 家 庭	友 人 な ど の 人 と の 交 流	自 分 自 身 の 健 康 づ く り	ひ と り で す ご す こ と に 気 ま ま に	自 分 自 身 の 内 面 の 充 実
サラリーマン本人 全体	2,280	41.4	48.0	15.4	6.0	9.0	22.6	21.8	46.1	17.6	20.3	8.9	13.6
現役	1,366	49.4	43.7	17.1	4.2	5.9	20.4	25.0	49.3	16.5	12.6	8.6	13.5
ＯＢ 計	888	29.7	54.2	13.2	8.7	13.3	26.0	17.5	41.4	19.3	32.0	9.2	13.9
有職計	433	53.8	44.3	13.4	6.7	11.8	26.1	17.1	39.3	16.6	29.1	8.1	12.2
常勤	140	65.0	46.4	10.0	5.7	8.6	27.9	17.9	37.9	10.7	27.1	5.7	15.0
嘱託	175	50.9	46.3	18.3	5.7	10.3	22.3	17.7	40.0	20.0	32.0	7.4	10.3
自営	59	59.3	42.4	10.2	8.5	22.0	25.4	10.2	40.7	18.6	20.3	6.8	8.5
内職	59	30.5	35.6	10.2	10.2	13.6	33.9	20.3	39.0	18.6	33.9	16.9	15.3
無職	400	4.5	62.5	13.5	10.5	15.5	26.7	18.8	44.7	21.5	34.5	10.5	14.8
男 性	1,817	43.5	47.4	17.0	6.2	10.1	22.3	24.5	47.1	13.8	20.5	7.5	12.5
女 性	416	33.2	50.7	9.1	5.3	3.4	24.3	12.0	42.5	33.4	18.8	14.2	18.3
35～44歳	409	46.7	36.4	15.9	5.4	4.4	13.0	29.6	63.3	15.6	4.9	4.9	17.1
45～54歳	493	54.2	48.3	17.2	3.7	4.7	21.5	22.9	47.1	16.0	12.0	10.8	12.0
55～64歳	652	40.6	53.7	17.6	4.6	8.6	27.0	20.1	40.5	17.9	23.3	9.0	12.6
65～74歳	644	27.8	50.8	11.8	9.6	14.8	25.6	18.0	40.4	19.6	32.9	9.6	14.0
配偶者 全体	1,982	22.3	47.9	8.6	4.8	7.3	19.0	29.7	55.3	28.4	19.6	9.0	16.5

（注）「その他」及び無回答は表示省略。

4・5 生きがいの規定因（生きがい獲得の要因）

財団法人シニアプラン開発機構で行ってきたサラリーマンの生きがいに関する一連の調査研究では、サラリーマンシニアが生きがいを獲得するには、①生涯設計、②生涯学習、③社会活動、④趣味、⑤人的ネットワーク、⑥夫婦関係等の要因が重要であると指摘されている。しかしながら、生きがい獲得にどの要因がどの程度働きかけるかについては明確にされていない。

そこで今回調査では、統計分析手法の1つである数量化Ⅱ類を用いて、様々な要因を表す各項目が、生きがいを持っているか、持っていないかをどの程度規定しているかについて把握するとともに、団塊の世代の特徴や前回調査との違いについて把握することとした。

なお、ここでは、生きがいを持っているか、持っていないかを、便宜的に「生きがいの有無」とよび、生きがい有無に働く要因のことを「生きがい規定因」とよぶこととする。

(1) 生きがい規定因となる項目の選定

生きがいの規定因を分析するにあたり、生きがい有無が「わからない」「無回答」と回答したものは分析の対象から除外したうえで、規定因を表す項目を以下の手順で選定した。

まず、生きがいに関する一連の調査研究結果から、生きがい有無と関連が強いとされた項目を規定因の候補としてとりあげ、属性・実態項目群と意識・行動項目群とに分け、両項目群ごとに数量化Ⅱ類を行った。2群に分ける理由は、生きがい有無自体が意識項目であるため、属性・実態項目よりも意識・行動項目の方が生きがい有無には強く働くことが想定されるためである。つまり、はじめから属性・実態項目と意識・行動項目を一緒にして数量化Ⅱ類を行うと、属性・実態項目の働きが相対的に小さくなり、生きがい規定因としては意識・行動項目だけを選定してしまう危険性が考えられるためである。選定に用いた項目は次のとおりである。

【属性・実態項目群】

性別（F 1）	健康状態（F 9）	債券・株式等の有無（F 13）
年齢（F 1）	世帯年収（F 11）	定年経験・就業状況（問23と21）
未婚（F 5）	預貯金額（F 12）	
世帯構成（F 6）	自宅以外の不動産の有無（F 13）	

【意識・行動項目群】

生活充足感（問3）	生きがいの意味（問11）
性格（問7）	生涯学習への参加状況（問13）
生涯つきあえる友人の有無（問8）	社会活動への参加状況（問17）
夫婦関係（問9）	会社とのかかわり（問26）

数量化Ⅱ類の結果を整理したものが図表4-5-1である。偏相関係数の大きさは、生きがいを規定する強さを表している。生きがい規定因選定においては、偏相関係数が相対的に高いものを取りあげることとしたが、2項目間で相関が高いものは、いずれか1項目に限定した。さらに、意識・行動項目群からは、偏相関係数が大きくなくとも、団塊の世代に特徴的な生きがい規定因と思われる項目は取りあげた。この結果、属性・実態項目群から6項目、意識・行動項目群から17項目、合計23項目を生きがい規定因として選定した。（図表4-5-1）

図表 4-5-1 生きがい規定因の選定（偏相関係数の高い順）

項 目		偏相関係数
属性・実態項目	◎F 9. 健康状態	0.100
	◎F 1. 年齢	0.090
	◎F 12. 預貯金額	0.054
	△F 13(2)債券、株式等の有無	0.046
	◎F 11. 世帯年収	0.044
	◎問23・問21. 定年経験、就業状況	0.038
	◎F 5. 未既婚	0.033
	F 6. 世帯構成	0.016
	F 13(1)自宅以外の不動産の有無	0.015
	F 1. 性別	0.001
意識・行動項目	◎問 7. 性格(3)いつも目標に向かってつき進む	0.119
	◎問 3. 生活充足感(7)熱中できる趣味	0.113
	◎問 3. 生活充足感(4)精神的ゆとり	0.106
	◎問 3. 生活充足感(8)仕事のはりあい	0.098
	◎問17. 社会活動への参加状況	0.080
	◎問 8. 生涯つきあえる友人	0.080
	◎問 3. 生活充足感(2)時間的ゆとり	0.074
	◎問 3. 生活充足感(5)家族の理解・愛情	0.069
	◎問 9. 夫婦関係(2)配偶者を理解している	0.062
	◎問 7. 性格(1)人との関係やつながりを大切にする	0.060
	○問13. 生涯学習への参加状況	0.051
	○問 7. 性格(3)どんなところでも結構楽しみを見出す	0.045
	問 3. 生活充足感(10)自然とのふれあい	0.042
	○問 7. 性格(4)無理をせずマイペースで進む	0.041
	問 7. 性格(5)自分なりの価値観を持っている	0.040
	問 3. 生活充足感(3)経済的ゆとり	0.031
	○問26. 会社とのかかわり(3)どの会社でも通用する	0.028
	○問26. 会社とのかかわり(7)上司等とは仕事以外でもつきあいたい	0.025
	問 7. 性格(8)一つのことじくとりくむ	0.025
	○問 9. 夫婦関係(5)配偶者と共通の趣味がある	0.024
	○F 15. 暮らし向きの変化	0.023
	問 9. 夫婦関係(10)配偶者と家事を分担している	0.020
	問26. 会社とのかかわり(12)会社は定年後のめんどろみもよい	0.019
	問26. 会社とのかかわり(10)出世より興味ある仕事	0.017
	問26. 会社とのかかわり(8)仕事のためには個人生活を犠牲	0.015
	問 3. 生活充足感(9)社会的地位	0.014
	問26. 会社とのかかわり(6)脱サラを考えたことあり	0.014
	問 7. 性格(2)自分の世界や個性を大切にする	0.013
	問11. 生きがいの意味・6. 生きる目標や目的	0.013
	問 3. 生活充足感(11)近隣との交流	0.012
	問26. 会社とのかかわり(11)定年まで勤められるか不安だ(った)	0.012
	問26. 会社とのかかわり(13)定年後会社の世話にならない	0.009
	問11. 生きがいの意味1. 生活の活力やはりあい	0.009
	問26. 会社とのかかわり(2)仕事は生計を立てる手段	0.007
	問11. 生きがいの意味・8. 自分の可能性の実現	0.006
	問 7. 性格(11)いろいろな人の話や意見をよく聞く	0.005
	問26. 会社とのかかわり(4)会社は自分を正当に評価	0.005
	問 7. 性格(12)上下の立場や関係を尊重す	0.002

(注1) ◎印は、偏相関係数の大きさから、生きがい規定因として選定した項目を表す。

(注2) ○印は、団塊の世代に特徴的な生きがい規定因と想定して選定した項目を表す。

(注3) △印は、他の項目との相関が高いため規定因からは除外した項目を表す。

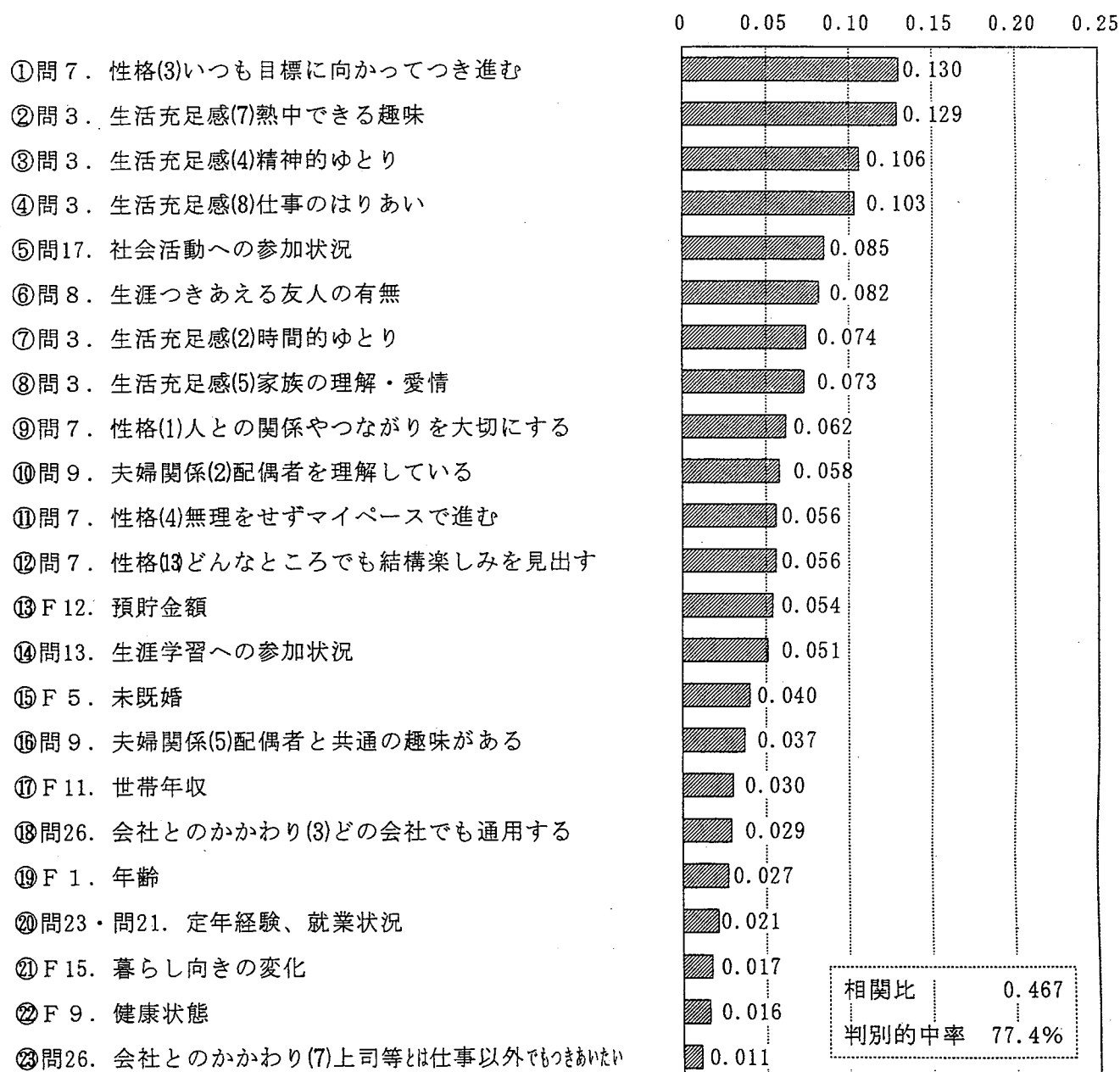
(2) 今回調査全体の生きがい規定因

(1)で選定した項目を生きがい規定因として位置づけ、属性・実態項目と意識・行動項目を一緒にして数量化Ⅱ類を行った。その結果を示したものが図表4-5-2である。

偏相関係数が大きい上位10項目をみると、第1位は「問7. 性格(3)いつも目標に向かってつき進む」である。第2位から第4位までと第7位・第8位には生活充足感に関する項目があがっている。また、第5位には社会活動への参加状況、第9位には性格、第10位には夫婦関係の項目があがっている。偏相関係数が小さい項目としては、属性・実態項目が多いが、会社とのかかわりに関する項目も小さい。

規定因と生きがい有無との関連を示す相関比は0.467であり、規定因の判別の中率は77.4%であることから、規定因として設定した項目は概ね妥当であるといえる。(図表4-5-2)

図表4-5-2 生きがい規定因 (偏相関係数の高い順)



(注) ○内の数字は順位を表す。

項目の選択肢ごとに生きがいとの関連をみるために、カテゴリースコアを求め、偏相関係数の高い上位10項目を整理したものが図表4-5-3である。カテゴリースコアがプラスのものは、生きがいを持っていることを、マイナスのものは生きがいを持っていないことに働くことを示している。

「いつも目標に向かってつき進む」と「人との関係やつながりを大切にする」の性格の項目では、「あてはまらない」ことが生きがいを持っていないことを規定している。

生活充足感を示す項目のうち、「熱中できる趣味」「精神的ゆとり」「仕事のはりあい」では、「欠けている」ことが生きがいを持っていないことを規定している。しかし、「時間的ゆとり」は、「欠けている」方が生きがいを持っていることに、「満たされている」「どちらともいえない」が生きがいを持っていないことに働いている。

この他、社会活動を「行っている」ことが生きがいを持っていることに、生涯つきあえる友人がいないことが生きがいを持っていないことに、それぞれ関連があることが示されている。

(図表4-5-3)

図表4-5-3 生きがい規定因のカテゴリースコア（偏相関係数の高い上位10項目）

項 目	選 択 肢	標 本 数	カ テ ゴ リ ー ス コ ア
①問7. 性格(3) いつも目標に向かってつき進む	あてはまる あてはまらない	1,921 704	0.079 -0.214
②問3. 生活充足感(7) 熱中できる趣味	満たされている どちらともいえない 欠けている	1,613 510 502	0.082 -0.006 -0.256
③問3. 生活充足感(4) 精神的ゆとり	満たされている どちらともいえない 欠けている	1,582 636 407	0.080 -0.034 -0.258
④問3. 生活充足感(8) 仕事のはりあい	満たされている どちらともいえない 欠けている	1,502 778 345	0.084 -0.073 -0.201
⑤問17. 社会活動への参加状況	行っている 以前に行っていたがやめた 行ったことはない	640 605 1,380	0.114 0.045 -0.073
⑥問8. 生涯つきあえる友人の有無	いる いない	2,265 360	0.032 -0.199
⑦問3. 生活充足感(2) 時間的ゆとり	満たされている どちらともいえない 欠けている	1,585 411 629	-0.047 -0.035 0.141
⑧問3. 生活充足感(5) 家族の理解・愛情	満たされている どちらともいえない 欠けている	2,136 382 107	0.029 -0.169 0.024
⑨問7. 性格(1) 人との関係やつながりを大切にする	あてはまる あてはまらない	2,493 132	0.014 -0.261
⑩問9. 夫婦関係(2) 配偶者を理解している	そのとおり そうでない 非該当	1,991 251 383	0.067 -0.099 -0.285

(注1) ○内の数字は順位を表す。

(注2) 選択肢は一部統合している。

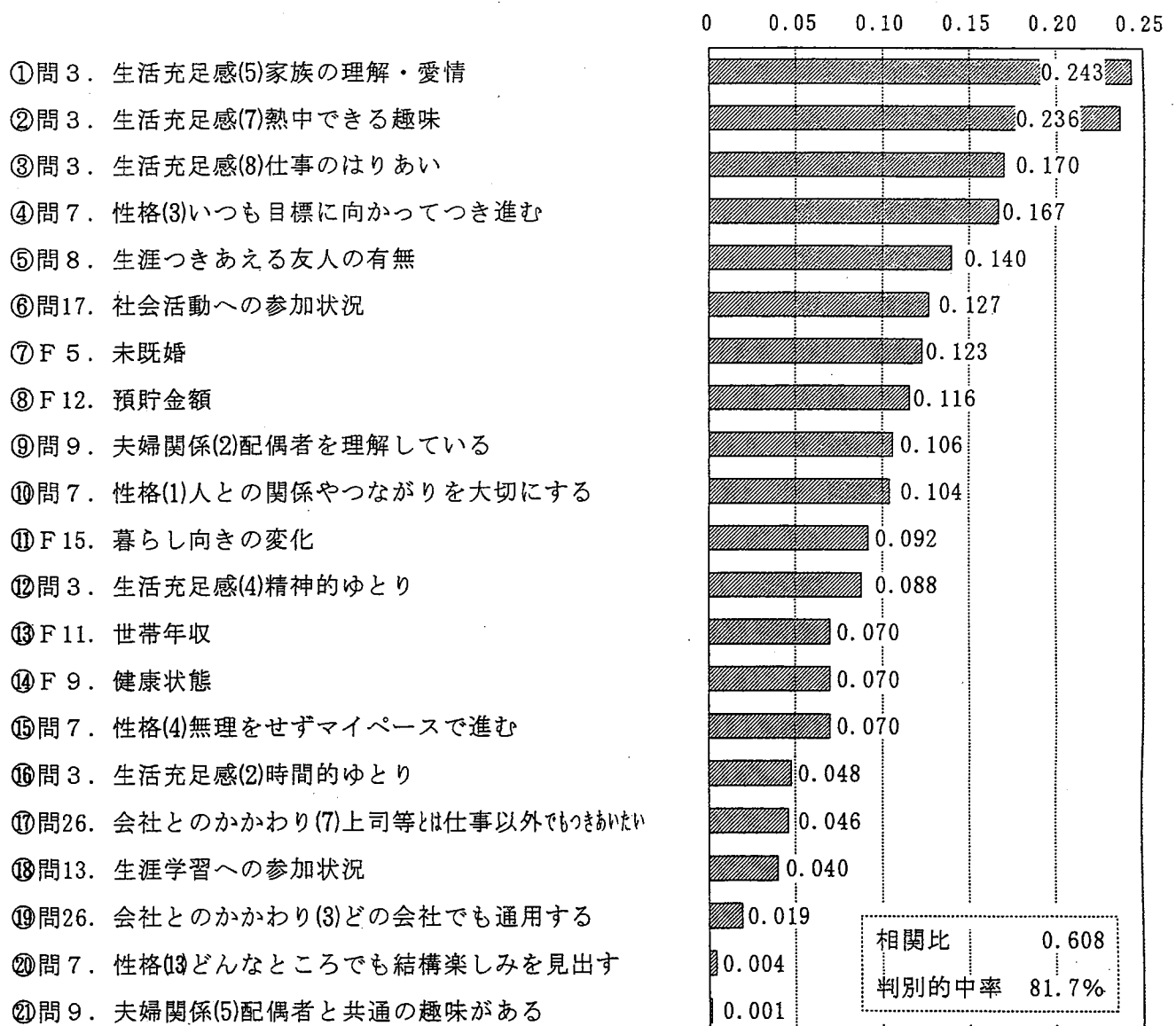
(3) 団塊の世代における生きがい規定因

47～49歳の団塊の世代の生きがい規定因の特徴をみるため、図表4-5-2で示した23項目のうち、「F 1. 年齢」と「問23・問21. 定年経験、就業状況」を除いた21項目について数量化Ⅱ類を行った。「年齢」と「定年経験、就業状況」を除いたのは、団塊の世代では特定の選択肢に回答が偏る（例えば「年齢」では、45～54歳の選択肢だけに回答される）ためである。

偏相関係数の大きい上位10項目をみると、第1位から第3位までは、いずれも問3. 生活充足感を表す項目であり、「(5)家族の理解・愛情」「(7)熱中できる趣味」「(8)仕事のやりあい」の順となっている。特に「(5)家族の理解・愛情」と「(7)熱中できる趣味」は第3位よりも0.06～0.07ポイント程度上回り、生きがい規定因として強いといえる。

偏相関係数の小さい項目としては、「問9. 夫婦関係(5)配偶者と共通の趣味がある」「問7. 性格(3)どんなところでも結構楽しみを見出す」「問26. 会社とのかかわり(3)どの会社でも通用する」である。（図表4-5-4）

図表4-5-4 団塊の世代の生きがい規定因（偏相関係数の高い順）



（注）○内の数字は順位を表す。

偏相関係数の大きい上位10項目について、団塊の世代と全体との比較を表したものが図表4-5-5である。

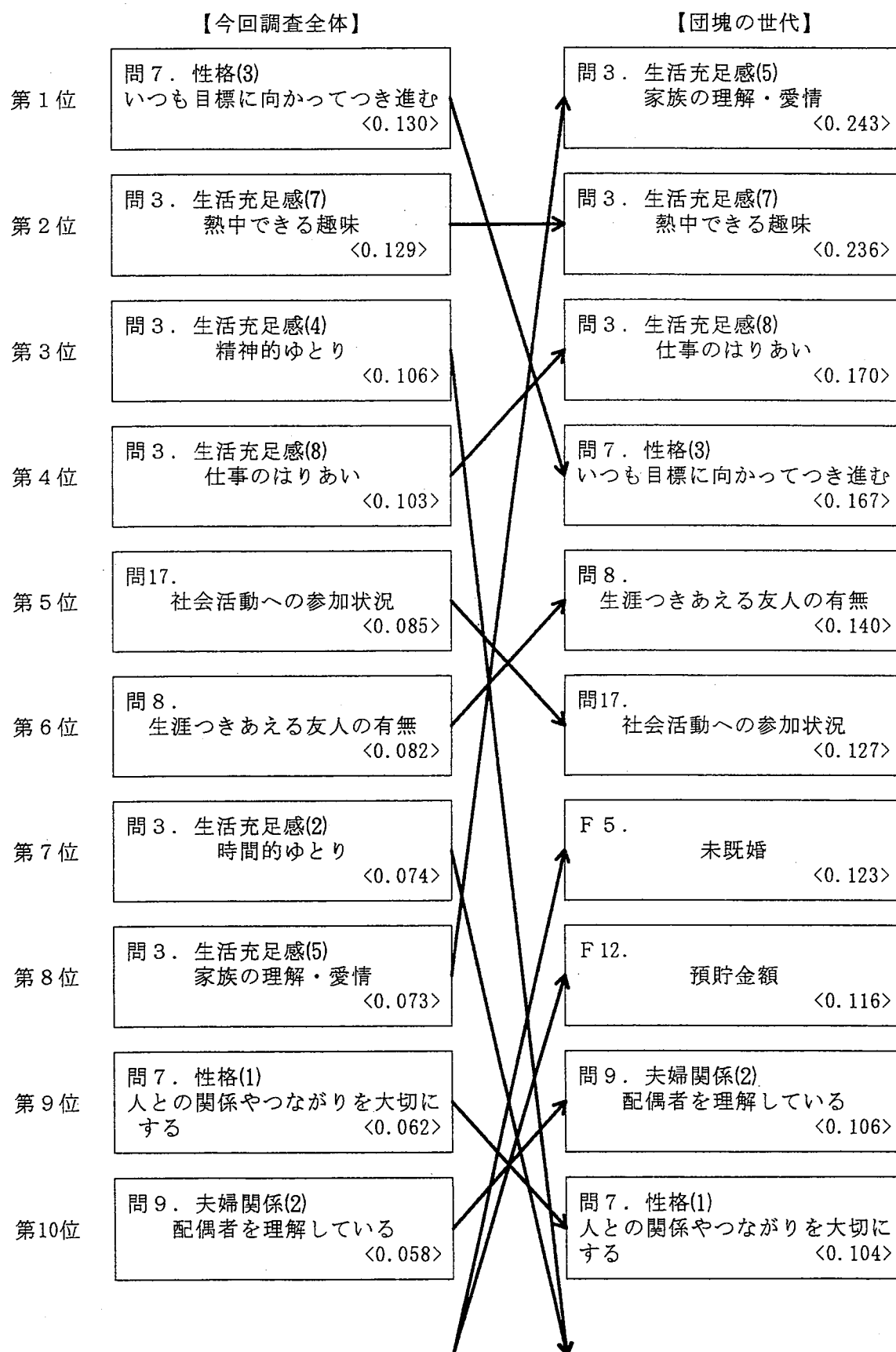
全体と団塊の世代に共通して上位10項目にあがっているのは8項目あり、「問3. 生活充足感(5)家族の理解・愛情」「問3. 生活充足感(7)熱中できる趣味」「問3. 生活充足感(8)仕事のやりあい」「問7. 性格(3)いつも目標に向かってつき進む」「問8. 生涯つきあえる友人の有無」「問17. 社会活動への参加状況」「問9. 夫婦関係(2)配偶者を理解している」「問7. 性格(1)人との関係やつながりを大切にする」である。

団塊の世代の特徴をみるために、全体と団塊の世代との間に5位以上順位の差がある項目に着目してみる。

全体に比べて団塊の世代で上位にあがっている項目としては、第1位の「問3. 生活充足感(5)家族の理解・愛情」（全体で第8位）、第7位の「F5. 未既婚」（全体で第15位）、第8位の「F12. 預貯金額」（全体で第13位）である。反対に、全体では上位であるが団塊の世代では下位の項目は、全体で第3位の「問3. 生活充足感(4)精神的ゆとり」（団塊の世代で第12位）、第7位の「問3. 生活充足感(2)時間的ゆとり」（団塊の世代で16位）である。（図表4-5-5）

団塊の世代では全体に比して、「家族の理解・愛情」「未既婚」「預貯金額」が生きがい規定因として強く働いているが、「精神的ゆとり」や「時間的ゆとり」は、あまり強い影響はないといえる。カテゴリースコアをみると、「家族の理解・愛情」では、「満たされている」が0.041であり、家族の理解・愛情への充足感が生きがいを持っていることにつながっている。また、未既婚では未婚・離死別（カテゴリースコア=0.548）が、預貯金額では1,500万円以上（カテゴリースコア=0.096）が、生きがいを持っていることに影響している。

図表 4-5-5 団塊の世代の生きがい規定因（今回調査との比較，上位10項目）

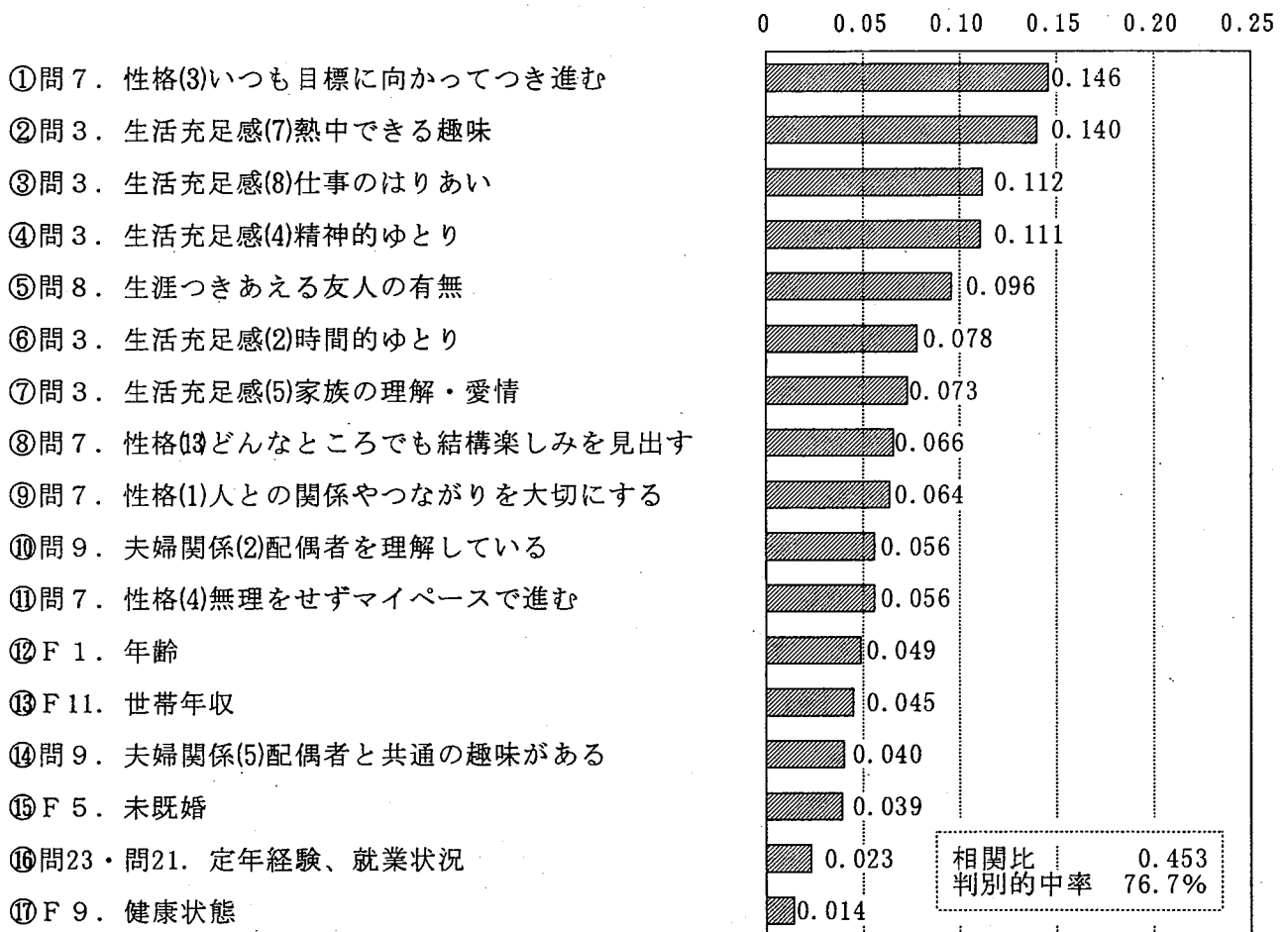


(4) 前回調査の生きがい規定因との比較

生きがい規定因の項目のうち、前回調査と共通の項目だけを取りあげ、今回調査と前回調査との比較を行った。

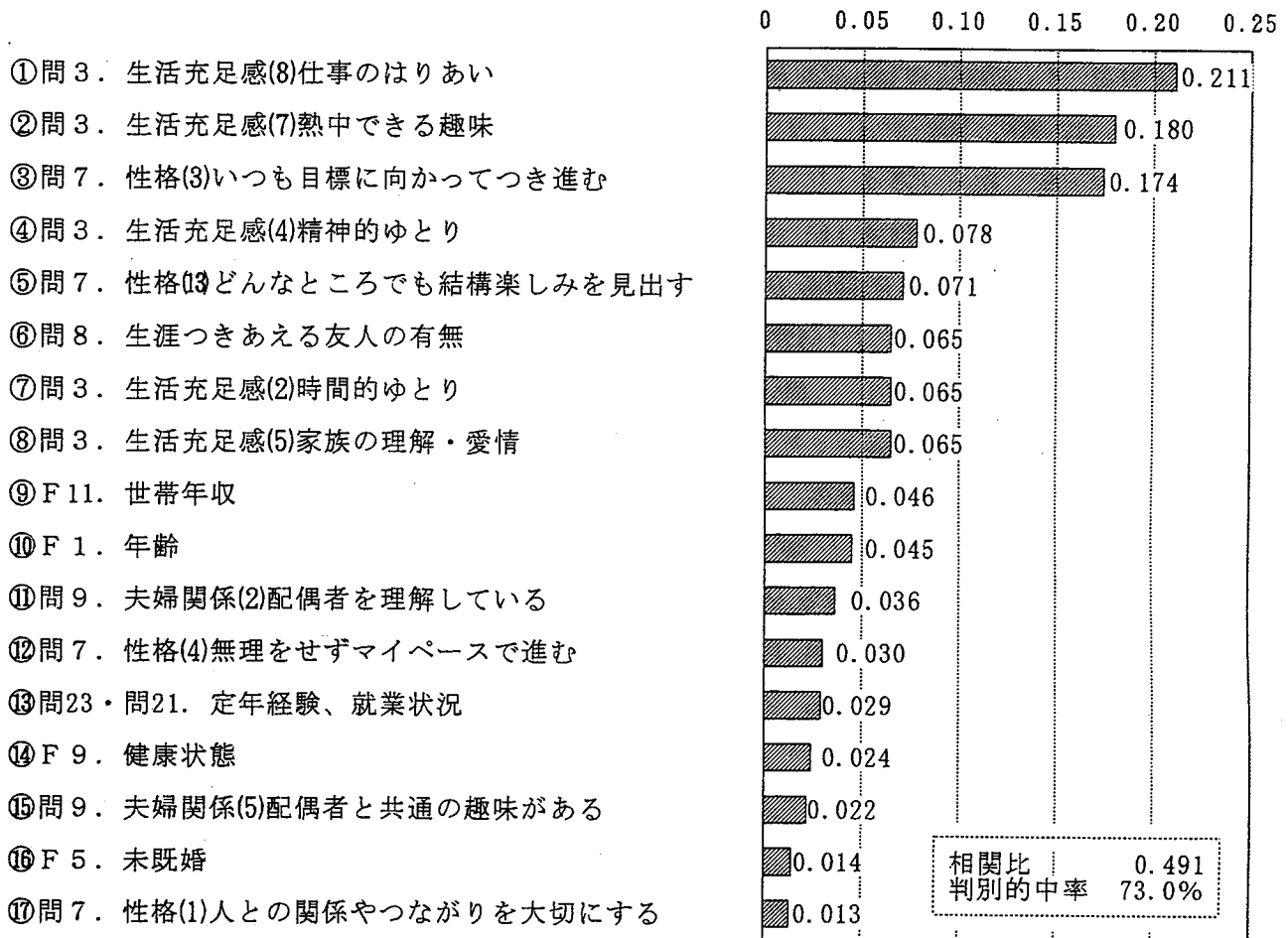
図表4-5-2に示した今回調査全体の結果と比べると、前回調査との共通項目に限定した場合でも、上位項目にはほとんど違いはみられない。(図表4-5-6、図表4-5-7)

図表4-5-6 今回調査の生きがい規定因(前回調査との共通項目、偏相関係数の高い順)



(注) ○内の数字は順位を表す。

図表 4-5-7 前回調査の生きがい規定因（偏相関係数の高い順）



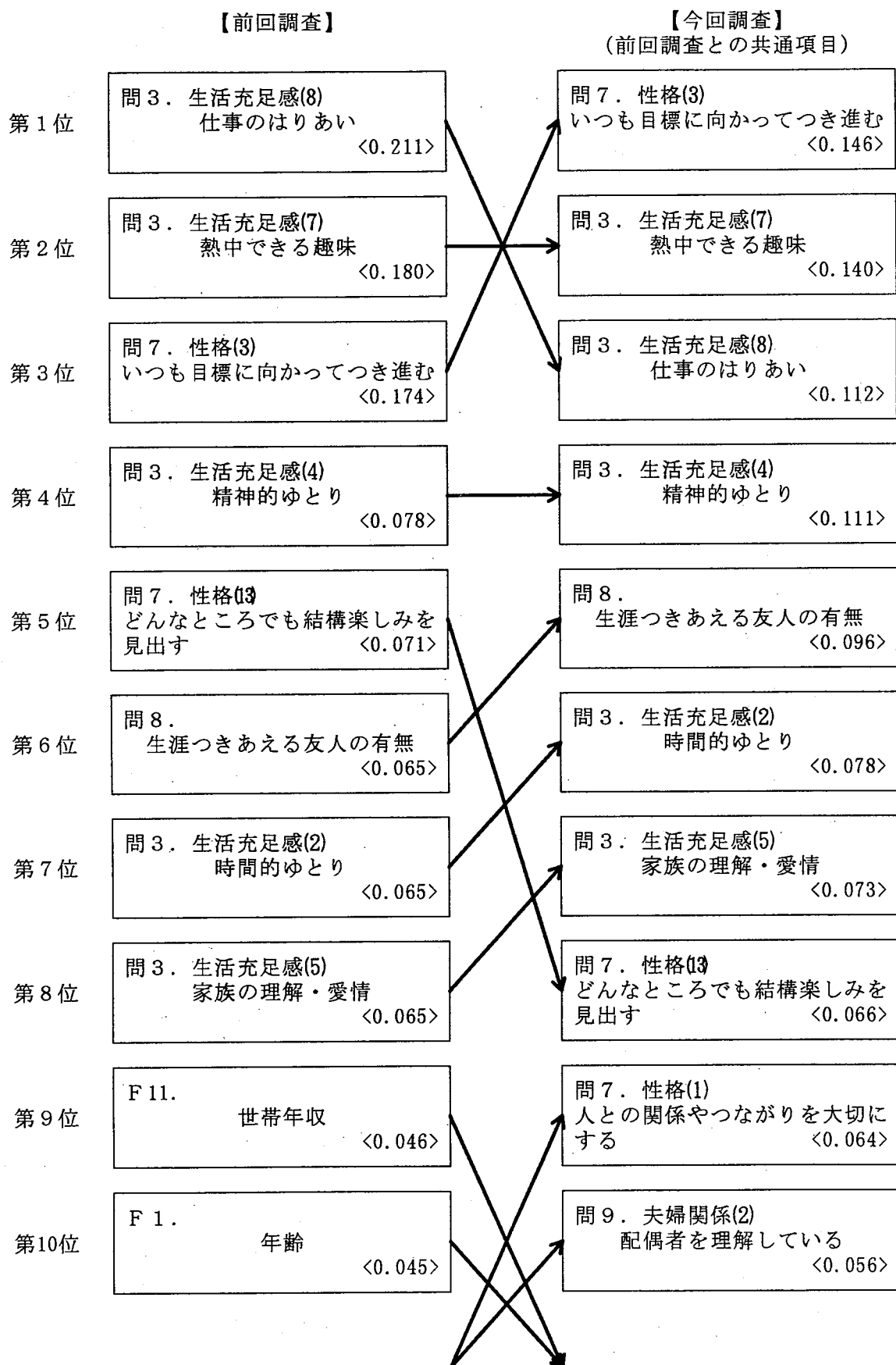
（注 1）○内の数字は順位を表す。

（注 2）問番号、項目、選択肢は今回調査で対応するものを記してある。

前回調査と今回調査を比較すると、上位にあがっている項目は前回調査と今回調査では同様のものが多く、生きがい規定因の内容としては共通性がうかがえる。

項目の順位の変動をみると、「問 3. 生活充足感(8)仕事のはりあい」は、前回調査では第 2 位に 0.03 ポイントの差をつけて第 1 位であったが、今回調査では第 3 位（第 1 位と 0.03 ポイント差）に下降している。また、「問 7. 性格(3)どんなところでも結構楽しみを見出す」も、前回調査では第 5 位であったが、今回調査では第 8 位に下降している。反対に、「問 7. 性格(1)人との関係やつながりを大切にする」は、前回調査の第 17 位から今回調査の第 9 位へ、「問 9. 夫婦関係(5)配偶者と共通の趣味がある」は、前回調査の第 15 位から今回調査の第 10 位へと上昇している。前回調査では第 1 位と第 10 位との間に 0.166 ポイントの差があり、第 1 位の「問 3. 生活充足感(8)仕事のはりあい」が規定因として特に強い傾向がみられる。これに対して今回調査では、第 1 位と第 10 位との差は 0.09 ポイントにとどまっている。今回調査では、前回調査にみられた生きがいを強く規定するものはなくなり、各規定因の強さが均等化している傾向がみられる。（図表 4-5-8）

図表 4-5-8 前回調査の生きがい規定因（今回調査との比較，上位10項目）



(注) 前回調査の間番号、項目、選択肢は今回調査で対応するものを記してある。

第5章 定 年

5・1 定年及び引退過程

(1) 定年後のコース

〔定年経験の有無〕

本調査回答者の定年経験について確認しておく。調査実施概要に示したように、「まだ定年前」のサラリーマン現役が63.0%である。「定年を過ぎた」が29.6%、「定年前に退職した」が6.3%で、これらを合わせサラリーマンOBが35.9%である。

性別にみると、現役の割合は男性（61.2%）に比べて女性（68.7%）で多く、OBの割合は女性（29.4%）より男性（37.8%）が多い。

年齢階級別にみると、54歳以下では大多数が現役で、「定年前に退職した」人が若干みられる。55～64歳では現役（51.7%）とOB（47.1%）が約半々である。65歳以上ではOBが85.4%を占めるが、現役も12.0%みられる。（図表5-1-1）

図表5-1-1 定年経験の有無（性別、年齢階級別） (%)

	標本数	定年前 (現役)	OB 小計	定年を過ぎた		無回答
				定年を過ぎた	定年前に退職した	
全 体	2,909	63.0	35.9	29.6	6.3	1.1
男性	2,296	61.2	37.8	32.0	5.9	0.9
女性	547	68.7	29.4	21.0	8.4	1.8
35～44歳	598	99.8	-	-	-	0.2
45～54歳	662	99.2	0.6	-	0.6	0.2
55～64歳	804	51.7	47.1	36.6	10.6	1.1
65～74歳	735	12.0	85.4	73.9	11.6	2.6

〔定年年齢〕

これから定年を迎えるサラリーマン現役の定年年齢は、「60歳」が73.5%を占め、59歳以前が8.0%、61歳以降が5.7%である。既に定年を経験したサラリーマンOBの場合、「60歳」は56.9%と現役に比べて少なく、59歳以前（25.1%）、61歳以降（17.3%）がそれぞれ現役に比べて多い。

前回調査と比較すると、OBの定年年齢は引き上げられ、60歳以上のケースが増加している。これから定年を迎える現役の定年年齢では大きな違いはみられない。（図表5-1-2）

図表 5-1-2 定年年齢（前回調査との比較）

(% , 歳)

		標 本 数	54 歳	55 歳	56 歳 59 歳	56 ・ 57 歳	58 ・ 59 歳	60 歳	61 歳 64 歳	65 歳	66 歳 以 降	無 回 答	平 均 (歳)
現 役	今回調査	1,832	0.5	4.5	2.9	1.7	1.3	73.5	1.9	3.2	0.5	12.8	59.9
	前回調査	1,778	0.1	9.2	7.6	3.5	4.1	72.1	2.1	4.0	0.4	4.4	59.6
O B	今回調査	860	0.7	14.0	10.5	6.3	4.2	56.9	7.9	7.0	2.4	0.7	59.7
	前回調査	877	2.3	22.1	19.7	11.3	8.4	41.7	6.5	4.9	1.5	1.3	58.7

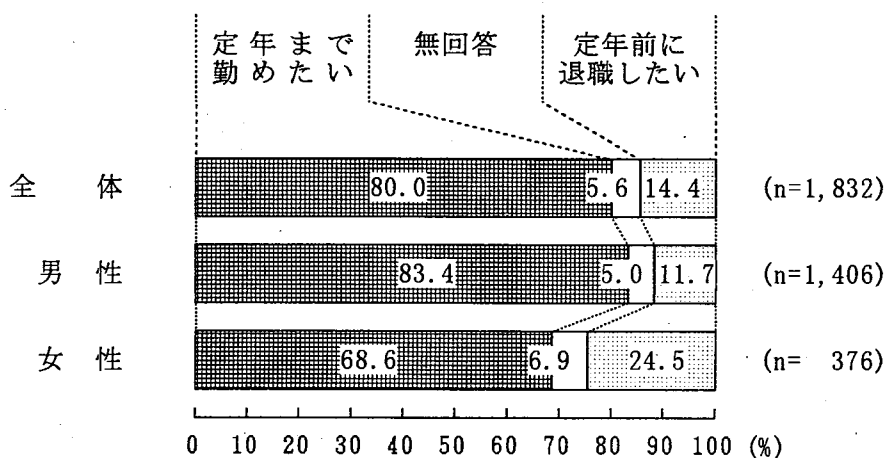
〔定年までの勤務希望〕

サラリーマン現役では、現在の勤務先に「定年まで勤めたい」と考える人が80.0%、「定年前に退職したい」と考える人が14.4%である。

性別にみると、「定年まで勤めたい」人の割合は男性（83.4%）に比べて女性（68.6%）で少ない。女性では「定年前に退職したい」人が24.5%みられる。（図表5-1-3）

実際に退職を経験したOBでは、定年により退職した人が82.4%、定年前に退職した人が17.6%であり、現役の希望と大きな違いはない。

図表 5-1-3 現役の定年までの勤務希望（性別）



〔退職後の就業希望・予想〕

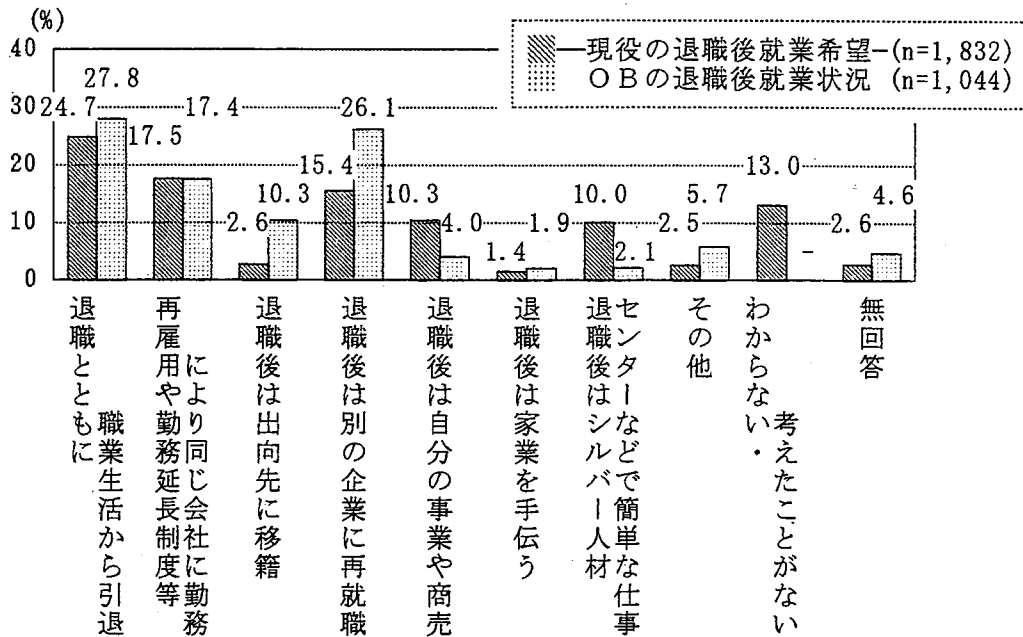
サラリーマン現役に対し、現職退職後の就業希望をたずねたところ、「退職とともに職業生活から引退したい」が24.7%で最も多く、「退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤めたい」「退職後は別の企業に再就職したい」が各20%弱で続いている。「退職後は自分で事業や商売を始めたい」「退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい」という人もそれぞれ約10%みられる。

実際に退職を経験したOBの退職後の就業状況を、現役の希望と比較すると、「別の企業に

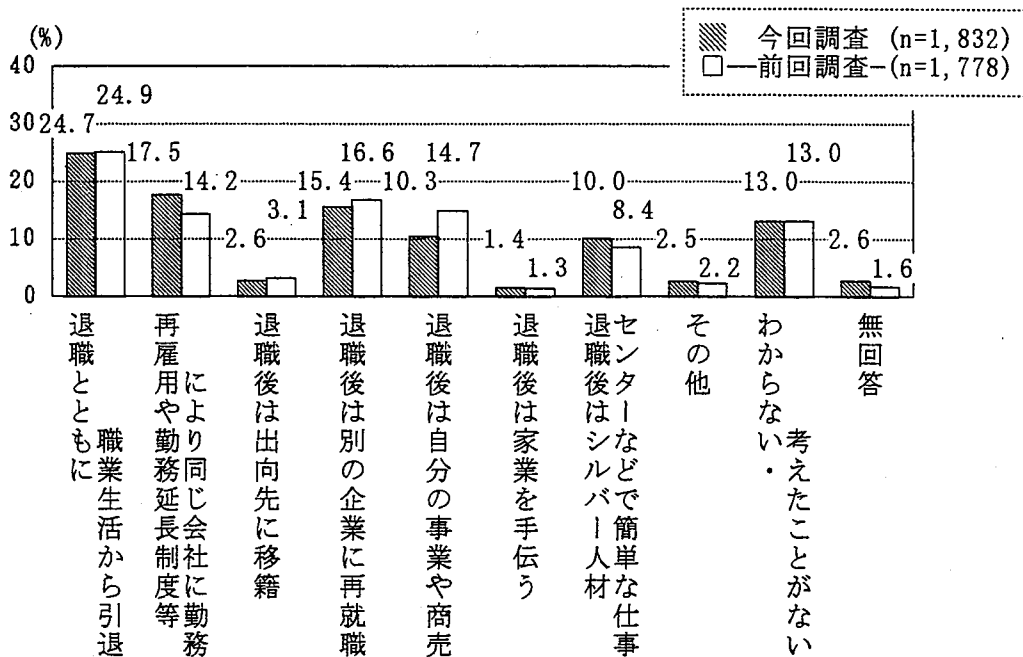
再就職」(26.1%)、「出向先に移籍」(10.3%)がそれぞれ現役の希望を約10ポイント上回っている。一方、「自分で事業や商売を始めた」(4.0%)と「シルバー人材センターなど」(2.1%)は現役の希望を6～8ポイント下回っている。(図表5-1-4)

現役の希望を前回調査と比較しても顕著な差はみられない。(図表5-1-5)

図表5-1-4 退職後の就業(現役の希望とOBの状況との比較)



図表5-1-5 現役の退職後の就業希望(前回調査との比較)

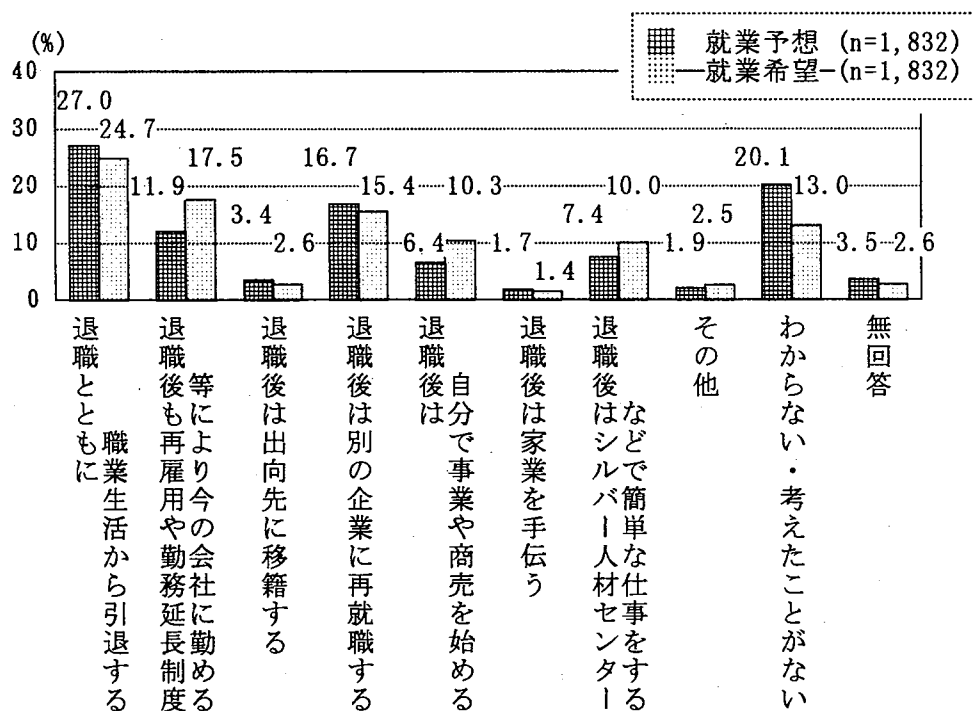


サラリーマン現役に対し、現職退職後の就業希望をたずねた後、実際にはどのような就業の仕方になると思うか予想してもらった。「職業生活から引退」(27.0%)が最も多く、次いで、「別の企業に再就職」(16.7%)、「再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める」(11.9%)と続いている。

就業の希望と比較すると、「再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める」(予想11.9%、希望17.5%)、「自分で事業や商売を始める」(予想6.4%、希望10.3%)の予想は少なく、「職業生活から引退」(予想27.0%、希望24.7%)の予想が若干多くなっている。

(図表5-1-6)

図表5-1-6 現役の退職後の就業予想(就業希望との比較)



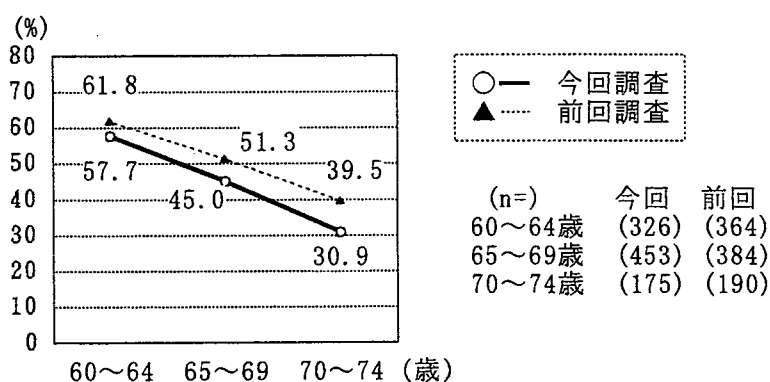
(2) 定年後の就業状況

〔OBの就業率〕

では、定年等の退職を経験したOBの現在の就業状況はどのようなものであろうか。OB全体の就業率は47.9%である。就業率は当然のことながら年齢によって異なり、60代前半より後半、70代前半となるにつれて、それぞれ10ポイント以上低下する。

前回調査と比較すると、いずれの年代においても就業率が下がっており、70代前半では10ポイント近く低下している。（図表5-1-7）

図表5-1-7 OBの就業率（年齢階級別、前回調査との比較）



〔OBの就業条件〕

有職のOBの従業上の地位は、「派遣・嘱託・パートタイマーなど」が41.0%で最も多く、これに「正規の社員・従業員」（33.2%）を合わせ、74.2%が雇用者である。「自営業・自由業・家族従業員」は12.2%で、「シルバー人材センター」が5.4%、「内職」が1.6%となっている。

前回調査と比較すると、選択肢が異なるため厳密な比較はできないが、「正規の社員・従業員」（今回33.2%、前回36.1%）、「派遣・嘱託・パートタイマーなど」（今回41.0%、前回48.2%）といった雇用者の比率が低くなっている。（図表5-1-8）

図表5-1-8 OBの現職の従業上の地位（前回調査との比較）

	標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	その他
今回調査	500	33.2	41.0	12.2	1.6	5.4	6.6
前回調査	587	36.1	48.2	10.6	1.4	3.7	*

（注）* 印は、今回調査で新たに設定した選択肢。

職種は、「管理職」が31.6%で最も多く、「事務職」（20.4%）、「技能職・技術補助・生産工程従事・作業員」（11.6%）がこれに続く。

前回調査に比べ、「管理職」（今回31.6%、前回37.3%）が約6ポイント減少している。（図表5-1-9）

図表5-1-9 O Bの現職の職種（前回調査との比較）

(%)

	標本数	専門技術職	管理職	事務職	販売職	技能職・作業員	サービス職	その他	無回答
今回調査	500	6.2	31.6	20.4	3.6	11.6	2.4	14.2	10.0
前回調査	587	4.9	37.3	21.3	2.4	12.1	2.4	7.5	12.1

雇用者の勤務先企業規模は、約半数が100人未満の小企業であり、定年前には6割以上を占めていた「1000人以上」に勤務する人は（調査実施概要の2. 分析標本の基本属性を参照）、約2割にとどまる。

前回調査と比較しても大きな変化はみられない。（図表5-1-10）

図表5-1-10 O Bの現職の勤務先企業規模（前回調査との比較）

(%)

	標本数	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	無回答
今回調査	371	29.1	20.5	15.1	12.4	20.2	2.7
前回調査	495	26.9	21.4	16.8	11.3	19.8	3.8

（注）「正規の社員・従業員」「派遣・嘱託・パートタイマーなど」の雇用者の数値。

1週間5日以上勤務を「常勤」、それ以下を「非常勤」とし、1勤務日の勤務時間7時間以上を「フルタイム」、それ以下を「パートタイム」として、勤務日数と勤務時間を組み合わせると、「常勤フルタイム」がO Bの約6割を占める。

前回調査と比較すると「常勤フルタイム」が約5ポイント減少している。（図表5-1-11）

図表5-1-11 O Bの現職の勤務形態（前回調査との比較）

(%)

	標本数	常勤フルタイム	常勤パートタイム	非常勤フルタイム	非常勤パートタイム	その他・無回答
今回調査	500	57.4	9.6	8.2	10.6	14.2
前回調査	587	62.5	7.0	8.0	8.9	13.6

（注）常勤＝週5日以上／非常勤＝それ以下
フルタイム＝1勤務日7時間以上／パートタイム＝それ以下

〔就業満足度〕

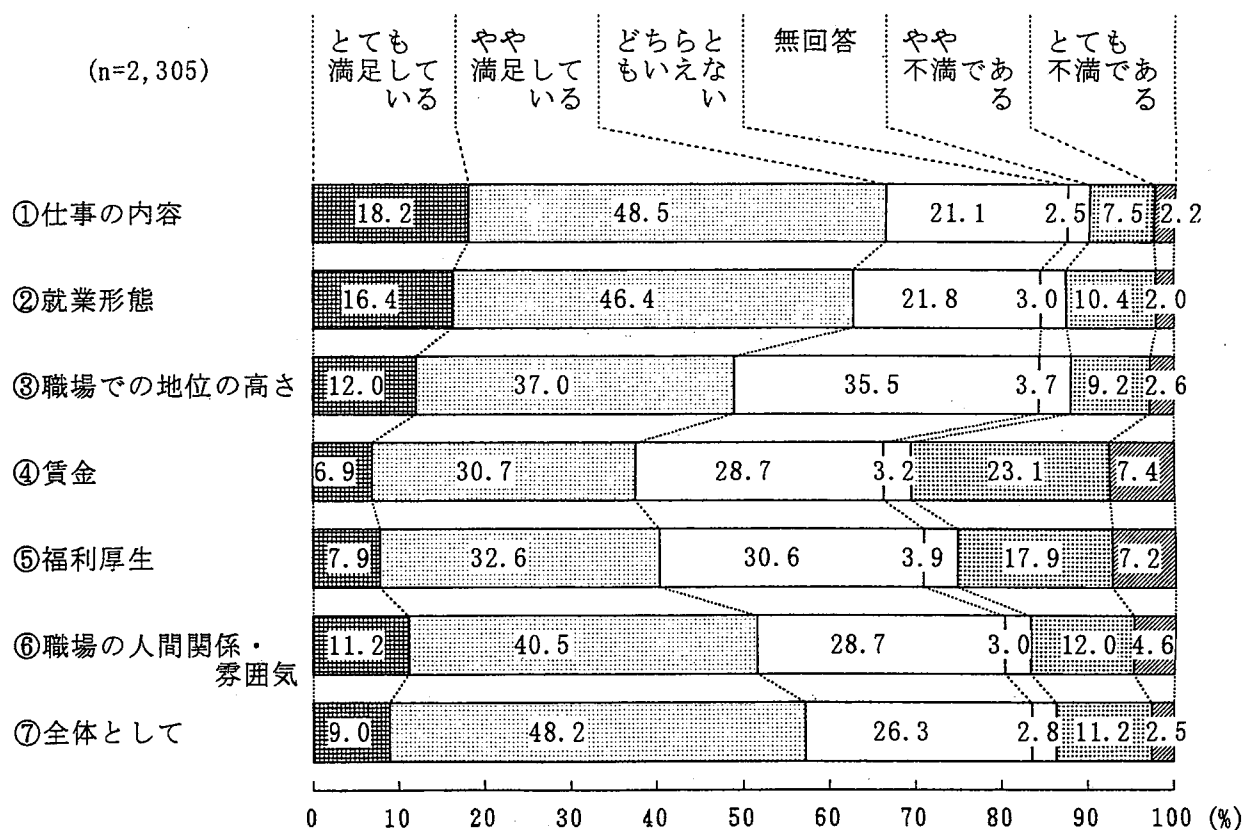
有職者に対し、現在の就業に関する満足度を、『仕事の内容』『就業形態』『職場での地位の高さ』『賃金』『福利厚生』『職場の人間関係・雰囲気』の6項目及び『全体』について「とても満足している」から「とても不満である」の5段階でたずねた。

『全体として』現在の就業状況に満足している人は、「とても満足している」（9.0%）と「やや満足している」（48.2%）を合わせて57.2%である。一方、現在の就業状況を不満に感じている人は、「とても不満である」（2.5%）と「やや不満である」（11.2%）を合わせて13.7%である。

各項目別にみると、いずれの項目でも「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた《満足》が「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた《不満》を上回っている。《満足》の割合は、『仕事の内容』『就業形態』で65%前後、『職場の人間関係・雰囲気』『職場での地位の高さ』で50%前後、『福利厚生』『賃金』で40%前後となっている。

『賃金』『福利厚生』では《不満》が25～30%みられ、他の項目に比べて多い。（図表5-1-12）

図表5-1-12 現在の就業満足度



『全体として』現在の就業状況に《満足》している人は、現役（56.2%）よりもOB（60.8%）の方が約5ポイント多くなっている。項目別にみると、『職場の人間関係・雰囲気』の《満足》が現役（49.9%）よりOB（58.0%）に多く、『福利厚生』の《満足》がOB（35.4

%)より現役(42.0%)に多い。

OBの就業状況別にみると、『全体として』《満足》している人は、常勤、嘱託・パート等で65%前後と、自営業・自由業等(45.9%)、内職・シルバー人材センター(48.5%)に比べて15～20ポイント多くなっている。項目別にみると、『職場の人間関係・雰囲気』を除くいずれの項目でも常勤の《満足》が他の就業状況に比べて多く、特に『職場での地位の高さ』は他を30～40ポイント上回っている。嘱託・パート等は、ほとんどの項目で常勤に次いで《満足》が多く、『職場の人間関係・雰囲気』では常勤を上回っているが、『賃金』の《満足》は他のいずれの就業状況よりも少ない。自営業・自由業等、内職・シルバー人材センターは、『賃金』を除くいずれの項目についても、常勤、嘱託・パート等に比べて15～40ポイント程度《満足》が少なくなっている。(図表5-1-13)

図表5-1-13 現在の就業満足度〔《満足》の比率〕(現役・OB別、OBの就業状況別) (%)

	標本数	仕事の内容	就業形態	職場地位の高さ	賃金	福利厚生	職場係の人間関係	全体として
全 体	2,305	66.7	62.8	49.0	37.6	40.5	51.7	57.2
サラリーマン現役	1,789	66.0	62.7	49.0	37.7	42.0	49.9	56.2
サラリーマンOB 有職 小計	500	69.0	63.0	48.4	37.0	35.4	58.0	60.8
常勤	166	74.7	71.7	69.3	44.0	43.4	60.8	66.9
嘱託・パート等	205	72.2	64.9	41.5	32.2	39.5	64.4	64.4
自営業・自由業等	61	57.4	45.9	29.5	34.4	14.8	41.0	45.9
内職・シルバー人材センター	68	55.9	51.5	35.3	36.8	22.1	47.1	48.5

サラリーマンOBの定年・退職前の仕事・職場に関する就業満足度をみると、『全体として』《満足》している人は68.9%で、OB有職者の現在(60.8%)に比べて約8ポイント多い。

項目別にみると、《満足》の割合は、『仕事の内容』『就業形態』で70～75%程度、『職場の人間関係・雰囲気』『福利厚生』『職場での地位の高さ』で65%前後、『賃金』で約55%となっている。いずれの項目においてもOB有職者の現在に比べて《満足》が多く、特に『福利厚生』では約30ポイント多い。(図表5-1-14)

図表5-1-14 サラリーマンOBの定年・退職前の就業満足度〔《満足》の比率〕(OB有職者の現在の就業満足度との比較)

(%)

	標本数	仕事の内容	就業形態	職場地位の高さ	賃金	福利厚生	職場係の人間関係	全体として
定 年 前	1,044	75.5	71.7	63.3	54.7	64.8	64.9	68.9
現 在	500	69.0	63.0	48.4	37.0	35.4	58.0	60.8

5・2 定年後の生活イメージ

(1) 定年のイメージ

〔定年退職のイメージ〕

「定年退職」という言葉からどのようなことをイメージするか、プラスイメージ6項目、マイナスイメージ6項目の計12項目のなかから、3つまでを選んでもらった。

「自由な時間が増え、自分を取り戻す」が49.9%で最も多く、次いで、「経済的に苦しくなる」「新しい人生が開ける」「精神的に楽になる」「わずらわしい人間関係から解放される」がそれぞれ30%前後みられる。回答率の上位5項目のうち「経済的に苦しくなる」を除く4項目がプラスイメージである。

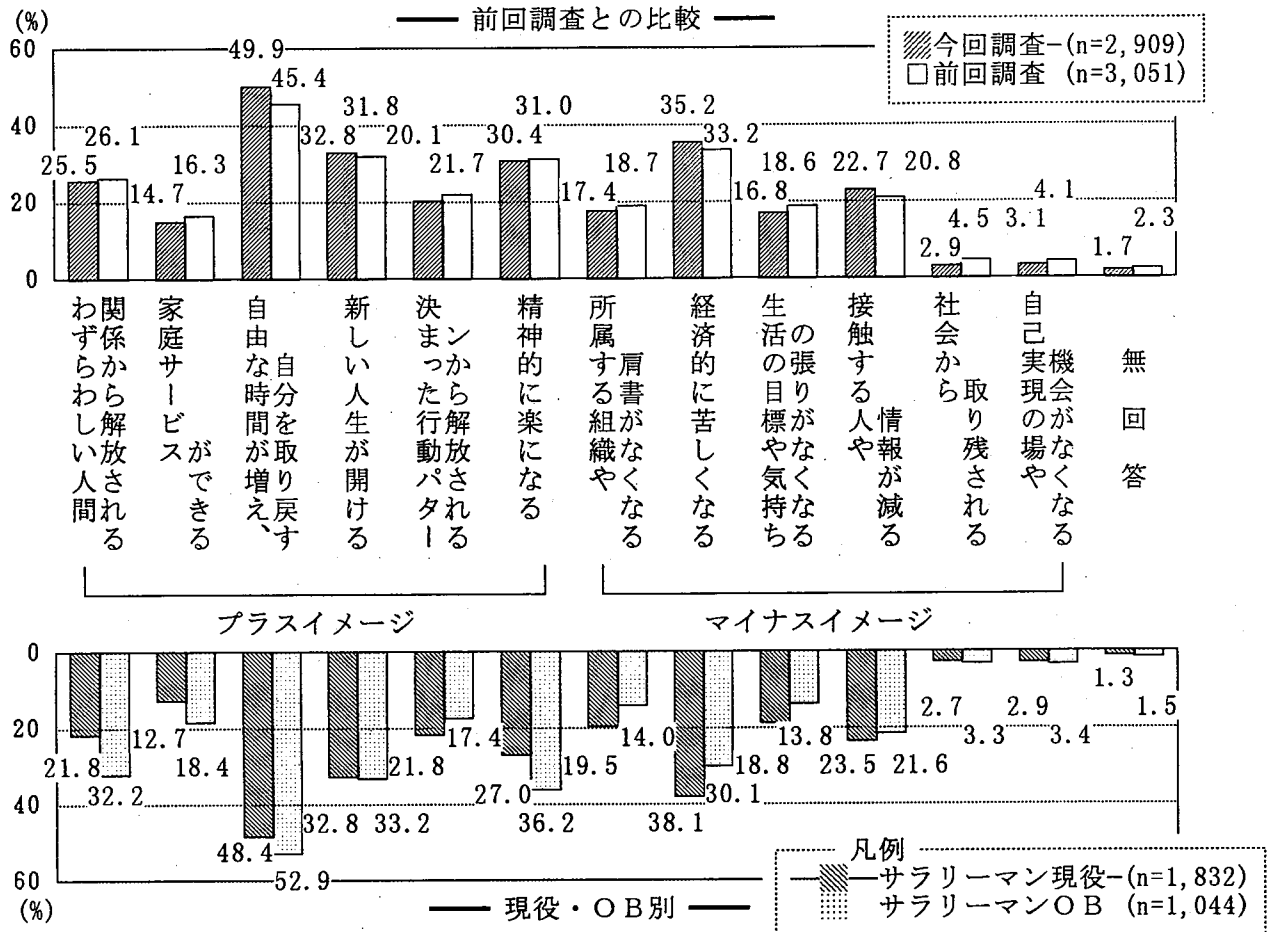
前回調査と比較しても全体の傾向は変わらないが、「自由な時間が増え、自分を取り戻す」(今回49.9%、前回45.4%)が若干増加している。

現役とOBとではイメージにやや違いがみられる。回答率の上位5項目をとりだすと、

現 役	O B
①自由時間増え、自分を取り戻す (48.4%)	①自由時間増え、自分を取り戻す (52.9%)
②経済的に苦しくなる (38.1%)	②精神的に楽になる (36.2%)
③新しい人生が開ける (32.8%)	③経済的に苦しくなる (30.1%)
④精神的に楽になる (27.0%)	④新しい人生が開ける (33.2%)
⑤接触する人や情報が減る (23.5%)	⑤わずらわしい人間関係から解放 (32.2%)

となる。OBに比べて現役の方に多いのが、「経済的に苦しくなる」「所属する組織や肩書がなくなる」「生活の目標や気持ちの張りがなくなる」「決まり切った行動パターンから解放される」で、それぞれ現役がOBを5～8ポイント程度上回る。一方、現役に比べてOBの方に多いのが、「わずらわしい人間関係から解放される」「精神的に楽になる」「自由な時間が増え、自分を取り戻す」で、それぞれOBが現役を5～10ポイント程度上回っている。OBに比べて現役ではマイナスイメージへの回答が、現役に比べてOBではプラスイメージへの回答が、それぞれ多くなっている。(図表5-2-1)

図表 5-2-1 定年退職のイメージ
(前回調査との比較、現役・OB別；3つまでの複数回答)



性別にみると、女性に比べて男性に多いのが「所属する組織や肩書がなくなる」（男性19.0%、女性11.3%）、「わづらわしい人間関係から解放される」（男性26.2%、女性21.9%）などで、反対に女性の方に多いのが「自由な時間が増え、自分を取り戻す」（女性56.1%、男性48.8%）や「生活の目標や気持ちの張りがなくなる」（女性20.1%、男性16.1%）などである。

職業特性別にみると、「自由な時間が増え、自分を取り戻す」「新しい人生が開ける」などはホワイトカラー以外に比べてホワイトカラーの方が若干多く、特にホワイトカラーの高学歴の人に多い。「精神的に楽になる」はホワイトカラーに比べてホワイトカラー以外の方に若干多い。

また、生きがいを持つ人は、持っていない人に比べて「新しい人生が開ける」「家庭サービスができる」「自由な時間が増え、自分を取り戻す」といったプラスイメージを持つ人がより多く、「経済的に苦しくなる」「生活の目標や気持ちの張りがなくなる」といったマイナスイメージを持つ人がより少ない。（図表 5-2-2）

図表5-2-2 定年退職のイメージ

(性別、職業特性別、生きがいの有無別；3つまでの複数回答)

(%)

		標 本 数	プラスイメージ						マイナスイメージ					
			わ ず ら わ し い 人 間	関 係 か ら の 解 放	家 庭 サ ー ビ ス が で き る	自 由 な 時 間 が 増 え る	自 分 を 取 り 戻 す	新 し い 人 生 が 開 け る	決 ま っ た 行 動 パ タ ー ン か ら の 解 放	精 神 的 に 楽 に な る	所 属 す る 組 織 や 肩 書 が な く な る	経 済 的 に 苦 し く な る	生 活 目 標 や 気 持 ち の 張 り が な く な る	接 触 す る 人 や 情 報 が 減 る
全 体		2909	25.5	14.7	49.9	32.8	20.1	30.4	17.4	35.2	16.8	22.7	2.9	3.1
性別	男 性	2296	26.2	15.2	48.8	33.3	20.4	29.6	19.0	35.3	16.1	22.9	2.9	3.0
	女 性	547	21.9	13.2	56.1	30.9	18.3	32.4	11.3	34.4	20.1	22.5	2.4	2.9
職業特性	ホワイト計	2297	25.6	12.9	50.9	33.5	20.4	30.0	19.2	34.9	16.1	24.5	2.7	3.3
	（高学歴	1032	24.8	12.0	54.8	37.5	23.5	25.5	22.2	32.9	12.7	22.6	2.7	3.2
	うち大都市	539	24.1	12.4	52.3	35.4	22.8	22.6	23.0	34.0	13.9	26.2	2.6	3.5
	その他	493	25.6	11.6	57.6	39.8	24.3	28.6	21.3	31.8	11.4	18.7	2.8	2.8
	その他小計	1265	26.3	13.6	47.7	30.3	17.9	33.6	16.7	36.4	18.8	26.1	2.8	3.4
	（高学歴	504	26.0	11.7	47.2	30.2	21.0	30.4	16.9	35.9	19.8	25.0	2.8	3.6
	その他	761	26.5	14.8	48.0	30.4	15.8	35.7	16.6	36.8	18.1	26.8	2.8	3.3
生きがい	持っている	2280	25.3	16.4	52.6	35.7	19.6	30.4	17.9	31.9	15.1	21.3	2.2	3.1
	前にもっていた	151	29.8	12.6	31.1	17.9	13.2	37.1	15.9	45.7	23.8	27.8	8.6	4.0
	持っていない	194	27.3	7.2	45.4	18.6	25.3	31.4	15.5	50.0	27.3	23.7	3.6	0.5
	わからない	248	23.8	7.7	40.3	25.8	25.8	26.2	16.5	46.0	21.0	30.6	4.0	3.6

〔職業生活からの引退時期についての年齢規範〕

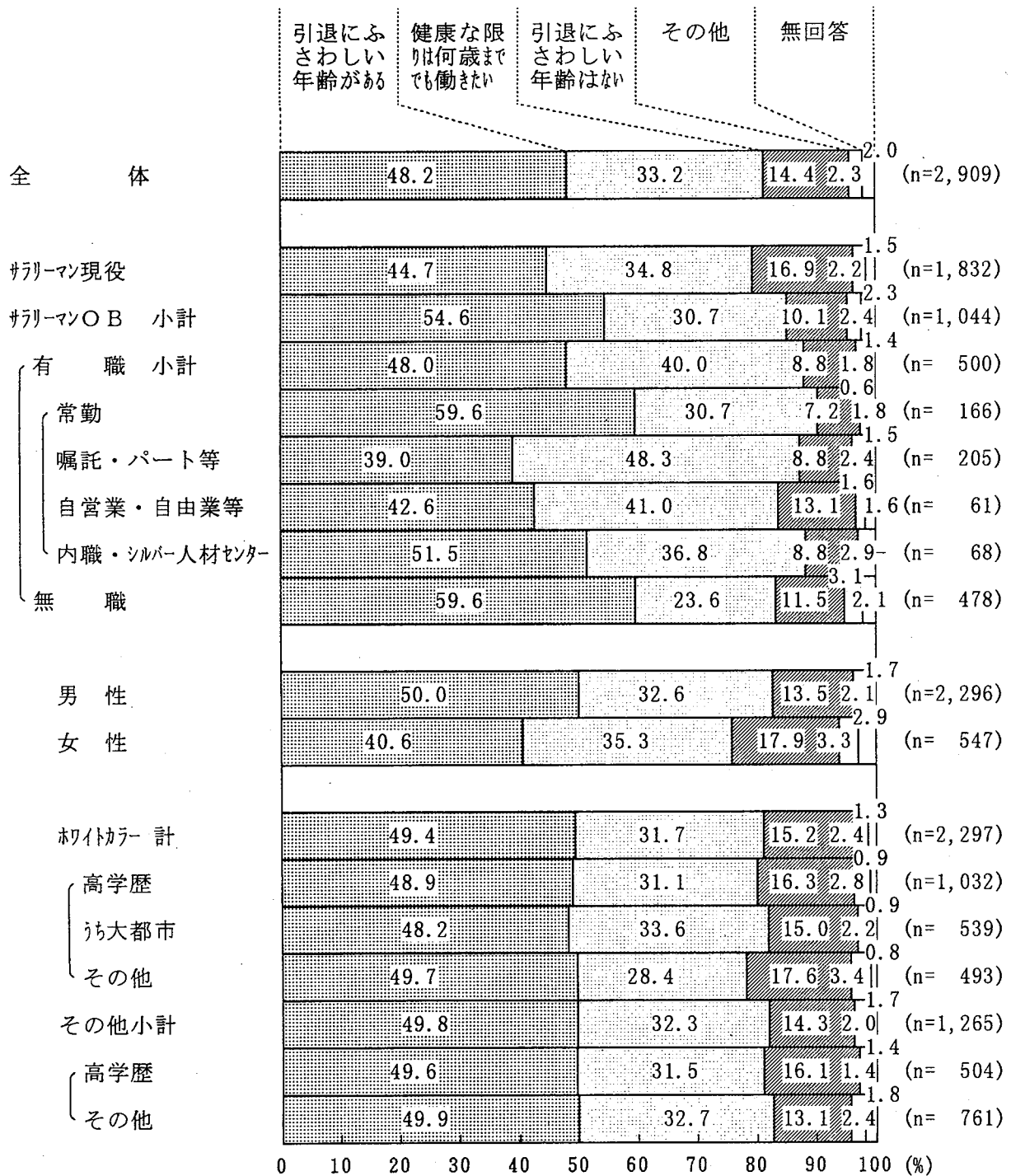
職業生活から引退する年齢に関して、「引退にふさわしい年齢がある」と考えている人は48.2%で、ふさわしい年齢は平均63.2歳と回答されている。一方、「健康な限りは何歳までも働きたい」が33.2%、「引退にふさわしい年齢はない」が14.4%みられる。

現役・OB別にみると、「引退にふさわしい年齢がある」と考える人は、現役（44.7%）に比べてOB（54.6%）の方が約10ポイント多い。OBのなかでも有職で常勤の人や無職の人では、約60%が「引退にふさわしい年齢がある」と考えている。これに対して嘱託・パート等や自営業・自由業等では「引退にふさわしい年齢がある」と考える人は約40%にとどまり、特に嘱託・パート等では「健康な限りは何歳までも働きたい」（48.3%）が「引退にふさわしい年齢がある」（39.0%）を上回り最も多くなっている。

性別にみると、「引退にふさわしい年齢がある」と考える人は、女性（40.6%）に比べて男性（50.0%）の方が約10ポイント多くなっている。

職業特性別にみても大きな違いはみられない。（図表5-2-3）

図表 5-2-3 職業生活からの引退時期についての年齢規範
(現役・OB別, OBの就業状況別, 性別, 職業特性別)



(2) 定年後の望ましい生活とその現実

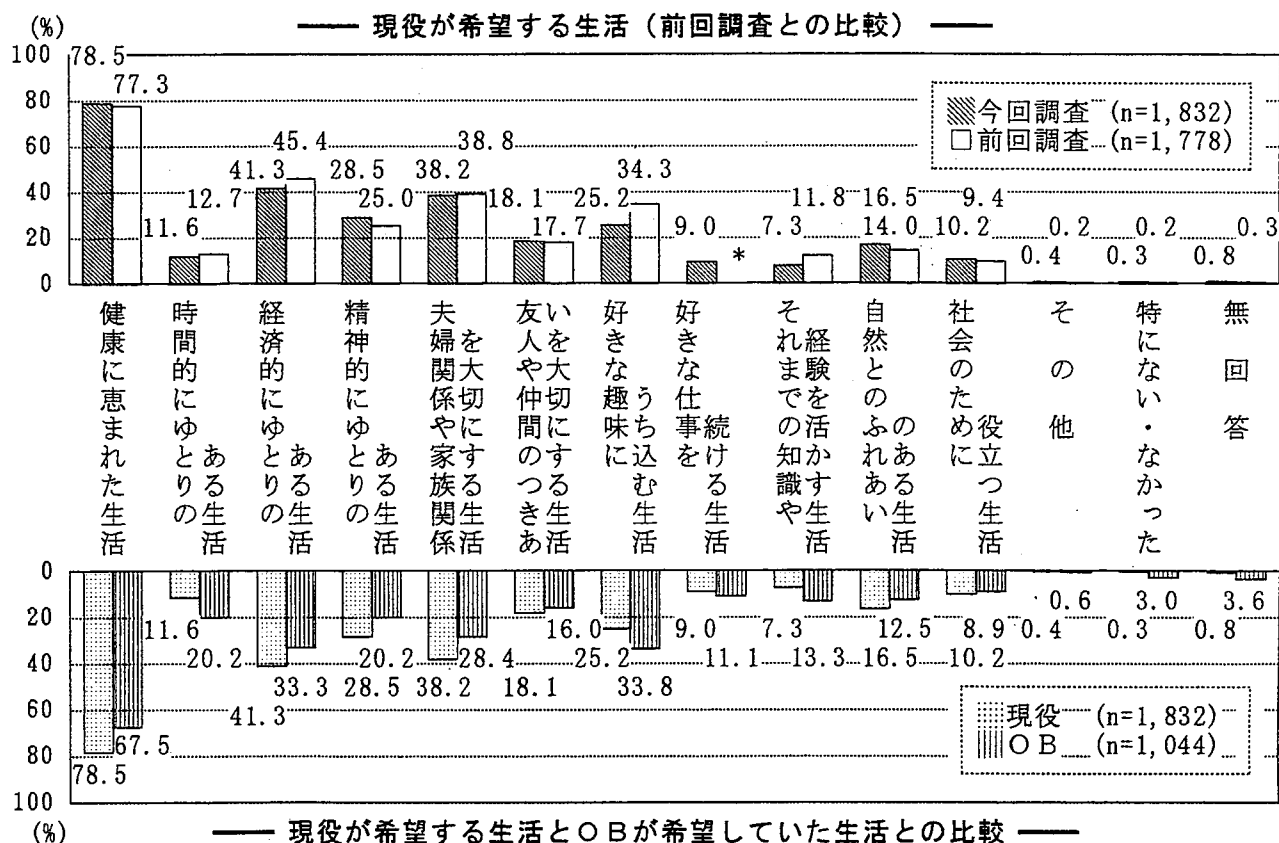
〔定年後の望ましい生活〕

サラリーマン現役が希望する定年後の生活を3つまで選んでもらったところ、「健康に恵まれた生活」が78.5%と圧倒的に多い。次いで、「経済的にゆとりのある生活」(41.3%)、「夫婦関係や家族関係を大切に生活」(38.2%)、「精神的にゆとりのある生活」(28.5%)の順で続いている。

前回調査と比較すると、「好きな趣味にうち込む生活」(今回25.2%、前回34.3%)、「それまでの知識や経験を活かす生活」(今回7.3%、前回11.8%)、「経済的にゆとりのある生活」(今回41.3%、前回45.4%)が減少し、「精神的にゆとりのある生活」(今回28.5%、前回25.0%)が増加している。

また、サラリーマンOBが50歳頃に希望していた定年後の生活は、現役の希望と同様に「健康に恵まれた生活」(67.5%)が最も多い。これに続いては、「好きな趣味にうち込む生活」(33.8%)が現役(25.2%)の比率を上回り、第2位にあがっている。(図表5-2-4)

図表5-2-4 希望する定年後の生活(前回調査との比較、
現役が希望する生活とOBが希望していた生活との比較；3つまでの複数回答)



サラリーマン現役が希望する定年後の生活は男女で異なり、「夫婦関係や家族関係を大切に
する生活」（男性41.4%、女性26.9%）は約15ポイント、「自然とのふれあいのある生活」

（男性17.4%、女性12.2%）は約5ポイント、男性が女性を上回っている。一方、男性より女
性に多いのは、「友人や仲間とのつきあいを大切にする生活」（女性29.3%、男性15.1%）、
「健康に恵まれた生活」（女性83.2%、男性77.0%）などである。

年齢階級別にみると、年齢が低いほど「経済的にゆとりのある生活」「精神的にゆとりのある
生活」を希望する人が多い。また、45歳以上では44歳以下に比べ、「健康に恵まれた生活」
を望む人が多くなっている。（図表5-2-5）

図表5-2-5 現役が希望する定年後の生活

（性別、年齢階級別；3つまでの複数回答）

(%)

	標 本 数	健 康 に 恵 ま れ た 生 活	時 間 的 に ゆ と り の あ る 生 活	経 済 的 に ゆ と り の あ る 生 活	精 神 的 に ゆ と り の あ る 生 活	夫 婦 大 切 に 家 族 関 係 を 生 活	友 人 大 切 に 仲 間 を 生 活	好 き な う ち 込 む 趣 味 に 生 活	好 き な 仕 事 を 続 け る 生 活	知 識 や 経 験 を 生 か す 生 活	自 然 と の ふ れ あ い の あ る 生 活	社 会 の た め に 役 立 つ 生 活
サラリーマン現役 全体	1,832	78.5	11.6	41.3	28.5	38.2	18.1	25.2	9.0	7.3	16.5	10.2
性別												
男	1,406	77.0	11.6	40.8	28.0	41.4	15.1	25.6	8.8	8.3	17.4	10.1
女	376	83.2	10.9	43.4	31.4	26.9	29.3	24.5	9.6	3.7	12.2	10.6
年齢階級												
35～44歳	597	73.9	12.1	45.1	36.3	38.7	18.6	22.1	8.4	5.9	14.6	9.0
45～54歳	657	79.9	9.9	42.2	28.8	40.0	17.2	25.7	9.4	7.3	16.3	9.7
55～64歳	416	82.0	12.5	38.5	19.2	36.8	19.7	27.4	9.4	9.9	19.2	12.7
65～74歳	88	79.5	14.8	27.3	25.0	37.5	19.3	25.0	9.1	4.5	12.5	8.0

（注）「その他」「特にない」「無回答」は表示省略。

5・3 定年後の生活設計と生活問題

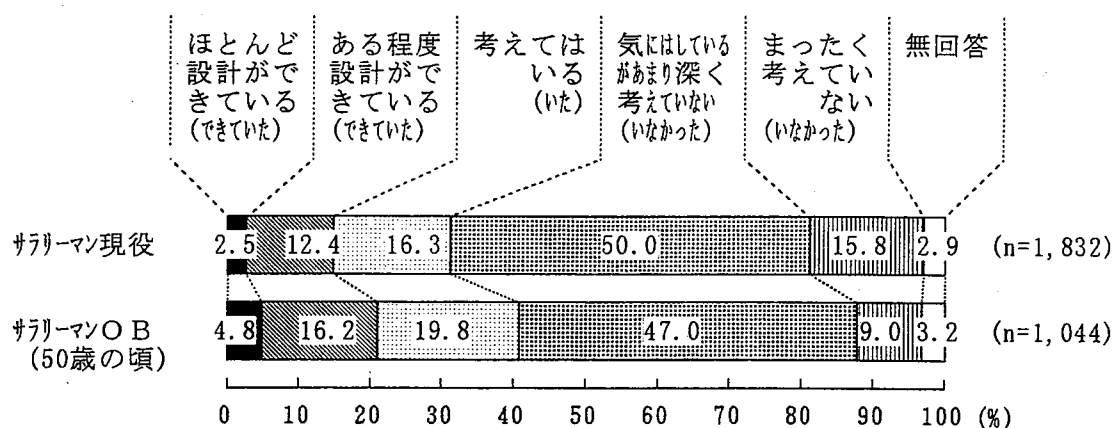
(1) 定年後の生活設計

〔定年後の生活設計〕

サラリーマン現役のうち、定年後の生活設計ができている人は、「ほとんど設計ができている」（2.5%）と「ある程度設計ができている」（12.4%）を合わせて15.0%である。これに「考えてはいる」を加えても3割強であり、3人に2人は「気にはしているがあまり深く考えていない」または「まったく考えていない」と回答している。

サラリーマンOBでは、過去に定年後の生活設計ができている人は2割強、「考えてはいた」まで合わせて4割強と、現役より多いようにみえる。しかし、現役には「現在」、OBには「50歳頃」について設問していることを考慮する必要がある。後述のように、現役でも55歳以降は設計のできている人の比率が高まる。（図表5-3-1）

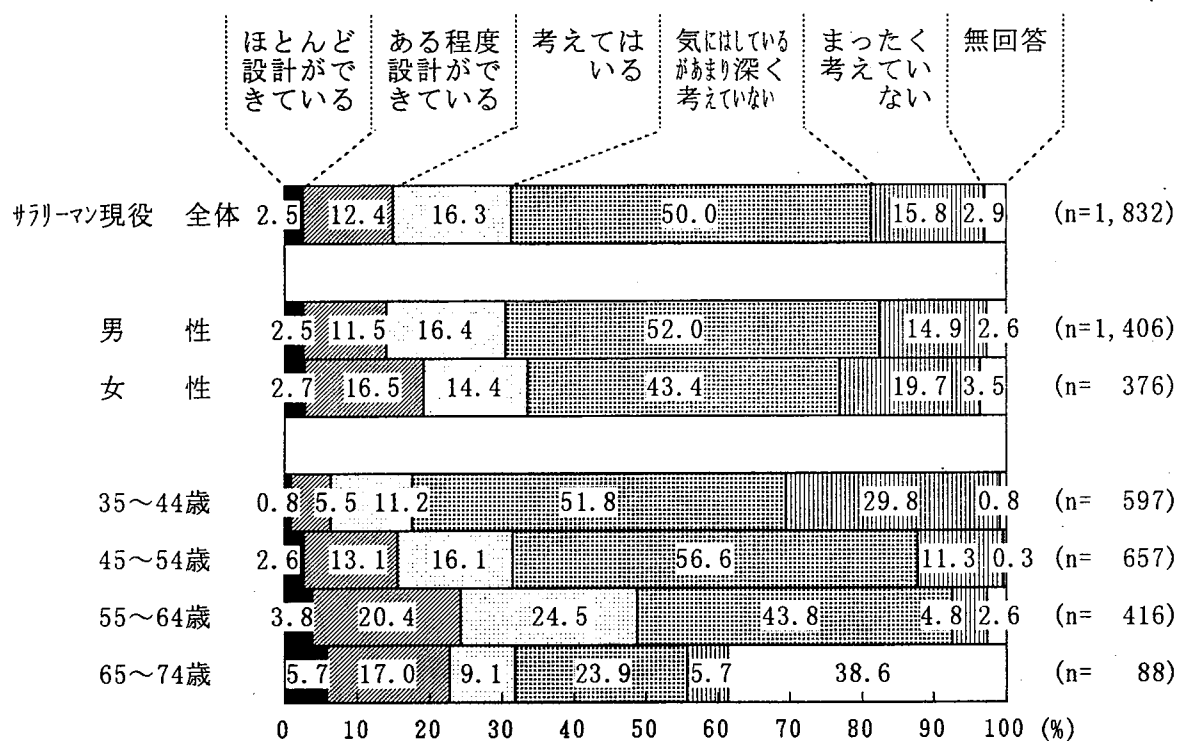
図表5-3-1 定年後の生活設計の有無（現役の現状とOBの過去との比較）



性別にみると、男女ともに「気にはしているがあまり深く考えていない」（男性52.0%、女性43.4%）が最も多い。設計ができている人は男性（14.0%）より女性（19.1%）に多いが、「まったく考えていない」という人も男性（14.9%）より女性（19.7%）に多くなっている。女性は男性に比べて個人差が大きく、回答が分散している。

年齢階級別にみると、35～44歳では「まったく考えていない」が3割近くみられ、これに「気にはしているがあまり深く考えていない」を合わせると、8割強にのぼる。45～54歳では「まったく考えていない」「気にはしているがあまり深く考えていない」が合わせて約7割である。55歳以上になってようやく「考えてはいる」「設計ができている」が増加し、「まったく考えていない」「気にはしているがあまり深く考えていない」の回答を上回る。（図表5-3-2）

図表5-3-2 現役の定年後の生活設計の有無（性別、年齢階級別）



〔定年後の経済基盤として重視するもの〕

サラリーマン現役が定年後の経済基盤として重視するものとしては、「公的年金」（77.8%）、「企業年金」（53.4%）といった年金が上位にあがっている。次いで、「退職金」（38.6%）、「就労による収入」（31.3%）、「生命保険の保険金や個人年金」（25.7%）、「預貯金の取りくずし」（17.5%）の順となっている。

性別にみると、「公的年金」「企業年金」が上位を占めている点は男女共通であるが、項目ごとの比率を比較すると大きな差がみられる項目が多い。「就労による収入」「退職金」「企業年金」は男性が女性を、「生命保険の保険金や個人年金」「預貯金の取りくずし」は女性が男性を、それぞれ10～20ポイント程度上回っている。

年齢階級別にみると、「公的年金」「企業年金」が上位を占めている点はいずれの年代にも共通しており、特に55～64歳ではこれらの年金への重視度が高い。また、年齢が低いほど「生命保険の保険金や個人年金」「就労による収入」への回答が多い。65～74歳では64歳以下に比べ、「預貯金の取りくずし」が多くなっている。（図表5-3-3）

図表 5-3-3 現役が定年後の経済基盤として重視するもの

(性別、年齢階級別；3つまでの複数回答)

(%)

		標 本 数	公 的 年 金	企 業 年 金	退 職 金	生 命 保 険 や 個 人 年 金 保 険 金	預 貯 金 の 取 り く ず し	就 労 に よ る 収 入	子 ど も 等 の 経 済 的 支 援	そ の 他	考 え た こ と が な い ・ わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,832	77.8	53.4	38.6	25.7	17.5	31.3	0.7	2.4	3.9	1.3
性 別	男 性	1,406	77.6	55.8	41.3	21.8	14.9	35.9	0.6	1.8	3.8	1.4
	女 性	376	80.3	44.1	29.8	40.7	26.6	15.2	0.8	4.3	4.3	0.3
年 齢 階 級	35～44歳	597	69.7	46.4	35.5	36.9	16.8	33.5	0.7	2.2	7.4	0.8
	45～54歳	657	77.5	53.6	44.4	23.3	16.0	37.0	0.6	2.3	3.5	0.3
	55～64歳	416	89.9	63.5	40.1	17.3	18.8	24.0	1.0	2.4	0.2	1.0
	65～74歳	88	80.7	56.8	21.6	11.4	25.0	13.6	-	3.4	-	11.4

サラリーマン現役の定年後の不安を性別にみると、定年後に何らかの不安を感じている人は男性87.6%、女性87.0%とほぼ同程度である。ただし不安の内容の比率には差がみられ、「再就職の問題」「配偶者に先立たれる」「時間をもてあます」「自分や配偶者の健康」への回答は男性が女性を5～15ポイント程度上回っている。これに対して、「住宅の問題」「生活のはりや生きがいがなくなる」「社会から取り残される」は女性が男性を3～7ポイント程度上回っている。

年齢階級別にみると、「生計維持の困難」「配偶者や親の介護」は年齢が低いほど多く、「今までの人的交流や情報量が減る」「時間をもてあます」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられる。

定年後に何らかの不安を感じている人は、定年後の生活設計のできていない人に比べ、生活設計のできている人の方が少ない。設計ができていない人では、特に「生計維持の困難」「再就職の問題」「生活のはりや生きがいがなくなる」「住宅の問題」「時間をもてあます」などへの不安が、設計のできていない人に比べて少なくなっている。

また、定年後に何らかの不安を感じている人は、現在生きがいを持っている人（85.6%）に比べて、生きがいを持っていない人（94.4%）の方が約9ポイント多い。生きがいを持っていない人は持っている人に比べ、「生計維持の困難」「住宅の問題」「生活のはりや生きがいがなくなる」ことに不安を感じている人が10～20ポイント程度多くなっている。これに対して、「自分や配偶者の健康」「今までの人的交流や情報量が減る」ことへの不安は生きがいを持っている人の方が若干多い。（図表5－3－6）

図表５－３－６ 現役が感じる定年後の不安
(性別、年齢階級別、生活設計の有無別、生きがいの有無別；複数回答)

(%)

		標本数	不安がある 小計	自分や配偶者の健康	生計維持の困難	再就職の問題	今までの情報量の減る	配偶者や親の介護	生きがいはいりやなくなる	時間をもてあます	配偶者に先立たれる	住宅の問題	世展についての情報化の進み	特に不安を感じない
現役全体		1,832	87.3	55.1	41.6	24.6	20.3	19.6	19.4	18.6	16.4	12.2	5.0	11.1
性別	男性	1,406	87.6	56.5	42.0	28.0	20.7	19.9	18.2	19.8	18.1	10.5	4.3	10.8
	女性	376	87.0	51.6	40.7	13.3	19.7	20.2	23.4	13.8	10.6	17.6	6.9	12.0
年齢階級	35～44歳	597	89.3	56.8	55.1	23.1	13.4	26.6	16.8	14.2	14.9	15.7	4.5	10.1
	45～54歳	657	87.2	56.2	42.0	30.0	18.6	18.6	19.0	17.7	17.7	10.8	4.0	12.3
	55～64歳	416	88.0	52.4	27.9	24.3	32.0	15.4	23.6	24.5	16.3	11.5	5.5	9.9
	65～74歳	88	69.3	51.1	15.9	3.4	27.3	6.8	19.3	21.6	26.1	3.4	6.8	17.0
生活設計	できている	46	65.2	52.2	15.2	6.5	13.0	17.4	13.0	8.7	10.9	6.5	2.2	34.8
	ある程度できている	228	81.6	54.4	18.0	8.8	21.1	21.1	10.5	10.1	15.8	7.0	2.6	17.5
	考えてはいる	298	89.3	58.1	39.9	28.5	23.8	21.8	15.8	17.8	20.1	11.1	6.0	9.4
	あまり考えていない	916	92.5	59.1	47.8	30.5	20.7	19.9	23.0	22.2	16.7	14.2	5.5	7.5
生きがい	現在持っている	1,366	85.6	56.1	36.8	23.8	20.9	19.2	17.7	17.4	16.6	10.2	4.6	12.6
	持っていない	248	94.4	53.6	57.3	27.4	16.5	19.0	28.2	22.6	15.7	21.4	6.9	4.0

(注１) 不安内容は全体で５％以上のものを回答率の多い順に表示した。無回答は表示省略。

(注２) 生きがいを持っていない人は、「前は持っていたが今は持っていない」と「持っていない」を合わせた数値。

〔OBが経験した生活問題〕

では、実際にサラリーマンOBは何らかの生活問題に直面したのであるか、それはどのような問題であろうか。定年・退職後に何らかの問題があったという人は65.4%である。問題の内容としては、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」（32.7%）、「経済的に苦しくなった」（23.7%）、「今までの人的交流や情報量が減って困った」（14.2%）が上位にあがっている。

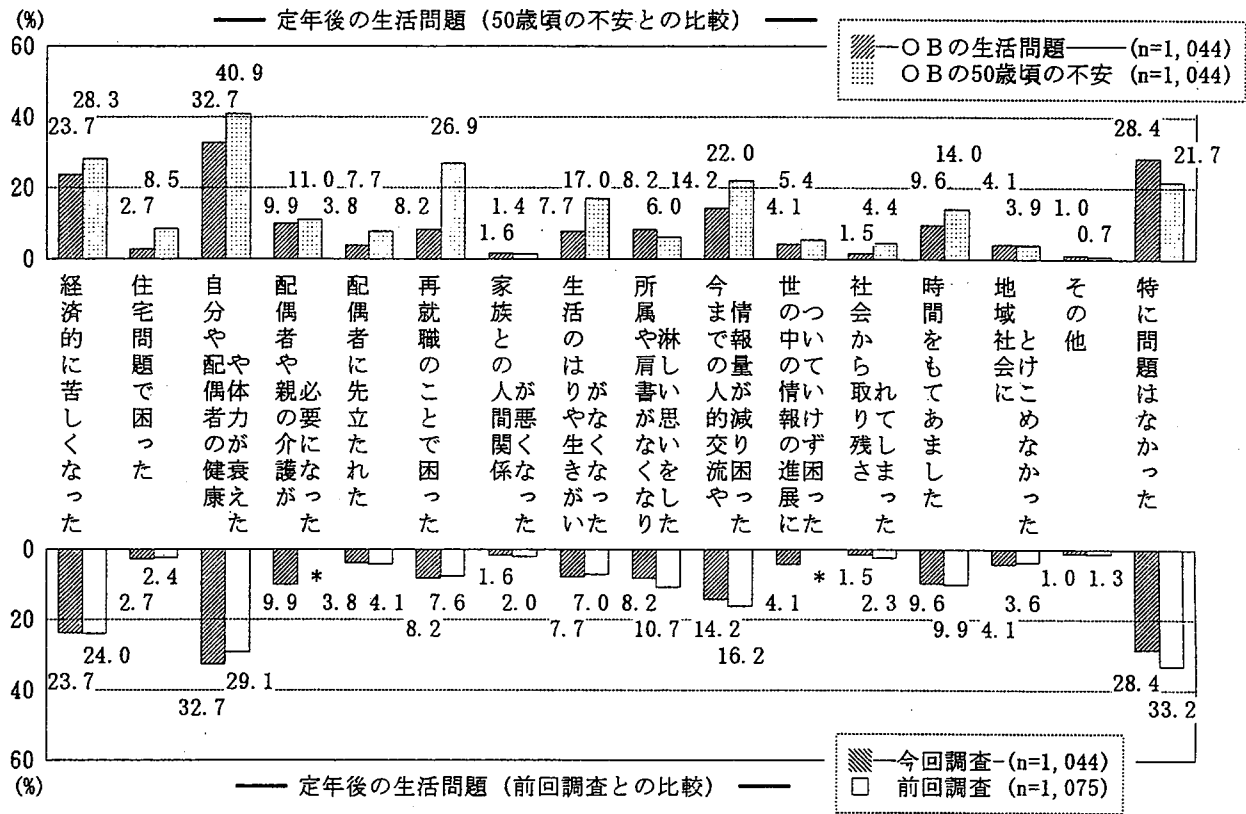
定年後に何らかの問題があったという人（65.4%）は定年前に感じていた不安（74.0%）に比べて約9ポイント少ない。生活問題の内容をみても、多くの問題が予想していた不安の比率を下回っている。特に「再就職のことで困った」は、不安では26.9%で第3位にあがっていたが、実際の経験では8.2%で、予想の3分の1未満となっている。そのなかにあって、「所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした」（予想6.0%、実際8.2%）が、定年前に感じた不安を若干上回っているのは特徴的である。

また、OBが経験した生活問題を前回調査と比較すると、何らかの問題があった人（今回65.4%、前回61.1%）は約4ポイント増加している。問題の内容では、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」（今回32.7%、前回29.1%）が若干増加している以外には顕著な変化はみられない。（図表5-3-7）

サラリーマンOBの配偶者が感じたOB本人の生活問題をみると、本人の回答に比べ、「時間をもてあました」は3ポイント程度多く、「今までの人的交流や情報量が減って困った」

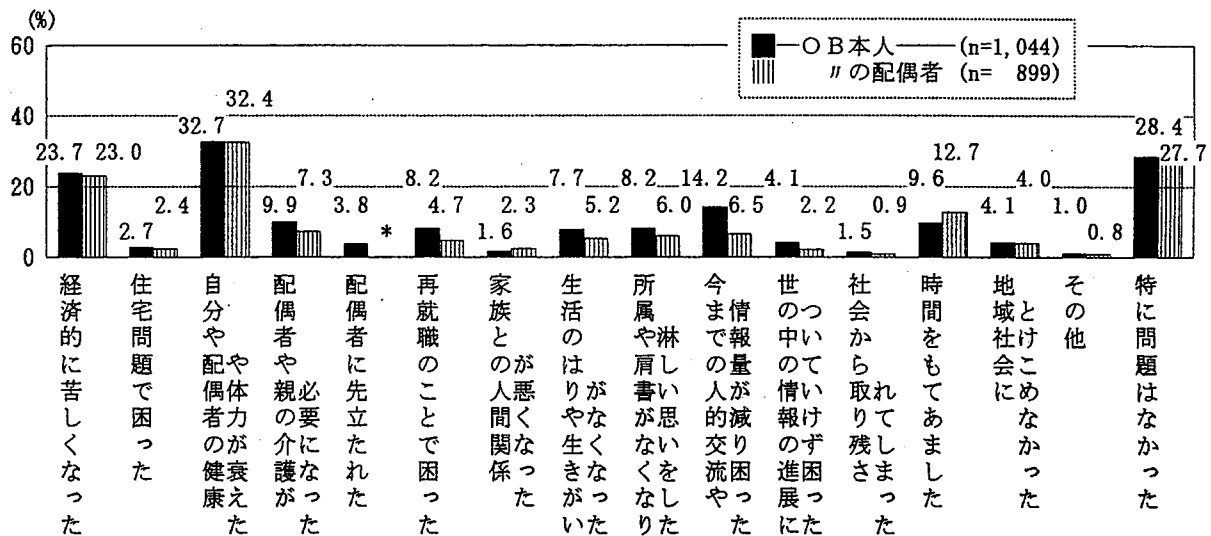
「再就職のことで困った」は4～8ポイント程度少ない。他の項目の回答率は概ね本人の回答率と同程度である。（図表5-3-8）

図表 5-3-7 O Bの定年後の生活問題（50歳頃の不安との比較、前回調査との比較；複数回答）



(注) *印は、今回調査で新たに設定した選択肢。

図表 5-3-8 O Bの定年後の生活問題（配偶者との比較；複数回答）



(注) *印は、本人調査のみの選択肢。

就業状況別にみると、定年後に何らかの生活問題があった人は、有職（58.8％）に比べて無職（71.8％）の方が13ポイント多い。有職のなかでは、常勤、自営業・自由業等と比べ、嘱託・パート等、内職・シルバー人材センター等が10ポイント以上多い。問題の内容をみると、有職に比べて無職では「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」「今までの人的交流や情報量が減って困った」「時間をもてあました」ことを経験した人が6～7ポイント多くなっている。

定年後に何らかの生活問題があった人は、女性（61.5％）に比べて男性（66.2％）の方が約5ポイント多い。問題の内容をみると、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」「再就職のことで困った」「今までの人的交流や情報量が減って困った」「所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした」「時間をもてあました」は、男性が女性を6～12ポイント程度上回っている。これに対して、「配偶者や親の介護が必要になった」「配偶者に先立たれた」「生活のはりや生きがいがなくなった」は、女性が男性を4～7ポイント程度上回っている。

定年後の生活問題は、50歳頃に定年後の生活設計がどの程度準備されていたかによって、違いがみられる。定年後に何らかの問題に直面した人は、生活設計がほとんどできていたという人では42.0％であるが、その他の人では60～70％程度みられる。特に違いが大きいのは「経済的に苦しくなった」「今までの人的交流や情報量が減って困った」「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」である。定年後の生活設計がほとんどできていたという人を除く他の人々の間では傾向に大きな違いはみられない。

また、定年後の生活問題は生きがいの有無との間にも関連がみられる。何らかの生活問題に直面している人は、現在生きがいを持っている人（63.7％）に比べて、生きがいを持っていない人（74.7％）の方が10ポイント強多くなっている。ほとんどの項目で生きがいを持っている人に比べて持っていない人の回答が多く、当然のことながら、特に「生活のはりや生きがいがなくなった」では25ポイント以上の差がみられる。「経済的に苦しくなった」「地域社会にとけこめなかった」についても、生きがいを持っていない人の方が7～8ポイント程度回答が多い。反対に、生きがいを持っている人の方に多い項目としては、「所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした」（生きがいあり 8.4％、生きがいなし 4.2％）があげられる。（図表5－3－9）

図表 5-3-9 O Bの定年後の生活問題

(就業状況別、性別、生活設計の有無別、生きがいの有無別；複数回答)

(%)

		標 本 数	問 題 が あ っ た 小 計	自 分 や 配 偶 者 の 体 力 が 衰 え た	経 済 的 に 苦 し く な っ た	今 ま で の 人 的 交 流 や	配 偶 者 や 親 の 介 護 が 必 要 に な っ た	時 間 を も て あ ま し た	再 就 職 の こ と で 困 っ た	所 属 や 淋 しい 思 い を し た	生 活 の は り が な く な っ た	特 に 問 題 は な か っ た
O B 全 体		1,044	65.4	32.7	23.7	14.2	9.9	9.6	8.2	8.2	7.7	28.4
就 労 状 況 別	有職 小計	500	58.8	29.0	22.4	11.2	9.4	6.6	8.2	8.8	5.4	32.4
	常勤	166	51.2	26.5	18.7	7.8	12.7	3.0	5.4	5.4	1.2	35.5
	嘱託・パート等	205	64.4	31.7	26.8	13.7	6.3	7.8	10.7	12.7	8.3	28.8
	自営業・自由業等	61	54.1	23.0	18.0	11.5	8.2	1.6	4.9	4.9	1.6	41.0
	内職・シルバー人材センター 無職	68	64.7	32.4	22.1	11.8	11.8	16.2	10.3	8.8	10.3	27.9
性 別	男 性	869	66.2	34.8	23.8	15.1	8.9	10.6	9.4	9.2	7.1	28.0
	女 性	161	61.5	22.4	22.4	9.3	15.5	4.3	2.5	3.7	11.2	31.7
生 活 設 計	できている	50	42.0	16.0	12.0	4.0	6.0	4.0	2.0	6.0	-	50.0
	お程度できている	169	66.3	30.2	21.3	15.4	13.6	8.3	5.9	10.1	3.6	31.4
	考えてはいる	207	65.7	39.6	23.2	13.5	13.0	7.2	8.2	5.8	7.2	29.0
	あまり考えていない	491	72.1	35.6	27.9	16.3	8.6	11.6	10.6	9.0	10.2	23.8
生 が き い	持っている	888	63.7	32.2	22.4	13.9	9.7	8.3	8.3	8.4	5.3	30.7
	今は持っていない	95	74.7	35.8	29.5	11.6	11.6	12.6	8.4	4.2	30.5	11.6

(注) 問題内容は主なもの（全体が5%以上）のみ回答率の多い順に表示した。無回答は表示省略。

第6章 定年退職に向けての条件整備

6・1 個人的対応

〔個人として必要な準備〕

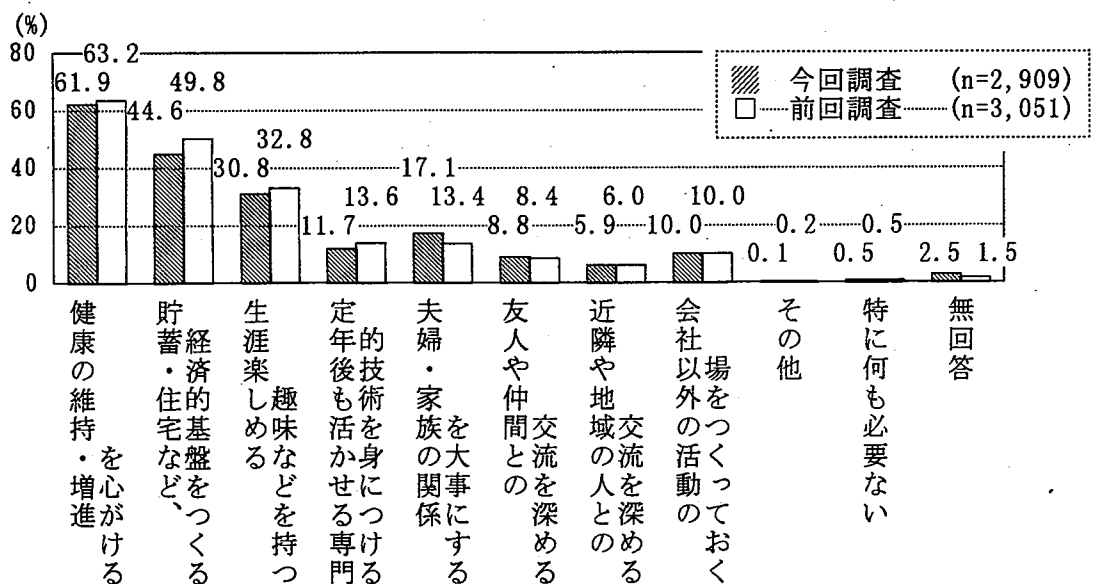
個人として、定年前にどのような準備が必要か、主なもの2つを回答してもらった。「健康の維持・増進を心がける」(61.9%)、「貯蓄・住宅など経済的基盤をつくる」(44.6%)など、現役の生活不安、OBの生活問題に対応する、健康面、経済面の準備への回答が多くなっている。以下、「生涯楽しめる趣味などを持つ」(30.8%)、「夫婦・家族の関係を大事にする」(17.1%)などが続いている。

前回調査と比較すると、今回調査では「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」がやや減少しており、「夫婦・家族の関係を大事にする」が若干増加している。(図表6-1-1)

現役とOBを比較すると、「会社以外の活動の場をつくっておく」「夫婦・家族の関係を大事にする」は現役の方が若干多く、「生涯楽しめる趣味などを持つ」はOBの方に若干多い。

性別にみると、「定年後も活かせる専門的技術を身につける」「夫婦・家族の関係を大事にする」は男性に多く、「生涯楽しめる趣味などを持つ」「友人や仲間との交流を深める」は女性に多くみられる。(図表6-1-2)

図表6-1-1 定年退職に向けて必要な個人的対応
(前回調査との比較；2つまでの複数回答)



図表 6-1-2 定年退職に向けて必要な個人的対応
(現役・OB別, 性別; 2つまでの複数回答)

(%)

		標本数	健康の維持・増進 を心がける	貯蓄・住宅など、 経済的基盤をつくる	生涯楽しめる 趣味などを持つ	定年後も活かせる専門 的技術を身につける	夫婦・家族の関係を 大事にする	友人や仲間との 交流を深める	近隣や地域の人の 交流を深める	会社以外の活動の 場をつくっておく	その他	特に何も必要ない
全 体		2,909	61.9	44.6	30.8	11.7	17.1	8.8	5.9	10.0	0.1	0.5
定 年	サリマン現役	1,832	62.1	46.3	29.4	11.9	18.3	8.4	5.7	11.3	0.1	0.5
	サリマンOB	1,044	62.1	42.5	33.2	11.5	15.1	9.8	6.1	7.8	-	0.5
性 別	男 性	2,296	61.5	45.2	29.4	12.8	18.5	8.0	6.3	10.1	0.1	0.5
	女 性	547	63.1	43.1	36.6	7.9	11.3	12.2	4.9	10.4	-	0.4

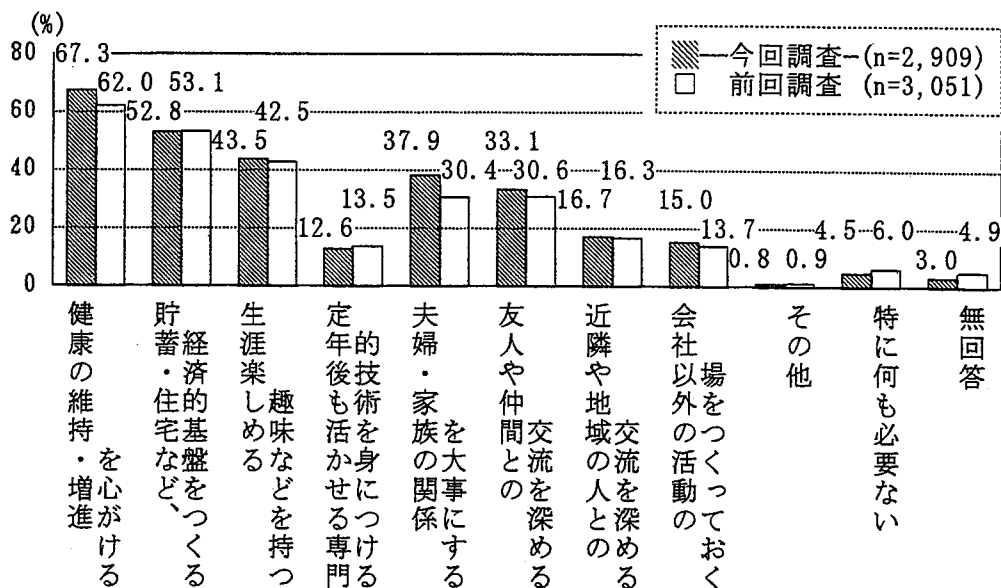
(注) 無回答は表示省略。

〔実際の準備〕

実際には定年前にどのような準備をしているか(していたか)を回答してもらった。個人として必要だと思う準備と同様、「健康の維持・増進を心がける」(67.3%)、「貯蓄・住宅など経済的基盤をつくる」(52.8%)、「生涯楽しめる趣味などを持つ」(43.5%)が上位にあがっている。

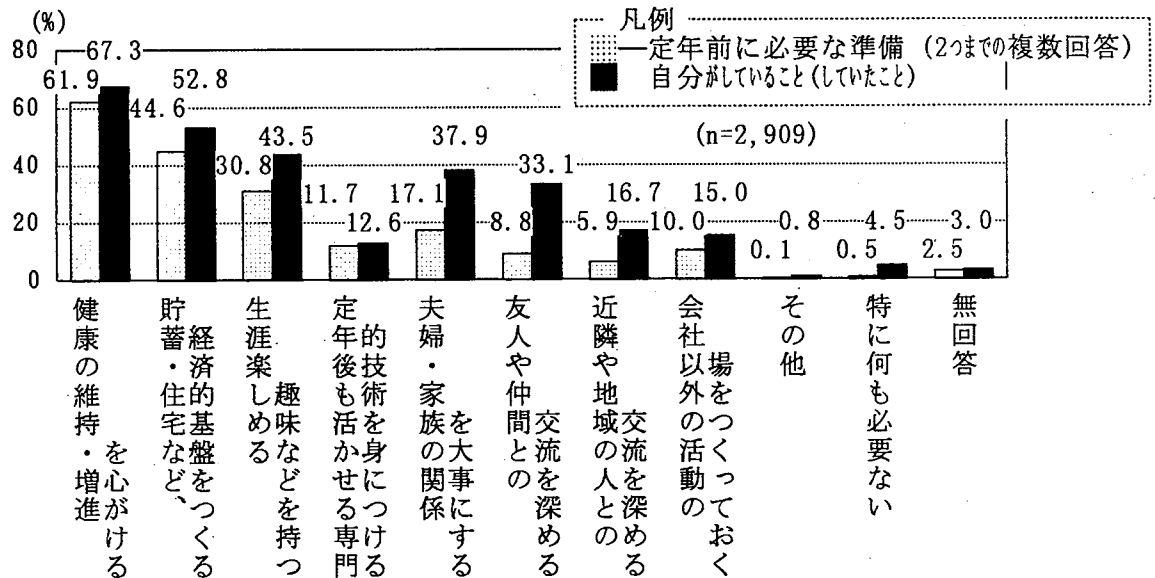
前回調査と比較すると、「夫婦・家族の関係を大事にする」が約8ポイント増加している。これは、必要だと思う準備と同様の傾向である。(図表6-1-3)

図表 6-1-3 実際にやっている(行っていた)個人的対応(前回調査との比較; 複数回答)



実際に行っている準備を必要だと思う準備と比較すると、必要だと思う準備では主なもの2つまでの回答であったため、すべての項目で実際の準備の回答率の方が高くなっている。特に、「夫婦・家族の関係を大事にする」「友人や仲間との交流を深める」は実際の準備の方が20～25ポイント多い。（図表6-1-4）

図表6-1-4 個人的対応（必要だと思う準備と実際の準備の比較；複数回答）



6・2 企業の対応

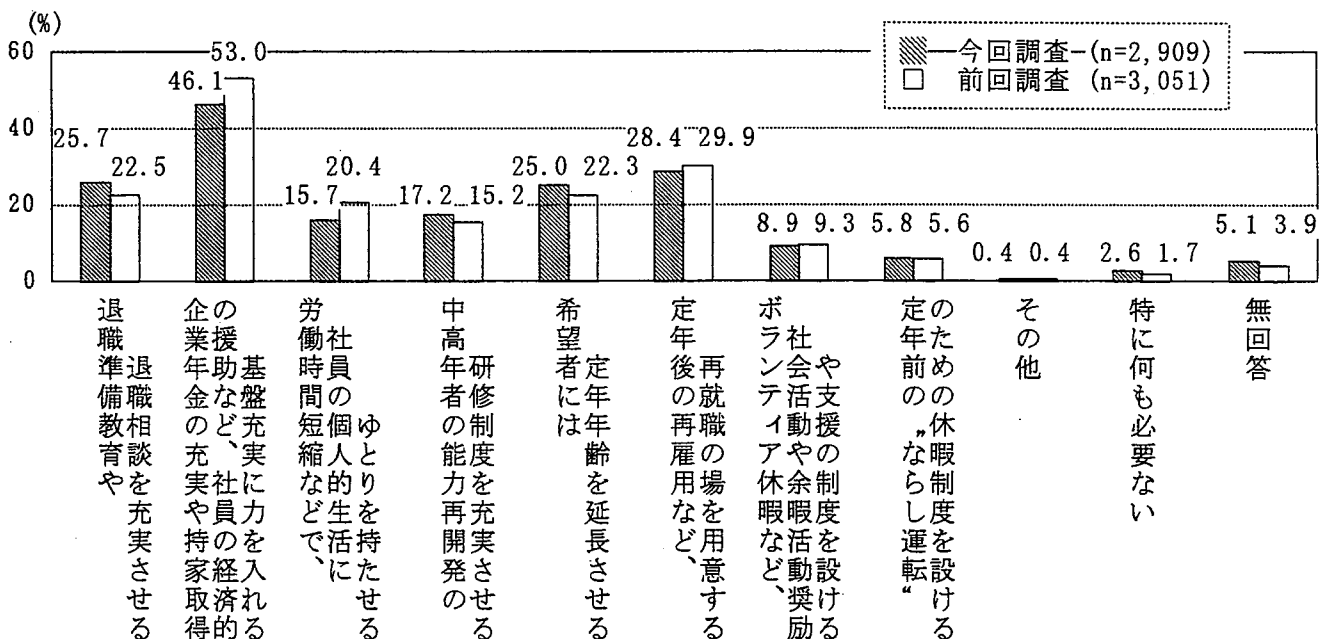
サラリーマンの定年退職に向けて、企業としてはどのような対応が必要か、主なもの2つを回答してもらったところ、「企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる」が46.1%で最も多くなっている。以下、「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」（28.4%）、「退職準備教育や退職相談を充実させる」（25.7%）、「希望者には定年年齢を延長させる」（25.0%）などが続く。

前回調査と比較すると、「社員の経済的基盤充実」（今回46.1%、前回53.0%）、「労働時間の短縮」（今回15.7%、前回20.4%）が減少しており、「退職準備教育や退職相談の充実」（今回25.7%、前回22.5%）が若干増加している。（図表6-2-1）

企業に求める対応は、現役とOBとの間に大きな違いがみられる。現役では、OBに比べて「労働時間の短縮」「ボランティア休暇等」など、仕事以外の活動をするゆとりを得ることへのニーズが高い。一方、OBでは、現役に比べ「再雇用・再就職」「定年延長」が多く、現行の定年年齢以降の雇用・就業に対するニーズが高くなっている。

性別にみると、「再雇用・再就職」「中高年者の能力再開発の研修」「社員の経済的基盤充実」など就業や経済的安定に関する項目への回答は男性の方が多く、「労働時間の短縮」という時間的ゆとりに関する項目への回答は女性に多い。（図表6-2-2）

図表6-2-1 定年退職に向けての企業の対応（前回調査との比較；2つまでの複数回答）



図表 6-2-2 定年退職に向けての企業の対応（現役・OB別，性別；2つまでの複数回答）
（％）

		標 本 数	退 職 準 備 教 育 や 退 職 相 談 の 充 実	充 実 に 力 を 入 れ る 社 員 の 経 済 的 基 盤	で 生 活 に ゆ と り を 労 働 時 間 短 縮 な ど	中 高 年 者 の 能 力 再 開 発 の 研 修 制 度	希 望 者 に は 定 年 年 齢 を 延 長 さ せ る	定 年 後 の 再 雇 用 な る	ど の 場 を 用 意 す る	ボ ラ ン テ ィ ア 休 暇	等 の 制 度 を 設 け る	定 年 前 の 休 暇	制 度 を 設 け る	そ の 他	特 に 何 も 必 要 な い	
全 体		2,909	25.7	46.1	15.7	17.2	25.0	28.4	8.9	5.8	0.4	2.6				
定 年	サ リ ー マ ン 現 役	1,832	25.1	44.6	19.2	17.4	22.8	24.5	10.6	7.0	0.3	2.7				
	サ リ ー マ ン 〇 Ｂ	1,044	27.1	48.9	9.9	16.9	29.4	35.2	5.9	3.9	0.5	2.5				
性 別	男 性	2,296	26.8	47.6	13.8	18.3	25.4	30.1	8.4	5.9	0.4	2.4				
	女 性	547	21.9	42.0	23.9	12.6	24.3	23.4	11.5	5.5	0.2	3.5				

（注）無回答は表示省略。

6・3 社会的対応

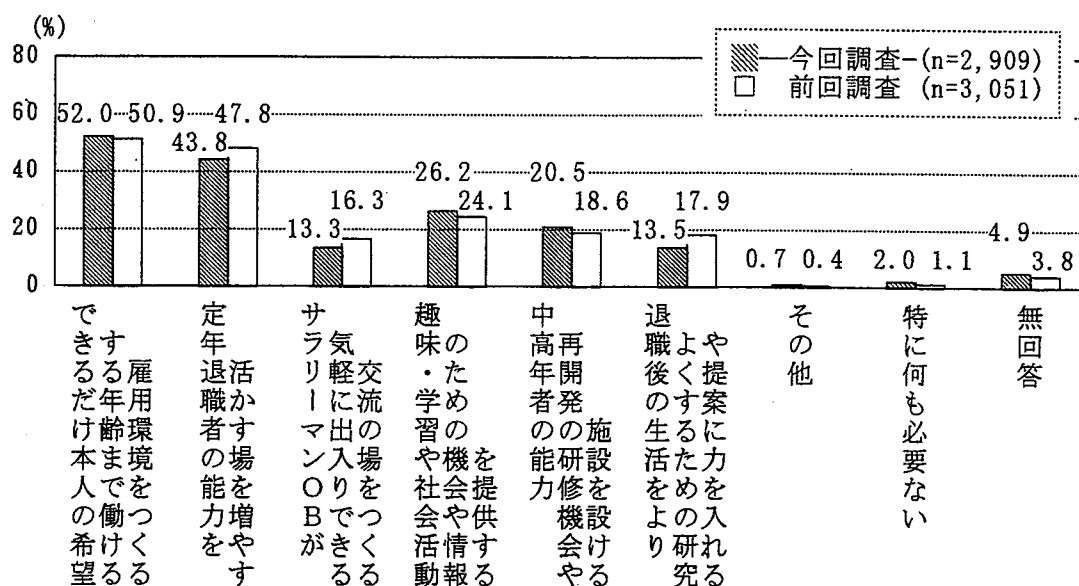
社会としてはどのような条件整備が必要か、主なもの2つを回答してもらった。「できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」が52.0%で最も多く、次いで、「定年退職者の能力を活かす場を増やす」(43.8%)、「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する」(26.2%)などが続いている。

前回調査の結果と比較しても顕著な差はみられない。(図表6-3-1)

現役・OB別にみると、「趣味・学習等の機会や情報提供」「中高年者の能力再開発の研修機会・施設」は、OBに比べて現役の方が5ポイント程度多い。これに対してOBでは「希望年齢まで働ける雇用環境」が10ポイント弱、「OBの交流の場」が6ポイント、現役に比べて多くなっている。

性別にみると、「希望年齢まで働ける雇用環境」は男性が、「趣味・学習等の機会や情報提供」は女性が、それぞれ他を5ポイント前後上回っている。(図表6-3-2)

図表6-3-1 定年退職に向けての社会的対応(前回調査との比較; 2つまでの複数回答)



図表 6－3－2 定年退職に向けての社会的対応（現役・OB別，性別；2つまでの複数回答）
(%)

		標本数	希望する年齢まで働ける雇用環境	定年退職者の能力を生かす場	サラリーマンOBの交流の場	機会や情報の提供 趣味や社会活動の	開発の研修機会等 中高年者の能力再	退職後の研究や提案 生活のよ	その他	特に何も必要ない
全 体		2,909	52.0	43.8	13.3	26.2	20.5	13.5	0.7	2.0
定 年	サラリーマン現役	1,832	48.7	43.4	11.1	28.1	22.3	14.2	0.8	2.1
	サラリーマンOB	1,044	58.1	45.0	17.1	22.8	17.4	12.5	0.5	2.0
性 別	男 性	2,296	53.5	44.4	13.4	25.7	21.1	13.9	0.7	1.9
	女 性	547	47.3	43.9	13.2	30.0	18.1	12.2	0.5	2.4

（注）無回答は表示省略。

6・4 その他の対応

定年退職に向けて、または定年後の生活をよりよくするための意見、提案等を自由記入で回答してもらった。多くの回答のなかから、既に前節までにみた、選択肢で示したものと同様の回答は除き、主な意見を以下に事例として記載する。

〔個人的対応〕

(7) 就業

- 自分に合った仕事に関係する資格免許を取得すること。(OB、男性、58歳)
- 作業能力をつけそれを維持すれば、契約社員として必然的に雇用延長される。定年は個人が決めるもので、企業が決めるものではない。(一、男性、63歳)

(4) 社会活動

- ボランティア活動等、社会に貢献する。(現役、女性、46歳)
- 地球環境保全活動。高度経済成長下での環境破壊の穴埋めを高齢者のパワーで修復したい。(現役、男性、54歳)
- 町内会や自治会のお役にたちたい。(現役、男性、48歳)

(5) 趣味等

- 夫婦2人の共通の趣味を見出し、外に出ることが必要。共通の労働(園芸等)も必要である。(OB、男性、68歳)
- 趣味は若いうちから、1人で行う趣味と仲間でする趣味の2本立てがよい。(OB、男性、70歳)

(I) 地域・家庭

- 会社人間から脱却し、家庭や地域を重視した交流等に努めること。(OB、男性、66歳)
- 年金等を家族全員で考えて楽しく使うなど、自分でひとりじめしないことが大切。
(OB、男性、68歳)
- 子離れすること、子どもと別居すること。(OB、男性、61歳)
- 親子共同で生活した方がよい。定年退職者は若さを保てるし、子ども、孫の教育にも良い影響を与える。(現役、男性、46歳)

(6) 意識・行動・その他

- 常にプラス思考での行動。(現役、男性、63歳)
- 達成感の体験を多く持つよう意識すること。(OB、男性、69歳)

- 宗教や倫理団体、またはボランティアなどによって心境の向上を図っておき、より豊かな生活を自らつくる心がけが大切。（OB、男性、64歳）
- 就業中に仕事を通じて人間としての自信をつける。（OB、男性、68歳）
- 年間スケジュール表をつくり実行されているかチェックするなど、生活に目標を持ち、その実行に努力すること。（OB、男性、61歳）
- 退職後は1日の生活のリズムをつくる必要がある。（OB、女性、66歳）
- 仕事、趣味等なんでもよいので、熱中できるものを持つ。（OB、男性、66歳）
- 自分らしい生き方。（現役、男性、50歳）
- 定年退職10年前より定年後の計画が必要。（現役、男性、57歳）

〔企業の対応〕

(7) 就業

- 公的資格等が活用できる登録型の企業の設置。（現役、男性、56歳）
- 専門分野で仕事をした退職者の、他社への紹介など、定年退職者の活躍できる体制づくりが必要。（現役、男性、48歳）
- 退職後の出向などで、出向先を逆指名できるとよい。（OB、男性、59歳）
- 定年退職者でも一人前に仕事ができるものには正当な賃金を支払ってほしい。年金受給者だから安い賃金でいいんだ、という企業が多い。（OB、男性、71歳）
- 現在、職場では定年退職者も他の社員と同様の1工員として考えられているが、現役に比べると作業が遅くペースが合わない。高齢者専用の作業場が必要。（現役、男性、42歳）

(4) 保険・年金等

- 健康保険制度の延長・充実。（OB、男性、65歳）
- 公的年金等の制度を従来通りの十分なものにしてもらいたい。現状では支給年金が順次引き上げられる傾向にあるが、その対策として、企業の負担を多くすべきである。（現役、男性、53歳）
- 定年退職前に、退職後の年金、医療制度、保険、税金等に関する詳細な説明会が必要。（OB、男性、69歳）

(ウ) 社会活動・生涯学習

- 業務内に地域活動を義務づける。（OB、女性、65歳）
- 在職中に全力投球し定年でアウトというのではなくゆるやかなクールダウン期間があった方がスムーズな着陸ができる。健康教室、余暇活動教室などの開催が必要。（OB、男性、61歳）

○在職中から業務以外の分野を学習する社内教育を充実すべき。(OB、男性、64歳)

(I) 交流等

○OBとの交流を積極的に進める企画。(OB、男性、61歳)

○退職者OB会の育成に積極的な支援を行い、退職後も気軽にサークル活動に参加できる環境づくりをしていく必要がある。(OB、男性、69歳)

○定年退職時に、退職者の在職中の企業への貢献度を正に評価すること。退職後の会社に対する愛着心に影響する。(OB、男性、62歳)

(オ) その他

○支店、営業所のある会社の場合は、希望する場所で定年をむかえられるよう、定年直前の勤務地変更を可能にしてほしい。(OB、女性、64歳)

〔社会的対応〕

(7) 就業

○シルバー人材センターの充実によるシルバーパワーの活用。(OB、男性、69歳)

○技術、技能、知識を持っている人を登録し、気軽に低価格で、いつでも対応できる組織を市町村単位でつくる。市民等が何かほしい、また何かに困った時に利用できるようにする。(現役、男性、43歳)

○職安等で高齢者に紹介される職種は、高齢者には受け入れにくいものが多い。経済界も低賃金労務コストにこだわり、高齢者に無理な職種の募集をしている。高齢者の職種選択への支援が必要である。(OB、男性、63歳)

○大企業と中小企業の労働条件等の格差の改善。(現役、男性、56歳)

○65歳定年制。(OB、男性、63歳)

○定年退職年齢を法的制度として65～70歳まで引き上げ、若年労働者の負担を軽減させるべきである。(現役、男性、46歳)

(I) 福祉・保健・医療

○出生率の低下と高齢化が進むなかで、福祉施策の充実が必要。(OB、男性、61歳)

○行政機関の福祉サービスの情報提供の充実、福祉相談の充実が必要。(OB、男性、65歳)

○介護制度の公的確立。(現役、男性、59歳)

○医療制度・福祉制度の充実。(現役、男性、42歳)

○苦しみ病人に対する安楽死容認の制度化。(現役、男性、54歳)

- 老後の健康のための学習をさせて、自らの力で健康をつくる環境を整え、医療費の無駄を無くし、健康者サークル活動を充実させる。（ＯＢ、男性、62歳）
- 40歳を過ぎたころから、体力が下降ぎみとなる。40歳からの体力づくりのできる施設が必要である。（一、男性、42歳）
- 健康相談ができる施設の充実。（現役、男性、56歳）
- 精神面充実のため、気軽にカウンセリングを受けられる場が必要である。（現役、女性、59歳）

（ウ）保険・年金等

- 年金制度の改善、充実。（現役、男性、42歳）
- 企業年金、個人年金の税制上等の優遇策を充実させる必要がある。（現役、男性、40歳）
- 国民年金、厚生年金、共済年金などの公的年金を一元化する。（現役、男性、53歳）
- 40歳～50歳くらいを対象に個人年金の重要さの教育必要。（ＯＢ、男性、74歳）

（エ）社会活動

- 50歳くらいよりボランティア活動に興味を覚えさせる教育や活動への支援。（ＯＢ、男性、74歳）
- 夫婦で社会に貢献できるボランティア活動の場やボランティア情報を提供する施設の設置。（現役、男性、47歳）

（オ）生涯学習

- 中・高齢者の社会不適応、世代間不適応等が見られる。適応力向上のための生涯学習を行政的に義務づける方向が必要。（現役、男性、49歳）
- 行政で行っている趣味の講座等は平日の昼間が多いため、働いているものにとっては参加できない。休日開催を望む。（現役、女性、46歳）
- 大学の入学条件の緩和。（現役、男性、41歳）

（カ）交流等

- 会社人間は地域のことを知らないため、自治体等がスタンプラリー、見学会、体験学習等を企画し、地域への参加のチャンスを多くするとよい。（現役、男性、57歳）
- シルバー人材と子どもの交流の場の設置。（現役、男性、42歳）

（キ）その他

- 他人頼り、お上頼り、会社頼りの人が多いため、個人の自助努力の重要性を認識させる教育を小学校教育から実施する。（現役、男性、54歳）
- のんびり、気長に一日を過ごせるような施設の設置。（ＯＢ、男性、64歳）

- 比較的安い費用で入居できる有料老人ホームの建設。（OB、男性、58歳）
- 高齢者がもっと外へ出かけやすくするために、交通機関、映画館、ゴルフ場、レストラン等料金の割引制度の充実。（一、男性、48歳）
- 欧米諸国と同様、バカンス制度を普及させるべき。真のゆとりを自己演出する機会の提供のため。（現役、男性、40歳）

第7章 世代による差の検討

「調査実施概要」で既述のとおり、今回調査ではサラリーマンシニアの生活や生きがいについて、“社会経済状況の変化による影響の把握”と“世代による差の把握”を行うことを主要なテーマとしている。このうち社会経済状況の変化による影響については、前章までに前回調査との比較により検討してきたところである。

本章では、前回調査と今回調査で共通に質問した項目について、コーホート分析により世代による差の検討を行う。また、団塊世代（1947年～1949年生まれ）がそれ以前の世代と異なる特徴的な世代であるとの仮説のもとに、団塊前の世代と団塊世代、団塊以降の世代の共通点と相違点についても、検討を試みた。

世代による差の検討にあたっては、2つの調査時点間の、同一コーホート（同一期間に出生した回答者の集団）及び同一年齢階級の結果の変化と、それぞれの調査における年齢階級の傾向を考え合わせ、2つの調査間の結果の違いが社会経済環境の変化による時系列変化なのか、世代による変化なのか、また加齢に伴う変化なのかを検討していく。ただし、今回比較可能な時点は2つの調査時点に限られるため、分析にあたっては、全体的な傾向をみるにとどめることとする。

また、コーホート及び年齢階級の区分は基本的には5歳階級（5年階級）でみていくが、団塊世代の特徴を把握するため、1947年～1949年生まれのコーホート（今回調査時点で47～49歳、前回調査時点で42～44歳）についても検討を加える。

【調査対象者の年齢と世代】

前回調査 (平成3年)	今回調査 (平成8年)		
35～39歳	35～39歳	1957～61年生	} ポスト団塊世代
40～44歳	40～44歳	1952～56年生	
45～49歳	45～49歳	1947～51年生	} 団塊世代 (1947～49年生)
50～54歳	50～54歳	1942～46年生	
55～59歳	55～59歳	1937～41年生	} プレ団塊世代 (戦前世代)
60～64歳	60～64歳	1932～36年生	
65～69歳	65～69歳	1927～31年生	
70～74歳	70～74歳	1922～26年生	

調査の設計にあたり、仮説として設定した戦後生まれ世代、またこのうちの団塊世代の特徴は以下のとおりである。

以降では、これらの点を中心に世代による差をみていくこととする。

【戦後生まれ世代の特徴（仮説）】

(1) 戦後生まれ世代の特徴 (団塊世代・ ポスト団塊世代等)	①生きがい ○仕事以外の生きがいを持つ人が多い ②夫婦関係 ○配偶者との関係重視、家庭内協力意識強い ③職業・会社に対する意識 ○仕事・会社よりも家庭・地域等重視 ○会社・組織に対する帰属意識の低下 ④定年後のイメージ ○戦前世代に比べ、価値観の違い、年金制度の改革の影響等から定年後のイメージも異なる
(2) (1)のうちの団塊世代 に固有の特徴	○バブル経済の崩壊等に加え、企業内過当競争によりリストラ対象となるなど、経済面で厳しい意識を持つ等

7・1 生きがい

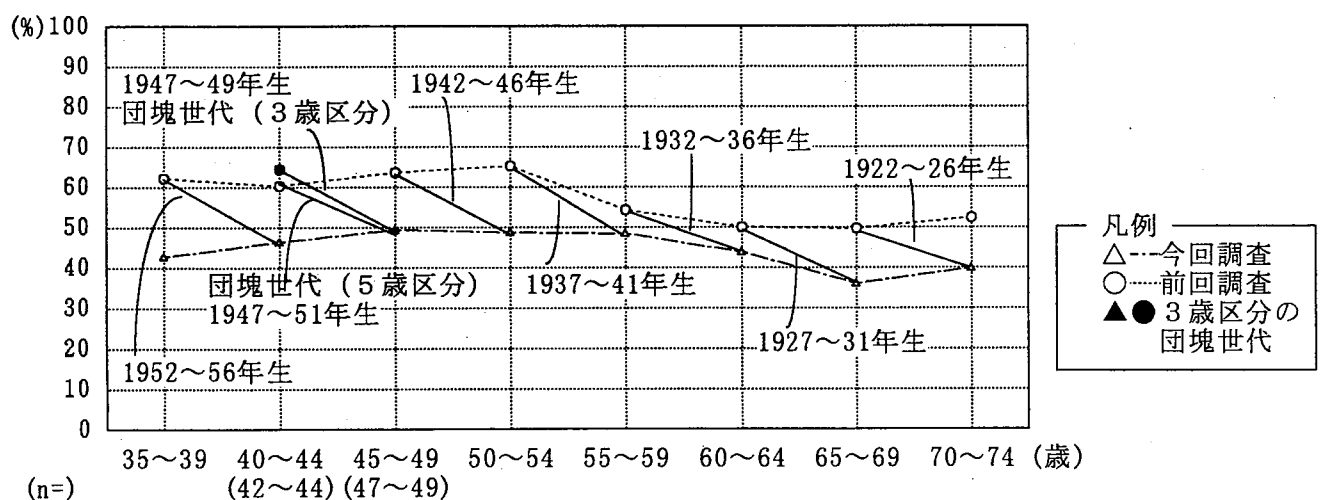
(1) 生きがい構成要素取得の場

生きがい構成要素取得の場については、既述のとおり、全般に「仕事・会社」と「家庭」に回答が集中しており、また前回調査と比較すると、すべての構成要素について「仕事・会社」の場から得ているとする回答が減少している。戦後生まれ世代は、戦前生まれ世代に比べて仕事・会社よりも家庭・地域等を重視し、仕事以外の生きがいを持つ人が多いのではないかとの仮説をふまえ、これらの傾向を同一コーホートごとにみしてみる。

構成要素のうち『生きる喜びや満足感』『人生観や価値観の形成』について、「仕事・会社」から得ていると回答するサラリーマンの比率をみたものが図表7-1-1、図表7-1-2である。これらを見ると、いずれのコーホートでもほぼ同様に減少しており、特に世代による特徴はみられない。また団塊世代に着目すると、『人生観や価値観』に影響を与えているのが「仕事・会社」と回答したサラリーマンの比率について、前回調査で団塊世代にあたる年齢階級（42～44歳）が前後の年齢階級に比べてやや低いという傾向がみられる。しかしながら、今回調査結果と比較したところでは、特に世代による差であるとはいえないことがわかる。

ただし、『生きる喜びや満足感』についてみると、前回調査と今回調査とでは年齢階級別の傾向にやや違いがみられる。仕事や会社から得られる満足感は、働き盛りの中年層で高く、定年前後を境にやや下がることが予想され、前回調査においてはこうした傾向がみられた。しかし、今回調査においては中年層で「仕事・会社」から満足感を得る人が大きく減少しており、年齢階級による差が小さくなっている。（図表7-1-1、図表7-1-2）

図表7-1-1 生きがい構成要素取得の場
[『生きる喜びや満足感』を「仕事・会社」から得ている比率]

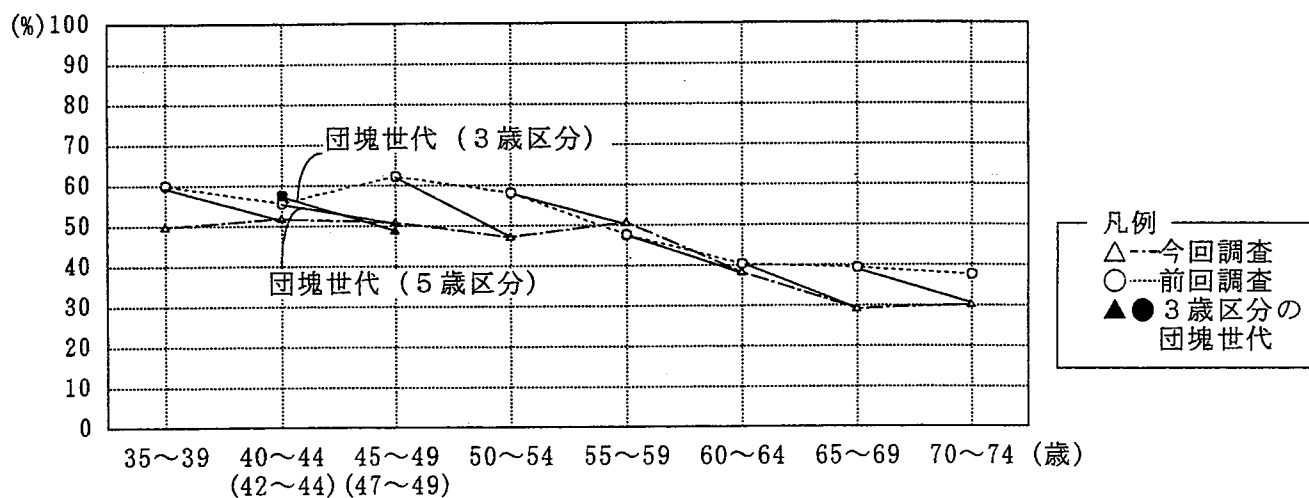


今回調査	262	335	347 (240)	312	385	252	253	73
前回調査	262	420 (275)	359	355	397	286	252	88

(注1) 該当は有職者。

(注2) 図表中の実線は、各コーホートにおける前回調査と今回調査間の変化を示す。(以下同様)
また煩雑さをさけるため、以下の図表では各コーホートの出生年の表記を省略する。

図表 7-1-2 生きがい構成要素取得の場
 [『人生観や価値観』に影響を与えているのが「仕事・会社」の比率]

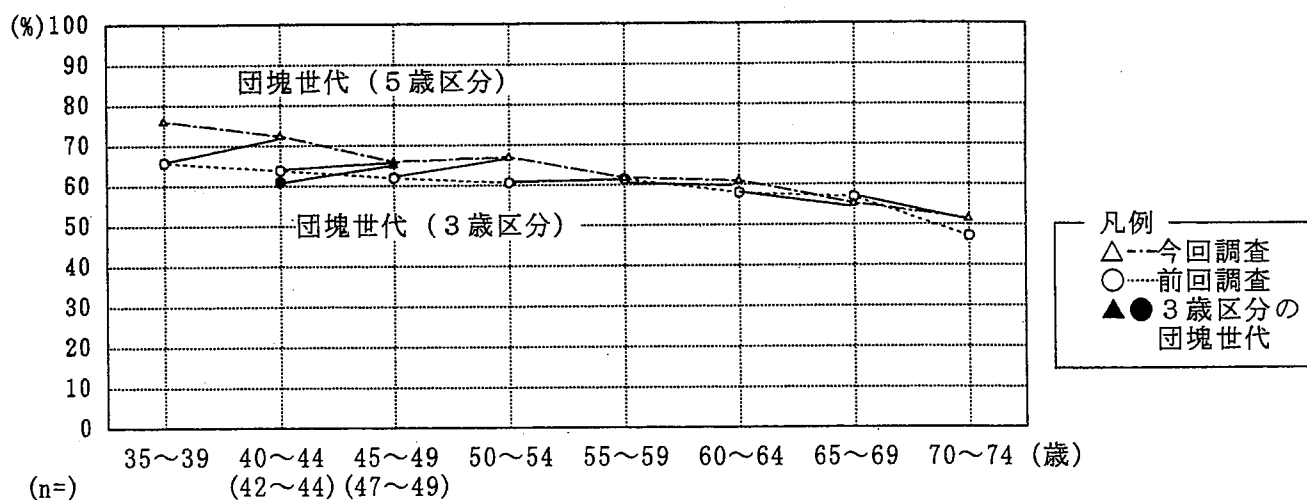


(注) 標本数は図表 7-1-1 参照。

『生きる喜びや満足感』と『人生観や価値観の形成』を「家庭」から得ているという回答をみたものが図表 7-1-3、図表 7-1-4 である。

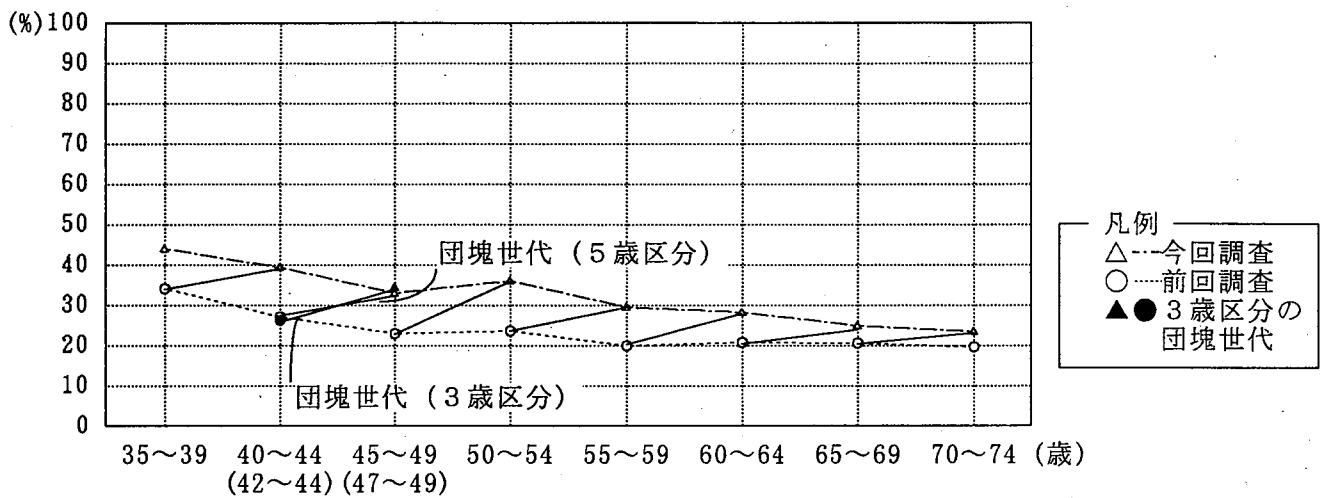
いずれも前回調査、今回調査とも若年層ほどやや高い傾向がみられ、また『人生観や価値観の形成』に影響を与えているのが「家庭」とする回答は、いずれの年齢階級でも前回調査に比べて増加している。ただしコーホートによる違いは特にみられず、団塊の世代に特徴的な傾向もみられない。(図表 7-1-3、図表 7-1-4)

図表 7-1-3 生きがい構成要素取得の場
 [『生きる喜びや満足感』を「家庭」から得ている比率]



今回調査	262	336	348 (241)	314	405	399	521	214
前回調査	265	426 (278)	362	360	425	439	472	230

図表 7-1-4 生きがい構成要素取得の場
[『人生観や価値観』に影響を与えているのが「家庭」の比率]

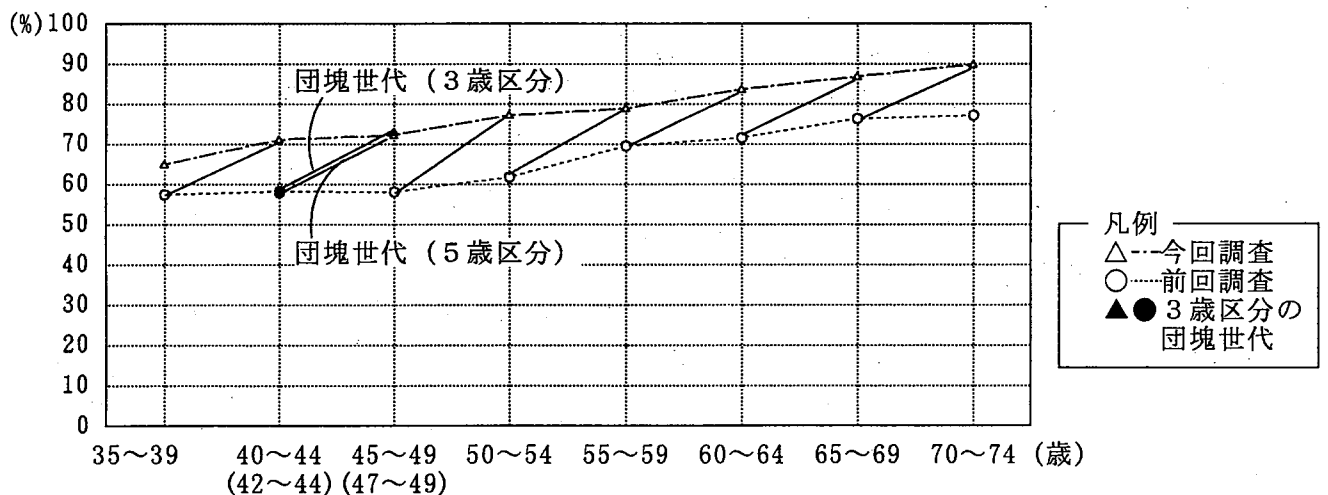


(注) 標本数は図表 7-1-3 参照。

(2) 生きがいの有無

生きがいを「持っている」というサラリーマンは、いずれの年齢階級でも同様に増加しており、世代による差も特にみられない。団塊世代も、前後の世代と比較して特に特徴的な傾向はみられない。生きがいを持つサラリーマンの増加は、社会経済状況の変化に伴う、全ての世代・年齢階級に共通する変化であると思われる。(図表 7-1-5)

図表 7-1-5 生きがいの有無 [《持っている》の比率]



(注) 標本数は図表 7-1-3 参照。

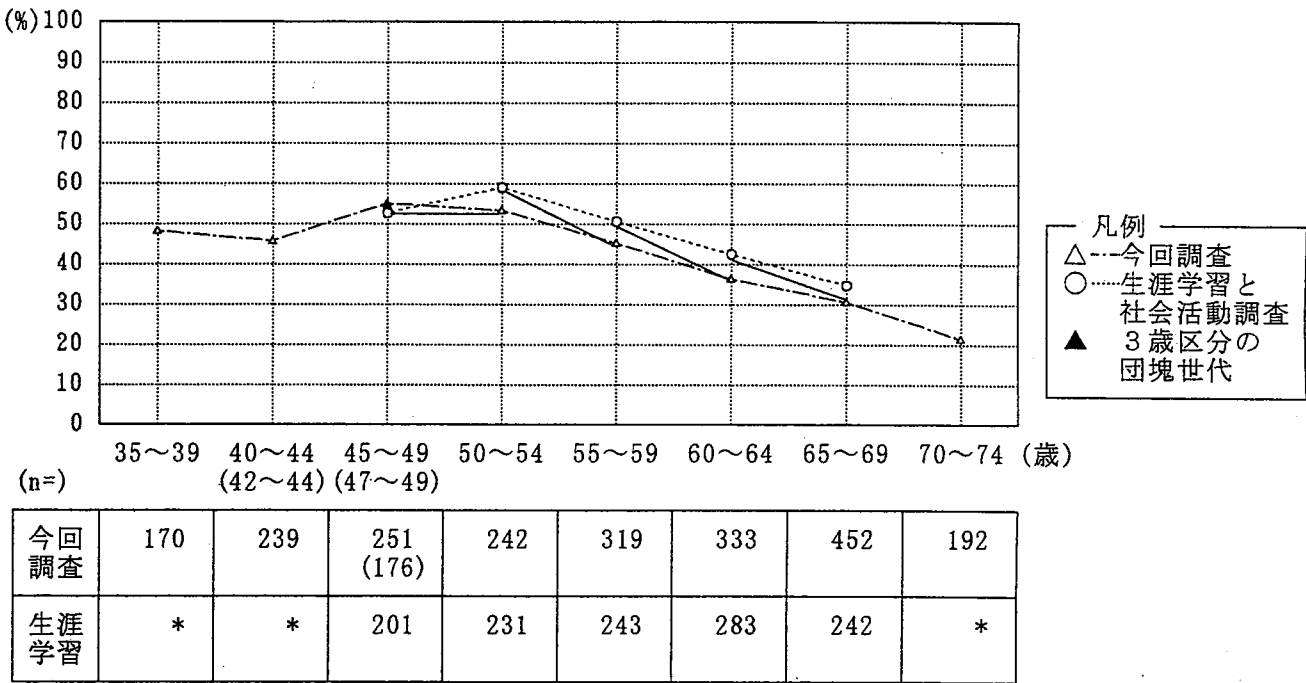
(3) 生きがいの内容

生きがいの内容は今回調査で新たに質問した項目のため、「仕事」を生きがいと回答したサラリーマンの比率について、参考までに「生涯学習と社会活動調査」と比較したものが図表 7-1-6 である。

今回調査結果からは、団塊世代にあたる 47~49 歳で「仕事」を生きがいとするサラリーマン

が最も多いとの結果が得られた。比較対象とした「生涯学習と社会活動調査」は45～69歳を対象としているため、この時点での団塊世代の回答比率を確認することはできないが、年齢階級別には47～49歳（今回調査で団塊世代にあたる年齢階級）が前後の年齢階級に比べて高いという傾向はみられない。このことから、前述の今回調査における団塊世代の特徴は、加齢による差ではなく、世代による差である可能性が残される。（図表7－1－6）

図表7－1－6 生きがいの内容〔《仕事》の比率〕

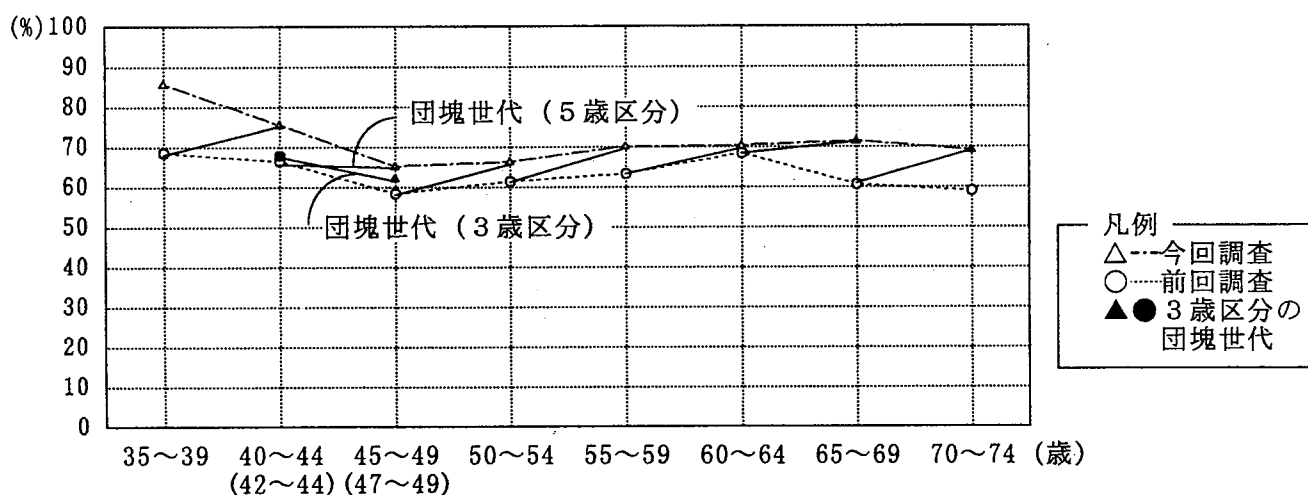


（注）生涯学習と社会活動調査の対象者は45～69歳のため、該当者のいない年齢階級がある。

7・2 夫婦関係

日頃の夫婦関係について、『よく一緒に出かける』というサラリーマンの比率をみると、全体的には今回調査では前回調査に比べてやや高くなっている。また年齢階級別には、前回調査、今回調査とも45～49歳を底として、若年層ほど高くなる傾向がみられ、これはライフステージによるものと思われる。戦後生まれ世代で、特によく行動をともにする夫婦が多いといった、世代による差はみられない。（図表7-2-1）

図表7-2-1 日頃の夫婦関係 [『よく一緒に出かける』に《あてはまる》比率]

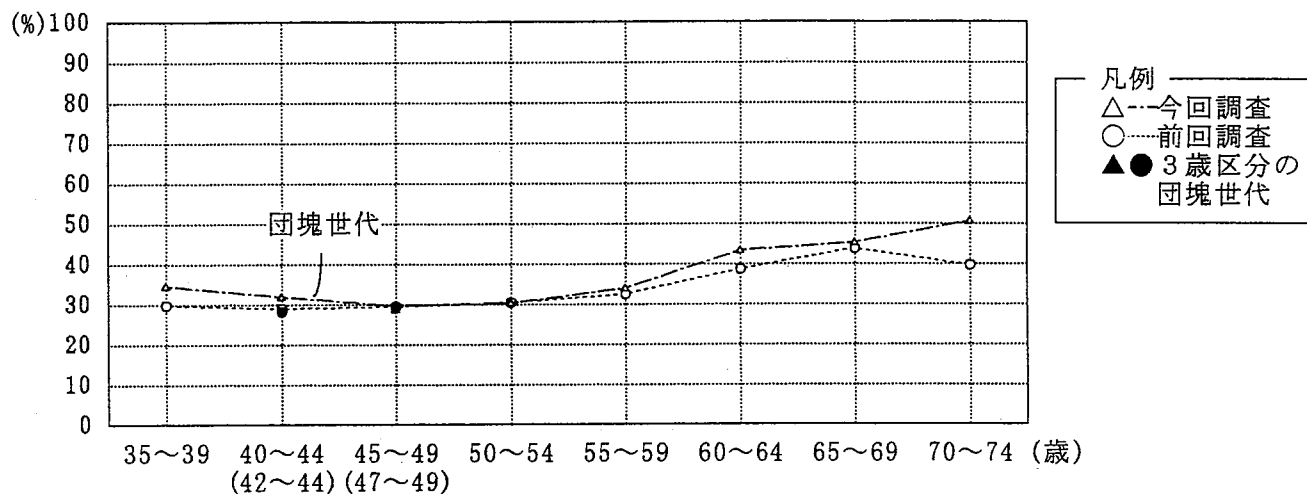


(注) 標本数は図表7-1-3参照。

夫婦間で『家事を分担している』というサラリーマンについてみると、前回調査、今回調査ともに、定年退職者の増える60歳以上で比較的高いという傾向がみられる。戦後生まれ世代が、戦前世代に比べて家庭内での協力意識が強いといった世代による差よりも、定年退職に伴って家庭にいる時間が増えるといった生活の変化による影響の方が大きいものと思われる。

(図表 7-2-2)

図表 7-2-2 日頃の夫婦関係 [『家事を分担している』に《あてはまる》比率]



(注 1) 標本数は図表 7-1-3 参照。

(注 2) 同一コホート間の変化は表示省略。

7・3 会社とのかかわり

(1) 帰属意識

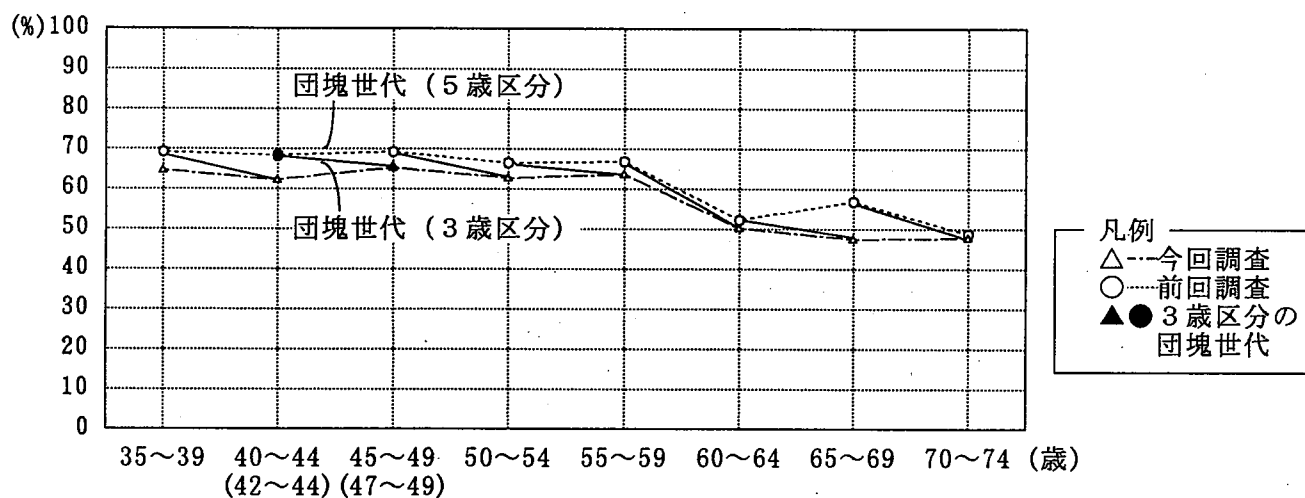
戦後生まれ世代は、戦前生まれ世代に比べ、仕事・会社よりも家庭・地域等を重視する意識が強いのではないかとの仮説があった。しかし、本調査の帰属意識に関する結果をみる限りでは、以下に述べるように、こうした世代による差は特に認められない。

『職業人の立場』を重視すると回答したサラリーマンは、前回調査から今回調査にかけて若干減少しているが、この変化はいずれの年齢階級でも同様にみられる。また、定年退職者の増える60歳以上で比較的低くなっており、60歳未満での年齢階級による差はみられない。

『家庭人としての立場』を重視する人は、いずれの年齢階級でも9割前後みられ、前回調査と今回調査とでもほとんど変化がみられない。

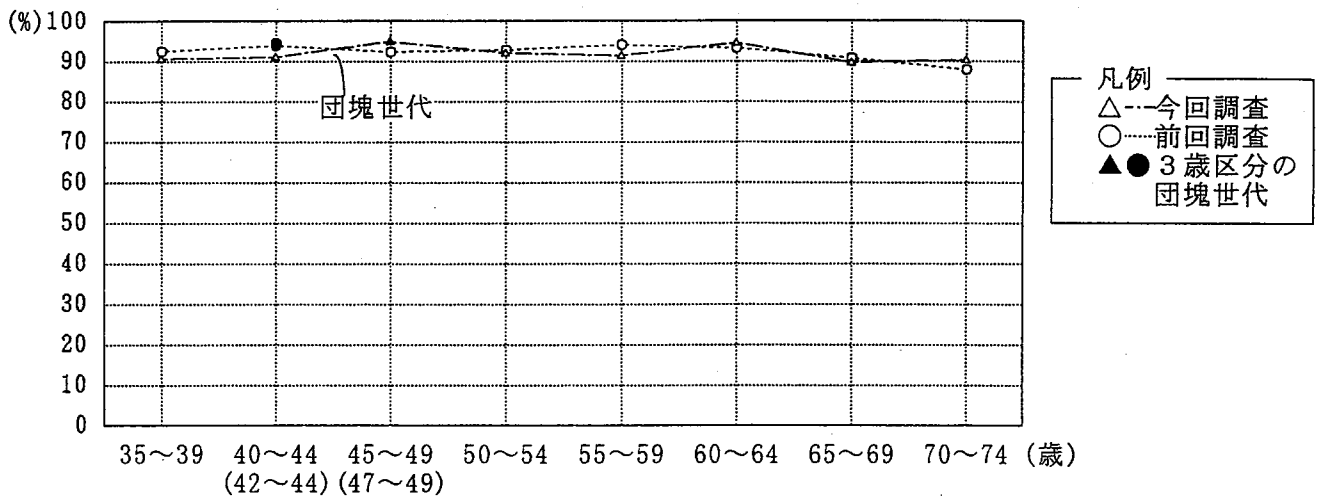
『地域人としての立場』を重視する人は、前回調査、今回調査とも、むしろ年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。また前回調査に比べ、今回調査ではいずれの年齢階級でも若干低くなっている。（以上、図表7-3-1、図表7-3-2、図表7-3-3）

図表7-3-1 職業人としての立場〔《重視している》の比率〕



(注) 標本数は図表7-1-3参照。

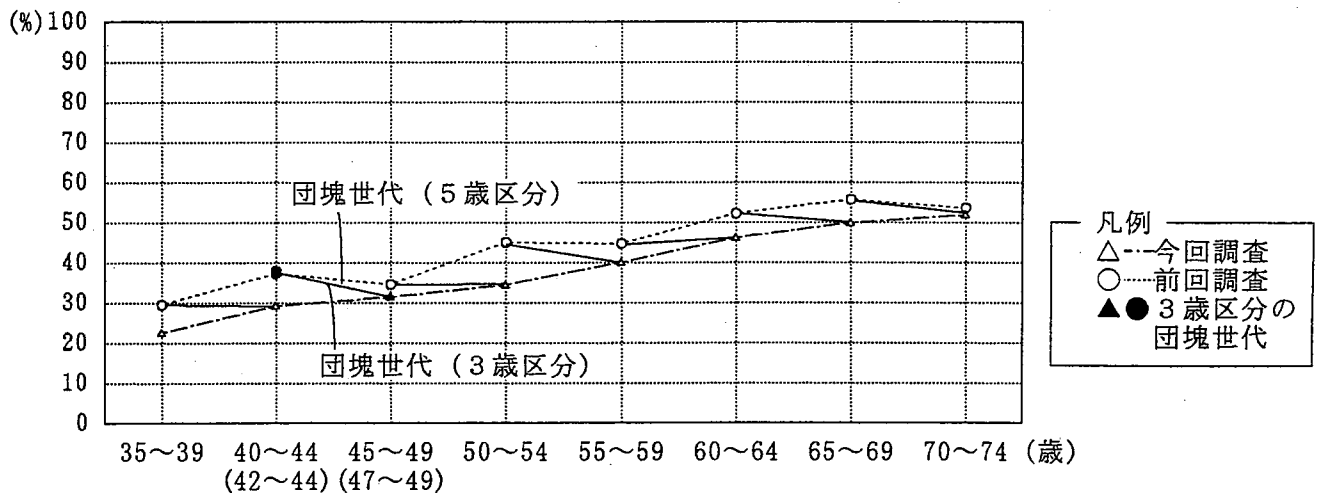
図表 7-3-2 家庭人としての立場 [《重視している》の比率]



(注1) 標本数は図表 7-1-3 参照。

(注2) 同一コホート間の変化は表示省略。

図表 7-3-3 地域人としての立場 [《重視している》の比率]



(注) 標本数は図表 7-1-3 参照。

(2) 会社とのかかわりについての考え方

今回調査で新たに設問した会社とのかかわりについての考え方には、年齢階級による傾向の違いがみられる。

高年齢層に比較的高いものとしては『仕事の中でこそ自己実現』『自分の会社には尽くしたい』『仕事のために生活を犠牲にしてもやむを得ない』があり、逆に若年層に比較的高いものとしては『脱サラを考えたことがある・脱サラしたい』『定年まで会社に勤められるかどうか不安だ』『定年後は会社の世話になりたくない』がある。また、団塊世代にあたる47～49歳では、他の年齢階級に比べて『仕事は生計を立てる手段にすぎない』が高く、『仕事をするからには多少無理をしても出世したい』が低くなっている。さらに『出世より興味ある仕事に専念

したい』は団塊世代、ポスト団塊世代にあたる年齢階級で比較的高くなっている。

全体的に、若い世代ほど会社に対する帰属意識が低く、仕事による自己実現や出世を重視する人が少ない傾向があり、また団塊世代で特にこうした傾向が強いことが推察される。ただし、こうした傾向が年齢階級による差なのか、世代による差なのかは、今後の継続的な調査の結果が待たれるところである。（図表 7-3-4）

図表 7-3-4 会社とのかかわりについての考え方〔《あてはまる》の比率〕
(年齢階級別)
(%)

	標本数	仕事自己実現が図られる	仕事のため計を立段にない	通用する会社でも十能力ある	会社には評価して正に当る	自分の会社にはしたい	脱サラを考えた・したい	上司仕事つき合いたい
全 体	2,909	56.3	63.5	46.4	58.8	76.2	23.2	43.6
35～39歳	262	47.7	61.8	44.7	64.5	67.9	38.5	37.0
40～44歳	336	44.6	66.1	42.0	53.0	70.2	35.7	35.4
45～49歳	348	48.6	70.7	42.0	56.6	75.0	31.0	35.9
50～54歳	241	48.1	70.5	42.7	57.3	77.6	29.9	37.8
55～59歳	314	53.8	67.8	44.6	56.4	77.1	24.2	36.9
60～64歳	405	60.2	63.5	44.4	55.1	79.3	21.0	45.9
65～69歳	399	58.9	62.9	50.6	57.9	79.7	19.0	50.4
70～74歳	521	64.7	60.3	52.6	65.6	81.4	12.1	52.0
75～79歳	214	70.6	52.3	48.1	63.1	76.6	9.8	50.0

	標本数	仕事を犠牲に生きたい	仕事にても多世から理たい	出世あるより仕事にしたい	定年勤めであれ不安だ	会社は社員へ退職めよい	定年後は会社でいたい	無回答
全	2,909	48.3	32.5	61.8	28.1	34.8	56.3	2.5
35～39歳	262	31.7	33.2	70.2	46.6	25.6	71.8	1.1
40～44歳	336	42.3	25.3	73.8	34.8	31.0	64.0	0.6
45～49歳	348	40.5	25.6	70.4	41.1	25.9	62.4	1.1
50～54歳	241	44.8	22.4	71.8	41.5	27.8	60.2	0.8
55～59歳	314	50.3	29.9	63.7	34.4	31.2	59.9	1.0
60～64歳	405	55.3	34.1	60.0	23.5	26.2	55.1	1.2
65～69歳	399	52.1	37.6	59.4	24.1	42.1	49.6	1.0
70～74歳	521	53.9	34.7	55.1	16.7	48.8	48.4	4.6
75～79歳	214	55.6	39.7	45.3	10.3	40.2	47.2	8.4

7・4 定年後のイメージ

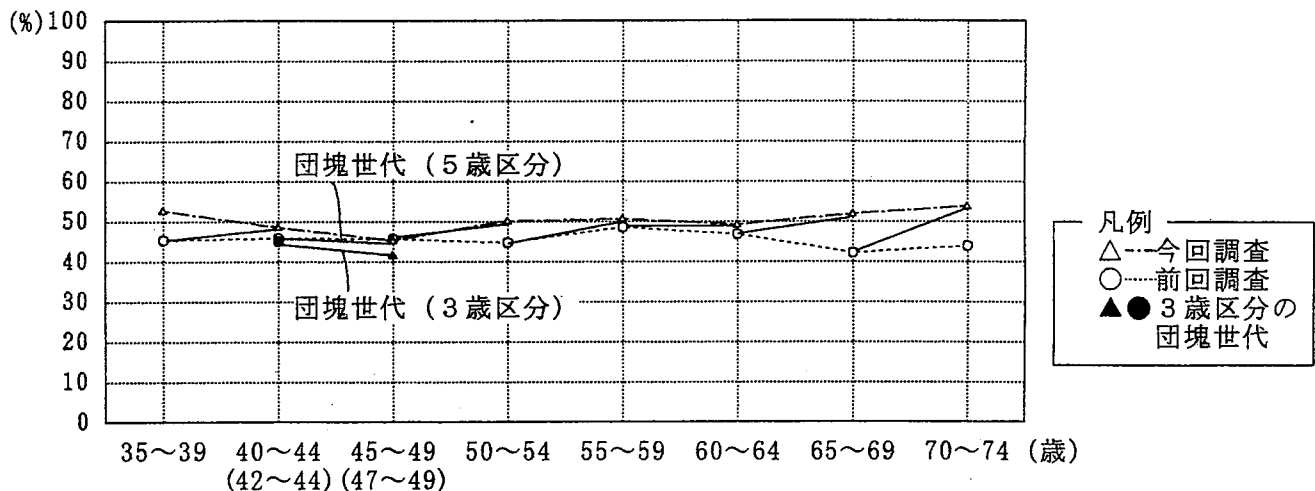
(1) 定年退職のイメージ

戦後生まれ世代は、戦前世代とは異なる定年後のイメージを持つのではないかとの仮説をふまえ、定年退職のイメージについての回答結果を検討したところ、特に世代による差はみられなかった。

今回調査で、肯定的なイメージとして最も回答比率の高かった「自由な時間が増え、自分を取り戻す」でみると、前回調査、今回調査とも、いずれの年齢階級でも4～5割となっており、世代による差は特にみられない。（図表7-4-1）

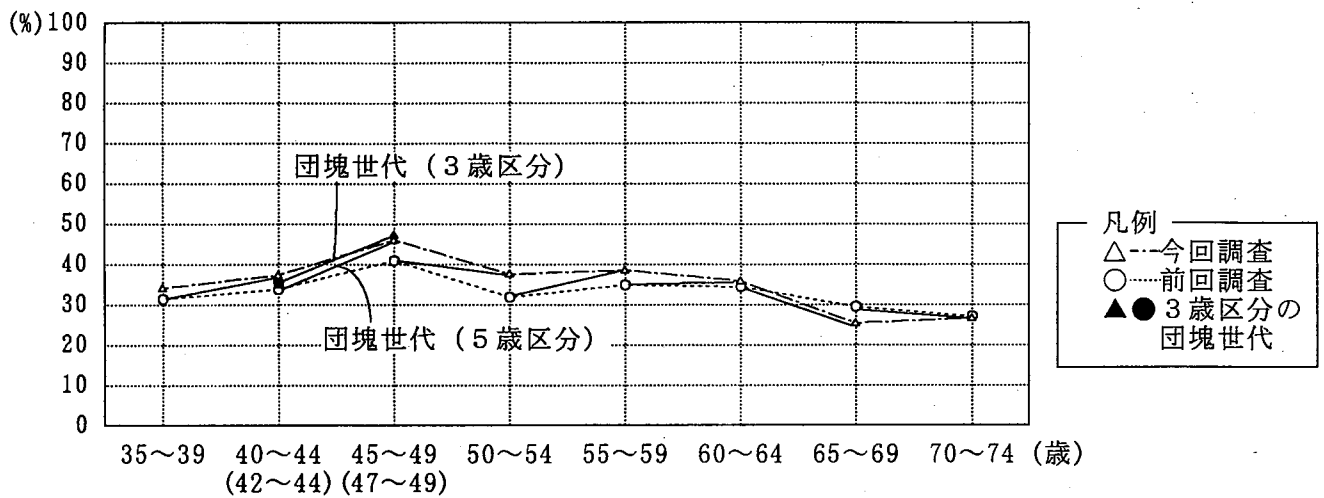
また、否定的なイメージとして最も高かった「経済的に苦しくなる」に回答したサラリーマンの比率でみたところ、前回調査、今回調査とも45～49歳のサラリーマンに最も多いという結果がみられる。45～49歳は今回調査では団塊世代にあたるが、前回調査でも同じ年齢階級で比率が高いという結果となっており、これは世代による影響とはいえない。年齢、つまりライフステージによる影響であるものと思われる。（図表7-4-2）

図表7-4-1 定年退職のイメージ [《自由な時間が増え、自分を取り戻す》の比率]



(注) 標本数は図表7-1-3参照。

図表 7-4-2 定年退職のイメージ [《経済的に苦しくなる》の比率]

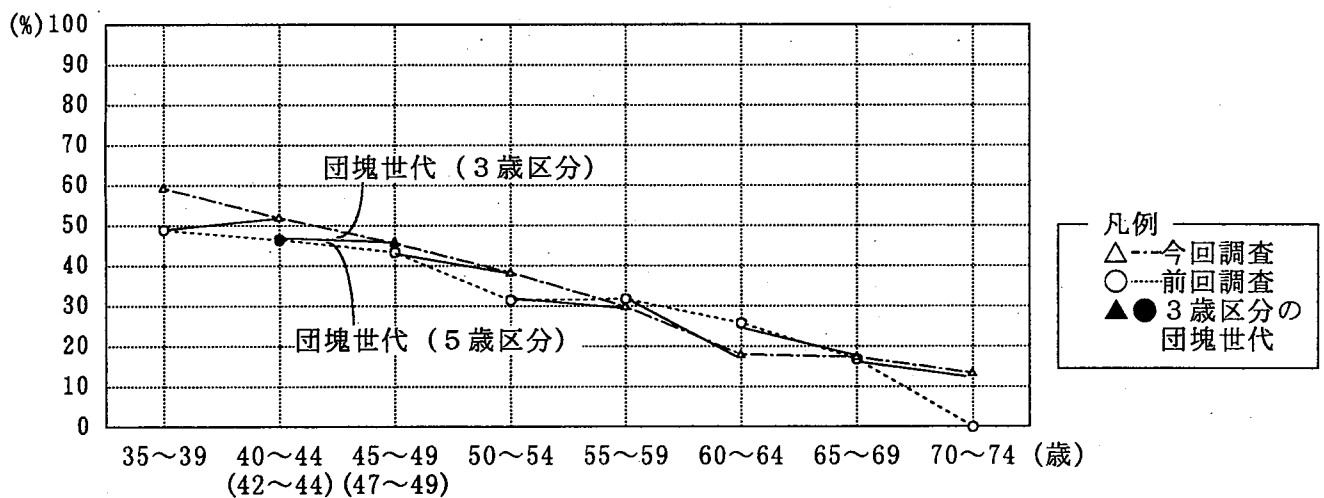


(注) 標本数は図表 7-1-3 参照。

(2) 定年後の不安

定年後の生活に対して「生計維持の困難」という不安を持つサラリーマンの比率は、若年層ほど高くなっており、前回調査、今回調査とも共通している。こうした不安を持つサラリーマンが、団塊世代で特に多いといった傾向はみられない。(図表 7-4-3)

図表 7-4-3 定年後の不安 [《生計維持の困難》の比率]



(注) 標本数は図表 7-1-3 参照。

(付)

調査票及び単純集計結果

「サラリーマンの生きがい」に関する調査【本人用】

平成8年11月

財団法人 シニアプラン開発機構

調査のお願い

- 当財団では、豊かな人生経験を持ち、心身ともに活力あふれる企業退職者等を“シニア”と位置づけ、こうした方々が定年後も充実した生活を送るために必要なさまざまな社会システム“シニアプラン”を社会に提示しています。

その事業の一つとして、現在「サラリーマンの生きがい」に関する調査研究を進めています。このアンケート調査は、その一環として、厚生年金基金の加入員・受給者の方々を対象に、ふだんの生活の実態や生きがい等についてのお考えをうかがい、それが定年退職後の生活にどう関連するのかを調べることを目的としています。

- 調査は「無記名式」で実施し、ご回答については細心の注意を持って取り扱い、結果はすべて統計的に処理いたしますので、個人名やひとりひとりの回答内容が公になることはありません。またご回答いただいたものを、調査以外の目的に使用することもございません。

ご多忙中とは思いますが、ぜひご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

- なお、この調査の実施は、(株)CRC総合研究所に委託しました。内容や書き方など調査に関するお問い合わせは、以下にお願いいたします。

(株)CRC総合研究所 総合研究センタ 生活文化研究室

担当：河野、山口、角田

東京都江東区南砂2-7-5

電話 (東京) 03-5634-5875 (直通)

記入上の注意

- 1) この調査のご回答は、封筒の宛名のご本人がご記入ください。
- 2) 回答は、すべてこの調査用紙に直接記入してください。
- 3) 問1から順にお答えください。回答は、あてはまる番号に○をつけるところと、記入していただくところがあります。

〔例1〕

1. はい	2. いいえ
-------	--------

〔例2〕

1	5	年
---	---	---

- 4) とくに断りがないときは、1問につき○は1つだけです。
- 5) 「その他」を選んだときは、番号に○をつけた上で()に具体的に記入してください。

11月27日(水)までにご投函ください。

■まず、ふだんの生活についておうかがいします。

問1. あなたは日頃、近隣の人々と、どんなつきあいをしていますか。

1. ほとんどつきあいはない	4.6	4. 互いに訪問したり、何かを一緒にする	11.3
2. 顔が合えば挨拶をする	39.6	5. お互いの事情がわかり、	
3. たまには立ち話をする	36.7	困ったときに相談したり助け合う	6.4

NA 1.3

問2. あなたはこの5年間位に、現在お住まいの地域で次のような活動に参加したことがありますか。

(○はいくつでも)

1. 町内会・自治会などの活動	46.9
2. 老人会などの活動	6.0
3. PTAや子ども会などの活動	11.8
4. 地域のサークル活動など	14.4
5. お祭り・運動会などの地域の行事	36.1
6. その他 ()	6.5
7. 地域での活動には参加していない	30.6

NA 2.3

問3. 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。(1)~(12)のそれぞれについてお答えください。

十分に満た
されている

まあ満たさ
れている

どちらとも
いえない

やや
欠けている

まったく
欠けている

NA

(1)健康	16.8	58.7	11.2	11.1	1.3	0.9
(2)時間的ゆとり	14.6	44.6	15.1	19.9	4.5	1.2
(3)経済的ゆとり	5.0	48.1	25.8	16.9	2.9	1.3
(4)精神的ゆとり	8.3	50.4	23.7	13.6	2.2	1.9
(5)家族の理解・愛情	24.1	56.3	13.1	3.5	0.8	2.1
(6)友人・仲間	14.1	57.2	19.6	6.9	1.1	1.0
(7)熱中できる趣味	17.7	42.0	19.1	16.3	3.7	1.1
(8)仕事のはりあい	10.1	45.8	25.4	9.3	4.2	5.2
(9)社会的地位	4.8	36.1	38.9	10.4	6.2	3.6
(10)自然とのふれあい	11.0	42.7	21.7	18.8	4.5	1.3
(11)近隣との交流	4.0	28.7	28.8	26.1	11.2	1.2
(12)社会の役に立つこと	2.9	20.7	38.5	26.0	10.5	1.4

問4. [自由時間についておうかがいします。]

仕事や通勤や仕事上のつきあいの時間、睡眠時間、食事や入浴などの生活必需時間を除いて、あなたが日頃、自由に使える時間は十分にあると思いますか。

1. 十分にある	22.2	2. まあまあ	47.2	3. 不十分である	27.9	4. まったくない	1.6
----------	------	---------	------	-----------	------	-----------	-----

NA 1.1

⇒問5へおすすみください

付問. 日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。(○は3つまで)

(n=2,831)

1. 仕事仲間とのプライベートなつきあい	9.9	9. 行楽・ドライブなど	29.2
2. 仕事に関する勉強や残務整理	11.2	10. 庭いじりや家事など家庭内のこと	38.3
3. テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	32.1	11. 家族との団らんや家庭サービス	33.1
4. 考えごとやめい想	3.0	12. 近隣の人とのつきあいや地域の用事	7.0
5. ひとりで趣味・スポーツ・学習など	29.6	13. ボランティアなどの社会活動	4.5
6. 仲間と趣味・スポーツ・学習など	29.3	14. 宗教活動・政治活動	1.6
7. パソコン通信やインターネットなど	2.5	15. その他()	2.9
8. 個人的な友人・仲間とのつきあい	26.6	16. 特に何もしない	0.6
		NA	0.7

問5. 生活やつきあいの場を「家庭」「仕事」などのようにいくつかに分けた場合、(1)~(9)にあてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	NA
(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは、どこですか……	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0	7.1
(2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか……	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0	5.1	1.5	11.3
(3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか……	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6	7.3
(4)生活のどの場で、喜び満足感を感じる人が多いですか	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2	10.5
(5)あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0	10.9
(6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4	10.6
(7)どの場での生活が、自分自身を向上させていると考えますか	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1	11.2
(8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたいと感じるのは、 どの場でのことが多いですか……	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3	10.9
(9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、 どの場でのことが多いですか……	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8	8.8

問6. 現在あなたは、以下の立場をどの程度重視していますか。(1)~(5)のそれぞれにお答えください。

	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	NA
(1)親、夫または妻、一家の主など、家庭人の立場………	65.8	25.8	5.3	1.0	2.1
(2)〇〇会社員、〇〇の専門家(だった)など、職業人の立場	18.2	39.2	31.3	7.2	4.2
(3)〇〇地域の住民、〇〇の隣人など、地域人の立場………	7.4	31.8	46.1	11.3	3.4
(4)〇〇のメンバー、〇〇の仲間など、グループ員の立場……	13.4	39.6	33.6	10.2	3.3
(5)社会の一員、地球に住む人間としての立場………	19.4	48.5	25.1	4.4	2.6

問7. 以下の(1)~(13)は、あなたにどの程度あてはまりますか。(1)~(13)のそれぞれについてお答えください。

	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまら ない	まったく あてはまら ない	NA
(1)人との関係やつながりを大切にする.....	55.3	38.2	5.2	0.3	1.0
(2)自分の世界や個性を大切にする.....	33.3	48.4	16.1	0.8	1.5
(3)いつも目標に向かってつき進む.....	20.1	49.1	27.6	1.6	1.6
(4)無理をせずマイペースで進む.....	25.4	53.0	18.7	1.7	1.1
(5)他人にはない自分なりの価値観を持っている.....	25.1	52.0	20.2	1.2	1.4
(6)自分には他人にない優れたところがある.....	12.5	46.3	36.4	3.4	1.5
(7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする.....	17.6	40.8	36.6	3.8	1.2
(8)一つのことにじっくり取り組む.....	16.1	44.1	35.5	3.0	1.3
(9)指導者的立場に立とうとする.....	8.8	37.6	40.3	11.8	1.5
(10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる.....	12.0	40.5	38.6	7.7	1.2
(11)いろいろな人の話や意見をよく聞く.....	26.7	56.9	14.1	1.1	1.2
(12)上下の立場や関係を尊重する.....	27.8	52.0	17.3	1.5	1.4
(13)どんなところでも結構楽しみを見出す.....	16.4	48.6	31.1	2.5	1.4

■友人や配偶者との関係についておうかがいします。

問8. あなたには、生涯を通じてつきあえる友人や仲間がいますか。

1. いる 84.8

2. いない -14.7 ⇒問9へすすみください

NA 0.4

付問1. どのような関係で知り合った方々ですか。(○はいくつでも)

(n=2,467)

付問2 (n=893)

1. 幼なじみ・学生時代の友人・仲間	65.5	(10.5)
2. 職場や仕事を通じて知り合った友人・仲間	77.1	(26.2)
3. 近隣の人、地域で知り合った友人・仲間	25.3	(16.2)
4. 趣味・パソコン通信・スポーツや学習を通じて知り合った友人・仲間	28.1	(23.4)
5. 社会活動を通じて知り合った友人・仲間	10.9	(8.1)
6. 宗教活動や政治活動を通じて知り合った友人・仲間	3.7	(2.1)
7. 家族や親戚・縁戚関係を通じて知り合った友人・仲間	22.0	(4.1)
8. 戦友	2.2	(1.0)
9. その他 ()	1.0	(0.6)

NA 0.5 (35.5)

付問2. [定年退職を経験した方におうかがいします。]

この中に、あなたが定年後につきあうようになった友人・仲間がいますか。あてはまる番号を記入してください。

問9. 「配偶者がいらっしゃる方におうかがいします。」

話は変わりますが、日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1)~00)のそれぞれについてお答えください。

(n=2, 477)	まったく そのとおり まあ そのとおり あまり そうでない まったく 違う				NA
(1)自分は配偶者を頼りにしている	58.1	35.0	4.4	0.4	2.1
(2)自分は配偶者を理解している	34.8	53.2	9.6	0.2	2.1
(3)自分は配偶者を愛している	49.7	42.8	4.8	0.4	2.3
(4)配偶者と価値観・考え方が似ている	12.2	42.1	38.1	5.1	2.5
(5)共通の趣味がある	9.9	27.9	46.6	13.2	2.5
(6)対話がある	27.4	52.8	16.7	0.9	2.3
(7)よく一緒に出かける	31.3	39.7	23.6	2.8	2.5
(8)配偶者の独自の趣味や行動を尊重している	38.3	49.2	9.6	0.6	2.4
(9)自分は配偶者を助けている	21.8	52.9	22.5	0.5	2.2
00)配偶者と家事を分担している	10.8	26.8	44.8	15.4	2.2

問10. それでは、配偶者との関係について、以下のことはあなたご自身にとってどの程度大切ですか。(1)~00)のそれぞれについてお答えください。

(n=2, 477)	とても大切 やや大切 わからない あまり大切 ではない				NA
(1)配偶者と互いに頼りにしあうこと	70.4	26.0	2.2	0.6	0.7
(2)配偶者と互いに理解しあうこと	73.4	23.9	1.8	0.1	0.8
(3)配偶者からの愛情が感じられること	58.9	34.0	5.9	0.3	0.9
(4)価値観や考え方を共有すること	30.2	50.8	14.3	3.6	1.1
(5)共通の趣味を持つこと	20.3	46.8	20.7	11.3	0.9
(6)対話を持つこと	62.3	33.7	2.7	0.4	1.0
(7)一緒に行動すること	30.8	52.6	10.3	5.3	1.1
(8)互いに独自の趣味や行動を尊重すること	48.9	43.6	5.6	1.0	0.9
(9)配偶者と助け合うこと	69.9	27.4	1.7	0.2	0.8
00)配偶者と家事を分担し合うこと	18.7	48.0	23.1	9.4	0.8

■生きがいや生涯学習、社会活動についておうかがいします。

問11. よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまでを選んでください。

1. 生活の活力やはりあい	26.2	6. 生きる目標や目的	20.4
2. 生活のリズムやメリハリ	9.7	7. 自分自身の向上	15.8
3. 心の安らぎや気晴らし	24.9	8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	24.7
4. 生きる喜びや満足感	43.7	9. 他人や社会の役に立っていると感じる事	19.1
5. 人生観や価値観の形成	7.9	10. その他 ()	0.3
NA 1.1			

付問. そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

1. 持っている	78.4	
2. 前は持っていたが今は持っていない	5.2	
3. 持っていない	6.7	⇒問13へおすすみください
4. わからない	8.5	NA 1.2

問12. あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(○は3つまで)

(n=2,280)			
1. 仕事	41.4	6. 自然とのふれあい	22.6
2. 趣味	48.0	7. 配偶者・結婚生活	21.8
3. スポーツ	15.4	8. 子ども・孫・親の家族・家庭	46.1
4. 学習活動	6.0	9. 友人など家族以外の人との交流	17.6
5. 社会活動	9.0	10. 自分自身の健康づくり	20.3
11. ひとりで気ままに過ごすこと			8.9
12. 自分自身の内面の充実			13.6
13. その他 ()			0.7
			NA 0.2

問13. あなたは、この1年くらいの間に、次にあげるような方法で学習を行ったことがありますか。

(○はいくつでも)

1. 本・テレビ・ラジオ・テープなどを利用して個人で	46.1	7. 大学の公開講座等で	3.6
2. 放送大学や通信教育を利用して	9.0	8. 民間のカルチャーセンター等の講座で	11.9
3. 個人で先生について	7.0	9. 勤務先の研修等で	37.5
4. 職場のグループで	12.1	10. その他 ()	3.4
5. 地域のグループなどで	11.1	11. いずれの方法でも行っていない	16.4
6. 行政の講座で	12.3	NA 4.5	

問14. それでは、今後、次にあげるような方法で何か学習したいと思いませんか。(○はいくつでも)

1. 本・テレビ・ラジオ・テープなどを利用して個人で	45.8	8. 民間のカルチャーセンター等の講座で	32.6
2. 放送大学や通信教育を利用して	14.6	9. 勤務先の研修等で	14.3
3. 個人で先生について	11.2	10. その他 ()	1.8
4. 職場のグループで	6.7	11. 特に学習したいとは思わない	6.8
5. 地域のグループなどで	20.6	⇒問17へおすすみください	
6. 行政の講座で	16.3	12. わからない	7.1
7. 大学の公開講座等で	17.2	NA 2.6	

問15. 学習したい、学習を続けたいのはどのような内容ですか。(○はいくつでも)

(n=2, 636)

1. 趣味的なもの (音楽、美術、華道、舞踊、書道、俳句、園芸など)	63.6	6. 家庭生活・生活自立に役立つ知識や技能	16.5
2. 教養的なもの (文学、歴史、教育、科学、芸術の知識など)	35.2	7. 家庭内の人間関係	4.1
3. 社会的な問題 (社会・時事問題、国際問題、環境問題など)	19.5	8. 生涯設計・生き方	11.7
4. スポーツ・レクリエーション	31.6	9. ボランティアや地域活動などに必要な知識や技能	15.6
5. 健康(成人病予防など健康管理、心の健康、栄養など)	13.0	10. コンピュータやワープロなどの知識や技能	24.8
		11. 英会話やその他の外国語	19.3
		12. 職業に役立つ知識や技能	21.2
		13. その他()	0.7
	28.9		NA 1.8

⇒付問. [教養的なもの・社会的な問題を学習したいと回答された方におうかがいします。]
具体的にはどのような内容の学習を行いたいですか。(○は3つまで)

(n=1, 134)

1. 哲学・思想・宗教	13.9	7. 心理学	9.2	13. 先端技術	7.8
2. 日本史・郷土史	48.3	8. 文化人類学	6.0	14. 環境問題	16.8
3. 世界史	16.2	9. 政治	9.0	15. 労働問題	6.8
4. 文学	16.9	10. 経済・経営	21.4	16. 福祉問題	19.8
5. 芸術	20.8	11. 国際関係・国際情勢	11.2	17. その他()	1.6
6. 教育	3.4	12. 自然科学・工学	11.6		
					NA 1.5

問16. 行政や大学、民間のカルチャーセンターなどの講座で学習する場合に、次の(1)~(4)のカリキュラムが含まれる講座に参加したいと思いますか。(1)~(4)のそれぞれについてお答えください。

(n=2, 636)

	ぜひ参加 したい	どちらかといえば 参加したい	どちらとも いえない	あまり参加 したくない	参加 したくない	NA
(1)課題やレポート等の提出がある講座……	4.2	14.8	31.8	25.2	14.2	9.8
(2)意見交換や討論の機会がある講座………	8.8	30.8	27.8	14.9	8.5	9.2
(3)受講者間の仲間づくりの機会がある講座…	17.0	38.2	22.3	8.2	6.0	8.3
(4)体験学習・見学・フィールドワーク等がある講座…	22.8	40.6	16.9	6.7	4.8	8.2

問17. [問18にあげるような、社会に何らかのはたらきかけをする活動についておうかがいします。]
あなたは、社会に何らかのはたらきかけをする活動を行ったことがありますか。

1. 行っている	2. 以前に行っていたがやめた	3. 行ったことはない	⇒問19へお答えください
23.3	17.5	53.7	NA 5.5

問18. それはどのような内容の活動ですか。(○はいくつでも)

(n=1, 186)

1. 地域の生活環境保全(清掃、ゴミ問題、 自然保護、緑化、交通安全、防犯など)	44.2	5. 消費者活動	3.7
2. 地域社会の活性化	19.6	6. 障害者や高齢者への福祉活動	15.2
3. 趣味・スポーツ・学習グループの世話役	39.1	7. 地球環境の保護	4.6
4. 児童・青少年の健全育成(子ども会、 PTAなど)	26.3	8. 国際交流・国際協力や外国人の援助等	6.2
		9. その他()	3.6
			NA 1.0

■仕事や定年後の生活についておうかがいします。

問19. 「定年退職」と聞いてあなたがイメージするものを、次の中から選んでください。(○は3つまで)

1. わずらわしい人間関係から解放される	25.5	7. 接触する人や情報が減る	22.7
2. 所属する組織や肩書がなくなる	17.4	8. 新しい人生が開ける	32.8
3. 家庭サービスができる	14.7	9. 社会から取り残される	2.9
4. 経済的に苦しくなる	35.2	10. 決まり切った行動パターンから解放される	20.1
5. 自由な時間が増え、自分を取り戻す	49.9	11. 自己実現の場や機会がなくなる	3.1
6. 生活の目標や気持ちの張りがなくなる	16.8	12. 精神的に楽になる	30.4
		NA 1.7	

問20. 職業生活から引退する年齢について、どのように考えていますか。

平均	
1. 引退にふさわしい年齢がある	48.2 → (引退にふさわしい年齢は 63.2 歳くらい)
2. 健康な限りは何歳まででも働きたい	33.2
3. 引退にふさわしい年齢はない	14.4
4. その他 ()	2.3
NA 2.0	

問21. あなたの現在の就業形態(正規の社員、嘱託、自営業など)は、次のどれですか。

1. 正規の社員・従業員	63.7	5. シルバー人材センター(高齢者事業団)	1.0
2. 派遣・嘱託・パートタイマーなど	9.4	6. 無職 → (最後に職を離れてから平均 4.7年)	17.5
3. 自営業・自由業・家族従業員	2.8	→ 問23へおすすみください	
4. 内職	0.4	7. その他 ()	1.9
NA 3.3			

問22. [現在職業についている方におうかがいします。]

(1)あなたの職種は次のどれですか。

(n=2, 305)			
1. 専門技術職（研究職・技師等）	4.5	5. 技能職・技術補助・生産工程従事・作業者	9.7
2. 管理職（役員・課長以上の管理職）	41.1	6. サービス職（添乗員・ホテルマン等）	1.6
3. 事務職（一般事務・営業・経理事務等）	32.5	7. その他（	5.1
4. 販売職（店員・セールス等）	2.1		NA 3.4

(2)勤務先の従業員数は会社全体でどのくらいですか。(支店や営業所などがある場合は合計)

(n=2,305)					
1. 1~29人	2. 30~99人	3. 100~299人	4. 300~999人	5. 1000人以上	
15.3	12.3	11.5	11.0	46.3	NA 3.5

(3)あなたの1週間の勤務日数 (週によって異なる場合は平均を四捨五入してください)

平均
5.0 日

(4)あなたの1日の勤務時間(所定の拘束時間) (日によって異なる場合は、平均を四捨五入してください)

平均
8.1 時間

(5)現在の仕事や職場について、どのように感じていますか。①～⑦のそれぞれについてお答えください。

(n=2, 305)	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	NA
①仕事の内容……………	18.2	48.5	21.1	7.5	2.2	2.5
②就業形態……………	16.4	46.4	21.8	10.4	2.0	3.0
③職場での地位の高さ……………	12.0	37.0	35.5	9.2	2.6	3.7
④賃金……………	6.9	30.7	28.7	23.1	7.4	3.2
⑤福利厚生……………	7.9	32.6	30.6	17.9	7.2	3.9
⑥職場の人間関係・雰囲気……………	11.2	40.5	28.7	12.0	4.6	3.0
⑦全体として……………	9.0	48.2	26.3	11.2	2.5	2.8

問23. [全員におうかがいします。]

あなたは定年を経験しましたか。定年は何歳ですか。

(定年を2回以上経験した場合は最初の定年の年齢を記入してください)

- | | | | |
|-------------|------|------------------|---------------|
| 1. まだ定年前 | 63.0 | ⇒定年は(平均59.9)歳 | ⇒問24へおすすみください |
| 2. 定年前に退職した | 6.3 | ⇒退職は(平均56.5)歳のとき | ⇒問25へおすすみください |
| 3. 定年を過ぎた | 29.6 | ⇒定年は(平均59.7)歳のとき | |
| NA 1.1 | | | |

問24. [定年前の方におうかがいします。]

(1)あなたは、定年退職後をどう過ごすかの生活設計(仕事、家庭生活、余暇など)を考えていますか。

(n=1, 832)			
1. ほとんど設計ができている	2.5	4. 気にはしているがあまり深く考えていない	50.0
2. ある程度設計ができている	12.4	5. まったく考えていない	15.8
3. 考えてはいる	16.3		NA 2.9

(2)定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。(○は3つまで)

(n=1, 832)			
1. 公的年金	77.8	6. 就労による収入	31.3
2. 企業年金	53.4	7. 子ども等からの経済的支援	0.7
3. 退職金	38.6	8. その他()	2.4
4. 生命保険の保険金や個人年金	25.7	9. わからない・考えたことがない	3.9
5. 預貯金の取りくずし	17.5		NA 1.3

(3)定年後の生活について不安に感じることはありませんか。(○はいくつでも)

(n=1, 832)			
1. 生計維持の困難	41.6	9. 所属や肩書がなくなる	3.2
2. 住宅の問題	12.2	10. 今までの人的交流や情報量が減る	20.3
3. 自分や配偶者の健康	55.1	11. 世の中の情報化の進展について不安	5.0
4. 配偶者や親の介護	19.6	12. 社会から取り残される	4.5
5. 配偶者に先立たれる	16.4	13. 時間をもてあます	18.6
6. 再就職の問題	24.6	14. 地域社会にとけこめない	4.6
7. 家族との人間関係が悪くなる	1.3	15. その他()	1.1
8. 生活のはりや生きがいなくなる	19.4	16. 特に不安を感じない	11.1
NA 1.6			

(4)あなたが希望する定年後の生活は、どのような生活ですか。(○は3つまで)

(n=1,832)			
1. 健康に恵まれた生活	78.5	8.好きな仕事を続ける生活	9.0
2. 時間的にゆとりのある生活	11.6	9.それまでの知識や経験を活かす生活	7.3
3. 経済的にゆとりのある生活	41.3	10.自然とのふれあいのある生活	16.5
4. 精神的にゆとりのある生活	28.5	11.社会のために役立つ生活	10.2
5. 夫婦関係や家族関係を大切にする生活	38.2	12.その他 ()	0.4
6. 友人や仲間とのつきあいを大切にする生活	18.1	13.特にな	0.3
7. 好きな趣味にうち込む生活	25.2		NA 0.8

(5)今の会社に定年まで勤めたいと思いますか。

(n=1,832)		平均	
1. 定年まで勤めたい	80.0	2. 定年前に退職したい	14.4 ⇒ (あと 5.6年くらいで)
		NA 5.6	

(6)定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。(○は1つだけ)

(n=1,832)			
1. 退職とともに職業生活から引退したい	24.7		
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤めたい	17.5		
3. 退職後は出向先に移籍したい	2.6		
4. 退職後は別の企業に再就職したい	15.4		
5. 退職後は自分で事業や商売を始めたい(自由業を含む)	10.3		
6. 退職後は家業を手伝いたい	1.4		
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	10.0		
8. その他 ()	2.5		
9. わからない・考えたことがない	13.0	NA	2.6

(7)それでは、実際には定年退職(または定年前の退職)の後、あなたの仕事のしかたはどのようになると
 と思いますか。(○は1つだけ)

(n=1,832)			
1. 退職とともに職業生活から引退する	27.0		
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める	11.9		
3. 退職後は出向先に移籍する	3.4		
4. 退職後は別の企業に再就職する	16.7		
5. 退職後は自分で事業や商売を始める(自由業を含む)	6.4		
6. 退職後は家業を手伝う	1.7		
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする	7.4		
8. その他 ()	1.9		
9. わからない	20.1	NA	3.5

⇒問26へおすすみください

問25. [定年退職または定年前の退職を経験した方におうかがいします。]

(1)定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか。(○は1つだけ)

(n=1,044)			
1. 専門技術職(研究職・技師等)	4.6	5. 技能職・技術補助・生産工程従事・作業員	12.6
2. 管理職(役員・課長以上の管理職)	54.9	6. サービス職(添乗員・ホテルマン等)	1.1
3. 事務職(一般事務・営業・経理事務等)	16.7	7. その他 ()	3.2
4. 販売職(店員・セールス等)	1.3		NA 5.6

(2)定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどのくらいでしたか。(支店や営業所を含めた合計)

(n=1,044)

1. 1～29人	2. 30～99人	3. 100～299人	4. 300～999人	5. 1000人以上
5.3	7.3	8.7	10.5	63.3—NA 4.9

(3)定年・退職の直前の仕事や職場について、どのように感じていますか。①～⑦のそれぞれについてお答えください。

(n=1,044)

	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	NA
①仕事の内容	32.2	43.3	13.1	5.1	1.1	5.2
②就業形態	24.4	47.3	15.3	4.8	1.2	6.9
③職場での地位の高さ	20.7	42.6	20.5	8.0	2.1	6.1
④賃金	15.7	39.0	21.8	14.2	3.5	5.7
⑤福利厚生	19.7	45.0	19.9	6.9	2.1	6.3
⑥職場の人間関係・雰囲気	18.3	46.6	20.0	7.9	1.5	5.7
⑦全体として	18.7	50.2	18.1	6.0	1.4	5.6

(4)定年後・退職後に、職業につきましたか。(○は1つだけ)

(n=1,044)

1. 退職とともに職業生活から引退した	27.8	
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、前の会社に勤めた	17.4	
3. 退職後は出向先に移籍した	10.3	
4. 退職後は別の企業に再就職した	26.1	
5. 退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	4.0	
6. 退職後は家業を手伝うようになった	1.9	
7. 退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	2.1	
8. その他()	5.7	NA 4.6

(5)あなたが50歳の頃に、定年後の仕事をどのようにしたいと思っていましたか。(○は1つだけ)

(n=1,044)

1. 退職とともに職業生活から引退する	24.5	
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める	21.9	
3. 退職後は出向先に移籍する	6.9	
4. 退職後は別の企業に再就職する	20.2	
5. 退職後は自分で事業や商売を始める(自由業を含む)	6.5	
6. 退職後は家業を手伝う	1.0	
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする	3.7	
8. その他()	2.1	
9. わからない・考えたことがなかった	9.9	NA 3.3

(6)あなたが50歳の頃に、定年退職後をどう過ごすかの生活設計(仕事、家庭生活、余暇など)を考えていましたか。

(n=1,044)

1. ほとんど設計ができていた	4.8	4. 気にはしていたがあまり深く考えていなかった	47.0
2. ある程度設計ができていた	16.2	5. まったく考えていなかった	9.0
3. 考えてはいた	19.8		NA 3.2

(7)50歳頃に、定年後の生活について不安に感じていたことがありましたか。(○はいくつでも)

-(n=1,044)-

1. 生計維持の困難	28.3	9. 所属や肩書がなくなる	6.0
2. 住宅の問題	8.5	10. 今までの人的交流や情報量が減る	22.0
3. 自分や配偶者の健康	40.9	11. 世の中の情報化の進展についていけない	5.4
4. 配偶者や親の介護	11.0	12. 社会に取り残される	4.4
5. 配偶者に先立たれる	7.7	13. 時間をもてあます	14.0
6. 再就職の問題	26.9	14. 地域社会にとけこめない	3.9
7. 家族との人間関係が悪くなる	1.4	15. その他 ()	0.7
8. 生活のはりや生きがいなくなる	17.0	16. 特に不安を感じない	21.7

NA 4.2

(8)では実際に定年から今までに、次のようなことがありましたか。(○はいくつでも)

-(n=1,044)-

1. 経済的に苦しくなった	23.7	9. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	8.2
2. 住宅問題で困った	2.7	10. 今までの人的交流や情報量が減って困った	14.2
3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた	32.7	11. 世の中の情報化の進展についていけず困った	4.1
4. 配偶者や親の介護が必要になった	9.9	12. 社会から取り残されてしまった	1.5
5. 配偶者に先立たれた	3.8	13. 時間をもてあました	9.6
6. 再就職のことで困った	8.2	14. 地域社会にとけこめなかった	4.1
7. 家族との人間関係が悪くなった	1.6	15. その他 ()	1.0
8. 生活のはりや生きがいなくなった	7.7	16. 特に問題はなかった	28.4

NA 6.2

(9)50歳頃にあなたが希望していた定年後の生活は、どのような生活ですか。(○は3つまで)

-(n=1,044)-

1. 健康に恵まれた生活	67.5	8. 好きな仕事を続ける生活	11.1
2. 時間的にゆとりのある生活	20.2	9. それまでの知識や経験を活かす生活	13.3
3. 経済的にゆとりのある生活	33.3	10. 自然とのふれあいのある生活	12.5
4. 精神的にゆとりのある生活	20.2	11. 社会のために役立つ生活	8.9
5. 夫婦関係や家族関係を大切にす生活	28.4	12. その他 ()	0.6
6. 友人や仲間とのつきあいを大切にする生活	16.0	13. 特になかった	3.0
7. 好きな趣味にうち込む生活	33.8		NA 3.6

問26. [全員におうかがいします。]

仕事や会社とのかかわりについて、どう感じていますか。(1)~(13)のそれぞれについてお答えください。

	まったく その通り	まあ その通り	あまり そうでない	まったく 違う	NA
(1)仕事の中でこそ自己実現が図れる……………12.3	44.0	35.3	3.6	4.8	
(2)仕事は生計を立てるための手段にすぎない……………12.2	51.3	28.7	4.0	3.9	
(3)どの会社でも十分通用する職業能力がある……………5.5	40.9	45.1	4.3	4.2	
(4)会社は自分を正に評価している(していた)……………6.1	52.7	34.4	3.1	3.7	
(5)自分の会社には尽くしたい……………16.4	59.8	17.6	2.3	3.9	
(6)脱サラを考えたことがある・脱サラしたい……………4.6	18.6	37.3	34.8	4.7	
(7)上司や同僚とは仕事を離れてもつき合いたい……………6.8	36.8	43.5	8.9	3.9	
(8)仕事のためには個人の生活を犠牲にすることがあってもやむを得ない……………5.7	42.6	37.8	10.0	3.9	
(9)仕事をするからには多少無理しても出世したい……………3.2	29.3	52.1	11.4	4.0	
(10)出世よりも興味のある仕事に専念したい……………11.3	50.5	30.3	3.5	4.4	
(11)定年退職会社に勤められるかどうか不安だ(だっ)……………5.1	23.0	44.5	22.9	4.5	
(12)会社は定年退職後の社員へのめんどろみもよい……………5.3	29.5	43.3	17.5	4.5	
(13)定年後は会社の世話になりたくない……………16.7	39.6	31.5	8.0	4.2	

問27. 定年退職に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(1)~(4)のそれぞれについてお答えください。

(1)個人としては、定年前にどのような準備が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 健康の維持・増進を心がける	61.9	6. 友人や仲間との交流を深める	8.8
2. 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	44.6	7. 近隣や地域の人との交流を深める	5.9
3. 生涯楽しめる趣味などを持つ	30.8	8. 会社以外の活動の場をつくっておく	10.0
4. 定年後も活かせる専門的技術を身につける	11.7	9. その他()	0.1
5. 夫婦・家族の関係を大事にする	17.1	10. 特に何も必要ない	0.5
NA 2.5			

付問. それでは、実際にあなた自身が準備したり心がけたりしている(した)ことがありますか。

[定年前の方] あなた自身が現在準備したり心がけていることをお答えください。

[定年後・退職後の方] あなた自身が定年前・退職前に準備したり心がけていたことをお答えください。
(○はいくつでも)

1. 健康の維持・増進を心がける	67.3	6. 友人や仲間との交流を深める	33.1
2. 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	52.8	7. 近隣や地域の人との交流を深める	16.7
3. 生涯楽しめる趣味などを持つ	43.5	8. 会社以外の活動の場をつくっておく	15.0
4. 定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.6	9. その他()	0.8
5. 夫婦・家族の関係を大事にする	37.9	10. 特に何も必要ない	4.5
NA 3.0			

(2)企業としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 退職準備教育や退職相談を充実させる	25.7
2. 企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる	46.1
3. 労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	15.7
4. 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	17.2
5. 希望者には定年年齢を延長させる	25.0
6. 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	28.4
7. ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	8.9
8. 定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	5.8
9. その他 ()	0.4
10. 特に何も必要ない	2.6
NA 5.1	

(3)社会としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	52.0
2. 定年退職者の能力を活かす場を増やす	43.8
3. サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	13.3
4. 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	26.2
5. 中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	20.5
6. 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	13.5
7. その他 ()	0.7
8. 特に何も必要ない	2.0
NA 4.9	

(4)以上のほかに、定年退職に向けて、または定年後の生活をよりよくするためのご意見やご提案がありましたら、お書きください。個人、企業、社会のいずれに関することでも結構です。

【フェイスシート】

最後に、今までお聞きしたことを分析する上で必要な事項についておうかがいします。

F 1. 性別 1. 男 2. 女 年齢 (平成8年11月1日現在) 55.2 歳
—78.9—18.8—NA2.3

F 2. 居住地 都道府県 市区町村

北海道 2.4 関東 41.5 中部 15.3 中国 5.3 九州 6.1
 東北 4.3 うち東京 12.8 近畿 18.9 四国 2.3 NA 4.0

F 3. 現在お住まいの地域(市区町村)に住んで何年になりますか。単身赴任等で一時離れた場合も、家族が継続して住んでいた期間は年数に含めてください。

1. 5年未満	10.5	3. 10年以上～20年未満	22.7	5. 30年以上	33.3
2. 5年以上～10年未満	8.4	4. 20年以上～30年未満	21.9	NA	3.3

F 4. あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

1. 小学校・高等小学校・新制中学校	11.9	4. 大学・大学院	32.7
2. 旧制中学校・旧制高等女学校・		5. 専門学校・専修学校	3.5
旧制実業学校・新制高等学校	41.0	6. その他 (	1.5
3. 旧制高等専門学校・高等師範学校・新制短大	5.8		
NA 3.5			

F 5. 未婚

1. 未婚	2. 既婚 (配偶者あり)	3. 既婚 (離別)	4. 既婚 (死別)
8.8	85.1	1.9	3.6
NA 0.6			

F 6. 現在ごいっしょにお住まいの世帯の構成

1. ひとり暮らし	6.6
2. 自分たち夫婦だけ	24.1
3. 自分たち夫婦 (または自分) と未婚の子	39.1
4. 自分たち夫婦 (または自分) と子ども夫婦 (ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む)	5.1
5. 自分たち夫婦 (または自分) と親 (ほかに子や孫がいる場合を含む)	15.8
6. その他 (具体的に	5.9)
NA 3.5	

F 7. 現在ごいっしょにお住まいの世帯の人数
(あなた自身も含めた人数をお答えください)

3.3 人

F 8. 現在お住まいの住居は、次のどれですか。

1. 持ち家 (一戸建て)	70.7	4. 公社・公団・公営の賃貸住宅	3.5
2. 持ち家 (分譲マンション等)	11.6	5. 民間の借家・マンション・アパート	6.4
3. 社宅・会社の寮	3.4	6. その他 (具体的に	1.0)
NA 3.3			

F 9. 現在のあなたの健康状態

1. 非常に健康	14.1	4. 注意する点があり、日常生活に制限がある	2.4
2. まあ健康	50.0	5. 病気がち・療養中	1.3
3. 注意する点はあるが、日常生活に支障はない	28.9	NA 3.2	

F 10. 過去5年間に、次のようなできごとがありましたか。(○はいくつでも)

1. 子どもや孫の誕生	27.3	8. 配偶者の死	1.5
2. 子どもの成人・就職	19.3	9. その他の家族の死	17.2
3. 子どもや孫との別居	7.5	10. 昇進・昇格	20.8
4. 子どもの結婚	19.2	11. 出向・転職・退職	18.7
5. 自分自身の入院	16.8	12. 災害等による資産の減少・経済的困難	2.4
6. 配偶者の入院	12.1	13. 自宅の購入・建て替え	15.4
7. その他の家族の入院	18.4	14. いずれもない	10.5
NA 4.3			

F 11. 昨年1年間のあなたの世帯の収入 (年金や副業等も含めて、税込でお答えください)

1. 200万円未満	1.4	6. 600万円以上～800万円未満	20.8
2. 200万円以上～300万円未満	5.0	7. 800万円以上～1000万円未満	16.0
3. 300万円以上～400万円未満	9.4	8. 1000万円以上～1500万円未満	19.1
4. 400万円以上～500万円未満	9.5	9. 1500万円以上	4.2
5. 500万円以上～600万円未満	10.2	NA 4.4	

F 12. あなたの世帯の預貯金額はおよそどのくらいですか。

1. 100万円未満	6.2	6. 1000万円以上～1500万円未満	13.8
2. 100万円以上～300万円未満	14.1	7. 1500万円以上～2000万円未満	7.3
3. 300万円以上～500万円未満	13.0	8. 2000万円以上～3000万円未満	8.7
4. 500万円以上～700万円未満	8.7	9. 3000万円以上～5000万円未満	7.0
5. 700万円以上～1000万円未満	11.7	10. 5000万円以上	5.1
		NA	4.5

F 13. あなたの世帯では、自宅以外の不動産や債券・株式等をお持ちですか。

(1)自宅以外の不動産

1. 持っている	33.7	2. 持っていない	64.4	NA	1.9
----------	------	-----------	------	----	-----

(2)債券・株式等

1. 持っている	53.8	2. 持っていない	43.9	NA	2.3
----------	------	-----------	------	----	-----

F 14. 現在の経済的なくらしの余裕についてどのように感じていますか。

1. 十分余裕がある	4.2	3. あまり余裕はない	43.3	NA	1.1
2. まあまあ余裕がある	43.4	4. まったく余裕がない	8.0		

F 15. 5年前と比較して、お宅のくらし向きはいかがですか。

1. とても楽になった	2.3	4. 苦しくなった	24.1	NA	0.9
2. 少し楽になった	16.2	5. とても苦しくなった	3.1		
3. 変わらない	53.4				

この調査全体についてのご感想やご意見がありましたら、お書きください。

--

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。記入もれがないかどうかお確かめの上、配偶者の方の封筒とともに、返信用封筒にてご返送ください。

※※ なおのちに、この調査に関連して、別途ご意見をうかがう機会を設けたいと考えております。
これに応じてよいと思われる方は、お名前、ご住所、電話番号をお書きください。

【別の意見聴取に応じてよい方】

お名前		電話番号	()
ご住所	都道府県		

特にことわりのない場合 n=2,430。 NA は無回答。

「サラリーマンの生きがい」に関する調査【配偶者用】

平成8年11月

財団法人 シニアプラン開発機構

記入上の注意

- 1) この調査のご回答は、封筒の宛名の配偶者の方がご記入ください。
- 2) 回答は、すべてこの調査用紙に直接記入してください。
- 3) 問1から順にお答えください。回答は、あてはまる番号に○をつけるところと、記入していただくところがあります。
[例1]

1. はい	2. いいえ
-------	--------

 [例2]

1	7
---	---

 年
- 4) とくに断りがないときは、1問につき○は1つだけです。
- 5) 「その他」を選んだときは、番号に○をつけた上で（ ）に具体的に記入してください。

11月27日（水）までにご回答ください。

問1. あなたは日頃、近隣の人々と、どんなつきあいをしていますか。

1. ほとんどつきあいはない	1.7	
2. 顔が合えば挨拶をする	19.1	
3. たまには立ち話をする	43.5	
4. 互いに訪問したり、何かを一緒にする	21.3	
5. お互いの事情がわかり、困ったときに相談したり助け合う	13.8	NA 0.6

問2. あなたはこの5年間位に、現在お住まいの地域で次のような活動に参加したことがありますか。

(○はいいくつでも)

1. 町内会・自治会などの活動	54.9	
2. 老人会などの活動	6.3	
3. PTAや子ども会などの活動	23.8	
4. 地域のサークル活動など	21.6	
5. お祭り・運動会などの地域の行事	41.0	
6. その他 ()	5.2	
7. 地域での活動には参加していない	19.7	NA 1.3

問3. 「配偶者がいらっしゃる方におうかがいします。」

日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1)~(00)のそれぞれについてお答えください。

	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく 違う	NA
(1)配偶者は私を頼りにしてくれている……………37.9……………	48.3……………	10.5……………	0.7	2.6	
(2)配偶者は私を理解している……………27.8……………	53.3……………	15.7……………	0.9	2.3	
(3)配偶者は私を愛している……………33.1……………	50.8……………	12.1……………	1.1	3.0	
(4)配偶者と価値観・考え方が似ている……………12.5……………	42.5……………	34.9……………	7.2	2.9	
(5)共通の趣味がある……………11.8……………	24.6……………	42.5……………	17.9	3.2	
(6)対話がある……………29.7……………	48.1……………	17.8……………	1.5	2.9	
(7)よく一緒に出かける……………30.7……………	38.9……………	24.2……………	3.2	3.0	
(8)配偶者は私の趣味や行動を尊重している……31.2……………	49.1……………	15.1……………	1.9	2.9	
(9)配偶者は私を助けてくれる……………35.6……………	46.7……………	14.0……………	1.2	2.6	
(00)配偶者と家事を分担している……………10.2……………	27.1……………	41.6……………	18.7	2.3	

問4. それでは、配偶者との関係について、以下のことはあなたご自身にとってどの程度大切ですか。(1)~(00)のそれぞれについてお答えください。

	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切 ではない	NA
(1)配偶者と互いに頼りにしあうこと……………66.5……………	27.6……………	2.9……………	0.8	2.1	
(2)配偶者と互いに理解しあうこと……………72.5……………	22.9……………	2.3……………	0.3	2.0	
(3)配偶者からの愛情が感じられること……………58.8……………	31.0……………	6.6……………	0.8	2.8	
(4)価値観や考え方を共有すること……………37.0……………	45.1……………	12.3……………	2.6	3.0	
(5)共通の趣味を持つこと……………22.1……………	47.8……………	16.8……………	10.6	2.6	
(6)対話を持つこと……………65.1……………	30.1……………	2.1……………	0.5	2.3	
(7)一緒に行動すること……………30.1……………	53.3……………	8.7……………	4.9	3.0	
(8)互いに独自の趣味や行動を尊重すること……51.9……………	39.6……………	4.7……………	1.2	2.6	
(9)配偶者と助け合うこと……………73.5……………	22.4……………	1.4……………	0.4	2.3	
(00)配偶者と家事を分担し合うこと……………23.6……………	51.9……………	14.1……………	7.9	2.6	

問5. 生活やつきあいの場を「家庭」「仕事」などのようにいくつかに分けた場合、(1)～(9)にあてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	NA
(1)生活にはりあいや活力をたらしてくれるのは、どこですか ……	77.0	25.5	9.7	28.6	5.5	5.3	0.4	4.4
(2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつきますか ……	55.9	31.7	12.8	20.0	9.0	6.5	1.5	8.8
(3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか ……	75.1	4.8	7.3	42.3	4.0	9.3	0.8	5.7
(4)生活のどの場で、喜び満足感を感じる事が多いですか ……	73.5	18.1	8.2	22.5	5.6	9.4	1.2	8.0
(5)あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	48.4	15.9	10.9	35.6	19.3	7.6	2.4	8.3
(6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか ……	75.3	18.1	7.8	5.8	14.2	8.2	1.2	8.2
(7)どの場での生活が、自分自身を向上させていると考えますか	32.8	29.6	17.4	19.7	25.2	9.1	2.5	9.3
(8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、 どの場でのことが多いですか	39.9	34.2	17.1	6.3	15.6	11.9	5.4	9.0
(9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、 どの場でのことが多いですか	62.2	31.3	17.4	9.0	9.0	6.1	3.8	6.8

問6. よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまでを選んでください。

1. 生活の活力やはりあい	26.0	6. 生きる目標や目的	18.0
2. 生活のリズムやメリハリ	8.7	7. 自分自身の向上	20.7
3. 心の安らぎや気晴らし	28.2	8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	26.0
4. 生きる喜びや満足感	39.1	9. 他人や社会の役に立っていると感じる事	15.7
5. 人生観や価値観の形成	6.1	10. その他 ()	0.5
NA 1.6			

付問. そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

1. 持っている	81.6	
2. 前は持っていたが今は持っていない	4.4	
3. 持っていない	4.0	⇒ 問8へおすすみください
4. わからない	8.5	NA 1.6

問7. あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(○は3つまで)

(n=1,982)			
1. 仕事	22.3	6. 自然とのふれあい	19.0
2. 趣味	47.9	7. 配偶者・結婚生活	29.7
3. スポーツ	8.6	8. 子ども・孫・親などの家族・家庭	55.3
4. 学習活動	4.8	9. 友人など家族以外の人との交流	28.4
5. 社会活動	7.3	10. 自分自身の健康づくり	19.6
11. ひとりで気ままに過ごす	9.0	12. 自分自身の内面の充実	16.5
13. その他 ()	0.7		
NA 0.4			

問8. 配偶者が職業生活から引退する年齢について、どのように考えていますか。

		平均
1. 引退にふさわしい年齢がある	34.2	⇒ (引退にふさわしい年齢は 63.7 歳くらい)
2. 健康な限りは何歳まででも働いてほしい	42.7	
3. 引退にふさわしい年齢はない	15.8	
4. その他 ()	2.5	NA 4.8

問9. 「配偶者が定年前の方におうかがいします。」

配偶者の定年後の生活について、不安に感じることはありますか。(○はいいくつでも)

(n=1,519)		
1. 生計維持の困難	33.3	9. 配偶者の所属や肩書がなくなる 1.4
2. 住宅の問題	6.8	10. 配偶者のこれまでの人的交流や情報量が減る 7.4
3. 自分や配偶者の健康	56.7	11. 配偶者が世の中の情報化の進展についていけない 1.3
4. 配偶者や親の介護	23.8	12. 配偶者が社会から取り残される 3.2
5. 配偶者に先立たれる	23.2	13. 配偶者が時間をもてあます 25.9
6. 配偶者の再就職の問題	19.4	14. 配偶者が地域社会にとけこめない 6.8
7. 家族の間の人間関係が悪くなる	2.6	15. その他 () 0.6
8. 配偶者が生活のほりや生きがいをなくす	21.7	16. 特に不安を感じない 8.8
		NA 12.6

問10. 「配偶者が、定年退職を経験した方におうかがいします。」

あなたから見て、配偶者の方には定年から今までに、次のようなことがありましたか。(○はいいくつでも)

(n=899)		
1. 経済的に苦しくなった	23.0	9. 今までの人的交流や情報量が減って困った 6.5
2. 住宅問題で困った	2.4	10. 世の中の情報化の進展についていけず困った 2.2
3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた	32.4	11. 社会から取り残されてしまった 0.9
4. 配偶者や親の介護が必要になった	7.3	12. 時間をもてあました 12.7
5. 再就職のことで困った	4.7	13. 地域社会にとけこめなかった 4.0
6. 家族との人間関係が悪くなった	2.3	14. その他 () 0.8
7. 生活のほりや生きがいをなくした	5.2	15. 特に問題はなかった 27.7
8. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	6.0	NA 17.9

問11. あなたの性別

1. 男 2. 女

年齢 (平成8年11月1日現在)

52.6

歳

9.9 — 88.3 — NA 1.8

問12. あなたの現在の就業形態 (正規の社員、嘱託、自営業など) は、次のどれですか。

1. 正規の社員・従業員	15.9	5. シルバー人材センター (高齢者事業団)	0.5
2. 派遣・嘱託・パートタイマーなど	22.3	6. 無職 ⇒ (最後に職を離れてから平均15.0年)	36.6
3. 自営業・自由業・家族従業員	4.1	7. その他 ()	9.8
4. 内職	3.1		
NA 7.7			

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

記入もれがないかどうかお確かめの上、回収用封筒に入れて、

配偶者の方にお渡しください。

財団法人シニアプラン開発機構は…

厚生省、厚生年金基金連合会及び民間企業の協力により、昭和62年11月に設立された財団です。当財団では、おおむね50歳以上の企業在職者及び企業退職者の方々を＜シニア＞と位置付け、豊かな人生経験を持ち、広範な分野で活躍できるこの年代の方々が、その持てる力を活かして、充実したシニア生活を送るためのシステム＜シニアプラン＞を企画開発し、社会に提案しています。

【主な事業】

- サラリーマンシニアの生きがい、社会活動、生涯学習等の研究
- 年金生活設計（PLP）セミナーの研究開発
- 職域を基盤としたシニア施設、シニアサービスの企画・開発
- 豊かなシニアライフに向けた啓発活動

この調査研究事業は、社会福祉・医療事業団（長寿社会福祉基金）の交付金により財団法人長寿社会開発センターが助成したものです。

第2回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査 ～サラリーマンシニアを中心として～

平成9年9月

財団法人 シニアプラン開発機構

東京都千代田区九段南4-8-13 自動車会館ビル4階

TEL: 03 (5275) 6661